

2018 年度

自己点検評価資料

2019 年 10 月



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部

目 次

自己点検評価資料

I. 本学の在り方及び目標に関すること

1	北星学園大学の基本理念・建学の精神・ミッションステートメント・各ポリシー・運営計画・運営総括（表 I-1）	1
2	学部（学科）・研究科等設置状況（表 I-2）	31
3	大学の規模等の推移状況（表 I-3）	34
4	大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧（表 I-4）	37
5	大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧（表 I-5）	42
6	教職員に占めるクリスチャンの比率状況（表 I-6）	60
7	自治体等の公開講座への派遣状況（表 I-7）	61
8	各種委員会・審議会等からの委嘱状況（表 I-8）	64

II. 本学の管理運営の在り方及び組織並びに機構に関すること

1	文学研究科委員会開催状況（表 II-1）	（省略）
2	経済学研究科委員会開催状況（表 II-2）	（省略）
3	社会福祉学研究科委員会開催状況（表 II-3）	（省略）
4	文学部教授会開催状況（表 II-4）	（省略）
5	経済学部教授会開催状況（表 II-5）	（省略）
6	社会福祉学部教授会開催状況（表 II-6）	（省略）
7	短期大学部教授会開催状況（表 II-7）	（省略）
8	共通科目部門会議開催状況（表 II-8）	（省略）
9	言語教育部門会議開催状況（表 II-9）	（省略）
10	教職部門会議開催状況（表 II-10）	（省略）
11	大学評議会開催状況（表 II-11）	（省略）
12	企画運営会議開催状況（表 II-12）	（省略）
13	教学会議開催状況（表 II-13）	（省略）
14	学則諸規程委員会開催状況（表 II-14）	（省略）
15	全学危機管理委員会開催状況（表 II-15）	（省略）
16	自己点検評価委員会開催状況（表 II-16）	（省略）
17	教員評価委員会開催状況（表 II-17）	（省略）
18	運営・財務点検委員会（表 II-18）	（省略）
19	学生支援委員会開催状況（表 II-19）	（省略）
20	広報委員会開催状況（表 II-20）	（省略）

21	倫理審査委員会状況（表Ⅱ-21）	（省略）
22	図書館運営委員会開催状況（表Ⅱ-21）	（省略）
23	FD委員会開催状況（表Ⅱ-22）	（省略）
24	スミス・ミッションセンター運営委員会開催状況（表Ⅱ-23）	（省略）
25	国際教育推進委員会開催状況（表Ⅱ-24）	（省略）
26	学生相談専門委員会開催状況（表Ⅱ-25）	（省略）
27	学習支援推進委員会開催状況（表Ⅱ-26）	（省略）
28	キャリアデザイン支援委員会開催状況（表Ⅱ-27）	（省略）
29	社会連携センター運営委員会開催状況（表Ⅱ-28）	（省略）
30	総合研究センター （研究支援委員会・経済学部研究資料室運営委員会）開催状況（表Ⅱ-29）	（省略）
31	総合情報センター運営委員会開催状況（表Ⅱ-30）	（省略）
32	心理臨床センター運営委員会開催状況（表Ⅱ-31）	（省略）
33	アクセシビリティ支援委員会開催状況（表Ⅱ-32）	（省略）
34	入学試験センター委員会開催状況（表Ⅱ-33）	（省略）
35	学長、副学長、学部長等の職務を規定した条項等一覧（表Ⅱ-34）	（省略）
36	課別職員配置状況（表Ⅱ-35）	（省略）
37	大学SD研修会の開催状況（表Ⅱ-36）	（省略）
38	事務職員の研修会等参加状況（表Ⅱ-37）	（省略）
39	本学の予算編成に係る説明会参加状況（表Ⅱ-38）	（省略）
40	北星学園大学の組織・機構図（図Ⅱ-1）	（省略）
41	大学運営の事務組織・機能図（図Ⅱ-2）	（省略）

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

1	資金収支計算書（表Ⅲ-1）	66
2	事業活動収支計算書（表Ⅲ-2）	67
3	貸借対照表（表Ⅲ-3）	68
4	事業収支計算書関係比率一覧（表Ⅲ-4）	70
5	貸借対照表関係比率一覧（表Ⅲ-5）	71
6	大学施設の外部への貸出状況（表Ⅲ-6）	72
7	経常費補助金（一般補助）の推移状況（表Ⅲ-7）	73
8	経常費補助金（特別補助）の推移状況（表Ⅲ-8）	74
9	校地、校舎等の面積一覧（表Ⅲ-9）	78
10	講義室、演習室等の面積・規模一覧（表Ⅲ-10）	78
11	各講義室の面積・規模・使用状況一覧（表Ⅲ-11）	79
12	各演習室等の面積・規模・使用状況一覧（表Ⅲ-12）	81
13	語学学習室の面積・規模・使用状況一覧（表Ⅲ-13）	82
14	情報実習室の面積・規模・使用状況一覧（表Ⅲ-14）	82
15	実験・実習室等の面積・規模・使用状況一覧（表Ⅲ-15）	83

16	施設の耐久性等の状況（表Ⅲ-16）	84
17	情報システム事務室各種ハード・ソフト整備状況（表Ⅲ-17）	85
18	各種教具の整備状況（表Ⅲ-18）	86
19	校庭等維持管理費の推移状況（表Ⅲ-19）	87

IV. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

1	専任教員の国内外研修者数及び研修費執行状況一覧（表Ⅳ-1）	88
2	専任教員の国内外研修・研究専念者一覧（表Ⅳ-2）	89
3	専任教員のサバティカル一覧（表Ⅳ-3）	90
4	学部別専任教員の学会発表等の状況一覧（表Ⅳ-4）	91
5	学部別非常勤講師出講状況一覧（表Ⅳ-5）	92

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

1	大学学部開講科目数等一覧（表Ⅴ-1）	93
2	大学院開講数等一覧（表Ⅴ-2）	98
3	教員免許状別取得者数一覧（表Ⅴ-3）	99
4	定期試験受験率別授業科目数一覧（表Ⅴ-4）	100
5	履修登録者数別授業科目数一覧（表Ⅴ-5）	101
6	学籍異動状況（表Ⅴ-6）	102
7	修学指導対象者の対応状況（表Ⅴ-7）	120
8	入学前の既修得単位等の認定状況一覧（表Ⅴ-8）	121
9	卒業時における学科別単位認定状況一覧（表Ⅴ-9）	122
10	教員組織一覧（表Ⅴ-10）	124
11	専任教員年齢構成一覧表（表Ⅴ-11）	125
12	専任教員の学位取得状況（表Ⅴ-12）	127
13	専任教員の担当授業時間一覧（表Ⅴ-13）	128
14	各種実習室等人員配置一覧（表Ⅴ-14）	129
15	ラーニング・コモンズ利用状況（表Ⅴ-15）	130
16	教員人事一覧（表Ⅴ-16）	（省略）
17	専任教員個別表（表Ⅴ-17）	（省略）
18	授業科目別履修者数・成績評価状況・単位修得状況一覧（表Ⅴ-18）	（省略）
19	兼任教員個別表（非常勤講師時間数調べ）（表Ⅴ-19）	（省略）

VI. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

1	専任教員に配分される研究費（表Ⅵ-1）	132
2	専任教員の研究旅費（表Ⅵ-2）	133
3	学内共同研究費（表Ⅵ-3）	134
4	教員研究費内訳（表Ⅵ-4）	135
5	学外からの研究費の総額と一人当たりの額（表Ⅵ-5）	137

6	産学官連携による研究活動状況（表VI-6）	139
7	文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況（表VI-7）	140
8	文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧（表VI-8）	143
9	政府もしくは政府関連法人からの研究助成金の受給者一覧（表VI-9）	155
10	民間の研究助成財団等からの研究助成金の受給者一覧（表VI-10）	156
11	受託研究・請負研究費の受給者一覧（表VI-11）	157
12	特定研究費支出対象項目別支出状況（表VI-12）	158
13	特定研究費予算額・執行額一覧（表VI-13）	（省略）
14	学術賞の受賞状況（表VI-14）	159
15	学部研究紀要「北星論集」の刊行状況（表VI-15）	160
16	専任教員の個人別研究業績一覧（表VI-16）	162
17	学長及び文学部専任教員の研究業績（表VI-17）	167
18	経済学部専任教員の研究業績（表VI-18）	172
19	社会福祉学部専任教員の研究業績（表VI-19）	177
20	短期大学部専任教員の研究業績（表VI-20）	186
21	経済学部研究資料室の図書・雑誌等購入状況（表VI-21）	190
22	教員研究室（表VI-22）	191
23	本学のFD実施状況（表VI-23）	（省略）
24	公的監査ガイドライン説明会実施状況（表VI-24）	192
25	本学の科学研究費助成事業に係る説明会・研修会実施状況（表VI-25）	193
26	個別研究費執行状況（表VI-26）	（省略）
27	本学の研究倫理審査承認課題一覧（表VI-27）	194

VII. 本学の学生の受入れに関すること

1	学部・学科の特別入試による在籍学生数一覧（表VII-1）	196
2	学部・学科の学生定員及び在籍学生数一覧（表VII-2）	197
3	大学院研究科の学生定員及び在籍学生数一覧表（表VII-3）	198
4	大学院・研究科の入学者の構成一覧（表VII-4）	199
5	広告媒体誌の掲出状況と経費等（表VII-5）	（省略）
6	各種宣伝活動における動員数状況（表VII-6）	（省略）
7	高等学校での説明会及び進路指導部への訪問と参加者の状況（表VII-7）	（省略）
8	キャンパス説明会（オープンキャンパス）参加者の状況（表VII-8）	（省略）
9	学部・学科の志願者・受験者・合格者・入学者数の推移（表VII-9）	（省略）
10	学部の入学者の構成（表VII-10）	（省略）
11	学部・学科の編入学定員・編入学生数、在籍編入学生数等の推移（表VII-11）	（省略）

VIII. 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

1	学生交流会館 Kirari 利用状況（表VIII-1）	201
2	サークル団体状況（表VIII-2）	202

3	学生の健康管理状況（表Ⅷ-3）	203
4	医務室の利用状況（表Ⅷ-4）	204
5	障がいのある学生及び特別な支援を要する学生の状況（表Ⅷ-5）	205
6	学生相談センター主催講演会参加状況（表Ⅷ-6）	207
7	学生医療互助会給付状況（表Ⅷ-7）	208
8	学生の食生活改善プログラム開催状況（表Ⅷ-8）	209
9	各種奨学金援助状況（表Ⅷ-9）	210
10	大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（状況別・産業別）（表Ⅷ-10）	211
11	大学院 研究科・専攻別修了者の修了後の状況（状況別・産業別）（表Ⅷ-11）	212
12	短期大学部 学科別卒業生の卒業後の状況（状況別・産業別）（表Ⅷ-12）	224
13	学科の企業別就職者数の状況（表Ⅷ-13）	226
14	キャリアデザインプログラム等出席状況（表Ⅷ-14）	228
15	各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況（表Ⅷ-15）	232
16	社会福祉士講座・精神保健福祉士講座受講者の合格率（表Ⅷ-16）	235
17	学生ボランティア団体の活動状況（表Ⅷ-17）	236

Ⅸ. 本学の図書及び学術情報に関すること

1	図書・資料等所蔵状況（表Ⅸ-1）	238
2	分野別図書・雑誌受入状況（表Ⅸ-2）	239
3	図書館の利用状況（表Ⅸ-3）	241

Ⅹ. 本学の宗教活動に関すること

1	各種行事等の出席者状況（表Ⅹ-1）	242
2	スミス・ミッションセンター主催 諸行事实施状況（表Ⅹ-2）	243
2	スミス・ミッションセンター震災等ボランティア派遣状況（表Ⅹ-3）	244

ⅩⅠ. 本学の国際交流に関すること

1	国際交流に関する財源状況（表ⅩⅠ-1）	246
2	学生及び教員の派遣状況（表ⅩⅠ-2）	247
3	学生及び教員の学科別派遣状況（表ⅩⅠ-3）	249
4	学生及び教員の受入状況（表ⅩⅠ-4）	251
5	学生及び教員の学科別受入状況（表ⅩⅠ-5）	252
6	受入交換留学生のためのホームステイ状況（表ⅩⅠ-6）	253
7	外国人留学生の奨学金受給率（表ⅩⅠ-7）	253
8	国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況（表ⅩⅠ-8）	254

ⅩⅡ. 本学の社会との連携交流に関すること

1	大学公開講座の開催状況（表ⅩⅡ-1）	259
2	学科・部門等公開講座の開催状況（表ⅩⅡ-2）	260

3	社会福祉学部地域連携事業の開催状況（表XⅡ-3）	261
4	障害児教育夏季セミナーの開催状況（表XⅡ-4）	263
5	学部別研究生の受入状況（表XⅡ-5）	264
6	学部別科目等履修生の受入状況（表XⅡ-6）	264
7	科目群別科目等履修生の受入状況（表XⅡ-7）	265
8	各自治体との連携協定締結・協議状況（表XⅡ-8）	266
9	各自治体との連携事業実施状況（表XⅡ-9）	267
10	後援会総会・地区別父母懇談会開催状況（表XⅡ-10）	269
11	同窓会各支部懇親会開催状況（表XⅡ-11）	271
12	主催大学・短大部、共催同窓会・後援会コンサート・講演会開催状況（表XⅡ-12）	272
13	出張講義実施状況（表XⅡ-13）	（省略）

XⅢ. その他必要な事項に関すること

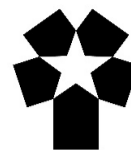
1	各種講座受講者状況（表XⅢ-1）	273
---	------------------	-----

	「自己点検評価資料」点検評価項目	274
--	------------------	-----

I 本学の在り方及び目標に関する事

1 北星学園大学の基本理念・建学の精神・ミッションステートメント・各ポリシー・運営計画・運営総括

基本理念・建学の精神



(表 I-1-①)

北星学園大学では、従来、教育目標として、「人間性・社会性・国際性」の育成を掲げてきました。そして2004年度からは、それを十分に活かしつつ、キリスト教を基に創設された北星学園に属す大学として、建学の精神を高等教育によりふさわしい形で展開するために、基本理念を以下のように決めました。

本学は、プロテスタンティズムを建学の精神とする北星学園に属す。北星学園大学の基本は知的誠実である。それは、神の前で自己や自国を相対化し、謙虚に学びつづける姿勢である。「神を畏れることは知識の初めである」(旧約聖書：箴言1章7節)。

自他の人格の尊厳を知り、人間を何かの手段と見ないキリスト教的価値観が、本学の営みの根底に潜む。見識を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人を養成することが、本学の目標である。それは、抑圧や偏見から解放された広い学問的視野のもとに、異質なものを重んじ、内外のあらゆる人を隣人と見る開かれた人間である。

そういう意味での自由を本学は目指している。『真理はあなたがたに自由を得させるであろう』(新約聖書：ヨハネによる福音書8章32節)。

本学は、開学以来、地域・社会・世界に開かれた大学を目標としているのである。

しなやかな精神的骨格を持った、個性ある大学として、時流や利害に流されない独立した人格を学生のうちに育てたいという願いが、この文言には強く込められているのです。

ミッションステートメント



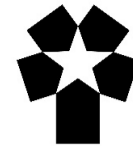
(表 I-1-②)

北星学園大学が目指すもの

北星学園は、その歴史が一世紀を越えてなお創立者サラ・C・スミスの愛と知と技に基づく教育の志を継承しつつ今日に至っています。北星学園大学は、その時代を越えて継承されてきた想いを、今後も教職員・学生の連携に基づき、そこに携わったすべての者において継承し続けるために、この使命を宣言します。

1. 私たち北星学園大学に集う者は、正義と良心に従い、自由に真理を探求し、真理によって自由を得ることを目指します。
2. 私たちは、移りゆく時代の中で、地域・社会・世界の諸情勢に絶えず目を向け、その中における北星学園大学の存在意義を確認し、本学の果たしていく役割を考え、実践することを目指します。
3. 私たちは、世と時代が作り出した、悲惨な出来事に対して、平和と尊厳を作り出していくために、北星学園大学が果たしていく役割を考え、実践することを目指します。
4. 私たちは、北星学園大学における教育・学習・研究から知と技を生み出すとともに、それらが社会において成果を発揮し、社会において貢献できる存在となることを目指します。
5. 私たちは、このような志の下に契約に基づいて集い、そこから愛の献身と批判的精神において、自由な交わりと活動が営まれる北星学園大学であることを目指します。

『求めよ、そうすれば、与えられるであろう』(マタイによる福音書7章7節)

**アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）**

本学は、プロテスタントキリスト教の信仰と伝統に立って、札幌の地に歩みを続けてきた学校法人北星学園が設置する大学です。

北星学園の教育の源は、1887年、米国の女性宣教師サラ・C・スミスが「スミス女学校」を開設し、北海道の女子教育に着手したことに遡ります。1962年、社会の要請に応え男女共学の4年制大学を開設しました。

北星学園大学の建学の精神は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的としています。 高き教養と人格の確立をめざした本学の教育は、多くの有為な人材を世に送り出し、社会の高い評価を得て今日に至っています。

北星を支えるキリスト教精神は、自己を何によって育てるか、自己の一番深いところまで問い続け、考えることにあります。人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にします。 知性と豊かな人間性を備えていることはもちろん、地域社会の諸情勢やその問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わりながら人々とともに生きる姿勢や心を持つような人を求めています。

(表 I-1-④)

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

1. キリスト教による人格教育を基礎として、自由・平等・平和の心を得て、知識と知恵を兼ね備えた豊かな『人間性』を有するようになること。
2. 人々とともに生きる心を養い、主体性のある真の教養を身につけ、広く社会に貢献することができる『社会性』を持ちつづけることができるようになること。
3. 様々な国の人々と心を開いて交流し、異なる文化を理解する国際的視野と判断力を身につけた『国際性』を発揮することができるようになること。

文学部のポリシー



(表 I-1-5)

ディプロマ ・ポリシー	1. 人間社会の基本となる「ことば」の学習を通じて、文化、文学、コミュニケーション、心理学、国際関係に関する専門的知識を身につけている。 2. 様々な情報源から問題の本質を見抜く洞察力、自分の考えを論理的に組み立てる論証力、情報を他者にわかりやすく伝える発信力を身につけている。
アドミッション ・ポリシー	文学部では、人間社会の基本となる「ことば」を重視し、その学習を礎としながら、文化、文学、コミュニケーション、心理学、国際関係へと学びを拡げます。英文学科では英語に、心理・応用コミュニケーション学科では日本語に重きを置いています。両学科ともに、 1) 作品、資料、現場などの情報源から問題の本質を見極める洞察力、 2) 自分自身の考えを組み立てる論理構成能力、 3) 自分の考えを他者にわかりやすく伝える情報発信能力を育むため、きめの細かいカリキュラムを整備しています。しかし、主役はあくまでも学生諸君です。我々は、目的意識を持って自主的に学ぶ姿勢を備えた人を求めています。

英文学科のポリシー

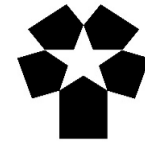


(表 I-1-6)

教育研究上の目的	英語とその背景にある文化や歴史に対する知識を教授するとともに、高度な英語運用能力及び自文化に対する深い理解力を養成し、国際社会において求められる柔軟な対応力とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	1. 豊かな知識と実践的な英語力を身につけ、文化の架け橋として創造的に活躍する能力を身につけている。 2. 「大学共通科目」の履修によって得られた幅広い視野をもとに、英語とその背景にある文化や歴史に対する知識を身につけている。 3. 行動の基軸としている自国の文化について深い理解があるとともに、ことばの背景にある文化や歴史に対する造詣があり、国際社会において求められる柔軟な対応力とコミュニケーション能力を備えている。
ディプロマ ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	英文学科の教育課程を修め、規定の期間以上在学した上で、厳格な成績評価に基づき132単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (英文学)] を授与する。 なお、英文学科を卒業した者は以下の能力を備えていることが期待される。 1. リンガフランカである英語に関する豊かな知識と実践的な英語力 2. 「大学共通科目」の履修によって得られた幅広い視野をもとに、英語とその背景にある文化や歴史に対する知識と洞察力 3. 行動の基軸としている自国の文化について深く理解し、地域・国際社会において文化の架け橋として創造的に活躍するための異文化コミュニケーション能力
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	1. 英米の言語と文化を広く実践的に学べるように、「共通英語科目」、「共通専門科目」、「言語文化概論科目」、「言語コミュニケーション概論科目」、「言語文化コース科目」、「言語コミュニケーションコース科目」、「英語実技科目」、「英語教育科目」を設置している。 2. 「共通英語科目」は1・2年次に配置しているネイティブ・スピーカー中心の基礎英語教育によって、英語の「読解」、「作文」、「会話」の技術教育を体系化している。 3. 1・2年次を中心に配置されている「共通専門科目」、「概論科目」による専門分野の基礎教育を土台として、3年次より「コース専門科目」を設置し、時代のニーズに対応して異なった文化を理解する方法を研究する「言語文化コース」と、コミュニケーションの様々な面について研究する「言語コミュニケーションコース」の2コース制に分かれる。そしてそれぞれのコースにおいて少人数による演習を軸に専門の様々なテーマについて研究する環境を提供している。 4. 「言語文化コース」では、英語圏の文学と文化についてより深く学ぶために、文学史や文学研究、演劇研究、文化研究、専門演習などの専門科目を配置している。 5. 「言語コミュニケーションコース」では、英語という言語とコミュニケーション理論、英語教育についてより深く学ぶために、言語学や英語学、異文化コミュニケーション、国際コミュニケーション、専門演習などの専門科目を配置している。 6. 英語の特殊技能養成のための特別プログラム、すなわち「実技科目」として、通訳や翻訳、スピーチや朗読の技能を専門的に学ぶ科目や、英語による討論能力を養う科目も配置している。 7. 英語の教員養成のための特別プログラム、すなわち「英語教育科目」を設置し、充実した教員養成体制を備えている。
カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	英文学科では、文化的知識に裏打ちされた高度な英語運用能力を獲得し、国際社会において求められる見識及び、異文化コミュニケーション能力を備えた人物の育成を目的として、以下のような方針に基づくカリキュラムを編成している。なお、成績評価は、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格に行っている。 1. 1・2年次に配置したCore English Skillsにおいて、ネイティブスピーカー教員による英語の基礎教育を徹底して行う。 2. 1・2年次を中心に配置されている「概論科目」「共通専門科目」により、専門分野の基礎教育を行う。 3. 国際社会で活躍するための基礎力獲得のために、アクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育で展開する科目を各学年に配置している。(続く)

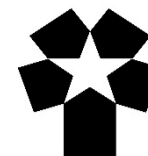


<p>(英文学科続き) カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>(続き)</p> <p>4. 3年次よりは、主として小説、詩、演劇等の文学テキストを素材に異なった文化を理解し、人間の本質を探究する「文化・文学コース」、言語学、応用言語学、英語教育学などの知見をもとに言語とコミュニケーションの諸側面について実践的に研究する「言語・コミュニケーションコース」、グローバルな視点からの知識と思考力、異文化コミュニケーション能力の獲得を目指した「グローバル・スタディーズ」の3コース制をとり、少人数の演習を軸に専門の様々なテーマについて研究する科目群を配置している。</p> <p>5. 英語の専門的・実践的スキル養成のための科目群 (Practical English Skills) を配置し、通訳や翻訳、スピーチや朗読、さらには英語による討論能力の養成を行っている。</p> <p>6. 教師養成のための特別プログラムである「英語教師養成科目」ならびに、「日本語教師養成科目」を設置し、充実した教師養成体制を備えている。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以前 入学生)</p>	<p>英文学科では、英語とその背景にある文化や歴史に対する知識を教授するとともに、高度な英語運用能力及び自文化に対する深い理解力を養成し、国際社会において求められる柔軟な対応力とコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的としています。</p> <p>英米の文学や文化、英語学や言語学、あるいはコミュニケーションを学ぶことによって、英語に対する豊かな知識を培います。また、自らが行動の基軸としている日本文化について深く理解するとともに、ことばの背景にある文化や歴史に対する造詣を深めます。これらを踏まえ、高い英語力と異文化コミュニケーション能力を持ち、国家間の架け橋として活躍することができる専門家を育成します。</p> <p>カリキュラムの特徴として卒業研究が必修となっていますので、多面的な思考能力とともに論理的思考を持ち、研究論文の作成ができるだけの潜在能力のある人、問題意識を持って主体的に学修を進めることができる資質を持った人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>英文学科では、一般入学試験のほか、センター利用試験、公募推薦試験、帰国生徒入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、編入学試験等、多様な入試制度を設け、様々な背景・能力を持つ学生に門戸を広げている。</p> <p>カリキュラムの特徴として、ネイティブスピーカーによる基礎教育を始めとして、英語で行われる授業が多いため、入学前に英文を正しく理解するための文法力や語彙力、リスニング力、英語での表現力をつけておくことを求めている。さらに、卒業研究が必修となっているため、多面的な思考能力とともに論理的思考を持ち、研究論文の作成ができるだけの潜在能力のある人、問題意識を持って主体的に学修を進めることができる資質を持った人を求めている。</p>



(表 I-1-⑦)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>心理学の知見に基づいた人間理解に関する知識を教授するとともに、社会の現場で自ら問題を見つけ出し考え行動する力を養成し、人々の相互理解と協働が求められる社会状況の中で、コミュニケーションの活性化に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>社会人に求められる教養と汎用的能力に加え、学科専門教育の目標である以下のような資質を持った人材を育成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の知見に基づいた人間理解に関する知識を身につけている。 2. 地域や社会におけるコミュニケーションの活性化に貢献できる。 3. 人々の相互理解と協働が求められる社会状況の中で多様な人々と適切な関係を築き、協力して活動することができる。 4. 社会の現場で自ら問題を見つけ出し、考え、行動する力を身につけている。 5. 応用的実践場面において、世の中を広く多角的に見渡す力（空間的センス）と物事を長期的・因果的に考える力（時間的センス）を発揮することができる。
<p>ディプロマ・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>『人の心とコミュニケーションの仕組みを知り、地域や国際的な環境において生かすスキルを身につける』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の知見に基づいて人間の振る舞いを理解するとともに、自身の振る舞いを調節できる。 2. さまざまなコミュニケーションの在り方を知り、地域や幅広い社会でのコミュニケーションの活性化に寄与することができる。 3. 多様な人々との相互理解と協働が求められる状況の中で、目的の達成に向けて自ら行動し問題を発見することができる。 4. 現場で生じる問題に対し、世の中を広く多角的に見渡す力（空間的センス）と物事を長期的・因果的に考える力（時間的センス）の両面から専門的知識を運用し、解決に向けて柔軟かつ適切に行動することができる。 <p>以上の方針にもとづく要件を満たしたと認められる学生に学位〔学士（心理・応用コミュニケーション学）〕を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>大学共通教育と学科専門教育をバランスよく履修することで、社会人に必要な教養と汎用的能力を身につけます。さらに、学科専門教育の目標達成のために、以下のような教育環境を準備しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論と現場の融合を目指した教育を実現するため、学外の様々な教育資源を活用するダイナミックな教育体制を整備している。 2. 心理学に基づいた科学的知識の獲得と実践的なコミュニケーション能力の育成のために「心理コミュニケーション科目群」「応用コミュニケーション科目群」「学科共通科目群」の授業を展開している。 3. 「心理コミュニケーション科目群」では、心理学に関連する科目など、人間の心の過程を科学的に探求する能力を養成する授業科目を配置している。 4. 「応用コミュニケーション科目群」では、応用的・対人的科目など、コミュニケーションの現場で活用する応用力と実践力を養成する授業科目を配置している。 5. 「学科共通科目群」では、情報の収集・分析・発信をねらいとして、講義系科目のみならず、実習系・演習系科目も数多く配置している。また、現場でのコミュニケーション感覚を養成するために、1年次の社会活動実習では自主的なボランティア活動を体験し、2年次のフィールド実習では「産業系」「野外系」「教育系」の分野から選択して実習する。就業体験としてのインターンシップも単位化している。 6. 意思を伝える言語としての「書く」「話す」の訓練を徹底し、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験の成果に対して単位を認定し、語学力向上の自主的努力を支援している。 7. 3年次後期の半年間は実質的な必修科目を入れないようにして、海外留学や現場体験などの学生の自主的で自由度の高い学習を保障している（フルフレックス制度）。 8. 学科の学びの集大成として卒業研究を必修化している。論文だけではなく、イベントの企画実践や映像作品の作成、創作活動など多様な卒業研究を認めている。
<p>カリキュラム・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>心理・応用コミュニケーション学科では、理論と現場の融合を目指した教育を実現するため、カリキュラムに実習を大幅に取り入れており、2年次には建築系、農業系、野外系、教育系に分かれ、現場での実習を行っている。また、同年次には、「人間科学科目群」と「地域国際科目群」のどちらかに重きを置く教育を行い、「人間科学科目群」では、人間の心の過程を科学的に探求する能力を養成する授業科目を配置しており、「地域国際科目群」では、応用的・対人的科目など、コミュニケーションの現場で活用する応用力と実践力を養成する授業科目を配置している。</p> <p>3年次から4年次にかけては、学科の学びの集大成として卒業研究を必修化しており、論文だけではなく、イベントの企画実践や映像作品の作成、創作活動など多様な形式を認めている。3年次後期には、必修科目を1科目しか配置しない「フルフレックス制度」を導入し、海外留学や現場体験などの学生の自主的で自由度の高い学習を保障した、最大8ヶ月間を自分でデザインした国内外での活動に充てることことができる。就業体験としてのインターンシップも単位化されている。そして、4年間を通じて、意思を伝える言語としての「書く」「話す」の訓練を徹底し、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験の成果に対して単位を認定し、語学力向上の自主的努力を支援している。</p>



<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以前 入学者)</p>	<p>心理・応用コミュニケーション学科では、心理学の知見に基づいた人間理解に関する知識を教授するとともに、社会の現場で自ら問題を見つけ出し考え行動する力を養成し、人々の相互理解と協働が求められる社会状況の中で、コミュニケーションの活性化に貢献できる人材の育成を目的としています。そのため理論と現場の融合を目指した教育体制を敷き、心理学的トレーニングによってコミュニケーションを科学する力を獲得するとともに、言語表現力を強化し様々な場面での応用的実践を通じて、世の中を広く多角的に見渡す力（空間的センス）と物事を長期的・因果的に考える力（時間的センス）を育成します。</p> <p>心理学に興味・関心を持っている人、社会の仕組みや実態を知りたい人、言葉で世界を広げたい人、自らの頭で考え行動し自分を表現したい人、人と人との壁を崩し活きたコミュニケーションを実践したい人など、意欲と行動力に溢れ自分の可能性を試したい人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学者)</p>	<p>心理学に興味・関心を持っている人、社会の仕組みや実態を知りたい人、言葉で世界を広げたい人、自らの頭で考え行動し自分を表現したい人、人と人との壁を崩し活きたコミュニケーションを実践したい人など、意欲と行動力に溢れ自分の可能性を試したい人を求めている。</p> <p>従って、入学前に、英語や日本語などコミュニケーションツールとしての語学力を高め、実用英語技能検定、日本漢字能力検定などの公的検定試験にも挑戦してほしい。さらに、書籍や映画などさまざまなメディアにアクセスし、文化や社会の動き、多くの人々の経験について触れてほしい。入学者選抜においては、規定の科目試験以外に、受験者の多角的な能力を評価するために、社会問題についてディスカッションしたり、講義を聞いて問題点を発見したりする能力を判定するグループ討議なども設けている。</p>

経済学部ポリシー



(表 I-1-⑧)

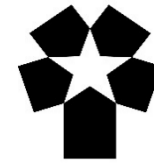
ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 見識豊かな産業人・社会人として多様な実社会に貢献することができる。 幅広い学識・教養と経済学及び隣接領域の高度に専門的な学問を修得している。 経済学を中心とする社会科学分野の知識・教養を備えた有為な人材として、道内外の民間企業あるいは行政等の各分野で活躍できる能力を身につけている。 経済のグローバル化が進展する中で、時代のニーズに即応することができる。
アドミッション ・ポリシー	経済学部では、基礎的知識の獲得と経済社会の変化に対応できる力の向上を目指した経済学教育を進めており、経済学科、経営情報学科、経済法学科の3つの学科を設置しています。どの学科も経済学を基盤に据えたカリキュラムの展開を行うことによって、見識豊かな産業人、公務員など多様な人材の育成を目指しています。それ故、知的好奇心が旺盛で、且つみずからの将来を主体的に切り拓いていこうという志を持った若者の入学を期待しています。

経済学科ポリシー



(表 I-1-⑨)

教育研究上の目的	日本国内外の経済を歴史、理論、現状の三点からの確に教授するとともに、北海道経済を含む地域経済又はアジアを中心とした国際経済の現状把握能力を養成し、地域に貢献できる「国際人」の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2017年以前 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 社会人基礎力としても経済学の学びにおいても必要な文章表現・外国語・数学的能力を身につけている。 経済学的思考を自らの教養とし、身近な経済的諸問題を理論面からも実証面からも理解する能力を身につけている。 専門性を身につけながらも、現代社会の激しい変化に対応する見識のあるジェネラリストとして、社会の様々な現場で活躍する能力を身につけている。 地球規模のグローバルな視点を持った真の国際人としての豊かな資質を身につけている。
ディプロマ ・ポリシー (2018年以降 入学生)	<p>「知」の魅力に触れ、なりたい「自分」に出会い、「社会の主人公」になろうというモットーに従い、大学共通科目における幅広い教養の学びを基礎とし、学科専門科目の学習課程を通じて、激変する現代社会の状況に対応しながら、卒業後の職業生活や社会生活の各領域において活躍することができる高い見識を備えたジェネラリストを育成する為、以下の項目を充たし、経済学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して卒業認定を行ない、学位[学士(経済学)]を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高度の体系性を備えた社会科学としての経済学を学び、経済学的思考を自らのものとするを通過して、経済・社会への確かな視座を獲得することができる。更に、理論を体系的に積み上げて理解し、これを踏まえて現実の経済・社会を把握するという学問的視点を身につけることができる。 経済・社会を認識する上で、国と国との国際関係はもとより、国家の枠組みを超えたグローバルな社会連関をも視野に入れ、国内の問題や身近な地域の諸問題に至るまでグローバルな視点から捉えることができる。 必修科目である「新聞活用」や「上級新聞活用」、そして「時事英語」、更には現職ジャーナリストなどによる講義の受講を通じて、とりわけマスメディアを中心としたメディア・リテラシーを身につけることができ、併せて経済学を始めとする社会科学の諸領域において広範且つ多様な情報環境においても言説の当否を見極める力量を備えることができる。 教職課程の科目を併せて履修する者は、経済学科の専門科目における体系的な学びを通じて、教科に関する幅広い知識を獲得することができるだけでなく、経済学の体系的な知見と学問的な基礎力及び見識を身につけ、教育者としての職業人生の長い道のりの中で遭遇するであろう様々な経済・社会の変化や学問的進歩に適確に対応し、授業を絶えず進化させる力量を身につけることができる。
カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 『なりたい「自分」に出会い、「社会の主人公」になろう』とのモットーのもと、経済学の視点を通じて地球と自分の将来を見つめさせるとともに、未来を切り開いていく力を具えたジェネラリストを育てることを目的とし、「共通連携入門科目」、「入門科目」、「基礎科目」、「群科目」、「演習科目」、「選択科目」を配置している。 「共通連携入門科目」では、基礎的なスキルを養成するため、大学共通科目で開講されている「英語」・「数学・統計学」を必修として初年度に配置している。 「入門科目」では、少人数制授業「入門演習」で大学における学習スタイルに慣れ、新入生がスムーズに専門の授業になじんでいけるように配慮している。「基礎経済学」で経済学的思考を、そして「新聞活用」では社会人基礎力を身につけることができる。 「基礎科目」では、理論を無理なく学ぶだけでなく、実証的な歴史も学ぶことができる。 「群科目」では、「近代経済学」・「歴史・社会」・「国際」の3分野の科目群のなかから柔軟に履修することができ、自分なりの関心の所在に出会い、また、それを深めていくことができる。 「演習科目」では、学生と教員の密接なコミュニケーションのもと、専門的知識を深め、また、問題を掘り下げていく力やプレゼンテーション能力を養うことができる。 「選択科目」では、経済学の学びを広げていけるような応用科目を配置している。経済学応用分野の科目、英語力を向上させるための科目、教職や税理士資格にも対応できる科目を履修できる。



(表 I-1-9)

<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>ディプロマポリシーに掲げた学科のモットーを基礎として、経済学的見識を身に着けることによって、自己とこれを取り巻く世界の展望を思い描き、将来を自力で開拓してゆく力量を備えたジェネラリストを育成することを目的として、「入門科目」、「基本科目」、「発展科目」、「総合科目」、「演習科目」を配置している。体系的な経済学（大枠組）学習の要は「基本科目」、「発展科目」にあり、ここに「社会経済コース」、「応用経済コース」、「グローバル社会コース」の3コースを設定し、体系的且つ幅広く学習させるカリキュラムを構築した。「入門科目」はこのような学びの準備課程を意味し、「総合科目」は更なる学びの発展を促すものである。少人数教育の象徴である「演習科目」は学科カリキュラムの中核をなし、そこで学問探求の学部段階における完成が図られる、という基本構造になっている。因みに、3コースの設置趣旨は、次のようなものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会経済コース」では、社会・歴史・思想・文化といった多面的な切り口から経済を深く探求することを主眼とする。 2. 「応用経済コース」では、金融・環境・農業・医療など、現代の様々な経済事象を理論的・実証的に分析・探求することを主眼とする。 3. 「グローバル社会コース」では、広く世界に目を向けて、国際社会の一員として政治・社会のグローバルな分析・探求を行なうことを主眼とする。 <p>これらの学科専門科目体系の展開様式は、講義・演習・実習という様式のみならず、アクティブ・ラーニングを更に促す為に、「ディベート」への参加などを通じて、国内外で幅広く学ぶ機会が提供されており、従来の試験を中心とした成績評価に加えて、学外での自己研鑽の賜物としての検定・資格認定を通じた単位取得など、多様な評価を受けることができるものとなっている。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー</p>	<p>経済学科では、様々な経済事象への旺盛な知的好奇心を備えた学生を求めている。更に、卒業後に、各領域において在学中に身につけた知識・教養を土台として、社会的貢献を果たす志を持った人材の輩出を目指している。今日の多様化する若者の価値観や自己実現目標に鑑み、一般入試に加えて、公募推薦入試、指定校推薦入試などの多様な入学経路を用意し、おのおの評価の視角を変えながら、しっかりとした学力の裏付けを前提としつつも、多様な学生の受け入れを図っている。</p>



(表 I-1-⑩)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>企業経営に関する体系的な理論、経営実務に関する実践的な知識、情報処理に関する最新の技法を教授するとともに、高度で専門的な経営情報活用能力を養成し、経営、マーケティング、会計、情報の各分野で活躍できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>共通科目群により、多様化社会に柔軟な対応が可能となる学資力を身に付けるとともに、学科専門科目を通して以下に示す専門的なスキルを身に付けることを目的としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスの理論やスキル、情報の効果的な活用法を身につけている。 2. 企業経営における実践的知識とシステム技術、展開力、応用力を身につけている。 3. ビジネス実践能力と情報活用リテラシーを培い、幅広い企業経営の知識と会計理論、そして即戦力となる情報活用に関する技術を身につけている。 4. 現代の複雑な情報化社会にあって、情報活用能力を習得し、企業経営に経営情報を有効活用できる実践力を身につけている。
<p>ディプロマ・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>大学共通科目により、多様化社会に柔軟な対応が可能となる学士力を身に付けるとともに、学科専門科目を通して以下に示す専門的なスキルを身に付け、実践できるようにすることを目的としている。</p> <p>ビジネスの理論やスキル、情報の効果的な活用法を身につけ、実際のビジネスで活用することができる。企業経営における実践的知識とシステム技術、展開力、応用力を身につけ活用することができる。ビジネス実践能力と情報活用リテラシーを培い、幅広い企業経営の知識と会計理論、そして即戦力となる情報活用に関する技術を身につけ、実践できる。</p> <p>現代の複雑な情報化社会にあって、情報活用能力を習得し、企業経営に経営情報を有効活用できる。教職課程の科目を併せて履修する者には、経営情報学科の専門教育科目における体系的な学びを通して、教科に関する広い知識を獲得させるのみならず、自ら問題を発見し、問題解決に向き合う態度を身に付けさせ、現代の激しい社会の変化や技術の進歩に適切に対応でき、教職生活の中における様々な困難に対しても、自らその困難を乗り越え、より良い教育を実践できる。</p> <p>経営情報学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (経営情報学)] を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以前入学生)</p>	<p>広く教養を身に付けるための共通科目群と専門性を身に付けるための学科専門科目群を4年間にわたってバランスよく配置し、社会で実践的に活躍できるスキルを醸成できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の複雑な情報化社会にあって、企業経営に関する理論、経営実務に関する実践的知識、情報処理に関する最新技法を学ぶとともに、経営情報活用能力を醸成するため、「学科基礎科目」、「学科専門導入科目」、「学科ユニット」、「学科関連ユニット」を配し、段階的な履修を保証している。 2. リテラシー教育と実践実技教育を重視し、「学科実践能力科目」を設置するとともに、各年次に「演習科目」を開講し、少人数で実践的なゼミナール形式の学習機会をより一層充実させている。 3. 効率的かつ効果的な履修年次の配置を考慮した科目群からなる専門領域群として、「学科ユニット」、「学科関連ユニット」を設け、学生の興味や関心が体系的な専門科目の履修に具体化されているようにしている。 4. 学科学生の学問的興味に応じ、経済学部学科間の連携・乗入れを意識的に指向している。 5. 経営 (マネジメント) 分野、マーケティング分野、会計 (アカウンティング) 分野、情報分野、教職課程の5分野で12の履修モデルを導入し、学生が効果的な履修計画を立て意欲を持って学習を遂行できるように配慮している。
<p>カリキュラム・ポリシー (2019年度以降入学生)</p>	<p>広く教養を身に付けるための大学共通科目と専門性を身に付けるための学科専門教育科目を4年間にわたってバランスよく配置し、社会で実践的に活躍できるスキルを醸成できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の複雑な情報化社会にあって、企業経営に関する理論、経営実務に関する実践的知識、情報処理に関する最新技法を学ぶとともに、経営情報活用能力を醸成するため、「学科基礎科目」、「学科専門導入科目」、「学科専門科目 (基礎)」、「学科専門科目 (応用)」を配し、段階的な履修を保証している。 2. リテラシー教育と実践実技教育を重視し、「学科実践能力科目」を設置するとともに、1年次に「基礎演習」を、3～4年次に「専門演習」を開講し、少人数で実践的なゼミナール形式の学習機会をより一層充実させている。 3. 効率的かつ効果的な履修年次の配置を考慮した科目群からなる学科専門教育科目として、1～2年配当の「学科専門科目 (基礎)」、「3～4年次配当の「学科専門科目 (応用)」を設け、学生の興味や関心が体系的な専門科目の履修に具体化されているようにしている。 4. 学科学生の学問的興味に応じ、経済学部学科間の連携・乗入れを意識的に指向している。 5. 経営 (マネジメント) 分野、マーケティング分野、会計 (アカウンティング) 分野、情報分野、教職課程の5分野で履修モデルを導入し、学生が効果的な履修計画を立て意欲を持って学習を遂行できるように配慮している。 <p>講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングや産学連携プロジェクト等による学びを取り入れた少人数教育で展開する科目を各学年で展開する。シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p>



<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以前 入学者)</p>	<p>経営情報学科では、企業経営に関する体系的な理論、経営実務に関する実践的で国際的な知識、情報処理に関する最新の技法を教授するとともに、高度で専門的な経営情報活用能力を養成し、経営、マーケティング、会計、情報の各分野で活躍できる人材の育成を目的としています。学科教育の特徴は、専門的な内容を、実践的な形式で、確実に学ぶことができる点にあります。企業経営の専門的な内容について、企業との新商品開発、海外企業の調査、実務家による講義など、実践的な形式で学ぶ少人数の演習科目を充実させています。こうした取り組みによって、各分野の専門的な内容を確実に学ぶことができると同時に、学生が企業経営に関する理論・情報を実践的に活用できる能力を育成します。</p> <p>経営情報学科では、経営、マーケティング、会計、情報の専門的な知識や技能を駆使し、企業経営の様々な場面で自らのアイデアを具現化することで、豊かな社会の創造に参加したい人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学者)</p>	<p>経営情報学科では、経営、情報、マーケティング、会計の専門的な知識や技能を駆使し、企業経営の様々な場面で自らのアイデアを具現化することで、豊かな社会の創造に寄与できる人物の育成を目標としており、カリキュラムでは「学科実践能力科目」を設置し、少人数のゼミナール形式や産学協働も含む実習形式の学習を多く取り入れる等、実践性の高い内容となっているため、高等学校卒業程度の情報や経済についての知識を有した以下のような人を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広く国内外の企業経営に関連する情報に深い関心を持ち、そこで起きている問題や課題について、多面的かつ論理的思考ができる人。 2. 積極的に企業経営における課題解決のために行動し、多様な人々と協働しつつ、その課題解決に参加していきたいという積極的な思考を持っている人。 3. 企業経営上の課題解決のために必要な新しい技術やスキルに関心を持ち、その応用に興味のある人。 4. 上記1～3のような人物を社会に輩出すべく、子供たちの教育にたずさわる意欲のある人。また、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。



<p>教育研究上の目的</p>	<p>経済学と法律学に関する専門知識を教授するとともに、経済及び法律の専門職に必要な実践的な能力と倫理観を涵養し、企業経営、金融、行政、司法実務及び会計の各分野において活躍できる専門家の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>大学共通科目の履修によって身につけた幅広い教養を活かすとともに、経済学と法律学の視点から専門的な問題解決能力や資質を持つ人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学と法律学を学び、経済や法律が生活に与える影響を正しく理解でき、広い視野を持つことができる。 2. 経済の知識を備えた法律のスペシャリスト、リーガルマインドを備えた経済のスペシャリストとして、実社会で活躍できる能力を身につけている。やや具体的にいえば、本学科の例えば金融志望の卒業生は、法学知識だけではなく、経済学、会計学の知識を備え、実践的な能力を身につけている。 <p>また、公務員志望であれば、こちらも単に法学知識だけではなく、経済学なかでも財政学の知識を備え、より広い視野にたつて公務員としての任務遂行に当たることができる。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>『経済と法との出会い・学びが未来を変える』</p> <p>大学共通科目で幅広い教養と発想を学んだうえで、経済学と法律学から成る学科専門教育科目の中から、キャリア形成を行うために必要な知識体系の基盤を構築している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生各自が価値観、興味関心を明確に意識したうえで、理想とするキャリア形成に適したコースを、5つのコース「公共法政策」「経済分析」「企業法務」「金融・財政」「法律総合」の中から選択・学修することで、自らの視点で社会の動向を分析・予測し、人生を開拓できる力を修得している。 2. 経済や法律の知識をベースに、実社会で活躍できる能力を身につけている。やや具体的にいえば、例えば金融志望の卒業生は、経済学と法学の知識を備え、多様な能力を発揮できる。また、公務員志望であれば、法学知識だけではなく、経済学なかでも特に財政学の知識を備え、より広い視野にたつて公務員としての任務遂行に当たることができる。 3. 獲得した経済学、法律学の知識と経験を活かし、中学・高校において教員として後進の指導にあたることもできる。 <p>以上のような能力を身に付け、経済法学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位〔学士（経済法学）〕を授与する。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>社会人としての教養に加え実践的に活躍できる人材を育成するために大学共通科目と学科専門科目をバランスよく配置している。学科専門科目においては、基礎力を養成する”塾”によって学修の土台を固め、多彩な専門科目を分野ごとのユニットにまとめることで学生の志望や進路に応じた選択・履修をガイドすると同時に、前提科目制度によって体系的な学修を保障することで、学科専門教育の目的を達成するための教育環境を準備している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リーガルマインドを備えた経済のスペシャリスト、経済学のセンスを備えた法律のスペシャリストを養成するために、経済、法律、会計に関連する学科の専門科目を九つのユニットにグループ化している（①理論経済ユニット、②金融・財政ユニット、③経済・経営ユニット、④公法基礎ユニット、⑤政策法務ユニット、⑥民事法基礎ユニット、⑦企業法務ユニット、⑧司法実務ユニット、⑨アカウンティングユニット） 2. 経済学、法律学、会計学のいずれについても学習する機会を保障する。 3. 本学科の専門科目には、選択必修も含めて必修科目はない。すなわち、すべて自由選択であるが、その代わりに、下記履修モデルと前提科目制および一定の履修制限によって体系的に履修がなされるようにしている。 4. 各自の知的好奇心と学修ニーズに応える多彩な専門科目のユニットを、5つの履修モデル（①公務員志望、②司法書士・行政書士志望、③公認会計士・税理士志望、④国税専門官志望、⑤金融・保険・証券業志望）を参考に積み上げることにより、希望の進路への効果的な学修をサポートする。例えば、公務員志望であれば、〈理論経済〉〈金融・財政〉〈経済・経営〉〈公法基礎〉〈民事法基礎〉〈政策法務〉の各ユニットを積み上げる。
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>ゆたかな人間性を育む大学共通科目と社会人としてのキャリア形成に必要な学科専門科目をバランスよく配置する。学生は、大学で学修するための基礎力を養成する少人数の“塾”と学科基礎科目を通じて学修の土台を固めることから始め、それぞれの知的関心と将来の志望を踏まえて、より専門性の高い科目群からなる5つのコースから1つのコースを選択し、学科専門科目を学修していく。低年次から開講される専門演習において、専門科目で身につけた知識とスキルを実践の場でさらに磨く。また、学生に適切なコース選択をガイドするために、教員が個々の学生を丁寧にサポートする体制を用意するとともに、専門科目を体系的に学修することを保障するための前提科目制度を設ける。また、各科目のシラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の学修を無理なく円滑に進めていくために必要な力を養う基礎力養成塾と学科専門科目への入門または導入として学科基礎科目を置く。 2. 学生の多様な知的関心と将来の志望に柔軟に対応するため、経済学と法律学を適切に組み合わせた学科専門科目群から構成されている5つのコース（①公共法政策コース、②経済分析コース、③企業法務コース、④金融・財政コース、⑤法律総合コース）を置く。 3. 各コースで身につけた知識や技術やセンスを実践的に活用し、ステップアップするための場として切れ目なく演習科目を置く。 4. コースを超えた幅広い知的関心に応えるとともに、より高度な専門性を養うためにコース共通科目を置く。 5. 学科基礎科目とコース科目に選択必修科目を設定し、コース修了のための最低修得単位を定めるとともに、前提科目制度や履修制限によって体系的な学修を保障する。



(表 I-1-①)

<p>アドミッション ・ポリシー</p>	<p>経済法学科では、経済学と法律学のコアとなる知識とスキルを確かなものとし、それを基盤としたより高度な専門知識を身につけるとともに、経済や法律にかかわる幅広い社会・経済活動に不可欠な実践的な能力と職業上の倫理観を形成する。そのために経済法学科では、高校卒業程度の経済と法についての知識を有した次のような人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権と多様性を尊び、国の公共政策や地域のまちづくりにかかわる意欲のある人（公共法政策コース） 2. 様々な経済・社会問題に関心を抱き、経済学的な分析を通じて個人や社会にとって望ましい（合理的な）解決法を見出すことに意欲のある人（経済分析コース） 3. 企業の組織や活動に関心があり、企業における意思決定の仕組みやリスク管理・契約などの法実務を学ぶ意欲のある人（企業法務コース） 4. 経済を巡るおカネの動きや国の財政について関心があり、資金の流れに関与することで社会の発展に貢献していきたい人（金融・財政コース） 5. 正義や権利の価値に重きをおき、法律にかかわる資格の取得や裁判制度に強い関心のある人（法律総合コース） 6. 地理・歴史、公民に興味があり、民主社会の将来の担い手である子どもたちの教育にたずさわる意欲のある人（教職） また、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。
--------------------------	--

社会福祉学部のポリシー



(表 I-1-12)

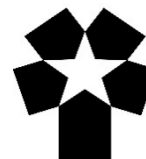
ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学部では、人を支援する場合に求められる基本的な姿勢と、そのために求められる深い人間理解を身につける。 2. 人を支援する場は、社会の複雑化とあいまって、多様に広がっている。それは、福祉を必要とする人々のニーズの多様化でもある。そうした多様なニーズを、それぞれの支援の場において分析・把握し、その充足を目指すための、対人関係サービスの専門家たる能力を身につける。 3. より具体的には、社会福祉分野や各種行政部門で個別援助・地域計画・地域組織化に従事するといった場合についてはもとより、一般企業においても企業内や対外的な企業活動における様々な場面において、福祉的支援の要請に応えられる知識と姿勢と対人能力を身につける。
アドミッション ・ポリシー	社会福祉学部では、社会福祉分野及び各種行政部門で、専門職として対人関係サービスに従事する人材を社会に送り出すために、社会福祉学はもとより、社会学、心理学、経済学を含めた隣接領域の専門的な知識や技術の修得を目指します。 社会福祉学部には福祉計画学科、福祉臨床学科、福祉心理学科の3つの学科を設置し、それぞれ相互に関連しあう共通の教育課題と目標を持ちながら、社会福祉分野における有為な人材養成を目指して教育に取り組んでいます。

福祉計画学科のポリシー



(表 I-1-13)

教育研究上の目的	社会福祉制度・政策の知識を教授するとともに、調査・分析能力や国際感覚を養成し、コミュニティーソーシャルワーカーや福祉マインドを持った企業人及び公務員として活躍できる人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	現代社会の要請に対応できる人材の育成を目的としています。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉マインドをもって民間企業や国家・地方の公的機関に従事する人材、さらにNPO や教育機関などで活躍できる人材としての能力を有している。 2. 福祉サービスを必要とする人びとの視点で、側面から援助したり、福祉的施策に関するプランを策定しサービスを提供することができる能力がある。 3. 地域で住民や公的機関と協働し、ニーズを統計的に把握し、主体的に問題を解決することができるコミュニティー・ソーシャルワーカーとして活躍できる能力がある。 社会福祉制度・政策の知識を有し、国際比較を踏まえて分析する能力を有している。
ディプロマ ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	福祉計画学科では、「地域(みんな)でつなぐ、地域(まち)をつくる」をモットーに、現代社会の要請に対応ができ、北海道の地域性および国際感覚を身につけて活躍できる人材養成を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「福祉マインド」をもって民間企業や国家・地方の公的機関に従事する人材、さらにNPO や教育機関などで活躍することができる。 2. 福祉サービスを必要とする人びとの視点で、寄り添いながら援助を行い、福祉的施策に関するプランを策定し、サービスを提供する能力を身につけることができる。 3. 地域で住民や公的機関と協働し、ニーズを統計的に把握し、主体的に問題を解決するコミュニティー・ソーシャルワーカーとして活躍することができる。 4. 社会福祉制度・政策の知識を有し、国際比較を踏まえて分析する能力を身につけることができる。 以上のような能力を身に付け、福祉計画学科の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき124単位を修得し、卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位 [学士 (福祉計画学)] を授与する。
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の制度・政策に関する幅広い知識を得るために、経済学・法学系のカリキュラムを設置する。 2. 社会福祉政策の実施に際し、ニーズの把握等に関わる知識や技能を得るための資格を取得しうるカリキュラムを展開する。 3. 福祉計画学科独自の科目群として、社会保障を中心に、社会福祉に関わる計画・政策・財政・法律・社会福祉調査・コミュニティー・NPO・公的部門の経済活動を学ぶ科目など、地方分権と高齢社会に対応した地域の福祉計画策定のための科目を用意し、福祉をマクロ的視点から学ぶ。 4. 4つの体験型・参加型学習 (コミュニティーワーク実習、海外福祉事情、社会福祉調査実習、社会福祉士養成) や、インターンシップへの参加機会を設置する。 5. 学生のプレゼンテーション能力を向上させる科目を設置する。
カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)	福祉系学科として、福祉現場だけでなく、国および自治体職員、一般企業、学校教員やNPO等で活躍できる人材として、「福祉マインド」を身につけ、超高齢社会、貧困等の格差社会、マイノリティへの適切な対応が行える知識と能力を身につけ、それぞれの現場およびそれを取りまく地域社会で社会的な役割を担うことができる人材養成を行う。 その目的を達成するためのカリキュラムとして「福祉計画基盤科目」「社会福祉士関係科目」「教職・社会教育主事関係科目」を配置する。履修モデルとして「社会福祉士コース」「福祉教育コース」「福祉政策・行政コース」「応用福祉・産業コース」の4コースを設置する。また、各科目のシラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「社会福祉士コース」では、社会福祉士国家試験受験資格を4年間で取得できるように、厚生労働省の指定科目 (続く)



<p>(福祉計画学科 続き) カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>(続き) を配置する。また、単に社会福祉士国家試験受験資格が取得できるだけでなく、「地域(みんな)でつなぐ、地域(まち)をつくる」に関連する福祉計画基盤科目の履修を通して、地域を強く意識した場での実習の実施や専門職養成を行う。</p> <p>2. 「福祉教育コース」では、本学科で社会福祉制度等を広く学びながら、それらの知識を活かして、広く教育に携わる職業人を養成する。さらに、家庭環境への理解を深め、より適切な生徒指導や教育を実施できるよう資質を高めることを目指す。希望により中学校教諭1種免許状(社会)、高等学校教諭1種免許状(公民)およびこれらを基礎免許とした特別支援学校教諭1種免許状の取得を目指せるよう科目を配置する。</p> <p>3. 「福祉行政・公共コース」では、本学科の特徴である福祉政策系(マクロ)科目と地域関連(メゾ)科目を幅広く学び、併せて社会学・経済学・法学系の科目の履修を推奨している。また、社会教育系の科目も配置し、市町村教育委員会等で社会教育主事を目指すことができる。</p> <p>4. 「応用福祉・産業コース」では、本学科で福祉専門職を目指すだけでなく、社会福祉の理論・制度・政策を学んだ上で、少子高齢社会にあって消費者ニーズに対応しうる知識・技能を幅広く学び、それを卒業後の進路で役立てられることを目指す。また、社会調査士資格を目指す過程で、社会調査に役立つ知識・技能が修得できる。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以前 入学生)</p>	<p>福祉計画学科では、社会福祉制度・政策の知識を教授するとともに、調査・分析能力や国際感覚を養成し、コミュニティ・ソーシャルワーカーや福祉マインドを持った企業人及び公務員として活躍できる人材の育成を目的としています。少子高齢社会・格差社会が進む中で、国際社会の福祉政策の動向をふまえ、新たな社会福祉改革とそのため必要な社会や社会福祉についての学識とともに、社会調査やまちづくり、福祉サービスの提供のための知識・技術を養い、地域の中で求められている実践力を持った人材を育成します。自治体や社会福祉協議会、非営利団体などで地域の社会福祉サービスを総合的に企画・立案し、福祉のまちづくり、福祉・教育・医療におけるサービスの提供を仕事とすることに希望を持つ人、また、民間企業などで高齢者や障害者等多くの人に利用されるのにふさわしい商品やサービスを開発・提供する仕事を希望している人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>福祉計画学科では、「福祉マインド」をもって地域社会で活躍したいと願う人を求めている。また、次の5つのことに関心や興味、または能力を身につけたいと考えている人を受け入れたい。</p> <p>1. 社会福祉の制度・政策に関する知識と併せて幅広い分野で活躍できる人材となるために、社会学、経済学・法学・教育学系のカリキュラムを学びたい人。</p> <p>2. 社会福祉政策の実施に際し、支援を必要としている者のニーズ把握等に関わる知識や技能を得たいと考えている人。</p> <p>3. 福祉計画学科独自の科目群として、社会保障を中心に、社会福祉に関わる計画・政策・財政・法律・社会福祉調査・国際比較・コミュニティ・NPO・公的部門の経済活動に関する科目や、地方分権と超高齢社会に対応した地域の福祉計画策定のための科目を学び、社会福祉をメゾ・マクロ的視点から見ることのできる能力を身につけたい人。</p> <p>4. 5つの体験型・参加型科目(コミュニティワーク実習、海外福祉計画実習、社会福祉調査実習、社会福祉士養成、福祉計画インターンシップ)に関心や興味のある人。</p> <p>5. ソーシャルスキル(文章作成、プレゼンテーション、コミュニケーションの各能力)を向上させたいと考えている人。これらに関心や興味があり、能力を身につけ、卒業後は、自治体、学校、社会福祉協議会、非営利団体などで地域住民のニーズにあったサービスを総合的に企画・立案し、福祉のまちづくり、福祉・教育・医療におけるサービスの提供に従事することに関心を持つ人、また、民間企業などで高齢者や障がい者等多くの人に利用されるのにふさわしい商品やサービスを開発・提供する仕事を希望している人を求めている。</p> <p>そのため、高等学校等において修得した基礎的な知識・技能、それらを活用する能力、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度などを、多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



福祉臨床学科のポリシー

(表 I-1-14)

教育研究上の目的	対人援助専門職としての基本的な価値・知識・技術を教授するとともに、多様な実践環境に対応したソーシャルワーク実践能力、実践の中で研鑽・研究する能力を養成し、真に実践力のあるジェネラリスト・ソーシャルワーカーの育成を目的とする。
ディプロマ・ポリシー (2018年度以前入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーカーとして、人の尊厳と人権を擁護し、社会正義に基づいて広く社会を見つめる視野を持っている。 2. ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとして理論的・計画的な実践能力を展開することができる。 3. 人の発達段階を理解し、保健医療分野や在宅から施設まで、多用なクライアントへのソーシャルワーク展開能力を有している。 4. 多様な職場や現場など実践環境に対応したソーシャルワーク展開能力を有している。 5. ソーシャルワーカーとして、日々の臨床実践の中で自ら学習し研究できる能力を有している。 6. ソーシャルワーク・社会福祉を理解した上で、社会における諸課題の解決に向けた実践展開能力を有している。
ディプロマ・ポリシー (2019年度以降入学生)	<p>福祉臨床学科では、本学が規定する在学期間において、各科目の特質に応じた厳正な成績評価に基づき124単位を修得し、次に掲げる諸能力等を獲得することによって卒業要件を満たした者に対して、卒業を認定し学位〔学士(福祉臨床学)〕を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の流動的な社会において、常に人の尊厳と人権を尊重し、社会正義に基づいて広く社会を捉え・働きかけることのできる人格的な陶冶が成し遂げられている。 2. ソーシャルワークと社会福祉を理解し、地域社会における諸課題の解決に向けて、ジェネラリストまたはスペシャリスト・ソーシャルワーカーとして多様なクライアントの生活環境に応じた理論的・計画的な支援の実践展開能力を獲得している。 3. この社会を担う次世代を教育・支援することの意義を理解し、地域社会の重要な資源としての学校等において、教育指導とソーシャルワークを実践的に展開する能力を獲得している。 4. 社会福祉および教育における多職種連携と協働の重要性を理解し、それぞれの専門的な価値・知識・スキルを相互に理解し合い、実践的に連携・協働して人を支援し、誰もが住みやすい地域社会をつくり出そうとする姿勢を有している。 5. ソーシャルワークと教育の専門職として、日々の臨床実践の中で自ら学習し研究できる能力を獲得している。
カリキュラム・ポリシー (2018年度以前入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジェネラリスト・ソーシャルワーカーが備えるべき能力を、5群13項目に分類し、専門職養成のための総合的なカリキュラムを構成する。 2. 福祉臨床学科独自の科目群として、社会福祉における援助の基礎理論、方法論、様々な分野別に求められる知識・技術を学ぶ。特に福祉臨床実習を通じ積上げ方式で福祉現場の理解とソーシャルワーカーの役割・実践を理解する。 3. 人の一生の発達段階とそこでの障害を概観する科目を設置する。 4. ソーシャルワーカーの基本的理論・実践枠組みを学習する科目を設置する。 5. 幅広い分野における問題と援助枠組みを学習する科目を配置する。 6. ソーシャルワーカーとしての実践的力を身につけるための科目を積上げ方式で配置する。 7. 研究的力をつけるための科目を配置する。 8. 性差の問題に関する感覚、人権感覚、社会正義の感覚を養う科目を配置する。 9. 理論的、実践的、研究的かつ人権感覚に溢れたジェネラリスト・ソーシャルワーカーを養成するカリキュラムを展開する。
カリキュラム・ポリシー (2019年度以降入学生)	<p>福祉臨床学科では、人権感覚に溢れた理論的・実践的・研究的な社会福祉と教育の専門職を養成するカリキュラムを展開するために、次の諸点についての科目を設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1年次・2年次の全学生を対象に、人の生涯に渡る生活とその環境を捉え、そこで生じる問題や障害・ジェンダー・文化などに伴う偏見と差別の歴史を理解し、人権と社会正義の感覚を養う科目群を設置する。 2. 特に社会福祉領域の専門職養成をねらいとして、人の生活を支援することに対する情熱と目的意識を醸成し、社会福祉の基礎理論・方法論・実践理論についての学びを通して、様々な分野に対応した相談援助の枠組みとソーシャルワーカーが果たす機能と役割について理解する科目群を設置する。 3. 特に学校教育領域の専門職養成をねらいとして、人を育て・教え・導くことに対する情熱と目的意識を醸成し、児童生徒の特性とその生活を理解するとともに、教科に関する学問的知識と指導法についての学びを通して、教育が果たす機能と学校教員の役割について理解する科目群を設置する。 4. 社会福祉及び学校教育領域それぞれの養成において、多様なクライアントや児童生徒とその生活を臨床的に理解し、ソーシャルワーカーや学校教員としての実践的な力を身につけるために、入学年次から卒業年次に渡る段階的な積上げ方式による実習科目を設置する。 5. 3年次・4年次の全学生を対象に、多様なクライアントや児童生徒の生活を支援する際、広く社会を捉えるとともにエビデンスに基づく実践を展開するための研究的な力を身につけるために、様々な研究法について学び、自ら研究を実践するための科目群を設置する。(続く)



<p>(福祉臨床学科 続き) カリキュラム ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>(続き) 各科目群においては、それぞれの科目の特質に応じて、講義形式や演習形式、また学外で行う実習形式で展開し、これらの科目においては随時、学生による主体的な学修活動を行わせる。また、実習指導や専門演習などでは、概ね学生20名以下を1クラスとした少人数教育を展開する。これらの科目にはおいては、シラバスに明記された成績評価基準に基づき厳正な単位認定評価を行う。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以前 入学生)</p>	<p>福祉臨床学科では、対人援助専門職としての基本的な価値・知識・技術を教授するとともに、多様な実践環境に対応したソーシャルワーク実践能力、実践の中で研鑽・研究する能力を養成し、真に実践力のあるジェネラリスト・ソーシャルワーカーの育成を目的としています。 本学科では、社会福祉士や精神保健福祉士という国家資格取得を目指し、人の誕生から死までの一生のあらゆる段階で起こり得る様々な生活上の障害・問題に関し、地域や施設・機関で相談を受け、援助する専門家であるソーシャルワーカーを育成します。 将来、社会福祉援助を専門的に行う福祉施設（児童・障害者・高齢者のための施設など）、地域・在宅福祉機関（地域包括支援センター、社会福祉協議会など）、相談機関（福祉事務所、児童相談所など）、保健・医療・教育機関（病院・診療所、学校など）での福祉関係の仕事や、ソーシャルワークに精通した学校教員（中学・高校・特別支援学校）として従事することを希望する人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2019年度以降 入学生)</p>	<p>福祉臨床学科では、人権感覚に溢れた理論的・実践的・研究的な社会福祉と教育の専門職養成を目的としており、将来、社会福祉援助を専門的に行っている福祉施設（児童・障害者・高齢者のための施設など）、地域・在宅福祉機関（地域包括支援センター、社会福祉協議会など）、相談機関（福祉事務所、児童相談所など）、保健・医療・教育機関（病院・診療所、学校など）などで活躍できるソーシャルワーカーや、ソーシャルワークに精通した学校教員（中学校や特別支援学校の教諭）として従事することを希望する者を求めている。そのため、子供から高齢者までの多様な人々と接し、人を支援することに強い関心を持つとともに、人権や社会正義に反するような社会的諸状況の解決に向けて努力することができる者を求めている。本学科に入学を希望する者は、他者や社会に関心を持つことによって自ら問いを発し、それを踏まえて自律的に学習することができるスキルが必要である。また、入学者選抜においては、多様な背景を持つ学生の受け入れを行うとともに、本学入学後の修学支援を整備することによって、本学卒業後には多様な人々の支援を行うことができる実践的な人材の養成を行っている。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>心理学という学問を通して、科学的なものの考え方を教授するとともに、人間の心や行動を理解し追究する能力を養成し、急激な変化の只中で心理的な問題を抱える人が増加する現代社会の要請に対応できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>カリキュラム・ポリシーの項目が十分に習得されていること。すなわち、具体的には、以下の項目が習得されていること。 1. 科学的人間理解の能力、積極的に他者と関わることの出来る感受性、豊かな人間性を身につける。 2. 心理専門科目および心理学実験実習を習得する。 3. 2に必要な意欲、心理学的センス、自ら考える態度を身につける。</p>
<p>ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>福祉心理学科は、科学的な心理学に関する専門的知識と技能を基礎から応用まで幅広く身につけると同時に、心理学的マインドを養い、医療、教育、福祉、産業組織など様々な領域において、地域社会に貢献する実践力と人間性を備えた人材の育成を行う。そして、この目的にそって編成された授業科目について所定の単位数を修得し、以下の能力を持つと認められる学生に対して学位 [学士 (福祉心理学)] を授与する。また、「高等学校教諭1種免許状(公民)」「特別支援学校教諭1種免許状」の免許取得、および「公認心理師(国家資格)」「認定心理士」の資格取得を奨励する。</p> <p>1. 心理学および隣接諸科学の理論や概念について幅広く関心を持ち、自己、他者、社会関係などに関する総合的な知識を習得することができる。 科学的な心理学の知識を、医療、教育、福祉などの領域に応用し、実践的に活用することができる。 2. 心理社会的な人間のこころの仕組みやそこに発生する諸問題に関して、心理学の見地から理論的考察を行い、それを適切に表現することができる。 こころの仕組みや病理にかかわる問題を発見し、解決するために、心理学的な知見に基づいて適切な判断をすることができる。 3. こころの諸問題を検証するために適切な研究計画を設定し、入手したデータを統計的に分析することができる。 日常生活において他者と円滑なコミュニケーションをはかたり、対人援助場面において相談者の心理査定や心理療法を行うために、社会的及び臨床的なスキルを役立てることができる。 4. 心理学および隣接諸科学の専門知識や研究法について、能動的学修や他者との協働的学習によって学ぶ意欲を持っている。卒業後もキャリアを通じて自己研鑽を続け、自らの持つ心理学の知識を応用して、心理社会的な問題に関して解決策を検討することができる。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)</p>	<p>1. 科学的な人間理解の能力、積極的に他者と関わることの出来る感受性、豊かな人間性を育む。 2. 専門科目についてはもちろん、統計的な知識を使用して実験や実習についても全国的にも高度なレベルにある密度の濃い教育を展開する。 3. 単なる知識の詰め込みではなく、心理学的なセンスで物事をとらえ、自分の頭で考えることの出来る人材育成を行う。</p>
<p>カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)</p>	<p>福祉心理学科は、心理学の様々な領域についての基礎知識の習得、心理学実験や演習を通じた体験的な心理学の学びを通して、科学的な人間理解の能力、積極的に他者と関わることのできる感受性、豊かな人間性を育むことにより、医療、福祉、教育など様々な領域において心理臨床家として対人援助を実践することのできる人材、特別支援学校や高等学校において心理学的なスキルとマインドを備えた教師として教育を実践することのできる人材、企業組織においては科学的な調査にもとづく分析能力と高いコミュニケーション能力を備えた人材を養成する。 このような目的を達成するために、福祉心理学科では、科学的な基礎心理学を主体に学ぶ「心理科学コース」と、対人援助実践のための心理学的知識や技能を学ぶ「心理臨床コース」を設け、いずれのコースにも、心理学の体系的・包括的な知識を教授し、こころの諸問題や心理学的現象が発生する要因の分析および解決策を導き出すための、実験、実習、演習、講義科目を配置している。実験・実習科目では、実際に体験して能動的に問題を解決する学習によって科学的心理学の基礎や実践力を徹底して身につけ、演習科目では、少人数による対話を介した学習や能動的学修によって深化した心理学の専門知識やコミュニケーション能力を培う。学習の到達度は、期末試験やレポートの他には授業に参加する積極的な姿勢などをもとに評価される。 カリキュラムは段階的に編成されており、1年次は心理学の基礎の学び、2年次は科学的方法論と専門知識の学び、3年次は幅広く専門知識を深化させる学び、4年次はこころの諸問題や諸現象を科学的に分析して論理的に考察する総まとめの学びによって、高い学士力を養成する。</p>
<p>アドミッション・ポリシー</p>	<p>福祉心理学科では、本学科の教育目標を理解し学ぼうとする強い意欲があることを前提として、臨床心理学やカウンセリングなど心の問題の実践的分野に関心のある人、幅広く心理学という学問を学びたい人、人との関わり方に関心のある人、心理学の視点を生活や社会のために生かしたい人を求めている。 本学科で心理学を学ぶために、入学前に身につけておくことが求められるのは、論理的な思考力と文章構成力、主題の理解力と表現力、コミュニケーション能力および広い分野の基礎学力などである。入学者の受入れにあたっては、多様な入学者選抜方法で、多元的な評価尺度を用いて、本学科の教育目標に沿った学習に必要な基礎的な能力と資質を重視して評価・判定する。</p>

短期大学のポリシー



(表 I-①-⑯)

ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教による人格教育を通じ、広い教養と、専門の知識・技術を深く修得し、社会において、知的、応用的能力を発揮することができるようになること。 2. 愛と奉仕に生きる自由な人間という、人間の基本的なあり方と姿勢を問い続け、自らの生き方を探求し、実践していくことができるようになること。 3. 知性と豊かな人間性を備え、社会の諸情勢や問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わる姿勢や心を持ち続けることができるようになること。
アドミッション ・ポリシー	<p>本学は、プロテスタントキリスト教の信仰と伝統に立って、札幌の地に歩みを続けてきた学校法人北星学園が設置する短期大学部です。</p> <p>北星学園の教育の源は、1887年、米国の女性宣教師サラ・C・スミスが「スミス女学校」を開設し、北海道の女子教育に着手したことに遡ります。1951年、英文科の第1期生を迎えて北星学園女子短期大学を開設しました。「地域の生活や社会の改善の礎となる人材を育成したい」この想いを胸に、北星学園女子短期大学は向学の志ある女子に学びの場を提供し続け、2002年には大学キャンパスへ移転し、男女共学となりました。</p> <p>北星学園大学短期大学部の建学の精神は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的としています。高き教養と人格の確立をめざした本学の教育は、多くの有為な人材を世に送り出し、社会の高い評価を得て今日に至っています。</p> <p>北星を支えるキリスト教精神は、自己を何によって育てるか、自己の一番深いところまで問い続け、考えることにあります。人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にします。知性と豊かな人間性を備えていることはもちろん、地域社会の諸情勢やその問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わりながら人々とともに生きる姿勢や心を持つような人を求めています。</p>

英文学科のポリシー



(表 I-1-⑰)

教育研究上の目的	生きた英語とそれを支える文化、さらに英米文化のみならず広範な分野にわたる専門教育を実践的に教授するとともに、総合的な英語運用能力と豊かな国際感覚を養成し、広い視野と判断力及び適切なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践に重点を置いた「生きた英語」を身につけ、豊かな国際感覚を有している。 2. 世界に通じるコミュニケーション手段としての英語の基本的な能力である、「聴く・話す・読む・書く」を磨き、さらに「知る・使う」能力を身につけている。 3. 英語を通じ、様々な国の人々と心をひらいて交流し、国際的視野と判断力を養い、社会に奉仕・貢献することができる。 4. 社会人としての教養と実践的知識を身につけている。
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以前 入学制)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員が「英語と日本語で高い教養知識」を吸収し、「英語による自己表現力」を高めるよう科目を展開する。 2. 1年次に基本的な英語運用能力、「聴く・話す・読む・書く」能力を最大限に伸ばす科目を設置する。 3. 2年次にはSociology (社会学)、History (歴史)、Anthropology (人類学)、Geography (地理)、Life Science (ライフサイエンス) 等の「英語による講義科目」を展開する。 4. 「世界共通語」としての英語の様々な種類に触れながらコミュニケーション能力を高めることができるように、インターナショナル・チューター・プログラムを導入し、「人間と人間の触れあい」を大切にした学習環境を提供する。 5. それぞれの学生のニーズに合った学習を進めるよう、「スタディ・スキル」の科目を設置し、アカデミック・アドバイザーによる定期的な個別指導を実践する。
カリキュラム ・ポリシー (2019年以降 入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員が「英語と日本語で高い教養知識」を吸収し、「英語による自己表現力」を高めるよう科目を展開する。 2. 1年次に基本的な英語運用能力、「聴く・話す・読む・書く」能力を最大限に伸ばす科目を設置する。 3. 2年次にはAnthropology (人類学)、Geography (地理)、Life Science (ライフサイエンス)、Ainu and Maori Studies (アイヌとマオリ研究)、Intercultural Communication (異文化コミュニケーション)、International Business (国際ビジネス)、Introduction to Sports Theory (スポーツ概論) 等の「英語による講義科目」を展開する。 4. 「世界共通語」としての英語の様々な種類に触れながらコミュニケーション能力を高めることができるように、インターナショナル・チューター・プログラムを導入し、「人間と人間の触れあい」を大切にした学習環境を提供する。 5. それぞれの学生のニーズに合った学習を進めるよう、「スタディ・スキル」の科目を設置し、アカデミック・アドバイザーによる定期的な個別指導を実践する。

アドミッション ・ポリシー	<p>英文学科では、生きた英語とそれを支える文化、さらに英米文化のみならず広範な分野にわたる専門教育を実践的に教授するとともに、総合的な英語運用能力と豊かな国際感覚を養成し、広い視野と判断力及び適切なコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目的としています。英語運用能力の「聴く」「話す」「読む」「書く」という基礎力を最大限に伸ばし、さらに、「知る」「使う」といった応用能力を身につけることを目指します。英米人の英語だけでなく、英語を国際語ととらえ、インターナショナル・チューターに接する機会を持ち、自分の意見を伝える力を備え、さまざまな英語や文化を理解し、寛容な姿勢を学びます。また、英語を通して、幅広い分野の学問を探究する姿勢や、社会で英語を使って仕事をするための知識や英語運用能力を育成します。</p> <p>生きた英語そのものとそれを支える文化を学び、英語による自己表現力を高め、国際性を身につけたい人を求めています。</p>
------------------	--

生活創造学科のポリシー



(表 I-1-18)

教育研究上の目的	<p>人の生活を総合的、複合的、科学的にとらえるための知識・技術を教授し、生活に存在する問題を発見して適切に表現する能力、そして新しい生活方法を発想、実践する能力を養成し、主体的、能動的に生活の知的創造ができる人材の育成を目的とする。</p>
----------	---

ディプロマ ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の生活を総合的・複合的・科学的にとらえる知識・技術を有し、生活に内在する問題を発見して適切に表現する能力、そして新しい生活方法を発想、実践する能力を持ち、主体的・能動的に生活の知的創造ができる。 2. 時代のニーズを敏感に察知する感受性と、社会人として求められる知識、他者と協調できる豊かな人間性と表現力を獲得する。
----------------	---

カリキュラム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般教育科目、専門科目に多様な分野の科目を開設し、現代の生活に関わる基礎的な事柄や問題を知り、生活を総合的、複合的、科学的にとらえることができるようにする。 2. 学生が興味や関心を持っている分野の専門知識や技術の学習を軸として、生活の問題を掘り下げていくことができるように、履修モデルを提示する。 3. 時代のニーズに合わせた履修モデルとして、生活心理、生活文化、生活福祉、経済・経営、くらしと経済、情報システム、住居・インテリアデザイン、クリエイティブデザインの8つがある。学生は、履修モデルに共通する理解力、思考力、感受性、表現力をそれぞれの分野の学習を通して修得する。 4. 履修モデルの各分野の専門的知識や技術を修得すると共に、相互の関連する科目を自由に学ぶことが可能で、多角的なものを見方を養うことができるようにする。 5. 少人数制の講義や演習、実習を展開し、学生一人ひとりにきめ細かい支援を行う。 6. さまざまな問題を自ら解決する能力、そのプロセスにおいて他者と協調できる豊かな人間性と表現力を獲得することを目的とした科目を置く。 7. 社会人として求められる知識、自己のキャリア探求に必要な知識を教授する科目を置く。
--------	---

アドミッション ・ポリシー	<p>生活創造学科では、人の生活を総合的、複合的、科学的にとらえるための知識・技術を教授します。生活の中に潜在する問題を発見し適切に表現する能力、新しい生活方法をのびやかに発想し実践する能力を養成することを目的としています。</p> <p>「生活の知的創造」をキーワードに、実践的な総合科学を追究し、自ら考え、行動し、他者と協働できる人材を育成します。その方法としては、文化、芸術、心理学、社会学、福祉学、経済学、住居・建築学、デザイン、情報技術等を切り口に、生活を論理的、多角的に検証することを重んじ、また、演習・実習形式を活用した少人数教育によって、一人ひとりが主体的に学ぶことのできる環境を整えています。</p> <p>2年という限られた時間の中で、貪欲に学び、幅広い知識と技能を修得しようという志のある人、より豊かに生きていくために、個人と社会のあり方を真剣に考え、行動できる人を求めています。</p>
------------------	---

大学院のポリシー



(表 I-1-19)

アドミッション ・ポリシー	本大学院は、プロテスタントキリスト教の信仰と伝統に立って、札幌の地に歩みを続けてきた学校法人北星学園が設置する研究教育組織です。 北星学園の教育の源は、1887年、米国の女性宣教師サラ・C・スミスが「スミス女学校」を開設し、北海道の女子教育に着手したことに遡ります。1962年に4年制の北星学園大学を開設し、1992年、文学研究科社会福祉学専攻（修士課程）の第1期生を迎えて大学院を開設しました。本大学院の建学の精神は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的としています。高い教養と人格の確立をめざした本学の教育は、人間としての基本的なあり方と姿勢を問い続けることで、自らの生き方を探し、実践していくことを大切にします。知性と豊かな人間性を備えていることはもちろん、地域社会の諸情勢やその問題に深い関心を持ち、その発展と問題解決に関わりながら人々とともに生きる姿勢や心を持つような人を求めています。
------------------	--

文学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-20)

教育研究上の目的	英語教育その他の社会分野で必要とされる言語文化、英語教育及びコミュニケーションに関する高度な専門的学識と幅広い学際的知識を教授し、かかる分野における高度な専門的職業人の養成及び教育研究者の養成を目的とする。
ディプロマ ・ポリシー (2017年度以前 入学生)	1. 英語圏の言語文化、英語教育、コミュニケーションについて、社会状況の変化を踏まえた高度な専門性と広範な学際的見識を有している。 2. 異なった文化を理解するという言語習得の本来の目的を見据えた幅広い視野と国際的な視野を有している。 3. 言語使用の根本にあるコミュニケーションという人間の営為の基本にまで至る理解を有している。
ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)	1. 英語圏の言語文化、英語教育、コミュニケーションについて、社会状況の変化を踏まえた高度な専門性と広範な学際的見識を身につけ、活用することができる。 2. 異なった文化を理解するという言語習得の本来の目的を見据えた幅広い視野と国際的な視野を身につけ、活用することができる。 3. 言語使用の根本にあるコミュニケーションという人間の営為の基本にまで至る理解を身につけ、活用することができる。 以上の項目を満たし、言語文化コミュニケーション専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査又は特定課題研究の成果の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(言語文化コミュニケーション)]を授与する。
カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)	教育課程は、「言語文化研究」「英語教育・コミュニケーション研究」「人間関係論研究」の3分野で構成されています。 1. 言語文化研究分野では、英米の文化と文学に関する言語テキストをてがかりに、その背後に広がる英米文化の深層を理解するとともに、他の英語圏の文化と文学および、西洋文明の根底にあるキリスト教文化についての理解を深めることができます。 2. 英語教育・コミュニケーション研究分野では、言語および非言語メッセージの発信と受信をてがかりに、「言語学」「コミュニケーション学」「英語教育学」の3つの領域から、人々のおりなす相互作用の諸側面について多角的に理解することができます。 3. 人間関係論研究分野では、教育学や心理学といった関連する分野の授業をとおして、言語文化研究分野と英語教育・コミュニケーション研究分野での高度な専門的研究をより豊かで深みのあるものにするすることができます。
カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)	言語文化コミュニケーション専攻では、文学・文化研究分野、英語教育・コミュニケーション研究分野、人間関係論分野の専門性の高い授業を提供し、少人数での特殊演習科目、研究指導を通して修士論文指導を行う。また、成績評価についてはシラバスに記載された明確な基準に基づく。 1. 文学・文化研究分野では、英米の文化と文学に関する言語テキストをてがかりに、その背後に広がる英米文化の深層を理解するとともに、他の英語圏の文化と文学および、西洋文明の根底にあるキリスト教文化についての理解を深めることができる。 2. 英語教育・コミュニケーション研究分野では、言語および非言語メッセージの発信と受信をてがかりに、人々のおりなす相互作用の諸側面について多角的に理解することができる。 3. 人間関係論研究分野では、教育学や心理学といった関連する分野の授業をとおして、高度な専門的研究をより豊かで深みのあるものにするすることができる。 4. ライフプラン・キャリアプランに応じて、長期履修制度を利用できる。
アドミッション ・ポリシー (2017年度以前 入学生)	文学研究科では、コミュニケーションを単に言語学習や交渉術の修得にとどめることなく、対象とする文化の歴史的・社会的・経済的背景を考慮することができ、あわせて人間に対する深い関心と理解を兼ね備えた能力を持つ人材育成を教育目標としています。したがって、英米の文化と文学、英語と言語学、英語教育に関心がある人だけでなく、コミュニケーションの根本的な特性にまで考察を深めていこうとする人を求めています。

文学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-20)

<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>言語文化コミュニケーション専攻では、コミュニケーションを単に言語学習や交渉術の修得にとどめることなく、対象とする文化の歴史的・社会的・心理的背景を考慮することができ、あわせて人間に対する深い関心と理解を兼ね備えた能力を持つ人材育成を教育目標としている。 したがって、英米の文化と文学、英語と言語学、英語教育に関心がある人だけではなく、コミュニケーションの根本的な特性にまで考察を深めていこうとする人を求めている。 そのため、入学を希望する者は、英米の文化と文学、語学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>
---	---

経済学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-21)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>地域経済と地域行政の問題を的確に理解するとともに、アジア及び欧米等におけるグローバル経済の実態にも精通した高度な専門的職業人の養成を目的とする。</p>
-----------------	---

<p>ディプロマ ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を有している。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的・統計的手法を用いて分析できる専門的知識と実践的能力を有している。 3. 企業経営の領域においては、企業組織や戦略、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身に付け、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を有している。
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力とともに、高度な専門性を要する職業人に必要な実践的能力を身につけ、活用することができる。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的・統計的手法を用いて分析できる専門的知識と実践的能力を身につけ、活用することができる。 3. 企業経営の領域においては、経営組織、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身につけ、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を身につけ、活用することができる。 <p>以上の項目を満たし、経済学専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(経済学)]を授与する。</p>

<p>カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>教育課程は、理論経済・応用経済・政治経済などの経済学に関する領域、企業経営に関わる経営組織・戦略、マーケティング、会計などの経営学に関する領域があります。探究テーマに応じてメインとなる科目、関連する科目を選択し、次のように専門性を重層的に深めることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済現象あるいは企業経営の本質を様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を養成します。 2. 経済学の領域においては、経済現象を理論的・歴史的に解明する専門的な知識を身に付けるばかりではなく、統計的手法に基づく政策提言のできる実践的な能力を養成します。 3. 企業経営の領域においては、企業組織、マーケティング、あるいは会計や金融の専門的知識を身に付け、グローバル化に伴う経営問題を解決できる実践的な能力を養成します。
--	---

経済学研究科(修士課程)のポリシー



(表 I-1-①)

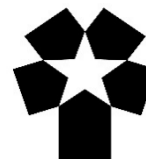
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>経済学専攻では、経済学に関する領域、企業経営学に関する領域の専門性を次のように重層的に深め、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計や情報等の定量的方法を用いる講義科目と、歴史や思想などの定性的方法を用いる講義科目を開設し、様々な角度から分析できる高度な研究能力と実践的能力を養成する。 2. 高度な研究能力と実践的能力を身につけ、意思決定を行い、学問的貢献に資することができるために、多くの講義科目は少人数による演習形式で行う。 3. 院生が公開で修士論文作成に係る報告会を行い、質疑応答する機会を設ける。 4. 先取り科目等履修制度及び早期修了制度を導入しており、より高度な研究能力と実践的能力を兼ね備えた者を輩出する。
<p>アドミッション ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>経済学研究科の教育・研究は、 (1) 高度な研究能力を備えた専門家や専門的職業人の育成、(2) 社会人の受け入れとリカレント教育の推進、(3) 国際性の重視と外国人留学生の受け入れ、(4) 情報処理能力の養成という4つの柱を持って遂行しています。 この4つの柱を遂行するために、経済学研究科では、経済学や経営学について基本的な知識を身に付けている者に対して、大学院教育をとおして専門的知識を深化・発展させ、現実の社会で応用できる能力の育成を目指します。 経済学研究科では、次のような方々を受け入れます。 経済や企業経営を研究・分析し評価できる能力を身に付けたいと考えている学部卒業生、ビジネスに関わる国家資格取得を目指している学部卒業生・社会人、経済理論や経営理論を利用して自らの組織をさらに拡充させたいと考えている地域経済の担い手や企業経営の一角を担っている社会人、最新の経済理論を身に付けることで教育内容を充実させたいと考えている中学・高校教員、日本経済の発展と課題を研究することで、自国経済に活かしたいと考えている外国人留学生。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>経済学専攻では、高度な研究能力を備えた専門家や専門的職業人の育成を目的とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済や企業経営を研究・分析し評価できる能力を身につけたいと考えている学部卒業生 ・ビジネスに関わる国家資格取得を目指している学部卒業生・社会人 ・経済理論や経営理論を利用して自らの組織をさらに拡充させたいと考えている地域経済の担い手や企業経営の一角を担っている社会人 ・最新の経済理論を身に付けることで教育内容を充実させたいと考えている中学・高校教員 ・日本経済の発展と課題を研究することで、自国経済に活かしたいと考えている外国人留学生を求めている。 <p>そのため、入学を希望する者は、経済学や経営学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。 また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>

社会福祉学専攻(修士課程)のポリシー



(表 I-1-②)

<p>教育研究上の目的</p>	<p>社会福祉学の専攻領域における高度な専門的学識を教授し、研究能力及び高度な専門職に必要な知識と実践能力を養うとともに、社会福祉及びその隣接領域における専門的職業人の養成並びに教育研究者の養成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って社会福祉学と臨床心理学の分野における高度な専門的学識を有している。 2. 研究能力とともに高度の専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を有している。
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広い視野に立って社会福祉学の分野における高度な専門的学識を身につけ、活用することができる。 2. 研究能力とともに、高度な専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を身につけ、活用することができる。 <p>以上の項目を満たし、社会福祉学専攻修士課程の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(社会福祉学)]を授与する。</p>



<p>カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>社会福祉サービスの体系は、コミュニティを基盤とする実践を中核にしながら、施設・機関を中心にしたミクロ実践および社会全体の福祉資源配分を対象にした福祉計画までを視野に入れた幅広いものです。社会福祉学専攻修士課程においては、これらの包括的な社会福祉実践および分野別の専門性を高める教育・訓練をするために、幅広い科目群を用意しています。加えて、社会福祉研究の第一線で活躍するために、また、社会福祉現場のリーダー、スーパーバイザーにとって必要な分析能力を高めるために必要な研究方法や関連領域の科目群を配置しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本科目、分野別研究、研究方法、関連領域、論文の5科目群を配置し、修士論文を修了要件としています。 2. それぞれの院生の関心領域の研究を追究できるように、子ども家庭福祉研究、障害児・者福祉研究、発達障害研究、精神保健ソーシャルワーク研究、高齢者・高齢社会福祉研究、医療福祉実践研究、地域福祉研究、公的扶助研究の分野別の授業科目を配置し、選択的な履修を可能にしています。 3. 専門的な調査力や分析力を高められるように、質的調査研究、量的調査研究、国際比較福祉研究、ソーシャルワーク実践研究、海外福祉実践研究など幅広い視野から研究方法を身につけられるように配慮しています。 4. 社会福祉研究を狭い福祉サービスの提供に限定せず、広く実地的な視野を持って学びを深められるように、社会保障財政研究、社会保障法研究、特別支援教育研究、社会的弱者研究、偏見・差別問題研究、コミュニティケア政策研究、精神障害学研究の関連領域の科目を配置しています。 5. 1年次後期から論文指導をはじめ、質の高い修士論文の作成にじっくりと取り組めるようにしています。
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>社会福祉学専攻修士課程では、コミュニティを基盤とする実践を中核にしながら、施設・機関を中心にしたミクロ実践および社会全体の福祉資源配分を対象にした福祉計画までを視野に入れた包括的な社会福祉実践および分野別の専門性を高める教育・訓練をするために、幅広い科目を配置している。</p> <p>加えて、社会福祉研究の第一線で活躍するために、また、社会福祉現場のリーダー、スーパーバイザーにとって必要な分析能力を高めるために必要な研究方法や関連領域の科目を配置し、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それぞれの院生の関心領域の研究を追究できるように、分野別の講義科目を配置し、選択的な履修を可能にしている。 2. 高度な調査力や分析力を修得することができるように、様々な視野からの研究方法を身につけることができるように配慮している。 3. 社会福祉研究を狭い福祉サービスの提供に限定せず、幅広く実地的な視野を持って学びを深められるように、関連領域の講義科目を配置している。 4. 院生個々のライフプラン・キャリアプランに対応できるよう、長期履修制度を導入する。
<p>アドミッション ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められています。</p> <p>一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められています。社会福祉学研究科では、社会福祉学と臨床心理学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身に付けた専門家を目指す人を求めています。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められている。一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められている。</p> <p>社会福祉学専攻では、社会福祉学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身につけた専門家を目指す人を求めている。</p> <p>そのため、入学を希望する者は、社会福祉学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



<p>教育研究上の目的</p>	<p>臨床心理学の専攻領域における高度な専門的学識を教授し、研究能力及び高度な専門職に必要な知識と実践能力を養うとともに、臨床心理士の養成及び臨床心理学における教育研究者の養成を目的とする。</p>
<p>ディプロマ ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>1. 広い視野に立って臨床心理学の分野における高度な専門的学識を身につけ、心の問題について研究することができる。 2. 高度な専門性を要する職業人に必要な知識と実践能力を身につけ、活用することができる。 以上の項目を満たし、臨床心理学専攻の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき35単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位[修士(心理学)]を授与する。</p>
<p>カリキュラム ・ポリシー (2017年度以前 入学生)</p>	<p>臨床心理学専攻は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士養成指定大学院の認定を受けており、臨床心理の専門家を養成することを主要な目的としています。そのために2年間にわたる実習が、カリキュラムの重要な柱になっています。加えて、研究法をはじめとする幅広い科目とともに、指導教員による演習を中心とした実践的な指導を受けることができます。</p> <p>1. 臨床心理士養成大学院として、演習科目群、実習科目群及び臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ、臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱで、高度に専門的な臨床心理学的な援助技術を習得できる科目を必修としています。</p> <p>2. 臨床心理士関係選択科目として、特殊研究A・B科目群、研究法科目群を配置し、臨床心理学または隣接領域に関連する分野について研究することができます。</p> <p>3. 研究科目群と特殊演習科目群では、自身の研究課題に合わせた教授から論文執筆に向けた指導を受けることができます。</p> <p>4. 実習科目では、クライアントに具体的にどのように心理検査や面接を実施し、適切な援助法を見出すかを、実習体験を通して学ぶことができます。</p>
<p>カリキュラム ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>臨床心理学専攻では、高度な心の専門家の養成を主要な目的としている。そのために2年間にわたる実習が、カリキュラムの重要な柱になっている。</p> <p>加えて、研究法をはじめとする幅広い科目を配置し、1年次から論文指導を受け修士論文作成に取り組む。また、シラバスに記載された明確な評価基準に基づいて厳格な成績評価を行う。なお、大学院生個々のライフプラン・キャリアプランに対応できるよう、長期履修制度を導入している。</p> <p>1. 高度な心の専門家として臨床心理学的な援助技術を修得し、適切に実践できる能力を身につける。 2. 臨床心理学または隣接領域に関連する分野について研究する。 3. 実習科目では、クライアントに具体的にどのように心理検査や面接を実施し、適切な援助法を見出すかを、実習体験を通して学ぶ。</p>
<p>アドミッション ・ポリシー (2018年度以降 入学生)</p>	<p>わが国では急速な少子高齢化が進行しており、社会保障、社会福祉制度などの諸課題に対して、理念・制度レベルに加え、実践レベルでの解決が求められている。一方で、社会システムの変化や価値観の多様化などが人間関係に変化をもたらし、様々な場面での心理社会的課題の解決が求められている。</p> <p>臨床心理学専攻では、臨床心理学について高度な専門的知識を備え、研究・分析能力を身につけた専門家を指す人を求めている。</p> <p>そのため、入学を希望する者は、臨床心理学に関する基礎的知識(学部卒業程度)が必要である。また、高等教育機関において修得した知識、現場での実践等を多面的、総合的に評価する入学者選抜を行う。</p>



教育研究上の目的	福祉、保健及び医療の分野の専門職を志望し、またはその職にある修士課程修了者を引き続き教育し、かかる分野における高度な専門的職業人の養成及び教育研究者の養成を目的とする。
ディプロマ・ポリシー (2017年度以前入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学に関する高度な知見を有するのみならず、臨床心理学等の隣接領域の学際的な知見を持ち、研究課題を多面的かつ学際的に研究できる能力を有する。 2. 福祉・保健・医療などの分野で職業人として、また教育や学会などを通じて、研究成果を広く社会に還元できる能力を有する。
ディプロマ・ポリシー (2018年度以降入学生)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学に関する高度な知見を有するのみならず、臨床心理学等の隣接領域の学際的な知見を持ち、研究課題を多面的かつ学際的に研究できる能力を身につけることができる。 2. 福祉・保健・医療などの分野で職業人として、また教育や学会などを通じて、研究成果を広く社会に還元できる能力を身につけることができる。 <p>以上の項目を満たし、社会福祉学専攻博士〔後期〕課程の教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき12単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格して修了要件を満たしたものに対して修了を認定し学位〔博士（社会福祉学）〕を授与する。</p>
カリキュラム・ポリシー (2017年度以前入学生)	<p>研究テーマに応じて博士論文作成に至るまできめ細かい指導を受けることができます。指導教授は研究する上で必要な論文・資料・文献の読解・レビューおよび論理的な考察能力を高めることができるように、学会や研究会等における発表指導を通じてプレゼンテーション能力開発の支援をおこないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特殊研究科目では、社会福祉諸領域に関する国内外の資料・文献についての研究指導を行い、特に海外の論文・資料・文献の解読、講読指導を重視し、海外文献の読解力を身につける。 2. 演習科目では、学会や研究会などにおける発表指導を通じてプレゼンテーション能力を身につける。
カリキュラム・ポリシー (2018年度以降入学生)	<p>社会福祉学専攻博士〔後期〕課程では、社会福祉学に関する高度な知見、および臨床心理学等の隣接領域の学際的な知見を包摂した専門分野の授業科目を配置し、個々の研究テーマに応じて博士論文作成に至るまできめ細かい指導を行う。</p> <p>指導教授は研究する上で必要な論文・資料・文献の読解・レビューおよび論理的な考察能力を高めるとともに、自律的研究能力を向上させることができるように、大学院生の主体的学びを保障しつつ、学会や研究会等における発表指導を通じてプレゼンテーション能力開発の支援を行う。</p>
アドミッション・ポリシー (2017年度以前入学生)	<p>社会福祉学研究科博士〔後期〕課程は、福祉・保健・医療分野における専門職スタッフを対象とする高度な専門的職業人の育成、大学・短期大学等における社会福祉士養成に関わる教育・研究者の養成を目的としています。</p> <p>社会福祉学研究科博士〔後期〕課程では、国内外の最先端の研究動向・研究課題について、文献研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力の向上を目標とする人材を求めています。</p>
アドミッション・ポリシー (2018年度以降入学生)	<p>社会福祉学研究科博士〔後期〕課程では、福祉・保健・医療分野における専門職スタッフを対象とする高度な専門的職業人の育成、大学・短期大学等における社会福祉士養成に関わる教育・研究者の養成を目的としている。</p> <p>社会福祉学研究科博士〔後期〕課程では、国内外の最先端の研究動向・研究課題について、文献研究能力、プレゼンテーション能力、論文作成能力の向上を目標とする人材を求めている。</p> <p>そのため、入学を希望する者は、社会福祉学に関する専門的知識（修士課程修了程度）が必要である。また、入学者選抜試験については、海外文献読解能力を測る英語筆記試験とともに、専門知識についての口述試験を行う。</p>



はじめに

昨年度、学園創立 130 周年を迎え、今まで以上に大学が学園の長い歴史や総合学園であることのスケールメリットを活かし、牽引して行かなければならないと感じています。

いよいよ「2018 年問題」と叫ばれ続けてきた年を迎え、私立大学の淘汰が進むことは間違いないと言われています。少子化の影響はすでに現れ始めており、生き残り策として北海道内でも公立化を決めた私立大学が現れました。また、2020 年からは政府の「人づくり革命」「生産性革命」の政策の一環として国立大学では住民税非課税の低所得世帯に限って入学金と授業料を免除し、私立大学においては一定額を上乗せ助成することが閣議決定されました。このように高等教育を取巻く環境が大きく変化し続ける中、生き残りをかけて中長期的な視点で戦略的な運営をしていかなければなりません。

さて、私立大学の置かれている状況は、定員割れとなった私立大学の割合（大学：581 校中 229校 39.4%、短大：304 校中 204 校 67.1%）が減少傾向に転じ、北海道内私立大学・短期大学の入学定員充足率も、大学が 1.67 ポイント増の 98.65%、短期大学が 0.14 ポイント増の 87.40%となったものの、近年の私立大学の情勢を鑑みると大学、短期大学共に厳しい状況は変わっていません。今後の北海道の18歳人口の減少幅は全国平均よりも大きく、本学の受験者及び入学者確保についても、学部学科再編を見据えた厳格な入学定員管理を行わねばならないこともあり、厳しい状況が続くことが予想されます。【出典：平成 29 年度私立大学・短期大学等入学志願動向／日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センター】

また、昨年度も私立大学等改革総合支援事業の補助金獲得に向けて改革・対応を積極的に進め、大学は昨年度に引続きタイプ 1「教育の質的転換」とタイプ 4「グローバル化」への選定に加え、タイプ 2「地域発展」にも 4 年ぶりに選定されました。短期大学部も昨年度に引続きタイプ 4「グローバル化」に選定され、本学の特色の一つとも言える「国際教育」が高く評価されたものと認識しています。

地域連携についても、札幌市との新たな協定事業「学生への市営住宅提供事業」も今年度から開始されます。今後も地域・社会・世界に開かれた大学として歩みを進め、今年度も私立大学等改革総合支援事業への選定を目指します。

1. 「建学の精神」の継承と実践について

本学の「建学の精神の基本理念」と「ミッション・ステートメント」を具現化した「世にあって星のように輝く」という公式的なフレーズを、学外により広く伝えるための方策を継続して検討します。

また、チャプレンの任期制の取扱い変更に伴って、今後継続的な建学の精神の継承と実践に向けた取組みが行われることが期待されます。

2. 教育課程、教育組織及び教育活動について

教育課程については、2018 年度から 2019 年度に渡って各学部・学科・部門において新カリキュラムへの改編が行われます。コース制の導入を含めた教育改革により、学生の満足度が向上しているかの点検・評価等を随時行い、一層の充実を図るとともに検討を進めていきます。

学部学科再編に向け、学長特別補佐を中心に検討を進め、厳格な入学定員管理について申合せたところですが、実現に向け、迅速な具体的進展に努めます。

教育活動については、副学長の下に発足した「教育の質保証」プロジェクトチーム等の活動に依拠しながら、「北星スタンダード」の具現化や大学間連携共同教育推進事業の新しい展開に向けて、これまで構築してきた全 1 年次生対象の「主体的学び」プログラムとラーニング・コモンズでの学習支援との連携を更に発展させて行きます。

引き続き、学内に広がっている学生の学習活動並びに大学運営の一翼を担う学生活動の更なる進展のための支援も積極的に行っていきます。

3. 研究組織及び研究活動について

研究活動の活性化及び研究水準の向上を図るために、組織、制度等に係る諸課題に取り組むとともに、研究環境の整備を継続的に進めます。

また、科学研究費申請補助要員制度等により、更なる外部資金獲得を目指すとともに、科学研究費申請件数を増やす方策を検討します。なお今年度は、私立大学研究ブランディング事業への申請を視野に入れており、これを機に研究活動を活性化させ、本学を象徴する研究の展開を目指します。

4. 教員評価、FD（ファカルティ・デベロップメント）及びSD（スタッフ・デベロップメント）について

教員評価については、管理運営・社会貢献など総合的に評価を行う教員評価システムの構築に向けて、引き続き取組みを進めます。

FDについては、前述の私立大学等改革総合支援事業タイプ 1において「教育を行う全専任教員が参加していること」が求められています。授業を受け持つ教員全員の全学FDへの出席を基本とし、教員の資質向上と能力開発に努めます。

また、「モデルティーチング顕彰制度」を通して、教育水準の維持・向上に向けて教育内容・方法及び教育上の効果を定期的に検証し、授業の内容及び方法の改善を図るよう効果が現れることも期待されます。

SDについては、昨年度 4 月に「北星学園スタッフ・デベロップメントに関する規程」が制定されました。本年度も大学SD研修会を実施する等、積極的に学園職員に対する組織的研修の推進に取り組めます。

5. 大学運営のあり方及び組織・機構について

大学運営体制については学部学科再編の検討と併せて、教員等の雇用形態を含めた教員定数、教員持ちコマ基準及び非常勤講師数等を中心に見直しを実施し、新学長の下で今後生き残っていくための運営体制へ改革して行きます。

また、各種委員会組織が肥大化しており、特に教員の負担増が懸念されます。一昨年度に少しく委員構成のスリム化を実施しましたが、委員会の統合や権限委譲などを視野に入れながら、引き続き各種委員会組織のスリム化について検討します。

事務組織については、課の垣根を越えた協力体制を継続し、引き続き適正な職員配置数の検討を含め、組織改編の効果の分析・検証を行って行きます。

6. 教育環境及び施設設備、財政について

教育環境及び施設設備については、年間で延べ 13,000 人もの学生が利用する就職支援課のレイアウト変更を計画しており、本学の強みの一つであるキャリア支援を学内外に向けよりアピールする契機となるとともに、更にキャリア支援が充実することを期待します。

財政については収入増が困難な状況の中、奨学金の増加や年度計画に基づく校舎等施設の大規模修繕が見込まれることから、中長期財政計画の策定を進めます。昨年度恒常的な寄付金募集のため「北星学園大学サポーターズ寄付金」を開始し、カード決済による寄付も可能としました。より多くの方々へ周知するための方策を検討し寄付の推進を図ります。また、学費の見直しやオーバーペイと入試手当の取扱いの検討など、収支構造の見直しを行うとともに、更なる補助金を獲得するなど、積極的な収入増の方策についても検討を進めます。

7. 大学広報について

今年度からメインビジュアルが新しいものとなり、新たな広告を展開していきます。効果の高かった札幌駅のピラービジョンへの広告掲出に加え、地下歩行空間「チ・カ・ホ」へも広告掲出し、あらゆる層への宣伝効果を狙っていきます。

また、日経BPコンサルティングによる「全国大学サイトユーザビリティ調査 2017-2018」では、総合スコアを大きく上げた10 サイトに選ばれ、私立大学サイトの総合スコア 15 位に選ばれました。「大学ブランド・イメージ調査 2017-2018」においても「センスがいい、カッコいい」、「語学に長けている」の2項目で北海道地区1位を獲得しています。今年度も本学の良さが一つでも多く伝わるような広報戦略を推進します。

昨年度、在学生向けWEBサイト「CAMPUS GUIDE WEB」をリニューアルし、学生の利便性向上を図りました。大学ホームページと共に随時見直しを行い、更なる充実を図ります。今年度も引続き、学生広報委員「キタボシ」と共にドローンや Instagram 等を利用し、新しい広報展開を進めていきます。併せて、入学者アンケートや学生生活実態調査の結果を有効に利用し、戦略的広報展開を目指します。

8. 学生募集について

進学相談会やキャンパス説明会、高校での模擬講義や進路指導部への訪問の重要性は年々高まっていることから、現状の募集活動を継続するとともに、例えばキャンパス説明会や学校訪問において、本学学生の積極的な活用を検討するなど、募集活動の更なる充実を図ります。また、募集活動が厳しさを増す中、学園内高校対象のミニオープンキャンパス等において総合学園としての魅力を積極的にアピールし、学園内高校からの進学者確保に努めます。

少子化に伴う志願者数の減少が進む中で学生を着実に確保するため、自宅外通学支援奨学金制度導入や入試制度変更の影響を検証し、更なる学生募集対策に努めます。

9. 就職支援について

本学のキャリアデザインセンターでは、1年次からキャリアデザインプログラムを導入し、学生及び保護者を対象とした全学的な体制でのキャリア教育・支援への取組みを継続しています。また、前述したとおり就職支援課のレイアウト変更によりプライバシーにも配慮された環境が整う予定であることから、障がい学生のキャリア形成支援についてもアクセシビリティ支援室と連携し、より良い支援活動を行っていきます。状況の変化や時代のニーズに対応しながら、キャリアデザインプログラムの充実を図るとともに、学生参画型キャリア支援などの様々なプログラムや講座、イベントの実施により、複数のキャリアカウンセラーと共に入学から卒業後まで手厚い就職支援を行っていきます。

10. 学生厚生及び課外活動について

今年度は、学生生活実態調査をWEBで試行実施する予定です。多様化する学生の個別的ニーズや学修行動の特徴を把握し、学生支援体制と教育支援体制の改善に繋がるようIR機能を十分に発揮し、調査分析を進めます。また、教職員を対象とした学生相談センター主催の事例研究会を今年度も引き続き実施し、総合相談窓口や学生相談室、アクセシビリティ支援室、医務室を中心に円滑な学内連携を目指し、全学的な学生支援体制の強化を図ります。昨年度から実施している教職員が気軽に集まり語り合える「教職員 Free Talk サロン」も継続して実施する予定です。

一昨年度より学生自治会活動が本格的に再開されました。自治会活動の一環である大学祭等の諸行事を含め、自主的な活動が軌道に乗るよう支援を継続していきます。今後も可能な限り課外活動を活発に行うことができる環境整備を進めていきます。

11. 教育の国際化及び国際交流について

国際教育中長期計画「北星国際交流 2020」に基づき、継続的にイングリッシュキャンプ等学外者向けイベントを実施し、「国際教育の北星」をPRします。海外への派遣学生数の増加を目標に、国際ラウンジで行う各種プログラムを通して、学生の海外への興味関心の促進、外国人留学生との交流を益々充実させるよう努めます。また、短期研修プログラムの単位認定制度やダブルディグリー制度導入の検討を含め、派遣留学制度の魅力向上に向けて進展を図ります。在学生のより一層の国際性涵養のため、外国人学生の編入学も視野に入れ、積極的に海外大学との交流拡大を図り、外国人学生の受入れ増を目指します。昨年度、新設された受入交換留学生に対する奨学金制度について、海外協定校に積極的に広報し、より質の高い受入交換留学生の獲得に努めるほか、短期交流プログラムの充実も検討します。

また、海外大学との教員交流についても、大連外国語大学教員の受入れだけでなく、その他の協定校からも教員を受入れ、本学の教育研究に携わってもらうことで全学的な国際教育の質向上を図ります。

なお、冒頭で示したように、私立大学等改革総合支援事業タイプ4「グローバル化」の補助金獲得を継続して目指します。

12. 高大連携、地域社会との連携及び社会貢献について

高大連携プログラムについては、本学の特色や学部学科の教育内容をより多くの高校生に知ってもらう機会として、今年度も例年どおり100を超えるテーマを用意し、引き続き積極的に取組みます。なお、大学入学者選抜改革の動向について、引き続き注視していきます。

また、地域における大学の役割が益々重要になっています。地域・社会に開かれた大学として、社会連携センターは、これまで教員が個別に取組んできた社会連携事業について組織立ってサポートし、社会との連携・協力を強めます。引き続き地方自治体等との連携事業について、より発展的な内容になるよう取組みます。

13. 大学のあり方と自己点検・評価について

予算積算時に各部署で「次年度への課題」を確認し、大学・短期大学部運営計画の内容と各部署の「次年度への課題」内容をリンクさせたことにより、一定程度PDCAサイクルの意識付けができたと考えられるので、教育・研究活動、管理運営、財務等の状況についての点検・評価を継続して行うとともに、その点検・評価結果を大学全体として共有し、「質の保証」と「質の向上」に繋がるよう、実質的なPDCAサイクル〔Plan (計画) → Do (実行) Check (評価) → Act (改善) サイクル〕の確立を目指します。また、今年度から外部評価委員会を設置し、学外者から意見を聴取することにより内部質保証の妥当性を客観的に担保し、意義のある自己点検・評価となるよう努めます。併せて本学の自己点検評価報告書を大学ウェブサイト上で公表し社会に対する説明責任を果たすことで、内部質保証システムの向上を図ります。

14. 理事会及び各学校との連携について

学園教育の中心を担う高等教育部門の大学としての役割及び責任は極めて重いことを十分認識し、「女子高 Core コースの高大連携プログラム」「附属高探究プログラム」を軌道に乗せるなど、学園内教育連携委員会等を中心として、これまで以上の中高等教育部門との連携の強化を図ります。また、理事会に対して、財政健全化を前提とした経営基盤の構築に向けた提言や取組みを率先して行なっていきます。

昨年度、学園創立130周年を迎え、北星学園の長い歴史とブランド力を大学としても、一定程度広く社会に示すことができました。今後も総合学園として更なる発展に努めます。



はじめに

2018年度は、7月に発生した台風、9月に発生した台風、胆振東部地震と度重なる自然災害に見舞われた1年でありました。幸いにも本学学生及び教職員等に大きな被害はなかったものの、本学の災害対策において反省すべき点があったのも事実です。予期せぬ災害時への対応を今一度見直さなければなりません。

学部学科再編については、2019年度入試の結果から明らかなように時間的限界があるので、「北星ブランドの確立」を目指す姿勢とし、スピード感を上げて取り組んでいきます。また、中長期計画として「再編と並行して取り組む事項」を提示しました。学部学科再編と同時進行で取り組み、「北星でなければならない」と、高校生・社会から必要とされる大学・短期大学部を目指しています。

「私立大学等改革総合支援事業」については枠組みが大きく変わっただけでなく、その得点で補助金額が増減する「教育の質に係る客観的指標」が新たに導入され、「教育に努力する大学の支援」というメリハリが強くなりました。

今年度「私立大学等改革総合支援事業」は、大学・短期大学部ともにこれまで2年連続で選定されてきたタイプ4「グローバル化」を含め一つも獲得することができませんでした。教育の質に係る客観的指標についても、減率は避けられたものの、増率を獲得することはできませんでしたので、次年度以降「教育の質に係る客観的指標」については増率の獲得を目指します。

さて、私学を取り巻く情勢は18歳人口の大幅な減少、いわゆる2018年問題と言われてきた時を過ぎ、さらに2040年には現在の7割程度の規模となる推計が出されています。

2018年11月に発表された「2040年の高等教育のグランドデザイン(答申)」(中教審第211号)では、その2040年の展望とこれからの高等教育改革の指針が多岐に渡って示され、学修者本位の教育への転換、教育の質保証の再構築、社会人及び留学生受入れの拡大、地域・産業界・高等教育機関の連携や統合など、高等教育に対する社会からの要請も強くなるばかりです。

については、次年度も引き続き学部学科再編実現に向けて迅速に具体的検討を進め、多様化する社会的ニーズに的確に対応できる魅力ある大学づくりを目指すことを確認し、2018年度の大学・短期大学部運営総括とします。

1. 「建学の精神」の継承と実践

スミス・ミッションセンターを中心に、建学の精神を具現化し、キリスト教の精神への理解が豊かに育まれるよう、毎日の礼拝、ボランティア派遣、スミス・ミッションウィーク、ワーキング・グループなどの諸活動に取り組みました。しかし、チャペルタイムへの学生参加率は向上せず、チャペルタイムのあり方や参加者の増加を図るための工夫が必要です。

また、学部学科再編が実現した場合、あらためて建学の精神の基本理念、ミッション・ステートメントに基づく本学の教育を効果的に世に発信する方法も考えていく必要があります。

2. 教育課程、教育組織及び教育活動

教育課程については、10学科全てのカリキュラムにおいてカリキュラムマップとナンバリングの整備をしました。また、教育課程の質保証プロジェクトの最終答申・提言を受けて、教学会議主催の全学FDを実施しましたが、本格的に本学の教育の質保証に向けた全学的な取り組みを開始できませんでした。次年度、喫緊に取り組む課題とします。

また、文部科学省による教職再課程認定について申請が終了し、対象となる全ての教職課程について認定を受けました。

学部学科再編は3つのワーキング・グループのもと、具体的な議論が進められ、6回の部局長・企画運営合同会議、2回の全学説明会を経て、全学公聴会を実施しました。一定程度の結論を出し、申請作業に取り掛かる予定でしたが、スタートできませんでしたので、次年度はさらに検討のスピードを上げ、課題となっている教員定数、非常勤助手の雇用形態、教員の授業担当持ちコマ基準及び非常勤講師数などの大学・短期大学部全体の組織見直しと共に実行に移します。

学習サポートセンターの教育活動は、今年度より専任の助教が着任し、新しい学習セミナーの実施など多様に展開されました。

また、助教配置の目的の一つである学習サポートセンター及びラーニング・コモンズの成果に関するアウトプットについて順調にデータ収集等を進めまとめているところです。今後も客観的評価も含めた成果発信に向け、取り組みを進めます。

3. 研究組織及び研究活動

科学研究費間接経費による共用備品等の購入、リソグラフ2台の更新、教員情報システムのカスタマイズ等を行い、研究環境の充実を図りました。研究費の不正使用、研究活動における不正行為防止ガイドラインに基づき、教職員に加えて大学院生を対象に学内説明会を行いました。また、学長の立場からさらなる科学研究費等の外部資金獲得の必要性と、研究倫理の遵守について教職員にアピールする機会も設けました。

今年度、教学会議と合同で「研究倫理教育の進め方」と題して全学SDの実施、研究倫理教育の取り組みが進んでいる立命館大学への職員派遣など、職員の研究倫理に関する学びを深めることができました。

また、次年度からは「研究倫理関係のリーフレット」を大学院生・学部学生にも配付し、本学の研究倫理教育の充実を図ります。

4. 教員評価、FD(ファカルティ・デベロップメント)及びSD(スタッフ・デベロップメント)

研究費等制度及び教員評価の見直しに関するワーキング・グループを設置し、研究費等制度と教員評価に分け、先ず研究費等制度について検討を進めました。第1段階答申が出され、次年度から科学研究費をはじめとする外部資金を積極的に獲得することを意識した研究費制度へ改定することを決めました。

FD・SDについては、教育職員、事務職員の垣根を越え大学運営に携わるスタッフ全員を対象に全学SDを実施しました。FDも引続き授業を受け持つ教員全員の参加を徹底しました。今年度は初めて北海道大学等との大学間職員短期派遣研修を利用し、玉川大学へ1名を派遣したほか、北海道大学から1名を受入れ、積極的に職員の資質向上に取り組みました。

5. 大学運営のあり方及び組織・機構

大学運営体制については、運営・財務点検委員会の機能を自己点検評価委員会が吸収し、自己点検評価・内部質保証委員会へ改編することとしました。また、インスティテューショナル・リサーチ(以下、IR)を担う委員会を設置し、全学的IRの推進を図ることを決めました。組織の改編や必要な委員会の設置には繋がりましたが、スリム化することはできなかったため、各委員会組織が担う役割の見直しを進めなければなりません。事務組織については、2016年度から改編した事務組織の検証報告を事務局から受けましたが、引続き適正な職員配置数の検討を含め、組織体制の課題等の点検をその都度行います。

また、より組織立った学生支援・相談体制を整備するため、専任教職員であるカウンセラーを専任事務職員として次年度から採用することを決めました。

6. 教育環境及び施設設備、財政

就職支援課の相談スペースのレイアウト変更が実施され、車椅子利用学生へ配慮されたカウンターやプライバシーに配慮するための間仕切り、個別相談ブースの設置などキャリア支援環境の充実が図られました。

また、教育研究環境の整備による教育研究の質向上を目指し、次年度はA・B館教室のAV機器及び教育研究用サーバーシステムの更新を実施することにしました。財政については、短期大学部で2019年度入学生からの学費値上げを決定しました。検討中である大学及び大学院の学費についても消費増税対応のためスムーズに実行に移したいと考えています。

中長期財政計画の策定を目標としてきましたが、策定には至りませんでした。財政だけではなく、大学・短期大学部全体、延いては学園の中長期目標と連動させ、収支構造の見直しに繋がるような方策を考えなければなりません。

7. 大学広報

今年度新たなメインビジュアルで広報を展開し、地下歩行空間「チ・カ・ホ」やJRタワー札幌ピラービジョンなどへの広告掲出を行いました。

日経BPコンサルティングによる「大学ブランド・イメージ調査 2018-2019」において、昨年度は北海道地区2位だった「ロゴ、カラー、キャラクターなどが思い浮かぶ」の項目で1位を獲得しました。

しかし、北海道内における本学の認知度は高いものの、年代が若くなればなるほど認知度が低いという結果が示されました。次年度は、新たに導入するインターネット広告の利点を活かし、若い世代の認知度向上を目指す必要があります。

キャンパスガイドウェブ（以下、CGW）の改変に伴い、情報実習室のPCでブラウザのホームページにCGWを設定したことで、アクセス数も昨年度と比較すると約5倍と飛躍的に増加し、学生が必要な情報を間違いなく得られるような環境が整いました。学生向け情報はCGW、学外向け情報は大学公式ウェブサイトに掲載するという役割の整理もでき、より利用しやすいサイト作りができました。

8. 学生募集

今年度も積極的に進学相談会や高校で実施される説明会、高校訪問など募集活動の強化・充実に努めました。進学相談会については参加する地区や主催業者の見直しも行いました。各種広告媒体を活用して積極的な情報発信を行った結果、大学の全試験の出願者数が昨年度より280名増加しましたが、短期大学部は64名減となり堅調な学科とそうではない学科の差がより顕著になりました。

この顕著な差は、志願者数のみならず入学生数においても現れており、学部学科再編等の策を早急に講じなければ大変厳しい状況です。全学で同じ方向を目指し、学部学科再編と並行して取組む事項への取組みも進める必要があります。この志願者数の推移には2020年度から新入試制度となる影響が少なからずあったと予測されます。本学でも入試改革プロジェクトにおいて2021年度入試に向けた改革の方向性が議論され、公募推薦・自己推薦入試に替わる総合型選抜入試の導入を決めました。

また、志願者を増やす施策の一つとしてWeb出願システムを導入することにしました。なお、詳細は後述しますが、本学への志願者増加に繋がるよう学園内高校との連携を図っていますが、今年度は学園内からの志願者が大幅に減少しました。学園内高校を3校持つ学園のメリットを活かせるよう検証と改善を継続します。

9. 就職支援

学生の就職活動を取り巻く環境の変化から、キャリアデザインプログラムや各種講座（公務員講座・福祉ガイダンス・航空業界特別講座など）について見直しを行ない、現状に合った内容に整理しました。近年の公務員志望増加に伴い、官公庁と連携を取りながら公務員のインターンシップ実施にも力を入れました。

障がい学生のキャリア及び就職支援については、積極的に障がい者採用について企業と情報交換を進め、2企業と障がい学生インターンシップを実施することができました。また、アクセシビリティ支援室・学生相談室・医務室との連携を強化し、低学年次からの早期対応を進め、障がい学生の自己理解促進のための学内インターンシップも実施しました。

前述した通り、就職支援課がリニューアルされました。新たに設けられたフレキシブルディスカッションエリアやデジタル・サイネージを活かしたキャリア支援、就職支援課の利用促進について検討していきます。

なお、2018年度の就職率は、2019年5月1日現在で大学は98.7%（前年98.0%）、短期大学部は97.3%（前年96.1%）という結果となりました。

10. 学生厚生及び課外活動

学生相談センターは、問題や困難を抱える学生のみならず、全ての学生が健全な大学生活を送れるよう援助する目的を達成すべく、昨年度から開始した「心のワークショップ」を今年度は全3回実施しました。告知の工夫により毎回定員を充足する応募者があり、多くの学生に参加してもらうことができました。

また、ワークショップへの参加が学生相談室利用のきっかけとなったケースもあったため、継続して実施し、学生相談室の役割等を広く周知していきます。アクセシビリティ支援室、学生相談室、医務室など他部署間、また教職員間の連携強化への取組みとして、「教職員のFree Talkサロン」、「事例検討会」も定期的に実施しました。

今年度も学生自治会運営委員会は、4月のオリエンテーション時から新入生に有益な情報を提供する「新入生歓迎会」を実施し、各サークル紹介など大学生活の有益な情報を発信しました。引き続き活動が広がるような指導・支援を継続します。

また近年、本学学生の通学マナーの苦情が寄せられることが多くありましたが、デジタル・サイネージ等を含めたマナー向上への働きかけに加え、巡回指導員配置によりほぼ苦情が無くなり、取組みの成果があらわれました。

11. 教育の国際化及び国際交流

冒頭で述べたとおり、2年連続で大学・短期大学部ともに選定されていた「私立大学等改革総合支援事業タイプ4」を今年度は獲得することができませんでした。しかしながら、これまでのグローバル化への取組みについて私立学校振興・共済事業団のインタビューを受け、「大学改革を成功に導く特色ある取組事例集」に掲載されました。

国際教育中期計画（「北星国際交流2020」）の下、派遣留学生増加を図る取組みとして、募集説明会開催の周知をあらゆる方面から行いました。また、学生の海外への興味関心を促進する国際ラウンジプログラムについては、アンバサダープログラム、インターナショナルカフェ、TOEFL勉強会、派遣留学報告会、外国語朗読会などのプログラムを定着化させることができました。

受入れ留学生については、奨学金給付の実施により本学へ留学しやすい環境となりましたが、目に見える増加には至っていません。日本語学習が目的ではなく、アニメや漫画など日本文化に興味を持っている留学生が増えていることから、よりニーズに合った教育的環境整備を検討しなければなりません。

キャンパスの国際化推進の取組みとして、新海外交流教員制度を各協定校に案内しましたが、実現に向けた話が進んでいないことから、制度の見直しを含め実施実現に向けて取組みを継続します。

今年度3回目の実施となったEnglish Campは、在学学生、留学生がリードし、高校生に英語漬けの環境を体感してもらうことができました。また、2017年度の参加者の内の4名が次年度指定校推薦で入学するという実績にも繋がりました。

12. 高大連携、地域社会との連携及び社会貢献

より多くの高校生に本学の特色や学部学科の教育内容を知ってもらうため、本年度も積極的に高校へ出向き出張講義を実施しました。次年度も引き続き内容等を精査し、一層の充実を図ります。

また、学園内高校との高大連携については、「女子高 Core コースの高大連携プログラム」を 2019年度から全学科で実施することとなり、今年度は試行となる模擬講義を実施しました。附属高の推薦合格者の入学前教育である「附属高探求プログラム」に協力し、大学を会場として全学科の教員が学科別に教育内容のレクチャーを実施した他、本学学生が附属高に出向いて学習支援を行う「学習アシスタント」を実施しました。

今年度、北海道後志総合振興局と本学短期大学部によるグローバル人材育成に係る連携・協力に関する協定を締結しました。「Shiribeshi 留学」への学生派遣の拡大や、地域での共同事業・研究などの連携、インターンシップやボランティア等の様々な取組みを展開し、グローバルな視点を持ち、地域で活躍する人材育成事業を目指します。

厚別区と実施している CCRC 事業「キャンパスタウン厚別」については、引続き企画・運営を行い 52 名が受講しました。今年度は新たに厚別区が開講している瑞徳大学の受講生 13 名を受入れました。また、昨年度札幌市と協定を締結した「札幌市営住宅（もみじ台団地）の大学・短期大学部生への提供事業」は、4 名の入居学生が積極的に地域活動に参加しました。次年度も新規で 1 名、継続 2 名の入居が決定していますので、引続き、在学生のみならず受験生及び保護者への広報活動や住居募集時期などを含めた事業展開についても札幌市と協議していきます。

オープンユニバーシティについて、アンケートからウェブサイトの使いづらさやスマートフォン非対応による不便さなどの課題が浮き彫りになりましたので、システムのリニューアルを決めました。伸び悩んでいる受講者の増加に繋がるようハード面だけでなくソフト面の原因分析も進めていきます。

教員・学生と地域等の関わりを学内で把握するための「地域連携に関するアンケート」を実施しました。今後、アンケート結果をもとに組織的な地域連携へ発展させる等、有用な仕組み作りに繋げていきます。

13. 大学のあり方と自己点検・評価

今年度も教育・研究活動、管理運営、財務等の状況についての点検・評価を継続して行い、運営・財務点検委員会において精査した結果を含め、点検・評価結果を大学全体として共有し、「質の保証」と「質の向上」につながるよう本学のあり方及び課題を再認識することができました。

また、第三期認証評価対応を見据え、「全学的な内部質保証の推進に責任を負う組織」として自己点検評価委員会を再整備し、次年度から自己点検評価・内部質保証委員会を設置することを決めました。これに伴い、必要に応じて学外者及び在学生による点検評価の検証が実施可能な体制が整いました。新たな体制の下、今後も継続して実質的な PDCA サイクルの確立を目指します。

14. 理事会及び各学校との連携

学園教育の中心を担う高等教育部門の大学としての役割と責任が極めて重いことを認識し、学園内教育連携委員会及び学園総合企画委員会を通じて中等教育部門との連携強化を図ってきたところです。学園内高校からの進学者なくしては大学・短大ともに予算定員確保は難しい状況にあり、学園内高校とのコミュニケーションをさらに密にしていかなければならないことは言を俵ちません。

現在、学園総合企画委員会において学園ランドデザインの策定をしています。学園と設置する学校それぞれが目指すべき使命と課題を明確にし、財政健全化を前提とした経営基盤の構築を含め、学園が一体感を持って歩み続けられるよう大学・短期大学部の役割を果たしていきます。

以上

I. 本学の在り方及び目標に関すること

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2018年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ①)

学部・研究科	学科・専攻科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
文学部	英文学科	1962	1962年1月20日	113人	1979年度 恒常の入学定員増 50人 ⇒ 100人 1991年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 120人 (終期1995年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 8人 1996年度 3年次編入学定員増 8人 ⇒ 20人 1996年度 期間付入学定員再設定 100人 ⇒ 120人 (終期1999年度) 2000年度 期間付入学定員延長 18人 ⇒ 16人 (14人⇒12人⇒10人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 4人 ⇒ 2人⇒0人 (臨定恒定化10人) 2002年度 恒常の入学定員増 100人 ⇒ 110人 2005年度 恒常の入学定員増 100人 ⇒ 113人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 14人 (2004. 6. 1. 届出)
	心理・応用 コミュニケーション学科	2002	2001年8月1日	90人	2004年度 3年次編入学定員 10人
	社会福祉学科	1962	1962年1月20日	一人	1979年度 恒常の入学定員増 50人 ⇒ 100人 1987年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 140人 (終期1995年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 1996年度 1年次入学生募集停止 1998年度 3年次編入学生募集停止 2002年度 廃止 (2002. 7. 30)
経済学部	経済学科	1965	1965年1月25日	152人	1982年度 恒常の入学定員増 150人 ⇒ 200人 1987年度 恒常の入学定員減 200人 ⇒ 150人 1990年度 期間付入学定員設定 150人 ⇒ 200人 (終期1998年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 1999年度 期間付入学定員再設定 150人 ⇒ 200人 (1999年度限り) 2000年度 期間付入学定員延長 46人 ⇒ 42人 (38人⇒34人⇒30人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 8人 ⇒ 4人⇒0人 (臨定38人の内、心理・応用 コミュニケーション学科へ臨定30人を恒定化して振替、残りの臨定8人を単純延長) 2005年度 恒常の入学定員増 150人 ⇒ 152人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 10人 ⇒ 6人 (2004. 6. 1. 届出)

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2018年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ②)

学部・研究科	学科・専攻科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
経済学部	経営情報学科	1987	1986年12月23日	102人	1991年度 期間付入学定員設定 100人 ⇒ 120人 (終期1999年度) 1993年度 3年次編入学定員設定 10人 2000年度 期間付入学定員延長 18人 ⇒ 16人 (14人⇒12人⇒10人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 4人 ⇒ 2人⇒0人 (臨定14人の内、経済法学科 へ臨定10人を恒定化して振替、残りの臨定4人を単純延長) 2005年度 恒常的入学定員増 100人 ⇒ 102人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 10人 ⇒ 6人 (2004. 6. 1. 届出)
	経済法学科	2002	2001年8月1日	110人	2004年度 3年次編入学定員設定 10人
社会福祉学部	福祉計画学科	1996	1995年12月22日	85人	1998年度 3年次編入学定員設定 20人 2005年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 85人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 10人 (2004. 6. 1. 届出)
	福祉臨床学科	1996	1995年12月22日	85人	1998年度 3年次編入学定員設定 20人 2005年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 85人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 20人 ⇒ 10人 (2004. 6. 1. 届出)
	福祉心理学科	1996	1995年12月22日	64人	1998年度 3年次編入学定員設定 15人 2005年度 恒常的入学定員増 60人 ⇒ 64人 (2004. 6. 1. 届出) 2005年度 3年次編入学定員減 15人 ⇒ 7人 (2004. 6. 1. 届出)
文学専攻科	英文学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 収容定員変更 10人 ⇒ 3人 (2001. 12. 20. 届出) 2004年度 学生募集停止・廃止(2004. 6. 1)
	社会福祉学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 学生募集停止・廃止(2001. 12. 20) 入学定員10人
経済学専攻科	経済学専攻	1980	1980年4月1日	一人	(設置認可年月日は、設置年月日) 2002年度 廃止 (2001. 12. 20) 入学定員10人
文学研究科	社会福祉学専攻	1992	1992年3月19日	一人	修士課程 昼夜開講制 入学定員7人 2000年度 学生募集停止 2004年度 廃止 (2004. 3. 29. 届出)
	言語文化 コミュニケーション専攻	2001	2000年12月21日	8人	修士課程 昼夜開講制
経済学研究科	経済学専攻	2001	2000年12月21日	10人	修士課程 昼夜開講制

2 学部（学科）・研究科等設置状況〔2018年度〕

(1) 大学

(表 I - 2 - ③)

学部・研究科	学科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	2000	1999年12月22日	8人 3人	修士課程 昼夜開講制 博士〔後期〕課程 昼夜開講制
	臨床心理学専攻	2000	1999年12月22日	4人	修士課程 昼夜開講制 2006年度 心理学専攻を臨床心理学専攻に名称変更（2005. 9. 26. 届出）

(2) 短期大学部

(表 I - 2 - ④)

	学科	開設年度	設置認可年月日	入学定員	備考（入学定員変更等）
短期大学部	英文学科	1951	1951年3月8日	120人	1968年度 恒常的入学定員増 40人 ⇒ 80人 1986年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 120人 1986年度 期間付入学定員設定 120人 ⇒ 150人 1991年度 期間付入学定員再設定 150人 ⇒ 170人 (終期1999年度) 2000年度 期間付入学定員延長 45人 ⇒ 40人 (35人⇒30人⇒25人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 10人 ⇒ 5人⇒0人 (臨定35人の内、心理・応用コミュニケーション学科へ臨定25人を恒定化して振替、残りの臨定10人を単純延長) 2002年度 北星学園女子短期大学を北星学園大学短期大学部に校名変更 (2001. 5. 31. 届出)
	生活創造学科	1954	1954年3月30日	80人	1968年度 恒常的入学定員増 80人 ⇒ 120人 1986年度 恒常的入学定員増 120人 ⇒ 180人 1986年度 期間付入学定員設定 180人 ⇒ 220人 1991年度 期間付入学定員再設定 220人 ⇒ 250人 (終期1999年度) 2000年度 期間付入学定員延長 63人 ⇒ 56人 (49人⇒42人⇒35人) 2002年度 期間付入学定員延長変更 14人 ⇒ 7人⇒0人 (臨定49人の内、心理・応用コミュニケーション学科へ臨定35人を恒定化して振替、残りの臨定14人を単純延長) 2002年度 恒常的入学定員減 180人 ⇒ 80人 (恒定180人の内、経済法学科へ100人を振替) 2002年度 生活教養学科を生活創造学科に学科名変更 (2001. 5. 31. 届出)

3 大学の規模等の推移状況

(1)大学 [2014-2018]

(5月1日現在) (単位:人)

(表 I-3-①)

学部	学 科	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
		収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100	収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100	収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100	収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100	収容 定員 A	在籍者 B	収定 充足率 B/A*100
文	英文	480	569	118.54%	480	584	121.67%	480	590	122.92%	480	607	126.46%	480	587	122.29%
	心理・応用コミュニケーション	380	446	117.37%	380	466	122.63%	380	451	118.68%	380	444	116.84%	380	444	116.84%
	計	860	1015	118.02%	860	1050	122.09%	860	1,041	121.05%	860	1,051	122.21%	860	1,031	119.88%
経済	経済	620	705	113.71%	620	698	112.58%	620	702	113.23%	620	704	113.55%	620	689	111.13%
	経営情報	420	457	108.81%	420	479	114.05%	420	480	114.29%	420	516	122.86%	420	501	119.29%
	経済法	460	489	106.30%	460	509	110.65%	460	519	112.83%	460	540	117.39%	460	551	119.78%
	計	1,500	1,651	110.07%	1,500	1,686	112.40%	1,500	1,701	113.40%	1,500	1,760	117.33%	1,500	1,741	116.07%
社会 福祉	福祉計画	360	382	106.11%	360	401	111.39%	360	413	114.72%	360	408	113.33%	360	394	109.44%
	福祉臨床	360	385	106.94%	360	388	107.78%	360	371	103.06%	360	374	103.89%	360	363	100.83%
	福祉心理	270	298	110.37%	270	282	104.44%	270	282	104.44%	270	283	104.81%	270	298	110.37%
	計	990	1,065	107.58%	990	1,071	108.18%	990	1,066	107.68%	990	1,065	107.58%	990	1,055	106.57%
大学学部 計		3,350	3,731	111.37%	3,350	3,807	113.64%	3,350	3,808	113.67%	3,350	3,876	115.70%	3,350	3,827	114.24%

3 大学の規模等の推移状況

(1) 大学 [2014-2018]

(5月1日現在) (人) (表 I-3-②)

			2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
			収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100
研 究 科	文 学	言語文化コミュニケーション専攻 (修士)	16	7	43.75%	16	6	37.50%	16	8	50.00%	16	7	43.75%	16	0	0.00%
	経済学	経済学専攻 (修士)	20	6	30.00%	20	3	15.00%	20	2	10.00%	20	2	10.00%	20	6	30.00%
	社 会 福祉学 研究科	社会福祉学専攻 (修士)	16	8	50.00%	16	7	43.75%	16	7	43.75%	16	11	68.75%	16	4	25.00%
		社会福祉学専攻 (博士 [後期])	9	5	55.56%	9	5	55.56%	9	6	66.67%	9	4	44.44%	9	4	44.44%
		臨床心理学専攻 (修士)	8	6	75.00%	8	7	87.50%	8	9	112.50%	8	9	112.50%	8	7	87.50%
計		33	19	57.58%	33	19	57.58%	33	22	66.67%	33	24	72.73%	33	15	45.45%	
大学院 計			69	32	46.38%	69	28	40.58%	69	32	46.38%	69	33	47.83%	69	21	30.43%
大 学 合 計			3,419	3,839	112.28%	3,419	3,836	112.20%	3,419	3,908	114.30%	3,419	3,909	114.33%	3,419	3,848	112.55%

(2) 短期大学部 [2014-2018]

(5月1日現在) (人) (表 I-3-③)

学 科		2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
		収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100	収容定員 A	在籍者 B	収定充足率 B/A*100
英文		240	273	113.75%	240	279	116.25%	240	290	120.83%	240	291	121.25%	240	251	104.58%
生活創造		160	172	107.50%	160	201	125.63%	160	203	126.88%	160	198	123.75%	160	182	113.75%
短期大学部 合計		400	445	111.25%	400	480	120.00%	400	493	123.25%	400	489	122.25%	400	433	108.25%

3 大学の規模等の推移状況

(1) 大学 [2014-2018]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-④)

		2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
		通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計
教員数	学長	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1
	副学長	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1
	チャプレン	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1
	カウンセラー	1		1	1		1	1		1	1		1	1		1
	文学部	0	9	9	23	10	33	23	10	33	25	7	32	28	3	31
	経済学部	0	11	11	37	8	45	41	7	45	43	8	51	43	6	49
	社会福祉学部	0	6	6	32	7	39	33	7	39	32	10	42	34	8	42
	大学計	4	26	30	96	25	121	101	24	121	104	25	129	109	17	126

(2) 短期大学部 [2014-2018]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-⑤)

		2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
		通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計	通常専任	特別専任	合計
教員数	学長															
	短期大学部	16	0	16	16	0	16	16	0	16	15	3	18	16	2	18

(3) 大学・短期大学部 [2014-2018]

(5月1日現在) (単位:人) (表I-3-⑥)

		2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
		専任	特任職員	合計	専任	特任職員	合計	専任	特任職員	合計	専任	特任職員	合計	専任	特任職員	合計
職員数	大学・短期大学部	86	15	101	84	16	100	83	23	106	82	23	105	81	24	105

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-①)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
社会福祉学部 福祉計画学科 福祉臨床学科 福祉心理学科 (平成7年12月22日)	1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。		1 (平成10年度) 平成10年度に3学科で3年次編入学生の受入れを行ったが、福祉計画学科では定員通りの合格者を発表することができなかった。また、福祉臨床学科と福祉心理学科については定員を遵守すべく合格者を発表したが入学の段階では3学科とも定員を充足することができなかった。なお、受入れ編入学生については、学科の設置趣旨に合致した科目の認定及び個々人の諸資格取得計画に応じた履修ができるように十分なオリエンテーションを行い、履修上の配慮に努めた。 (平成11年度) 福祉心理学科では定員を遵守(1人超過)できたが、福祉計画学科と福祉臨床学科では、定員を上回る受験者数があったにも係わらず、入学定員を遵守することはできなかった。なお、受入れ編入学生については、前年度同様、既修得単位の認定はもとより、学科長との個別面談を行うなど履修上の配慮に努めた。 今後は、さらに定員遵守のための方策として合格者数の発表を検討する。	
	2 文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日(ただし、3年次編入学は、平成10年4月1日)で学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止すること。		2 (平成8・9年度) 留意事項のとおり、文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日で1年次の学生募集を停止した。 (平成10・11年度) 留意事項のとおり、文学部社会福祉学科については、平成8年4月1日に1年次の学生募集を、3年次編入学についても平成10年4月1日に学生募集を停止した。 (平成14年度) 平成14年3月31日付けで全ての在学生がいなくなったため、文学部社会福祉学科を廃止した。 【平成14年7月30日廃止認可】	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-②)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>社会福祉学部 年次計画履行状況調査時 (平成8年9月10日)</p>	<p>1 社会福祉学部福祉心理学科の定員超過の是正に努めること。</p>	<p>1 (平成8年度) 入学定員60人に対し、入学者78人となり、入学定員超過率が1.30倍となったことによる。</p>	<p>1 (平成9年度) 社会福祉学部福祉心理学科の定員超過については、より教育的効果を高めるために是正に努めた。その結果、2年目は60名の入学定員で入学者は66名であり、入学定員超過率は、1.10倍となり、収容定員超過率でも1.18倍であった。 (平成10年度) 予想以上に入学したため、入学定員超過率は1.28倍であったが、収容定員超過率では2年目同様1.16倍で納まった。 (平成11年度) 完成年度になる今年度は、入学定員の遵守と収容定員超過率を適正にするべく努力したが、入学手続状況が予想を上回り、結果として、入学定員超過率が1.47倍となった。なお、収容定員超過率では1.29倍となった。</p>	
<p>大学院社会福祉学研究科 社会福祉学専攻(修士) 社会福祉学専攻(博士) 心理学専攻(修士) (平成11年12月22日)</p>	<p>1 経済学部経済学科の編入学生の確保に努めること。</p>	<p>1 (平成11年度) 編入学定員10人に対し、定員超過率が平成9年度0.70倍、平成10年度1.00倍、平成11年度0.60倍となっていることによる。</p>	<p>1 (平成12年度) 経済学部経済学科の編入学生は、定員(10人)を遵守すべく、10人に入学資格を与えたが、1人が入学を辞退したため、結果的には9人と定員を遵守できなかった。 今後は、定員遵守のための方策として、発表方法の検討を行うなど、学生確保に努める。 (平成13年度) 経済学部経済学科の編入学生は、受験者が9人であったため、定員を遵守すべく、9人全員を合格させ、9人全員が入学したが、結果としては、定員を遵守できなかった。 今後は受験者を確保すべく、広報活動をより積極的に行うなど、学生確保に努める。 (平成14年度) 経済学部経済学科の編入学生は、3年次定員(10人)のところ、3年次受験者8人であったため、定員を遵守すべく、8人全員を合格させ、8人全員が入学した</p>	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-③)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
大学院社会福祉学研究科 社会福祉学専攻(修士) 社会福祉学専攻(博士) 心理学専攻(修士) (平成11年12月22日)	2 文学研究科については、 平成12年4月1日で学生募 集を停止し、在学生の修了 を待って廃止すること。		が、結果としては、定員を遵守できなかった。 今後は、編入学定員を充足できない状況が常態化し ていることから、従前の広報活動を積極的に行うとと もに、編入学希望者のマーケット状況を分析し、推薦 制度の拡充も含めた新たな志願者増の対策を検討し、 学生確保に努める。 2 (平成12・13・14年度) 留意事項のとおり、文学研究科社会福祉学専攻(修 士課程)については、平成12年4月1日で学生募集を 停止した。 なお、在学生の修了を待って社会福祉学専攻は廃止 するが、平成12年12月21日に文学研究科に言語文化コ ミュニケーション専攻の設置が承認されたため、文学研究科は 廃止しないこととする。 (平成15年度) 留意事項のとおり、文学研究科社会福祉学専攻(修 士課程)については、平成16年3月31日付けで在学 生がいなくなるため、平成16年3月31日をもって廃止す る。なお、文学研究科に言語文化コミュニケーション 専攻が設置認可(平成12年12月21日)されたことか ら、文学研究科は廃止しない。	
大学院文学研究科 言語文化コミュニケーション専攻 (修士) (平成12年12月21日)	特になし			
大学院経済学研究科 経済学専攻(修士) (平成12年12月21日)	特になし			

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-④)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
文学部 心理・応用コミュニケーション学科 経済学部 経済法学科 (平成13年8月1日)	1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。		1 (平成14・15年度) 平成16年4月1日からの3年次編入学生募集については、定員を確保するために次の事項についての取組みを行う。 ①北星学園大学短期大学部から一定数の推薦入学者の確保。 ②ポスター、大学案内等の作製・配布及び本学ホームページを利用した周知活動の展開。 ③北海道内の短期大学への訪問と進路担当者への説明。 ④専修学校専門課程修了者の受入の拡充。 また、3年次編入学生受入れにあたっては、積極的な入学前単位認定を行う。特に、3年次以降に配当される授業科目を履修するにあたり、学生の基礎的能力の不足にならないよう配慮しつつ、個人の学習上の要望を聴取するなど、履修上の十分な配慮を行い、履修指導を綿密に行っていく方針である。 (平成16年度) 文学部心理・応用コミュニケーション学科及び経済学部経済法学科とも14年度、15年度と定員確保に向けた上記取組みを行ってはいたが、近年の短期大学の4年制大学への改組(統廃合)等が認可申請時に予想していたよりも北海道内において急速に進み、短期大学卒業生が減少したこと、経済的状況から進学を断念する短期大学卒業生が増加した等の要因もあり、受験生が定員を上回ることなく、編入学生の定員を遵守することができなかった。また、心理・応用コミュニケーション学科においては、学科で必要とする学力水準に達していない受験者もいた。	

4 大学・学部・学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に文部科学省から付された履行条件に対する実施状況一覧

(表 I-4-⑤)

大学・学部・学科、 大学院研究科等の名称 (設置認可年月日)	大学・学部・学科、 大学院研究科等の 設置認可の際の履行条件	設置認可(履行状況 報告)の際の状況	履行条件に対する実施状況	備考
<p>文学部 心理・応用コミュニケーション学科</p> <p>経済学部 経済法学科</p> <p>(平成13年8月1日)</p>	<p>1 編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。</p>		<p>17年度に向け、より一層の定員遵守に向けた取組みを強化し、定員の遵守に努力したい。とくに、併設する北星学園大学短期大学部との連携を図り、同短期大学部からの推薦等による入学者の確保に向けた取組みを計画している。</p> <p>なお、受入れた編入学生については、2年間で卒業要件を満たし得るよう単位認定を行うとともに、学科長による教育上の配慮と個別修学指導を十分に行っており、より一層の指導体制の強化を図る計画である。</p> <p>(平成17年度)</p> <p>文学部心理・応用コミュニケーション学科及び経済法学科は、編入学定員を確保するための取組みを行ってきたが、編入学生の定員を遵守することができなかった。心理・応用コミュニケーション学科は16年度に計画していた併設する北星学園大学短期大学部からの入学者の確保に向けた取組を強化し、同短期大学部からの推薦等による入学者は確保できたが、編入学定員を遵守することはできなかった。また、経済法学科は受験者が定員を上回ることもなく、同短期大学部からの推薦等による入学者1名の確保に留まり、編入学定員を遵守することができなかった。</p> <p>なお、受入れた編入学生については、2年間で卒業要件を満たし得るよう単位認定を行うとともに、より一層の指導体制の強化を図る計画である。</p> <p>また、編入学生の受入れについては、今後も引き続き、定員の遵守に向けた取組みを強化し、努力したい。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-①)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
認証評価申請書類提出 (平成20年3月28日) 実地視察実施 (平成20年10月20日) 認証評価適合認定 【大基委大評第207号】 (平成21年 3月12日)	二 助 言		勧告は付されていない。
	1 理念・目的		
	1) 全学部について、学部としての理念・目的・教育目標が、大学案内など、『点検・評価報告書』以外の公的刊行物に掲載されていないので明示および周知することが望まれる。	<p>【2009年度】 (文学部) 文学部としてのアドミッション・ポリシーを策定し、今後はこれをアレンジした形のものを入試広報のみならず学外に発信していく方針を確認した。 (経済学部) 「経済学部アドミッションポリシー」を制定し、各種刊行物で明示する途を拓いた。 (社会福祉学部) 学部としての理念・教育目標については、学科再編等の動きについて具体的な方向性が確認された段階で、明示することとしたい。</p> <p>【2010年度】 (文学部) 昨年度アドミッション・ポリシーを策定したのに引き続き、本年度はディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定し、大学のホームページ等に公開した。 (経済学部) アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーという形で当学部の教育理念は、既に大学ホームページやガイドブックなどの各種媒体において公表済みであり、様々な経路を経て対外的な周知にも努めている。 (社会福祉学部) 学部としてのディプロマ・ポリシー及び各学科ごとのカリキュラム・ポリシーをホームページに掲載した。</p> <p>【2011年度】 (文学部) 学部の理念と目標はすでに大学のホームページで公開されている。学部としてのアドミッション・ポリシーもディプロマ・ポリシーも同様に公開されている。 (経済学部) 学部のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは、既に前年度に引き続き大学ホームページやガイドブック（受験生など学外者向け）などの各種媒体において公表済みである。3ポリシーで明示している学部としての理念・目的・教育目標に関しては、各種の媒体を通してあるいは機会を見つけて対外的な周知にも努めている。 (社会福祉学部) 学部としての理念・目的・教育目標については、既にホームページに掲載した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-②)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	1) 全学部について、学部としての理念・目的・教育目標が、大学案内など、『点検・評価報告書』以外の公的刊行物に掲載されていないので明示および周知することが望まれる。	【2012年度】 (文学部) HP等掲載済で改善済である。8月以降については特に改善なし。 (経済学部) 今年度も対応済みである。 (社会福祉学部) 大学ホームページにおいて、学部の教育理念・目的・目標について掲載済みである。	
	2 教育内容・方法		
	(1) 教育課程等		
	1) 社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）では、開講科目数が多く履修者が極端に少ない中での教育指導上の効果や教員の持ちこたえ負担の点から、カリキュラム体系の見直しが望まれる。	【2009年度】 学部・学科再編の如何によって大学院のカリキュラム体系についても見直しが必要となる可能性があるため、現行のカリキュラムについては、その見通しがはっきりするまで見直しを控えることとした。 【2010年度】 学部学科再編の協議の関係上、議論する機会をもつことができなかった。 【2011年度】 大学院科目及びカリキュラム体系の見直しについて検討を行い、科目数の削減を中心として負担の軽減を図ることができた。さらなる改善を図る必要がある。 【2012年度】 カリキュラムの大幅な改訂をおこなうこととし、WGの設置をおこない福祉計画と福祉臨床領域の統合および社会発達心理学領域の発展的解消を前提にした2015年度からのカリキュラム改訂案をまとめることができた点は高く評価できる。	
	(2) 教育方法等		
	1) 全学部について、シラバスの記述の仕方に教員間で精粗が見られ、改善が望まれる。	【2009年度】 (教学運営委員会) シラバスの記述については、2010年度の作成依頼において改善の要請を行い、新たに事前学習の内容を含めて充実を図る事とした。 【2010年度】 (教学運営委員会) 「シラバスに関する理解を深める一知の構造、評価、授業改善」と題して山形大学基盤教育院／高等教育研究企画センター准教授の杉原真晃氏によるFD研修会を大学教学会議主催で行い、シラバスに関する作成上の留意点及び効果的な活用方法を学ぶ有益な機会となった。また、シラバスシステムの改訂を行い、編集表示画面と印刷イメージを一致させるなど作成作業上の改善を図った。	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-③)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	1) 全学部について、シラバスの記述の仕方に教員間で精粗が見られ、改善が望まれる。	<p>【2011年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、FD委員会の主催で「ディプロマ・ポリシーに基づく体系的な教育改善」というテーマの研修会を実施した。講師は立命館大学教育開発推進機構教授の沖裕貴氏で、主な講演内容は3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）のとらえ方、カリキュラム・マップの作成のほか、特にシラバス記述との関係で客観的かつ厳格な成績評価の方法（ルーブリック評価）の紹介があり、大変示唆に富むもので時機にかなった研修であった。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、2013年度シラバスから記載事項を①講義の目的および概要、②講義方法、③到達目標、④授業計画、⑤成績評価方法、⑥準備学習、⑦教科書・参考書、⑧注意事項、⑨参照リンクに変更し、より統一的で具体的な記載とすることとした。</p>	
	2) 全学部について、授業評価アンケートによる授業改善は教員個人に委ねられていることから、組織的に活用されるよう改善が望まれる。	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) 2009年度の授業評価アンケートは従来により実施することとしたが、実施に係るシステムの見直しを含め、2010年度の検討課題とする。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 学生による授業評価アンケートについては、実施に係るシステム見直しなどが本年度の課題であったが、時間がなく検討を進めることが出来なかった。隔年実施の件も含めて早急に検討を行うべく、次年度への課題とした。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、FD委員会に諮問したが時間がなく検討を進めることが出来なかったため、従前の質問項目で実施した。アンケート方法や項目の見直しなどは、FD委員会で次年度への課題として引き続き検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、実施方法に関してFD委員会からの答申を受け、2013年度実施分からWebによるアンケート調査を行うことを決定した。なお、「アンケート項目の見直し」「集計方法や公開の簡素化」などについては、引き続きFD委員会で検討を進めてもらうこととした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-④)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>3) 文学部心理・応用コミュニケーション学科、経済学部経営情報学科および経済法学科では、1年間に履修登録できる単位数の上限が高いので、単位制度の趣旨に照らして改善が望ましい。</p>	<p>【2009年度】 (文学部) 2年次の履修単位数が52となっていたものを2010年度新入生からは48単位とすることを決定した。 (経済学部) 既に3年間現行カリキュラムでこの履修上限を続けており、入学年次による履修条件及び卒業条件の差別を生じさせないため、今すぐ改定を行なう予定は無いが、次回カリキュラム改訂に際し、ただちに改善する。</p> <p>【2010年度】 (文学部) 2010年度入学生から上限を低くしたので、すでに改善がなされている。 (経済学部) 現行カリキュラムは本年度に完成年度を迎えたが、平成24年度まで改訂しないことが大学評議会にて決定されている為、平成25年4月導入の次期カリキュラムに於いて対応することとした。この点は、経済学部教授会では昨年度に了承されており、昨年度の自己点検評価報告書に記載済みである。</p> <p>【2011年度】 (文学部) 2010年度入学生から上限を低くしたので、すでに改善がなされている。 (経済学部) 2013年度カリキュラムの策定に合わせて、単位制度の趣旨に照らしながら3学科とも履修登録単位数の上限を見直した。その結果、経営情報学科・経済法学科とも、各学年の履修登録単位数の上限を引き下げた。</p> <p>【2012年度】 (文学部) 2013年度新カリキュラムにおいて改善を見ている。 (経済学部) 今年度も対応済みである。</p>	
	<p>4) 全研究科について、研究科固有のFDを実施することが望まれる。</p>	<p>【2009年度】 文学研究科主催で研究科合同のFDを実施した他、各研究科でも固有のFDを実施した。</p> <p>【2010年度】 (文学研究科) 本年度は、「首都大学東京における大学院教育と論文指導」ということで大学院3研究科の合同FDとなったが、次年度は研究科固有のFDを実施するよう努めたい。 (経済学研究科) 経済学研究科固有のFDを実施し(7月28日)、入学志願者数を増やす方策を徹底討論した。その結果、学部の早期卒業制度の導入可能性とそれを活用した本研究科への進学を勧誘することの実現可能性が高いという共通認識を得た。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑤)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>4) 全研究科について、研究科固有のFDを実施することが望まれる。</p>	<p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDに相当する博士論文の指導体制について首都大学東京の取り組みをFDにおいて講師を招いて詳細な展開を確認することができ、協議をおこなった。 また、修士論文の中間報告会の位置づけや実施方法について時期や体制を含めた改善課題を協議した。</p> <p>【2011年度】 (文学研究科) 3研究科合同で「特色ある大学院の再構築に向かって——学生の確保と教育」と題して、文学研究科としてもおおいに啓発されるFDが実施されたものの、文学研究科固有のFDは実施に至らなかった。ただ開催するのではなく、検討すべきテーマをしっかりと煮詰めたうえで、次年度は開催するようにしたい。</p> <p>(経済学研究科) 8月3日に学部と合同で早期卒業制度の導入などについてFDを開催した。2月22日に佐々木隆生本学教授を講師として「特色ある大学院の再構築に向かって」というテーマでのFD研修会を実施した。</p> <p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDについては、時間的な確保がとれず、実施することはできなかった。次年度の早い時期に開催を図りたい。</p> <p>【2012年度】 (文学研究科) 研究科固有のFDが求められた一方で、現実には3研究科主催FDとの隔年開催が現実的とされる意見があり、実際そのように変更処置が講じられたことは理にかなっている。本年度は、全学的な大学院の現状を踏まえ、かつ、文学研究科の課題を念頭に、「ICUの改革～リベラルアーツと高度専門職業人養成～」(ICU教授・町田健一氏講演・懇談)を2月に開催した。</p> <p>(経済学研究科) 新入試制度の実施および新カリキュラム策定に伴う展開科目・担当教員数の削減など、新制度への移行期にあつて様々な点で検討に時間を要したため、研究科固有のFDは実施できなかった。</p> <p>(社会福祉学研究科) 研究科固有のFDについてはリトリートとして8月1日に教育研究指導体制の課題を整理検討した。主な課題は上記の通りである。詳細については時間的な余裕がなく次年度の課題とせざるをえない。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑥)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	5) 全研究科について、大学院要覧などに授業および研究指導の方法、成績評価基準、ならびに1年間の授業および研究指導の計画の明示がなされていないので、改善が望まれる。	【2009年度】 2009年度の『大学院要覧』から記入内容について周知徹底し、全科目について、授業のねらい・概要、授業計画、成績評価の基準・方法、教科書、参考書等について明記した。	
	(3) 学位授与・課程修了の認定		
	1) 全研究科について、修士の学位授与の質的な要件、つまり学位論文に係る評価ならびに修了の認定の際の基準などを明確にすることが望まれる。	【2009年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では修士論文の評価基準を作成し次年度より実施することとした。文学研究科においても現在検討中であり、2010年度内には修士論文の評価基準を作成することを確認した。 併せて、今後の博士論文審査の本格化をにらみ、博士論文の審査実施要領を改訂し、評価の方法を整理し透明化を図った。また、いわゆるオーバーペイのうち、大学院兼担当手当を見直し博士論文審査手当の追加について検討を行い、現状の問題点を企画運営会議に報告した。 【2010年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では、昨年度において修士論文の評価基準を作成し今年度より実施している。文学研究科においても修士論文の評価基準を作成し、次年度から実施することとした。評価基準を持つことにより、学位の質的保証を確保したい。 【2011年度】 (大学院委員会) 社会福祉学研究科及び経済学研究科では、2009年度において修士論文の評価基準を作成し2010年度より実施している。文学研究科においては2010年度において修士論文の評価基準を作成し、今年度から実施している。評価基準を持つことにより、学位の質的保証を確保する制度をとっている。 【2012年度】 (大学院委員会) 2011年度に完了済みである。	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑦)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>3 学生の受け入れ</p> <p>1) 編入学定員に対する編入学生数比率が、経済学部0.50、社会福祉学部0.52と低いので、改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (企画運営会議) 2009年度は検討することができなかった。</p> <p>【2010年度】 (企画運営会議) 編入学定員、社会福祉学部の教員負担といった問題は、現在検討が進んでいる学部・学科再編と密接に関連しているため、現段階では具体的な改善方策を検討できていない。次年度以降、学部・学科再編の具体的な検討を行う中で、これらの問題についても取組みを進めることとする。</p> <p>【2011年度】 (企画運営会議) このことについては、具体的に検討することができなかった。編入学定員に対する編入学生比率が低い要因としては、短期大学数の減少及び本学短期大学部学生の3年次編入志願者の減少ならびに志願傾向による学部学科間格差が顕著に浮き彫りになっていること、さらには経済不況が背景にあることで編入学に歯止めをかけている。現段階では、具体的な改善方策を講ずることはできないが、今後は多角的検証をしながら検討していくこととする。</p> <p>【2012年度】 (企画運営会議) 経済学部及び社会福祉学部の編入学定員に対する編入学生数比率が低下してきた外的要因としては、短期大学及び学生母数が年々減少したこと、本学短期大学部学生の志願傾向の変化による学部学科間格差が浮き彫りになっていること、経済不況が背景にある理由で3年次編入学を進路先の選択肢として断念せざるを得ない状況であること、が考えられる。 このような状況の中、学内の短期大学部では、学部の教職科目や社会福祉士関連授業科目を履修できるように特別科目等履修制度を充実させ、編入前の履修環境を整えた。また、学部学科間で相互に情報を共有しつつ短大部生へのきめ細かい指導等連携を図ってきた。その結果、経済学部においては、評価当時の0.5から2012年度では0.84と内部努力により改善に結びつく数字となった。一方、社会福祉学部では、評価当時より比率が低下する結果となってしまった。 この状況を踏まえ、具体的な改善方策を検討する。なお、前述のような社会状況等により志願者が減少傾向であることから、定員を減員することも含め検討していくこととする。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑧)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	2) 文学研究科修士課程における収容定員に対する在籍学生数比率が0.25と低く、改善が望まれる。	<p>【2009年度】 2009年度は厳しい結果となったので、次年度の最重点課題として取り組みたい。</p> <p>【2010年度】 幸いにして、2011年度は6名の合格者を出したので、在籍学生比率が大幅に改善されることになるだろう。</p> <p>【2011年度】 2011年度は6名の入学者があったし、2012年度は4名の合格者を出したので、在籍学生比率は若干改善されることになるが、まだまだ収容定員に近づいていないのが現状である。</p> <p>【2012年度】 学内選考の人数枠を2名から3名へ増員し、次年度から適用されることとなった。今年度は、第Ⅰ期入学者2名（内、上記制度適用者1名）、第Ⅱ期は受験者なし。今後の進学者リクルートの方策について、文学部両学科の枠を超えて展開する可能性をも念頭に置き追究する。なお、早期入学者制度の導入は、文学研究科への適用について、現状では困難であるとの見通しをもっている。</p>	
	4 教員組織		
	1) 社会福祉学部では、一部の専任教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので改善が望まれる。	<p>【2009年度】 この問題については、社会福祉学部だけでなく大学として大学院担当についてどのように考えていくかといった基本方針に関わる問題であり、その策定を今後追及していく。</p> <p>【2010年度】 (社会福祉学部) この問題は社会福祉学部だけではなく、大学として大学院担当についてどのように考えていくかといった基本方針に関わる問題である。現在今後の本学あり方として全学的な方針の策定に向かっており、大学院についてのその方針に基づいてあり方を検討する中でコマ数の負担の問題も検討することになる。</p> <p>(企画運営会議) 今年度は具体的な結論を得ることができなかつたため、次年度に継続して検討することとした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-9)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>1) 社会福祉学部では、一部の専任教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので改善が望まれる。</p>	<p>【2011年度】 (社会福祉学部) 社会福祉学部では、一部の教員に大学院博士後期課程担当などの負担により、コマ数の過重が見られるので、改善が望まれているが、2013年度の新カリキュラムにおいて、一定程度の実現を目指している。 (企画運営会議) このことについては、今年度、持ちコマ基準の見直しを検討する際に、取り上げたが、資格対応等科目に特化したカリキュラムであること、大学院博士課程授業科目については専任教員を担当させることに重点を置いていることなどから一部の専任教員に負担がかからざるを得ない状況であり、早急に対応策を講ずることは難しいと判断するに至った。次年度は2013年度カリキュラム改編に向けた学部開講科目と大学院博士課程の持ちコマ数との調整を図りながら負担軽減につながるよう取組んでいくこととする。</p> <p>【2012年度】 (社会福祉学部) 2013年度の学部新カリキュラムにおいて、大学院科目担当教員の教育負担の軽減化を図るべく、担当科目数の軽減化はじめ、実習教育や卒論指導の展開の見直しに取り組むことで、一定程度実現できた。なお、2015年度大学院修士課程のカリキュラムの改訂時期に合わせて、今後も継続して取り組む。 (企画運営会議) 社会福祉学部は、資格対応（社会福祉士・精神保健福祉士等）科目を多く配置する特化したカリキュラム構造になっている。また、大学院博士課程授業科目、修士課程授業科目及び実習科目については非常勤講師に依存せず専任教員を担当させることに重点を置いている。このような理由から、一部の専任教員に負担がかからざるを得なく、早急に対応策を講じて解決するには困難な状況である。 今後はこの問題を改善するため2013年度カリキュラム改編に向けた学部開講科目と大学院修士及び博士課程の持ちコマ数について、少しでも教員の負担軽減につながるよう解決策を講じていくこととする。</p>	
	<p>2) 専任教員の年齢構成において、文学部では、41歳～50歳の比率が36.4%、経済学部では、51歳～60歳の比率が33.4%、社会福祉学部では、41歳～50歳の比率が37.9%と高いので、全体的バランスを保つよう改善の努力が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (文学部) 今後の採用人事において均衡の取れた年齢構成をできるだけ考慮することを確認した。</p> <p>(経済学部) 近年の新規採用人事に置いては採用内定時20代の若年者もいるため、今後改善されると思われる。</p> <p>(社会福祉学部) 社会福祉学部の専任教員の年齢構成は、大学院担当教員採用の必要性を踏まえると、比較的バランスが取れていると考えられる。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑩)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>2) 専任教員の年齢構成において、文学部では、41歳～50歳の比率が36.4%、経済学部では、51歳～60歳の比率が33.4%、社会福祉学部では、41歳～50歳の比率が37.9%と高いので、全体的バランスを保つよう改善の努力が望まれる。</p>	<p>【2010年度】 (文学部) 2010年度は1件の新任採用人事があったが、実務経験者が望ましいという学科の要望もあり、若手の採用にはならず、年齢構成は高いままである。時間がかかるが、改善につとめたい。</p> <p>(経済学部) この指摘を踏まえ、2011年4月1日付着任予定の環境経済学・基礎経済学等担当教員の採用条件としては「35歳以下」という応募条件(従来からの慣例になっている)を明示すると共に、着任時30歳の若手教員を採用した。</p> <p>(社会福祉学部) 社会福祉学部の専任教員の年齢構成は、大学院担当教員の採用の必要性があり、そのことを踏まえれば年齢構成比率は比較的バランスが取れていると考えており、今後の採用においてそのバランスが崩れないよう努力する。</p> <p>【2011年度】 (文学部) ここ2年間で2回採用人事があったが、いずれも採用者は55歳と51歳であるから、中高年層が増えた。教育経験や校務経験、研究業績を考えると、中堅層が増えるのはやむをえない面もあるが、中・長期的に改善していきたい。</p> <p>(経済学部) 2010年度の人事(2011年4月着任)では2名、2011年度(2012年4月着任)は1名の採用人事を行った。採用人事のうち1名は30代、残りの2名は人事計画に基づき60歳以上の教員の採用となった。なお、引き続き、年齢構成のバランスを考慮した人事計画を実行する。</p> <p>(社会福祉学部) 専任教員の年齢構成について、社会福祉学部では41歳～50歳の比率が37.9%と高いので全体的バランスを保つよう改善の努力をした結果、福祉計画、福祉臨床、福祉心理の3学科とも、直近の人事において若手の教員を採用した。</p> <p>【2012年度】 (文学部) 特に英文学科での新規若手採用による年齢比率の改善が望まれたが、状況は改善されなかった。しかし、現状のなかでも、教育活動や学科運営に対する特別専任教員の一定の貢献が見込まれる面もある。</p> <p>(経済学部) 新たな人事は行わなかったが、引き続き、年齢構成のバランスを考慮した人事計画を実行する。</p> <p>(社会福祉学部) 今年度の新規採用人事はなかったものの、今後も継続して、教員の年齢構成に配慮した採用人事を推進する。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑪)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>5 施設・設備</p> <p>1) 図書館4階の特別教室の教壇の段差が大きいので、対策として簡易スロープか簡易昇降機の設置を検討している。2008（平成20）年度は予算化出来ず設置が見送られたが、今後の改善が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 キャンパス・マスタープランに関わって新たに設置する建築委員会に検討を要請する。</p> <p>【2010年度】 図書館4階特別教室の教壇の問題については、建築委員会に検討を要請することとしていたが、学部・学科再編及び隣接地への末日聖徒キリスト教会神殿建設の問題等により、キャンパス・マスタープランが一時凍結中であることから、今年度は検討要請を行なわなかった。</p> <p>【2011年度】 前年度から継続して、大学建築委員会に具体的な検討を要請することとする。</p> <p>【2012年度】 これまで建物の新築・増築の際に、バリアフリー化を取り入れるよう努力し、一定程度実現できている。図書館棟4階の特別教室には移動式簡易スロープを設置出来なかったが、2009年度から、B館402教室の教壇用として移動式簡易スロープを設置した。車椅子利用者が講義等を行う際は、発生頻度ごく稀とはいえ、B館402教室（図書館棟4階特別教室と同規模）を代替教室として教学との連携により優先的に使用することとしている。このことにより、一定程度の改善を図ったと受け止めている。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑫)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
認証評価申請書類提出 (平成27年3月27日) 実地視察実施 (平成27年10月20～21日) 認証評価適合認定 【大基委大評第138号】 (平成28年3月11日)	4 教育内容・方法・成果		改善勧告は付されていない。
	教育目標、学位授与方針 (1) 針、教育課程の編成・実施方針 1) 全学部において、学位授与方針と学生の受け入れ方針は学部ごとに設定されているのに対して、学部としての教育課程の編成・実施方針が明確に定められていないので、改善が望まれる。 2) 大学院修士課程の文学研究科、経済学研究科、社会福祉学研究科、博士課程の社会福祉学研究科の教育課程の編成・実施方針は、現状の説明にとどまっており、教育内容・方法等に関する基本的な考えを示していないので、改善が望まれる。	【2016年度】 (自己点検評価委員会) 3ポリシーのガイドライン(平成28年3月31日 中央教育審議会大学分科会大学教 育部会による「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー), 「教育課程 編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アド ミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン)によれば、必ずしも 学部のカリキュラム・ポリシーを策定することは必要でないため、現状のまま策定し ないこととした。 【2016年度】 (自己点検評価委員会) 3研究科とも2017年度から検討に着手することとした。 【2017年度】 (各大学院研究科委員会) カリキュラム・ポリシーについての検討 カリキュラム改編に伴い、カリキュラム・ポリシーを中心に改めて3ポリシーにつ いて検討・修正を行った。 【2018年度】 (自己点検評価委員会) カリキュラム改編を行なう際に「教育課程の編成・実施方針」に教育内容・方法等 に関する基本的な考え方を盛り込み、改めた。また大学公式WEBサイト及び大学院要覧 に変更した教育課程の編成・実施方針を掲載した。	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑬)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>(3) 教育方法</p> <p>1) 1年間に履修登録できる単位数の上限について、社会福祉学部福祉臨床学科が2・3年次において50単位に設定されているため、改善が望まれる。また、編入学生の1年間に履修登録できる単位数の上限については、全学部において学科長との面談を経て国家試験受験資格などを満たさないなど特別な事情がある学生については、1年間に履修登録できる単位数の上限を超える履修登録を認めているので、単位制度の趣旨に照らして、改善が望まれる。</p> <p>2) 社会福祉学研究科博士課程を除く全研究科修士課程において、研究指導計画の学生への明示が不十分であるので、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 (教学会議) 社会福祉学部 福祉臨床学科2.3年次の履修登録上限単位を2019年度から48単位とすることとした。</p> <p>【2018年度】 (大学評議会) 「授業科目の履修等に関する規程」を改定した。 2019年度にも編入学性の履修上限について、具体的な改定を行う予定である。</p> <p>【2016年度】 2017年度大学院要覧に各専攻授業科目の履修と研究指導について掲載し、学生に明示することとした。</p> <p>【2017年度】 大学院要覧に掲載し、学生に明示した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑭)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>(4) 成果</p> <p>1) 社会福祉学研究科博士課程において、学位論文審査基準が学生に明示されていないので、『大学院要覧』などに明記するよう、改善が望まれる。</p> <p>2) 社会福祉学研究科博士課程において、修業年限内に学位を取得できず課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与することを規定していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 大学院要覧に「学位論文に関する取扱い・6.学位論文評価の基準」として掲載した。</p> <p>【2016年度】 (企画運営会議) 企画運営会議で検討し、博士課程に長期履修制度を導入する方向で検討するよう、研究科委員会に依頼した。</p> <p>【2017年度】 検討した結果、社会福祉学研究科博士課程において、在籍関係のある者に対する「課程博士」として学位を授与するよう、規程を改正した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(1) 大学【大学基準協会】

(表 I-5-⑮)

(実施年月日)	努力課題	改善方策の取組状況	備考
	<p>5 学生の受入れ</p> <p>1) 収容定員に対する在籍学生数比率について、文学研究科が0.44、経済学研究科が0.30と低いので、改善が望まれる。</p> <p>2) 編入学定員に対する編入学生数比率について、経済学部経営情報学科が0.67、同学部経済法学科が0.25、社会福祉学部福祉計画学科が0.40、同学部福祉臨床学科が0.00、同学部福祉心理学科が0.14と低いので、改善が望まれる。</p>	<p>【2016年度】 (自己点検評価委員会) 当面様子を見ることとした。</p> <p>【2017年度】 在籍学生数の定員比率は文学研究科0.43、経済学研究科0.1であった。</p> <p>【2018年度】 在籍学生数の定員比率は文学研究科0.00、経済学研究科0.3であった。</p> <p>【2016年度】 (自己点検評価委員会) 当面様子を見ることとした。</p> <p>【2017年度】 編入学定員に対する編入学生数比率は経済学部経営情報学科1.16、経済法学科0.40、社会福祉学部福祉計画学科0.60、福祉臨床学科0.40、福祉心理学科0.43であった。</p> <p>【2018年度】 編入学定員に対する編入学生数比率は経済学部経営情報学科0.33、経済法学科0.40、社会福祉学部福祉計画学科0.50、福祉臨床学科0.30、福祉心理学科0.30であった。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I-5-⑩)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
<p>第三者評価申請書類提出 (平成20年6月20日) 訪問調査実施 (平成20年10月1日～3日) 第三者評価適格認定 【短基協事第868号】 (平成21年3月25日)</p>	(2) 向上・充実のための課題		<p>早急に改善を要すると判断される事項は付されていない。</p>
	<p>II 教育の内容</p> <p>○ 講義要項（シラバス）は、「講義のねらい」、「授業のながれ」、「成績評価・注意事項」、「教科書・参考書」の項目で統一されているが、各科目担当者間の記載の仕方に格差があり、今後は編集段階で各科目担当者に統一性を求めると講義要項（シラバス）は更に充実し、学生の便宜に供するものとなる。</p>	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) シラバスの記述については、2010年度の作成依頼において改善の要請を行い、新たに事前学習の内容を含めて充実を図る事とした。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 「シラバスに関する理解を深める一知の構造、評価、授業改善」と題して山形大学基盤教育院／高等教育研究企画センター准教授の杉原真晃氏によるFD研修会を大学教学会議主催で行い、シラバスに関する作成上の留意点及び効果的な活用方法等を学ぶ有益な機会となった。また、シラバスシステムの改訂を行い、編集表示画面と印刷イメージを一致させるなど作成作業上の改善を図った。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、FD委員会の主催で「ディプロマ・ポリシーに基づく体系的な教育改善」というテーマの研修会を実施した。講師は立命館大学教育開発推進機構教授の沖裕貴氏で、主な講演内容は3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）のとらえ方、カリキュラム・マップの作成のほか、特にシラバス記述との関係で客観的かつ厳格な成績評価の方法（ルーブリック評価）の紹介があり、大変示唆に富むもので時機に合った研修であった。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) シラバスの記述方法の見直しなどに関して、2013年度シラバスから記載事項を①講義の目的および概要、②講義方法、③到達目標、④授業計画、⑤成績評価方法、⑥準備学習、⑦教科書・参考書、⑧注意事項、⑨参照リンクに変更し、より統一的で具体的な記載とすることとした。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I-5-⑰)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
	<p>○ 学生による授業評価が隔年ということであるが、在学期間が2年間という制約を考慮すると、短期大学における授業改善に役立つ方向での検討が望まれる。</p>	<p>【2009年度】 (教学運営委員会) 2009年度の授業評価アンケートは従来の方法により実施することとしたが、実施に係るシステムの見直しを含め、2010年度の検討課題とする。</p> <p>【2010年度】 (教学運営委員会) 学生による授業評価アンケートについては、実施に係るシステム見直しなどが本年度の課題であったが、上記の教学関係「3. 授業評価アンケートの見直しについて」に記載のとおり、時間がなく検討を進めることが出来なかった。隔年実施の件も含めて早急に検討を行うべく、次年度への課題とした。</p> <p>【2011年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、FD委員会に諮問したが時間がなく検討を進めることが出来なかったため、従前の質問項目で実施した。アンケート方法や項目の見直しなどは、FD委員会で次年度への課題として引き続き検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2012年度】 (教学会議) 学生による授業評価アンケートについては、実施方法に関してFD委員会からの答申を受け、2018年度実施分からWebによるアンケート調査を行うことを決定した。なお、「アンケート項目の見直し」「集計方法や公開の簡素化」などについては、引き続きFD委員会で検討を進めてもらうこととした。</p> <p>【2018年度】 Web回答による授業評価アンケートを実施した。</p>	
IV			
	<p>○ 卒業生に対する評価の取り組みが今後組織的にされれば、教育の達成度や効果の客観性が増し、更に向上するものと期待される。</p>	<p>【2009年度】 (自己点検評価委員会) 学外者の意見を取り入れるための仕組みとして卒業生アンケートの実施を検討したが、他大学の状況を調査した上で再度内容・実施方法等の検討を行うこととした。</p>	
IX 財務			
	<p>○ 図書の処分に関する規程を整備し、他の固定資産管理と同様に取り扱うことが望まれる。</p>	<p>【2009年度】 「北星学園図書管理規程」として整備し、2010年4月1日から施行することとした。</p> <p>【2010年度】 2010年4月1日から施行した。</p>	

5 大学、短期大学部等の「大学評価（認証評価、相互評価）」の際に評価機関から付された勧告・助言事項及びその後の実施状況一覧

(2) 短期大学部【短期大学基準協会】

(表 I-5-⑱)

(実施年月日)	勧告、助言事項	改善方策の取組状況	備考
第三者評価申請書類提出 (平成27年6月26日) 訪問調査実施 (平成27年10月8日～9日) 第三者評価適格認定 【短基協事第215号】 (平成28年3月11日)	向上・充実のための課題		
	I 建学の精神と教育の効果		
	○ 自己点検・評価報告書に、日付の誤りなど、記載に不備が散見されたので、より組織的な自己点検・評価体制の整備に努められたい。	【2016年度】 2016年度の事務機構再編において、認証評価を担当する「企画課」を「IR広報戦略室」として再編し、構成人員を増加して自己点検・評価体制の整備を図った。	
	III 教育資源と財的資源		
	○ 就業規則上には出勤簿に押印する旨が定められているが、専任教員だけがそれとは異なる方法で出勤を申告し、就業状況が把握されている。就業規則に基づいた適正な管理が望まれる。 ○ 学校法人全体の事務職員研修会等は実施されているが、SD規程を整備されたい。	【2016年度】 対応を検討したが、具体的対策は行えなかった。 【2016年度】 「北星学園スタッフ・ディベロップメントに関する規程」を整備し、2017年4月1日から施行することとした。 【2017年度】 「北星学園スタッフ・ディベロップメントに関する規程」を施行した。	

6 教職員に占めるクリスチャンの比率状況

(表 I -6)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	備 考
教員数 (a)	141	142	141	146	146	職員数は専任のみ
内クリスチャン数	21	23	22	23	23	
割合 (%)	14.9	16.2	15.6	15.8	15.8	
職員数 (b)	86	84	83	82	83	
内クリスチャン数	2	3	3	3	3	
割合 (%)	2.3	3.6	3.6	3.7	3.6	
合計 (a) + (b)	227	226	224	228	229	
内クリスチャン数	23	26	25	26	26	
割合 (%)	10.1	11.5	11.2	11.4	11.4	

7 自治体等の公開講座への派遣状況〔2018年度〕

(表 I-7-①)

氏名	期間	タイトル	主催者
足立 清人	9/26	第2期えるのす連続講座～女性大学～講師	公益財団法人北海道女性協会
石川 悟	10/11	北海道介護職員初任者研修講師	北海道石狩翔陽高等学校
柿原 久仁佳	1/18	乳幼児ふれあい体験セミナー講師	北海道保健福祉部
今川 民雄	4/24、5/8、6/5	14期インターン研修	チャイルドラインほっかいどう
	1/22	15期養成講座	
	5/17、6/19、7/13、 8/23、9/21、 10/11、11/16、 12/7、1/15、2/14、 3/19、4/16	継続研修	
	7/10	市民公開講座	チームSOU
	8/6	相談援助技術専門研修講師	小樽市保健所
	6/12	第40期養成研修（後期）合同研修	北海道いのちの電話
	7/31	第41期養成研修（前期）講義	
	11/6、11/13、11/20	第41期養成研修（前期）演習	
	2018年度	担当研修者研修	
	2018年度	研修担当者宿泊研修	
	2018年度	スーパーバイザー研修	
	6/22、6/26	北海道専任教員養成講習会講師 看護教育方法論	北海道看護協会
大島 寿美子	11/18	市民公開講座講師	北海道大学病院
大原 昌明	5/18～5/20	講演	全国経理教育協会
岡田 直人	7/24、8/30、 10/10、10/13、 10/17	民生委員児童委員専門研修講師	北海道民生委員児童委員連盟
	6/25	ボランティアスキルアップ研修会講師	足寄町社会福祉協議会
	9/14、9/21	「キャンパスタウン厚別」講師	厚別区保健福祉部
	12/5	厚別中央地区ふれあい・いきいきサロン活動者 交流会講師	厚別区社会福祉協議会
	2018.8月～2019.3月	北海道専門里親認定研修講師	北海道保健福祉部
栗山 隆	10/15、3/4	北海道児童養護施設等基幹的職員研修会講師	大沼学園
	8/30	北海道子育て支援員研修特別講師	札幌国際大学
	6/19	14期インターン研修講座	チャイルドラインほっかいどう
	9/18	15期養成研修講座	
	2/18	研修会講師	札幌南藻園
	2/25	北海道児童養護施設等基幹的職員研修会講師	北海道保健福祉部

7 自治体等の公開講座への派遣状況〔2018年度〕

(表 I-7-②)

氏名	期間	タイトル	主催者
河野 和枝	9/4	北海道子育て支援員研修特別講師	札幌国際大学
	8/12	社会教育主事講習講師	北海道教育大学
白鳥 金吾	12/15	ジュニアイングリッシュキャンプ講師	北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル砂川
杉岡 直人	9/27	まちづくり講演会講師	歌志内市企画財政課
田実 潔	12/4	北海道介護職員初任者研修講師	石狩翔陽高等学校
		福祉の一部としての社会福祉基礎（障害の理解）に関する講義	
	8/9	札幌市教育センター専門研修（教養研修）講師	札幌市教育委員会
	5/16	FD研修会講師	ものづくり大学
	11/15	就職部課長相当者研修会講師	日本私立大学協会
	12/14	FD研修会講師	会津大学短期大学部
	1/11	北海道高等学校教育相談研究会第47回研究大会講師	北海道高等学校教育相談研究会
田中 耕一郎	9/3	相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等養成研修（ファシリテーター養成研修）講師	北海道保健福祉部
田辺 毅彦	5/17、6/1、7/13、8/10、9/14、10/12、11/9、12/7、1/11、2/8、3/1、4/12	継続研修	チャイルドラインほっかいどう
田辺 等	6/28	夕張市うつ・自殺対策推進事業 市民健康講座講師	夕張市保健福祉課
	6/7、8/28、11/29、2/23	『薬物問題を持つ人の家族のためのワンデイ・セミナー』講師	北海道立精神保健福祉センター
	5/31	行政課題研修「精神保健福祉基礎研修～法制度と相談支援」講師	
	6/15	北海道立精神保健福祉センター50周年記念講演会講師	
	6/19	第40期養成講座（後期）合同研修	北海道いのちの電話
	10/2	第41期養成講座（前期）講義	
	2018年度	スーパーバイザー研修	
	9/1	AA北海道地域パブリックミーティング講師	
	7/28	後志地域精神保健協会講演会講師	後志地域精神保健協会
	8/24	グループ・集団精神療法基礎研修会講師	岩手県精神保健福祉センター
	8/6	アルコール依存症研修会講師	北海道檜山振興局
		精神保健相談（こころの健康相談）講師	
9/11	留萌保健所自殺対策研修会講師	北海道留萌振興局	
9/27	釧路保健所ギャンブル依存症講演会講師	北海道釧路総合振興局	
7/25、7/26	網走保健所自殺予防対策研修及び市町村自殺対策計画策定学習会講師	北海道オホーツク総合振興局	

7 自治体等の公開講座への派遣状況〔2018年度〕

(表 I-7-③)

氏名	期間	タイトル	主催者
田辺 等	1/26	富良野地方精神保健協会講演会講師	富良野地方精神保健協会
	3/4	ギャンブル関連問題関係者セミナー講師	島根県立心と体の相談センター
	3/16	依存症支援者研修開催講師	医療法人北仁会旭山病院
	2/19	保健福祉フォーラム講師	社会福祉法人くるみ会
西山 薫	3/8	臨床心理士勉強会における症例検討へのスーパーバイズ	陸上自衛隊
畑 亮輔	12/3	「エコロコ!やまべゑ誰でも体操」普及員活動研修会講師	札幌市西区保健福祉部
濱 保久	5/19	第53回日本手術看護学会北海道地区学会講師	日本手術看護学会北海道地区
	7/13	「中堅指導者研修会」講師	日本私立大学協会北海道支部
	3/4	臨地実習指導者会議での講演	札幌市立大学
播磨 正一	7/30	第40回北海道特別支援教育研究協議会全道研究大会講座講師	北海道特別支援教育研究協議会
蓑内 豊	10/20	大塚製菓アスリートアワー講師	大塚製菓株式会社
柳町 智治	11/3、11/4	日本語教育学講座・分野公開講演会講師	名古屋大学大学院

8 各種委員会・審議会等からの委嘱状況〔2018年度〕

(表 I-8-①)

氏名	委員会・審議会等の名称
伊藤 新一郎	恵庭市社会福祉審議会委員、当別町地域福祉計画策定委員会委員、「社会福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関する作業チーム」委員
池田 雅子	札幌市社会福祉審議会委員、札幌市民生委員推薦会委員
今川 民雄	放送大学客員教授 学習センターの運営に関する助言・協力、第1学期単位認定試験実施における「帯広ランチ試験場」の試験場実施責任者、北海道いのちの電話委員(研修委員、認定委員)
大島 寿美子	国立大学法人北海道大学特定認定再生医療等委員会、北海道大学自主臨床研究審査委員会委員、国立大学法人北海道大学病院医療安全管理業務監査委員会委員、国立大学法人北海道大学臨床研究審査委員会委員、国立大学法人北海道大学病院長候補者選考会議委員、北海道がん対策基金運営委員会委員
大友 秀治	北海道スクールソーシャルワーカー活用事業エリア・スーパーバイザー
大原 昌明	札幌市交通事業振興公社評議員、エフエム・ノースウェア放送番組審議会審議委員、あつべつ区民協議会 第7期委員、コープさっぽろ「トドックフードバンク基金」諮問委員会委員、北海道公衆浴場問題協議会、北海道公衆浴場入浴料金審議会委員、個店改善モデル創出事業に係る選考委員会委員
岡田 直人	北海道地域密着型サービス外部評価審査委員会委員、北海道住宅対策審議会委員、北海道社会福祉審議会臨時委員、北海道社会福祉協議会評議員選任・解任委員会委員
柿原 久二佳	北海道札幌西陵高等学校スクールカウンセラー
鴨澤 あかね	札幌刑務所性犯罪処遇プログラムアドバイザー、四季メンタルクリニック患者への心理面接およびスタッフへの指導、函館少年刑務所性犯罪者処遇プログラムアドバイザー
金子 大輔	文部科学省ICT活用教育アドバイザー
河野 和枝	札幌市地域連携促進事業及び事業継続等に係る調査・支援業務の企画競争実施委員会委員、札幌市まちづくり活動団体情報提供システムに係るコンテンツ制作業務企画競争実施委員会委員、札幌市地域課題解決のためのネットワーク構築事業審査委員会委員
佐橋 克彦	恵庭市社会福祉審議会・福祉有償運送部会委員
佐藤 祐基	札幌真栄高等学校スクールカウンセラー、北海道胆振東部地震に係る被災地心のケア
阪井 宏	第4回「大学のNIEを考える会」委員
白鳥 金吾	北海道スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員、官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員、スーパーグローバルハイスクールに係る講演助言者
杉岡 直人	北海道総合保険医療協議会地域医療専門委員会臨時委員、元気なふるさとづくりミーティングアドバイザー
鈴木 克典	地域活動の場整備支援事業審査委員会委員、町内会未来塾等企画競争実施委員会委員、「町内会に関する条例検討委員会」指名委員、札幌市地域商店街支援事業選考委員会委員、さっぽろGood商い賞選考委員会委員、あつべつ区民協議会 第7期委員、札幌市社会教育委員、札幌市災害義援金配分委員会委員、厚別区誕生30周年記念事業検討委員会委員、札幌市社会教育功労者表彰選考委員、栗山町総合計画審議会有識者委員
竹田 恒規	北海道後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員
竹村 雅史	北海道高等学校教育研究大会教科部会助言者
田実 潔	札幌市幼児アセスメント委員、札幌市教科用図書選定審議会委員、札幌市特別支援教育振興審議会委員、北海道立特別支援教育センター運営懇談会
田中 耕一郎	北海道自立支援協議会人材育成部会部会員、重度障がい者に必要な在宅介護のあり方検討会委員

8 各種委員会・審議会等からの委嘱状況〔2018年度〕

(表 I - 8 - ②)

氏名	委員会・審議会等の名称
田辺 等	精神科病院実地指導に係る実地審査委員、札幌市精神保健福祉審議会委員、久里浜医療センター依存症対策調査研究会構成員
永井 順子	札幌市精神保健福祉審議会委員、札幌市営住宅入居者選考委員会委員
中田 知生	積丹町まちづくり活動支援事業選定委員会委員
中地 美枝	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究員
長屋 幸世	北海道建設工事紛争審査会特別委員
鳴海 昌江	北海道拓北養護学校スクールカウンセラー
西田 充潔	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会評議員
西原 明希	官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員
西山 薫	札幌啓成高等学校スクールカウンセラー
畑 亮輔	北海道福祉サービス第三者評価事業に係る「事業等委員会」委員、札幌市社会福祉審議会委員
藤原 里佐	北海道大学審査員（副査）としての博士学位論文の審査
牧田 浩一	北海道札幌視覚支援学校公立学校スクールカウンセラー、放送大学卒業研究指導・審査
松本 康一郎	小樽商科大学グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門フェロー、北海道若年者雇用問題検討会議委員、北海道地域訓練協議会委員及び北海道地域ジョブ・カード運営本部委員、北海道独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員、北海道訓練計画専門部会委員、『北の起業家表彰』選考委員長
養内 豊	スキージャンプ選手に対する医・科学サポート、YMCA教育センター委員会委員、日本スポーツ心理学会資格委員会部門員
柳町 智治	関西学院大学大学院博士学位申請論文審査委員（副査）

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

1 資金収支計算書

大学・短期大学部

(単位：千円) (表Ⅲ-1)

収 入 の 部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備 考
1 学生生徒等納付金収入	4,359,477 (-)	4,375,817 (100.4%)	4,404,126 (100.6%)	4,376,637 (99.4%)		
2 手数料収入	95,473 (-)	94,067 (98.5%)	96,617 (102.7%)	96,773 (100.2%)		
3 寄付金収入	88,229 (-)	28,328 (32.1%)	34,399 (121.4%)	41,262 (120.0%)		
4 補助金収入	400,386 (-)	416,033 (103.9%)	435,058 (104.6%)	402,673 (92.6%)		
5 資産売却収入	42 (-)	100 (238.1%)	0 (-)	416 (-)		
6 付随事業・ 収益事業収入	2,812 (-)	1,666 (59.2%)	42,973 (2579.4%)	37,187 (86.5%)		
7 受取利息・ 配当金収入	10,032 (-)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)		
8 雑 収 入	171,361 (-)	168,360 (98.2%)	231,549 (137.5%)	231,525 (100.0%)		
9 借入金等収入	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
10 前受金収入	815,462 (-)	804,135 (98.6%)	786,934 (97.9%)	749,372 (95.2%)		
11 その他の収入	210,298 (-)	112,532 (53.5%)	132,337 (117.6%)	233,920 (176.8%)		
12 資金収入調整勘定	△ 925,196 (-)	△ 941,104 (101.7%)	△ 1,039,291 (110.4%)	△ 1,009,150 (97.1%)		
収入の部合計	5,228,376 (-)	5,069,965 (97.0%)	5,134,734 (101.3%)	5,160,647 (100.5%)		

支 出 の 部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備 考
1 人件費支出	3,041,912 (-)	3,010,925 (99.0%)	3,175,582 (105.5%)	3,163,196 (99.6%)		
2 教育研究経費支出	1,025,765 (-)	1,046,333 (102.0%)	979,443 (93.6%)	1,028,597 (105.0%)		
3 管理経費支出	338,921 (-)	293,640 (86.6%)	281,744 (95.9%)	304,087 (107.9%)		
4 借入金等利息支出	2,467 (-)	500 (20.3%)	3,247 (649.4%)	5,666 (174.5%)		
5 借入金等返済支出	115,370 (-)	78,750 (68.3%)	78,650 (99.9%)	78,650 (100.0%)		
6 施設関係支出	354,119 (-)	109,861 (31.0%)	57,139 (52.0%)	55,043 (96.3%)		
7 設備関係支出	165,287 (-)	11,556 (7.0%)	222,838 (1928.3%)	124,026 (55.7%)		
8 資産運用支出	275,000 (-)	363,000 (132.0%)	95,000 (26.2%)	316,000 (332.6%)		
9 その他の支出	588,360 (-)	238,168 (40.5%)	281,844 (118.3%)	341,419 (121.1%)		
10 法人費操出金	90,067 (-)	110,013 (122.1%)	102,970 (93.6%)	105,916 (102.9%)		
10 資金支出調整勘定	△ 232,923 (-)	△ 271,316 (116.5%)	△ 352,204 (129.8%)	△ 338,249 (96.0%)		
支出の部合計	5,764,345 (-)	5,091,430 (88.3%)	4,926,253 (96.8%)	5,184,351 (105.2%)		

[注] 下段の () 内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

2 事業活動収支計算書

大学・短期大学部

(単位：千円) (表Ⅲ-2)

	区分/科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備考	
1	教育活動収入の部	学生生徒等納付金	4,359,477 (-)	4,375,817 (100.4%)	4,404,127 (100.6%)	4,376,637 (99.4%)		
2		手数料	95,473 (-)	94,067 (98.5%)	96,617 (102.7%)	96,773 (100.2%)		
3		寄付金	23,569 (-)	19,742 (83.8%)	24,159 (122.4%)	30,403 (125.8%)		
4		経常費等補助金	400,386 (-)	406,894 (101.6%)	430,091 (105.7%)	396,548 (92.2%)		
5		付随事業収入	2,812 (-)	1,666 (59.2%)	42,973 (2579.4%)	37,187 (86.5%)		
6		雑収入	170,964 (-)	168,174 (98.4%)	231,477 (137.6%)	231,091 (99.8%)		
7		教育活動収入計	5,052,681 (-)	5,066,360 (100.3%)	5,229,444 (103.2%)	5,168,639 (98.8%)		
8	事業活動支出の部	人件費	2,996,959 (-)	3,045,323 (101.6%)	3,144,760 (103.3%)	3,147,148 (100.1%)		
9		教育研究経費	1,450,292 (-)	1,466,669 (101.1%)	1,330,759 (90.7%)	1,385,372 (104.1%)		
10		管理経費	354,907 (-)	311,550 (87.8%)	296,345 (95.1%)	289,025 (97.5%)		
11		徴収不能繰入額等	11,583 (-)	5,715 (49.3%)	17,634 (308.6%)	9,804 (55.6%)		
12		法人費繰出金	90,067 (-)	110,013 (122.1%)	102,970 (93.6%)	105,916 (102.9%)		
13		教育活動支出計	4,903,808 (-)	4,939,269 (100.7%)	4,892,468 (99.1%)	4,937,265 (100.9%)		
14	教育活動収支差額	148,873 (-)	127,090 (85.4%)	336,976 (265.1%)	231,374 (68.7%)			
15	教育活動外収支	収入	教育活動外収入計	10,032 (-)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	10,032 (100.0%)	
16		支出	教育活動外支出計	2,467 (-)	500 (20.3%)	3,247 (649.4%)	5,666 (174.5%)	
17	教育活動外収支差額	7,565 (-)	9,531 (126.0%)	6,785 (71.2%)	4,366 (64.3%)			
18	経常収支差額	156,438 (-)	136,622 (87.3%)	343,761 (251.6%)	235,740 (68.6%)			
19	特別収支	収入	特別収入計	73,891 (-)	23,108 (31.3%)	23,436 (101.4%)	22,273 (95.0%)	
20		支出	特別支出計	134,384 (-)	16,187 (12.0%)	44,277 (273.5%)	71,518 (161.5%)	
21		特別収支差額	△ 60,493 (-)	6,921 (△11.4%)	△ 20,841 (△301.1%)	△ 49,245 (△236.3%)		
22	基本金組入前当年度収支差額	95,945 (-)	143,543 (149.6%)	322,920 (225.0%)	186,495 (57.8%)			
23	基本金組入合計額	△ 486,089 (-)	△ 208,668 (42.9%)	△ 66,969 (32.1%)	△ 160,794 (240.1%)			
24	当年度収支差額	△ 390,144 (-)	△ 65,125 (16.7%)	255,951 (△393.0%)	25,701 (10.0%)			
25	前年度繰越収支差額	1,479,488 (-)	1,089,344 (73.6%)	1,025,219 (94.1%)	1,281,170 (125.0%)			
26	基本金取崩額	0 (-)	1,000 (-)	0 (-)	0 (-)			
27	翌年度繰越収支差額	1,089,344 (-)	1,025,219 (94.1%)	1,281,170 (125.0%)	1,306,871 (102.0%)			
【参考】								
28	事業活動収入計	5,136,605 (-)	5,099,500 (99.3%)	5,262,912 (103.2%)	5,200,944 (98.8%)			
29	事業活動支出計	5,040,660 (-)	4,955,957 (98.3%)	4,939,992 (99.7%)	5,014,449 (101.5%)			
30	減価償却額の合計	440,055 (-)	438,876 (99.7%)	613,077 (139.7%)	371,758 (60.6%)			

【注】 下段の () 内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

3 貸借対照表

学園全体

(単位：千円) (表Ⅲ-3-①)

	資 産 の 部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備 考
1	固定資産	27,743,821 (-)	27,916,532 (100.6%)	27,925,438 (100.0%)	28,084,370 (100.6%)		
2	有形固定資産	16,876,245 (-)	16,542,490 (98.0%)	16,340,943 (98.8%)	16,077,407 (98.4%)		
3	土地	1,615,181 (-)	1,615,181 (100.0%)	1,615,181 (100.0%)	1,615,181 (100.0%)		
4	建物	11,395,046 (-)	11,099,343 (97.4%)	10,830,620 (97.6%)	10,591,823 (97.8%)		
5	構築物	535,359 (-)	552,400 (103.2%)	520,925 (94.3%)	497,500 (95.5%)		
6	教育研究用機器備品	881,822 (-)	762,985 (86.5%)	805,261 (105.5%)	771,147 (95.8%)		
7	管理用機器備品	55,530 (-)	53,421 (96.2%)	47,716 (89.3%)	44,133 (92.5%)		
8	図書	2,391,521 (-)	2,458,454 (102.8%)	2,520,534 (102.5%)	2,556,917 (101.4%)		
9	車輛	1,786 (-)	706 (39.5%)	706 (100.0%)	706 (100.0%)		
10	建設仮勘定	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
11	特定資産	10,741,893 (-)	11,262,437 (104.8%)	11,482,624 (102.0%)	11,924,215 (103.8%)		
12	第2号基本金引当特定資産	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
13	第3号基本金引当特定資産	388,257 (-)	388,801 (100.1%)	389,988 (100.3%)	390,579 (100.2%)		
14	退職給与引当特定資産	807,000 (-)	810,000 (100.4%)	813,000 (100.4%)	813,000 (100.0%)		
15	減価償却引当特定資産	9,147,000 (-)	9,664,000 (105.7%)	9,880,000 (102.2%)	10,321,000 (104.5%)		
16	その他の特定資産他	399,636 (-)	399,636 (100.0%)	399,636 (100.0%)	399,636 (100.0%)		
17	その他の固定資産	125,683 (-)	111,605 (88.8%)	101,871 (91.3%)	82,748 (81.2%)		
18	電話加入権	4,789 (-)	4,789 (100.0%)	4,789 (100.0%)	4,789 (100.0%)		
19	ソフトウェア	67,170 (-)	57,420 (85.5%)	53,599 (93.3%)	38,441 (71.7%)		
20	ソフトウェア仮勘定	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
21	有価証券	31,348 (-)	30,804 (98.3%)	29,617 (96.1%)	29,026 (98.0%)		
22	長期貸付金	18,600 (-)	14,730 (79.2%)	11,898 (80.8%)	8,269 (69.5%)		
23	その他	3,776 (-)	3,862 (102.3%)	1,968 (51.0%)	2,223 (113.0%)		
24	流動資産	1,665,028 (-)	1,501,393 (90.2%)	1,564,325 (104.2%)	1,354,138 (86.6%)		
25	現金預金	1,448,154 (-)	709,387 (49.0%)	1,266,973 (178.6%)	1,076,794 (85.0%)		
26	未収入金	176,264 (-)	244,296 (138.6%)	266,663 (109.2%)	254,728 (95.5%)		
27	短期貸付金	25,829 (-)	20,317 (78.7%)	16,851 (82.9%)	14,668 (87.0%)		
28	有価証券	0 (-)	514,303 (-)	0 (-)	0 (-)		
29	その他	14,781 (-)	13,090 (88.6%)	13,838 (105.7%)	7,948 (57.4%)		
30	資 産 の 部 合 計	29,408,849 (-)	29,417,924 (100.0%)	29,489,763 (100.2%)	29,438,508 (99.8%)		

3 貸借対照表

学園全体

(単位：千円) (表Ⅲ-3-②)

負 債 の 部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備 考
1 固定負債	4,313,266 (-)	4,173,231 (96.8%)	4,018,418 (96.3%)	3,856,647 (96.0%)		
2 長期借入金	2,759,610 (-)	2,615,660 (94.8%)	2,459,710 (94.0%)	2,291,760 (93.2%)		
3 長期未払金	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
4 退職給与引当金	1,553,656 (-)	1,557,571 (100.3%)	1,558,708 (100.1%)	1,564,887 (100.4%)		
5 流動負債	1,706,790 (-)	1,764,432 (103.4%)	1,767,343 (100.2%)	1,746,512 (98.8%)		
6 短期借入金	312,210 (-)	323,950 (103.8%)	335,950 (103.7%)	347,950 (103.6%)		
7 未払金	327,528 (-)	384,127 (117.3%)	405,524 (105.6%)	393,820 (97.1%)		
8 前受金	920,876 (-)	910,471 (98.9%)	888,194 (97.6%)	865,733 (97.5%)		
9 預り金	146,176 (-)	145,884 (99.8%)	137,675 (94.4%)	139,009 (101.0%)		
10 負債の部合計	6,020,056 (-)	5,937,663 (98.6%)	5,785,761 (97.4%)	5,603,159 (96.8%)		
純 資 産 の 部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		備 考
11 基本金	25,298,329 (-)	25,624,891 (101.3%)	25,823,984 (100.8%)	26,136,291 (101.2%)		
12 第1号基本金	24,388,072 (-)	24,729,090 (101.4%)	24,926,996 (100.8%)	25,238,712 (101.3%)		
13 第2号基本金	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)		
14 第3号基本金	388,257 (-)	388,801 (100.1%)	389,988 (100.3%)	390,579 (100.2%)		
15 第4号基本金	522,000 (-)	507,000 (97.1%)	507,000 (100.0%)	507,000 (100.0%)		
16 繰越収支差額	△1,909,536 (-)	△2,144,630 (112.3%)	△2,119,982 (98.9%)	△2,300,942 (108.5%)		
17 翌年度繰越収支差額	△1,909,536 (-)	△2,144,630 (112.3%)	△2,119,982 (98.9%)	△2,300,942 (108.5%)		
18 純資産の部合計	23,388,793 (-)	23,480,261 (100.4%)	23,704,002 (101.0%)	23,835,349 (100.6%)		
19 負債及び純資産の部合計	29,408,849 (-)	29,417,924 (100.0%)	29,489,763 (100.2%)	29,438,508 (99.8%)		

[注] 下段の () 内は前年度比%を表す。

※2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

4 事業活動収支計算書関係比率一覧

大学・短期大学部

(単位：%) (表Ⅲ-4)

	比 率	算出方法	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度		2017年度全国平均	備 考
1	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	86.1	86.2	84.1	84.5		83.6	
2	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	7.8	8.2	8.3	7.7		7.2	
3	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	59.2	60.0	60.0	60.8		52.0	
4	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	68.7	69.6	71.4	71.9		62.2	
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.1	0.1		0.1	
6	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.6	28.9	25.4	26.8		33.5	
7	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.0	6.1	5.7	5.6		8.7	
8	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.0	8.9	7.5	7.5		12.3	
9	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	9.5	4.1	1.3	3.1		10.5	
10	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.9	2.5	6.4	4.5		4.5	
11	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	3.1	2.7	6.6	4.6		5.6	
12	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	108.4	101.3	95.1	99.5		105.3	

*1 全国平均は、「平成30年度版 今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)の平成29年度財務比率表(系統別)の大学部門を参照した(P545)。

*2015年度より学校法人会計基準が変更になった。

5 貸借対照表関係比率一覧

法人全体

(表Ⅲ-5-①)

	比 率	算 式 (×100)	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	全国平均	備 考
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	% 90.6	% 92.4	% 92.5	% 91.8	% 92.5	% 86.7	2004年度 % 90.5
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	9.4	7.6	7.5	8.2	7.5	13.3	9.5
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	9.3	8.4	8.1	11.2	15.0	7.2	12.9
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	6.1	6.6	5.8	6.2	6.8	5.4	7.7
5	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	84.7	85.0	86.1	82.6	78.2	87.4	79.4
6	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	-2.2	-3.1	-3.0	-3.6	-4.6	-12.2	-4.2
7	固 定 比 率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	107.0	108.7	107.5	111.2	118.3	99.2	114.0
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	96.4	98.9	98.3	97.9	99.3	91.7	98.1
9	流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	155.8	115.0	127.7	131.6	110.1	245.9	123.2
10	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	15.3	15.0	13.9	17.4	21.8	12.6	20.6
11	負 債 比 率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	18.1	17.7	16.2	21.1	27.9	14.4	26.0
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	139.9	101.6	85.0	163.3	213.2	327.9	187.6
13	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	51.8	52.2	52.0	52.2	52.3	67.1	54.0
14	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.9	100.0	100.0	96.5	92.4	97.1	96.4
15	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価格(図書を除く)}}$	42.6	44.2	46.1	43.2	39.9	48.0	32.3

- [注] 1. 総資金は負債＋基本金＋消費収支差額、自己資金は基本金＋消費収支差額をあらわす。
 2. 全国平均は日本私立学校振興・共済事業団の(H26年度版)「今日の私学財政」より、2013年度を対象とし、医歯系法人を除く大学法人の条件から算出した。
 3. 備考は2004年度(10年前)の比率である。

6 大学施設の外部への貸出状況

[2014～2018]

(表Ⅲ-6)

施設名等		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	備考 (主な使用目的)
チャペル	件数	7 件	9 件	1 件	0 件	0 件	コンサート
	金額	8,000 円	20,000 円	16,000 円	0 円	0 円	結婚式
教室	件数	0 件	4 件	3 件	3 件	2 件	札幌市職員採用試験、英語技能検定
	金額	0 円	1,178,064 円	1,962,144 円	1,614,384 円	870,264 円	聖徳大学通信教育部
体育館	件数	1 件	3 件	1 件	2 件	1 件	日本バレーボール協会 全国指導者講習会
	金額	1,079,179 円	0 円	50,000 円	1,231,358 円	50,000 円	選挙開票所
野球場	件数	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	
	金額	0 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
学生会館	件数	0 件	3 件	5 件	4 件	3 件	
	金額	0 円	262,000 円	314,500 円	219,100 円	368,500 円	
ゲストハウスA	件数	1 件	3 件	0 件	0 件	0 件	非常勤講師宿泊
	金額	0 円	9,000 円	0 円	0 円	0 円	
ゲストハウスB	件数	2 件	0 件	0 件	0 件	0 件	客員教授宿泊
	金額	29,000 円	0 円	0 円	0 円	0 円	
合計	件数	11 件	22 件	10 件	9 件	6 件	
	金額	1,116,179 円	1,469,064 円	2,342,644 円	3,064,842 円	1,288,764 円	

7 経常費補助金（一般補助）の推移状況

(1) 大学〔2014～2018〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-7-①)

項目	年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度								
専任教員給与費（算定基礎）	123人		115,981		121人		130,273		123人		106,864		128人		111,344		124人		119,184
教育研究経常費			82,334				72,243				70,558				73,773				63,368
研究旅費			1,416				1,591				1,304				1,359				1,455
専任職員給与費（算定基礎）	82人		47,766		81人		54,190		84人		45,180		84人		45,509		84人		49,959
非常勤教員給与費			7,981				8,938				7,314				7,656				8,115
教職員福利厚生費			22,326				22,815				23,279				23,731				23,973
非常勤教員福利厚生費			51				50				45				43				42
私立大学退職金財団掛金			27,801				27,369				27,127				28,217				27,979
厚生補導費			2,093				2,405				1,936				1,956				2,149
合計			307,749				319,874				283,607				293,588				296,224
〔対前年比〕			96.5%				103.9%				88.7%				103.5%				100.9%

(2) 短期大学部〔2014～2018〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-7-②)

項目	年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度								
専任教員給与費（算定基礎）	16人		19,529		16人		19,740		16人		16,005		18人		19,152		18人		21,994
教育研究経常費			15,677				11,925				10,468				10,569				11,859
研究旅費			280				283				229				275				315
専任職員給与費（算定基礎）	9人		8,923		11人		9,948		11人		8,068		12人		9,390		12人		10,823
非常勤教員給与費			1,608				1,609				1,305				1,569				1,809
教職員福利厚生費			2,502				2,744				2,732				3,026				3,122
非常勤教員福利厚生費			6				6				5				6				6
私立大学退職金財団掛金			3,226				3,239				3,183				3,513				3,701
厚生補導費			386				392				318				339				391
合計			52,137				49,886				42,313				47,839				54,020
〔対前年比〕			92.9%				95.7%				84.8%				113.1%				112.9%

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(1) 大学〔2014～2018〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-8-①)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
I. 成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成					
1. 成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成					
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	2,137	3,634			
1. 就職支援・就業力育成の充実	2,137	3,339			
2. 被災地への復興支援		295			
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育			4,529		
1. 地方に貢献する大学等への支援			4,529		
2. 医学部入学定員の増加		295	0		
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育				3,300	2,647
1. 地方に貢献する大学等への支援				3,000	2,365
2. 医学部入学定員の増加				0	0
3. 被災地の復興支援				300	282
II. 社会人の組織的な受入れへの支援	5,245	4,370	4,441	4,450	3,285
1. 正規学生としての受入れ	3,788	3,535	3,197	2,100	1,126
2. 多様な形態による受入れに対する支援	291	246	178	250	188
1 科目等履修生	291	246	178	250	188
2 専攻科・別科	0	0	0	0	0
3 履修証明プログラム	0	0	0	0	0
※ 学生等数に占める社会人学生等数の割合による増額	0	0	0	0	0
3. 社会人の受入れ環境整備への支援	1,166	589	1,066	2,100	1,971
III. 大学等の国際交流の基盤整備への支援	5,906	5,481	6,954	3,930	4,073
1. 大学等の国際交流の基盤整備への支援	5,906	5,481	6,954	3,930	4,073
1 海外からの学生の受入れ					
2 海外からの教員の招へい					
3 学生の海外派遣					
4 教員の海外派遣	5,906	5,481	6,954	3,930	4,073
5 大学等の教育研究環境の国際化に向けた取組み					
6 学生の視野を広げ、国際感覚を養う教育改革の取組					
7 実践的な語学力の習得や国際理解の推進					
8 クールジャパンを活用した日本文化の発信					
IV. 大学院等の機能の高度化への支援	1,943	2,455	2,398	2,726	1,783
1. 大学院における研究の充実	1,943	2,455	2,398	2,726	1,783
2. 研究施設運営支援	0	0	0	0	0
3. 大型設備等支援	0	0	0	0	0
4. 学内施設・設備の共同利用					
4. 私立大学研究ブランディング事業			0	0	0
5. 戦略的研究基盤形成支援	0	0	0	0	0
6. 産学連携の推進					
7. 大学間連携等による共同研究	0	0	0	0	0
8. 専門職大学院等	0	0	0	0	0
9. 法科大学院	0	0	0	0	0
10. 短大・高専における教育研究の充実	0	0	0	0	0
1 教育組織の高度化(専攻科)支援	0	0	0	0	0
2 研究支援	0	0	0	0	0
V. 未来経営戦略推進経費	0				
1. 教学改革推進のためのシステム構築・職員育成	0				
2. 持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組み	0				
3. 未来経営戦略推進経費	0				
4. 経営基盤強化に貢献する先進的な取組					
V. 経営強化等支援		0	0	0	0
1. 私立大学等経営強化集中支援事業		0	0	0	0
2. 未来経営戦略推進経費(継続分)		0	0	0	
VI. 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	4,410	3,660	10,990	16,030	19,870
1. 授業料減免事業支援経費	3,530			15,350	19,190
1. 授業料減免事業及び学生経済的支援体制の充実		2,980	10,310		
1. 授業料減免事業支援経費(熊本地震分)				0	0
2. 卓越した学生に対する授業料減免等事業	680	680	680	680	680
3. 学生の経済的支援体制等の充実	200				
4. 特色ある経済的支援方策	0	0	0	0	0
5. 私立大学奨学事業支援経費					

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(1) 大学〔2014～2018〕

(表Ⅲ-8-②)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
Ⅶ. 東日本大震災に係る支援	680	0	0	0	0
1. 授業料減免事業等支援経費（震災分）	680	0	0	0	0
2. 被災私立大学等復興特別補助	0	0	0	0	0
3. 被災私立大学等復興特別補助(福島県内の大学等)			0	0	0
Ⅶ. 平成28年度熊本地震からの復興支援			0	0	
1. 教育研究活動復旧費			0	0	
2. 授業料減免事業等支援(熊本地震分)			0		
Ⅶ. 平成30年7月豪雨等からの復興支援					0
1. 教育研究活動復旧費(平成30年7月豪雨等分)					0
2. 授業料減免事業等支援(平成30年7月豪雨等分)					0
Ⅶ. 平成30年北海道胆振東部地震からの復興支援					1,376
1. 教育研究活動復旧費(平成30年北海道胆振東部地震分)					1,080
2. 授業料減免事業等支援(平成30年北海道胆振東部地震分)					296
Ⅸ. 私立大学等改革総合支援事業	0	0	19,137	36,300	0
1. 建学の精神を生かした大学教育の質向上（大学教育質転換型）	0	0	11,632	20,300	0
2. 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり（地域特色型）	0	0	0	8,000	
2. 産業界との連携					0
3. 産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究（多様な連携型）	0	0	0	0	
3. 他大学との広域・分野連携					0
4. グローバル化への対応	0	0	7,505	8,000	0
5. プラットフォーム形成				0	0
特別補助 計	20,321	19,600	48,449	66,736	33,034
対前年度比	70.9%	96.5%	247.2%	137.7%	49.5%

※ 2013年度～2018年度は、一部項目の追加と統合がなされたため、当該年度に無い項目は「/」とする。

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(2) 短期大学部〔2014～2018〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-8-③)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
I. 成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成					
1. 成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成					
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	874	2,357			
1. 就職支援・就業力育成の充実	874	2,062			
2. 被災地への復興支援		295			
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育			3,996		
1. 地方に貢献する大学等への支援			3,996		
2. 医学部入学定員の増員			0		
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育				2,700	2,647
1. 地方に貢献する大学等への支援				2,400	2,365
2. 医学部入学定員の増加				0	0
3. 被災地の復興支援				300	282
II. 社会人の組織的な受入れへの支援	0	0	0	1,500	1,408
1. 正規学生としての受入れ	0	0	0	0	0
2. 多様な形態による受入れに対する支援	0	0	0	0	0
1 科目等履修生	0	0	0	0	0
2 専攻科・別科	0	0	0	0	0
3 履修証明プログラム	0	0	0	0	0
※ 学生等数に占める社会人学生等数の割合による増額	0	0	0	0	0
3. 社会人の受入れ環境整備への支援	0	0	0	1,500	1,408
III. 大学等の国際交流の基盤整備への支援	3,234	4,448	3,197	1,920	2,139
1. 大学等の国際交流の基盤整備への支援	3,234	4,448	3,197	1,920	2,139
1 海外からの学生の受入れ					
2 海外からの教員の招へい					
3 学生の海外派遣					
4 教員の海外派遣	3,234	4,448	3,197	1,920	2,139
5 大学等の教育研究環境の国際化に向けた取組み					
6 学生の視野を広げ、国際感覚を養う教育改革の取組					
7 実践的な語学力の習得や国際理解の推進					
8 クールジャパンを活用した日本文化の発信					
IV. 大学院等の機能の高度化への支援	466	471	426	540	507
1. 大学院における研究の充実	0	0	0	0	0
2. 研究施設運営支援	0	0	0	0	0
3. 大型設備等支援	0	0	0	0	0
4. 学内施設・設備の共同利用					
4. 私立大学研究ブランディング事業			0	0	0
5. 戦略的研究基盤形成支援	0	0	0	0	0
6. 産学連携の推進					
7. 大学間連携等による共同研究	0	0	0	0	0
8. 専門職大学院等	0	0	0	0	0
9. 法科大学院	0	0	0	0	0
10. 短大・高専における教育研究の充実	466	471	426	540	507
1 教育組織の高度化(専攻科)支援	0	0	0	0	0
2 研究支援	466	471	426	540	507
V. 未来経営戦略推進経費	0				
1. 教学改革推進のためのシステム構築・職員育成	0				
2. 持続的な大学改革を支える職員育成に係る取組み	0				
3. 未来経営戦略推進経費	0				
4. 経営基盤強化に貢献する先進的な取組					
V. 経営強化等支援		0	0	0	0
1. 私立大学等経営強化集中支援事業		0	0	0	0
2. 未来経営戦略推進経費(継続分)		0	0	0	

8 経常費補助金（特別補助）の推移状況

(2) 短期大学部〔2014～2018〕

(単位：千円)

(表Ⅲ-8-④)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
Ⅵ. 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	1,446	1,310	4,236	6,880	6,186
1. 授業料減免事業支援経費	960	/	/	6,880	5,900
1. 授業料減免事業及び学生経済的支援体制の充実	/	1,310	3,950	/	/
1. 授業料減免事業支援経費（熊本地震分）	/	/	/	0	0
2. 卓越した学生に対する授業料減免等事業	286	0	286	0	286
3. 学生の経済的支援体制等の充実	200	/	/	/	/
4. 特色ある経済的支援方策	0	0	0	0	0
5. 私立大学奨学事業支援経費	/	/	/	/	/
Ⅶ. 東日本大震災に係る支援	0	0	0	0	0
1. 授業料減免事業等支援経費（震災分）	0	0	0	0	0
2. 被災私立大学等復興特別補助	0	0	0	0	0
3. 被災私立大学等復興特別補助（福島県内の大学等）	/	/	/	/	/
Ⅷ. 平成28年度熊本地震からの復興支援	/	/	0	0	/
1. 教育研究活動復旧費	/	/	0	0	/
2. 授業料減免事業等支援（熊本地震分）	/	/	0	/	/
Ⅸ. 平成30年7月豪雨等からの復興支援	/	/	/	/	0
1. 教育研究活動復旧費（平成30年7月豪雨等分）	/	/	/	/	0
2. 授業料減免事業等支援（平成30年7月豪雨等分）	/	/	/	/	0
Ⅹ. 平成30年北海道胆振東部地震からの復興支援	/	/	/	/	0
1. 教育研究活動復旧費（平成30年北海道胆振東部地震分）	/	/	/	/	0
2. 授業料減免事業等支援（平成30年北海道胆振東部地震分）	/	/	/	/	0
私立大学等改革総合支援事業	0	0	18,105	8,000	0
1. 建学の精神を生かした大学教育の質向上（大学教育質転換型）	0	0	10,600	0	0
2. 特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり（地域特色型）	0	0	0	0	/
2. 産業界との連携	/	/	/	/	0
3. 産業界など多様な主体、国内外の大学等と連携した教育研究（多様な連携型）	0	0	0	0	/
3. 他大学との広域・分野連携	/	/	/	/	0
4. グローバル化への対応	0	0	7,505	8,000	0
5. プラットフォーム形成	/	/	/	0	0
特別補助 計	6,020	8,586	29,960	21,540	12,887
対前年度比	123.3%	142.6%	348.9%	71.9%	59.8%

※ 2013年度～2018年度は、一部項目の追加と統合がなされたため、当該年度に無い項目は「/」とする。

9 校地、校舎等の面積一覧〔2018年度〕

(5月1日現在)

(表Ⅲ-9)

		備 考
収 容 定 員	3,819 人	
校 地 面 積	76,344.21 m ²	校宅敷地含む
学生1人当面積	19.99 m ²	
校 舎 面 積	39,623.59 m ²	
学生1人当面積	10.38 m ²	
図 書 館	7,748.90 m ²	
学生1人当面積	2.03 m ²	
厚 生 施 設	5,640.97 m ²	大学会館及び学生交流会館
学生1人当面積	1.48 m ²	
体 育 館	5,657.11 m ²	
学生1人当面積	1.48 m ²	
運 動 場	38,851.79 m ²	野球場及びグラウンド
学生1人当面積	10.17 m ²	
そ の 他	- m ²	
学生1人当面積	- m ²	

10 講義室、演習室等の面積・規模一覧〔2018年度〕

(5月1日現在)

(表Ⅲ-10)

	室 数	総面積 (m ²)	収容人員 (人)	学生総数 (人)	在籍学生1人当 面積 (m ²)	備 考
講 義 室	54	7,101.79	5,338	4,366	1.627	
演 習 室	32	1,558.85	700	4,366	0.357	
実験・実習室等	14	964.02		4,366	0.221	
情報処理学習室	13	1,492.56	484	4,366	0.342	
語学学習施設	4	475.45	165	4,366	0.109	
学生自習室	0	0.00		4,366	0.000	
体 育 館	1	5,657.11				
チ ャ ペ ル	1	245.61	240	4,366	0.056	
講 堂	2	1,241.48	1,112	4,366	0.284	
ラーニング・commons	1	490.17		4,366	0.112	
合 計	122	19,227.04				

11 各講義室の面積・規模・使用状況一覧 [2018年度]

(表Ⅲ-11-①)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	図4 A	412.80	306	2	8%	1	4%	3	6%	プロジェクタ BD/DVD/CD/VHS/カセット OHC
2	図4 B	412.80	306	1	4%	0	0%	1	2%	プロジェクタ BD/DVD/CD/VHS/カセット OHC
3	A300	102.25	70	9	36%	9	36%	18	36%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
4	A301	88.40	44	9	36%	9	36%	18	36%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
5	A303	84.95	44	12	48%	10	40%	22	44%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
6	A305	367.29	344	16	64%	4	16%	20	40%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
7	A400	102.20	99	11	44%	15	60%	26	52%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
8	A401	185.57	141	12	48%	12	48%	24	48%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
9	A403	300.44	267	11	44%	15	60%	26	52%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
10	A404	90.00	80	11	44%	9	36%	20	40%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
11	A407	79.00	50	11	44%	18	72%	29	58%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
12	A408	125.00	110	12	48%	8	32%	20	40%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
13	A500	102.25	99	8	32%	12	48%	20	40%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
14	A501	247.43	138	11	44%	13	52%	24	48%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
15	A503	300.44	267	9	36%	9	36%	18	36%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
16	A504	70.12	50	15	60%	14	56%	29	58%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
17	A506	70.12	50	17	68%	17	68%	34	68%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
18	A507	79.00	50	12	48%	10	40%	22	44%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
19	A508	61.50	40	12	48%	16	64%	28	56%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
20	A509	63.50	40	17	68%	19	76%	36	72%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
21	A603	230.00	248	8	32%	12	48%	20	40%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
22	A605	86.25	64	11	44%	10	40%	21	42%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
23	A607	86.25	64	14	56%	13	52%	27	54%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
24	A702	75.00	50	19	76%	15	60%	34	68%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
25	A703	150.00	140	13	52%	11	44%	24	48%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
26	A704	75.00	50	18	72%	18	72%	36	72%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
27	A705	150.00	136	13	52%	8	32%	21	42%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット OHC
28	A706	61.50	40	9	36%	15	60%	24	48%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
29	A708	68.50	40	17	68%	15	60%	32	64%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
30	A709	79.00	50	13	52%	14	56%	27	54%	プロジェクタ DVD/CD/VHS/カセット
31	B301	76.50	50	7	28%	6	24%	13	26%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
32	B400	61.20	48	8	32%	9	36%	17	34%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
33	B401	76.50	50	19	76%	16	64%	35	70%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
34	B402	283.80	252	12	48%	10	40%	22	44%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット OHC
35	B403	73.50	50	13	52%	15	60%	28	56%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
36	B405	150.00	118	11	44%	10	40%	21	42%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット OHC
37	B500	190.50	157	18	72%	12	48%	30	60%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット OHC
38	B501	76.50	50	12	48%	16	64%	28	56%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
39	B502	93.50	70	12	48%	11	44%	23	46%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
40	B503	73.50	50	16	64%	13	52%	29	58%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
41	B504	97.20	70	11	44%	16	64%	27	54%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
42	B505	73.50	50	16	64%	15	60%	31	62%	プロジェクタ DVD/CD/MD/VHS/カセット
小計		5,732.76	4,492							

11 各講義室の面積・規模・使用状況一覧 [2018年度]

(表Ⅲ-11-②)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数(1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 使用率 (回)	後期 使用率 (%)	後期 使用率 (回)	後期 使用率 (%)	通年 使用率 (回)	通年 使用率 (%)	
43	B507	76.50	50	15	60%	12	48%	27	54%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ DVD/CD/MD/VHS/ｶｾｯﾄ
44	B607	69.10	50	15	60%	14	56%	29	58%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ DVD/CD/MD/VHS/ｶｾｯﾄ
45	B609	71.90	50	18	72%	13	52%	31	62%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ DVD/CD/MD/VHS/ｶｾｯﾄ
46	C400	308.75	240	17	68%	9	36%	26	52%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
47	C401	118.16	80	11	44%	18	72%	29	58%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
48	C402	165.91	90	16	64%	14	56%	30	60%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
49	C403	120.45	78	14	56%	15	60%	29	58%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
50	C500	244.09	150	11	44%	15	60%	26	52%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
51	C501	137.13	90	14	56%	11	44%	25	50%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
52	C502	230.57	150	15	60%	13	52%	28	56%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
53	C700	308.75	225	14	56%	12	48%	26	52%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
54	C701	79.13	50	16	64%	22	88%	38	76%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
55	C702	165.91	90	16	64%	12	48%	28	56%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
56	C703	78.59	50	16	64%	19	76%	35	70%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
57	C705	80.89	50	16	64%	13	52%	29	58%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
58	講堂	415.88	500	4	16%	5	20%	9	18%	ﾌﾟﾚｼﾞｪﾝﾀ BD/DVD/CD OHC
59	チャペル	189.00	180	0	0%	0	0%	0	0%	
小計		2,860.71	2,173							
計		8,593.47	6,665							

※ 使用率 (使用度数 ÷ 延教室数 × 100)、延教室数 (5講 × 5日 = 25)

12 各演習室等の面積・規模・使用状況一覧〔2018年度〕

(表Ⅲ-12)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数(1週間当教室使用回数)						備 考(設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	A 405	46.24	24	9	36%	8	32%	17	34%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
2	A 406	45.00	24	8	32%	9	36%	17	34%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
3	A 505	46.24	24	9	36%	5	20%	14	28%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
4	A 601	57.50	30	6	24%	7	28%	13	26%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
5	A 701	60.00	30	5	20%	6	24%	11	22%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
6	B 300	50.00	23	0	0%	0	0%	0	0%	テレビモニター VHS
7	B 600	52.00	23	16	64%	16	64%	32	64%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
8	B 601	48.90	24	6	24%	11	44%	17	34%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
9	B 602	49.00	23	14	56%	14	56%	28	56%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
10	B 603	46.10	24	12	48%	11	44%	23	46%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
11	B 604	49.00	23	8	32%	8	32%	16	32%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
12	B 605	46.10	24	12	48%	12	48%	24	48%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
13	B 606	49.00	23	12	48%	11	44%	23	46%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
14	B 608	49.00	23	15	60%	10	40%	25	50%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
15	B 610	52.00	23	8	32%	9	36%	17	34%	テレビモニター BD/DVD/CD/VHS
16	C 503	48.78	24	8	32%	7	28%	15	30%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
17	C 505	52.70	24	6	24%	7	28%	13	26%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
18	C 600	48.90	24	8	32%	13	52%	21	42%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
19	C 601	43.54	24	8	32%	10	40%	18	36%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
20	C 602	49.92	24	10	40%	11	44%	21	42%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
21	C 603	44.08	24	7	28%	9	36%	16	32%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
22	C 604	44.70	24	12	48%	11	44%	23	46%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
23	C 605	48.38	24	3	12%	7	28%	10	20%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
24	C 606	44.70	24	11	44%	12	48%	23	46%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
25	C 607	48.38	24	8	32%	12	48%	20	40%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
26	C 608	37.25	24	8	32%	8	32%	16	32%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
27	C 609	52.27	24	7	28%	9	36%	16	32%	プロジェクタ(インタラクティブ機能付) BD/DVD/CD OHC
28	C 610	42.47	20	13	52%	10	40%	23	46%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
29	C 611	47.75	24	9	36%	12	48%	21	42%	プロジェクタ BD/DVD/CD OHC
計		1,399.90	697							

※ 使用率(使用度数÷延教室数×100)、延教室数(5講×5日=25)

13 語学学習室の面積・規模・使用状況一覧〔2018年〕

(表Ⅲ-13)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	CALL第1	154.25	55	12	48%	11	44%	23	46%	
2	CALL第2	162.45	48	12	48%	15	60%	27	54%	
3	CALL第3	106.50	35	14	56%	13	52%	27	54%	
計		423.20	138							

※ 使用率 (使用度数 ÷ 延教室数 × 100)、延教室数 (5講 × 5日講 = 25)

14 情報実習室の面積・規模・使用状況一覧〔2018年度〕

(表Ⅲ-14)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数 (1週間当教室使用回数)						備 考 (設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	第1情報実習室	76.50	24	6	24.0	5	20.0	2	8.0	Lenovo TinkCentre M700z
2	第2情報実習室	93.30	30	5	20.0	3	12.0	4	16.0	Lenovo TinkCentre M700z
3	第3情報実習室	93.30	30	12	48.0	11	44.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
4	第4情報実習室	97.20	30	8	32.0	9	36.0	3	12.0	Lenovo TinkCentre M700z
5	第5情報実習室	150.00	72	7	28.0	13	52.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
6	第6情報実習室	159.40	60	14	56.0	12	48.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
7	第7情報実習室	159.40	60	12	48.0	11	44.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
8	第8情報実習室	159.40	24	10	40.0	12	48.0	5	20.0	Lenovo TinkCentre M700z
9	第9情報実習室	150.22	50	16	64.0	17	68.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
10	第10情報実習室	121.64	50	14	56.0	17	68.0	0	0.0	Lenovo TinkCentre M700z
11	第11情報実習室	121.64	44	9	36.0	11	44.0	1	4.0	iMac MB324J/A(44)
12	第12情報実習室	150.22	40	7	28.0	9	36.0	2	8.0	iMac MB324J/A(40)
計		1,532.22	514							

※ 使用率 (使用度数 ÷ 延教室数 × 100)、延教室数 (5講 × 5日 = 25)

15 実験・実習室等の面積・規模・使用状況一覧〔2018年度〕

(表Ⅲ-15)

	教室	面積 (㎡)	収容 人数 (人)	使用度数(1週間当教室使用回数)						備考(設置機材等)
				前期 (回)	使用率 (%)	後期 (回)	使用率 (%)	通年 (回)	使用率 (%)	
1	福祉臨床実習室	200.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	ベッド
2	社会調査実習室	46.24	-	0	0%	2	8%	2	4%	
3	デザイン設計実習室	102.25	-	4	16%	3	12%	7	14%	製図用机
4	生活支援実習室	150.83	-	1	4%	4	16%	5	10%	ベッド、調理実習器材
5	工作・作業室	53.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
6	実験室A	22.30	-	0	0%	0	0%	0	0%	
7	防音実験室	4.64	-	0	0%	0	0%	0	0%	
8	実験室B	22.30	-	0	0%	0	0%	0	0%	
9	実験室C	57.10	-	0	0%	0	0%	0	0%	
10	スタジオ	61.20	-	0	0%	0	0%	0	0%	
11	第1実験室	52.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
12	第2実験室	26.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
13	第3実験室	26.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
14	第4実験室	52.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
15	第5実験室	37.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
16	第6実験室	120.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
17	カウンセリング室A	13.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
18	カウンセリング室B	13.00	-	0	0%	0	0%	0	0%	
計		1,058.86	-							

※ 使用率(使用度数÷延教室数×100)、延教室数(5講×5日=25)

16 施設の耐久性等の状況〔2018年度〕

(表Ⅲ-16)

校舎名称	建築年月	築年月数	耐用年数	備考 (改修等の記録)
A 館	2002年 1月	17年 2月	60年	2015年 C館増築に伴う改修
B 館	1995年12月	23年 3月	60年	
C 館	2015年 2月	4年 1月	34年	
センター棟	1981年 9月	37年 6月	60年	1991年・2002年・2015年 改修
図書館・特別教室棟	1991年 2月	28年 1月	60年	1996年 エレベーター棟設置等に伴う解体改修
図書館	2003年 1月	16年 2月	47年	2003年 増築
エレベータ棟	1995年12月	23年 3月	40年	1995年 増築
第1研究室棟	1987年 2月	32年 1月	60年	1996年 用途変更に伴う改修
第2研究室棟	2002年 1月	17年 2月	60年	
大学会館	1986年 3月	33年 0月	60年	1994年 1階増築改修
大学会館	2002年 1月	17年 2月	60年	
体育館	2001年 1月	18年 2月	60年	
弓道場	1991年 9月	27年 6月	30年	
学生会館	1991年 9月	27年 6月	60年	
学生交流会館	2006年 2月	13年 1月	47年	
正門守衛所	2016年10月	2年 5月	34年	
居宅・ゲストハウス	1995年11月	23年 4月	24年	
倉庫(課外活動用)	2002年 3月	17年 0月	7年	
野球場倉庫	1993年12月	25年 3月	7年	
多目的グラウンド	2006年 2月	13年 1月	30年	
テニスコート	1994年 8月	24年 7月	30年	

17 情報システム事務室各種ハード・ソフト整備状況

[2016~2018]

(単位：円)

(表Ⅲ-17)

	2016年度	2017年度	2018年度	備 考
ハードの整備・充実状況	ファイアウォール装置及び迷 対策システムの更新	情報実習室及びCALL教 室機器更新	教室LAN制御機器更新	
ソフト充実件数 合計	20,408	0	0	
基本ソフト	20,408			
バージョンアップ	0	0	0	
経 費 合計	50,052,823	182,510,308	48,653,605	
ハード部分 小計	9,393,764	124,359,515	350,000	
購入代	9,393,764	124,359,515	350,000	
リース代	0	0	0	
ソフト部分 小計	12,571,183	23,076,000	12,042,040	
購入代	0	10,648,000	0	
リース代	12,571,183	12,428,000	12,042,040	
保守料	28,087,876	35,074,793	36,261,565	

18 各種教具の整備状況

〔2014～2018〕

(表Ⅲ-18)

	総数	購入年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	備 考 (設置・保管場所)
CD/MDラジカセ	4	1994年度～	0	0	0	0	0	教育支援課・非常勤講師控室
DVD/CDプレーヤー (移動型)	4	2002年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
OHC (移動ワゴン)	13	1996年度～	0	10	0	0	0	教育支援課
OHC (ポータブル)	5	2002年度～	0	3	0	0	0	教育支援課
液晶プロジェクター	3	1997年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
短焦点プロジェクター	3	2013年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
CD/カセットデッキ (持運び)	16	1980年度～	0	0	0	0	0	教育支援課・非常勤講師控室
移動型スクリーン	8		0	0	0	0	1	教育支援課
ストップウォッチ	12		0	0	0	0	0	教育支援課
スライド映写機	8	1972年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ビデオカメラ (VHS-C)	1	1992年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ビデオカメラ (デジタル)	2	2013年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ビデオデッキ (8ヘッド)	1	1995年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
テーブルベル	8		0	0	0	0	0	教育支援課
レーザーポインター	2	2013年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
TVコンバーター	3	1999年度～	0	0	0	0	0	教育支援課
ノート型パソコン	11	2005年度～	7	0	2	0	5	教育支援課
BDプレーヤー (持運び)	5	2012年度～	1	0	0	0	0	教育支援課
図書館4階A・B教室								
ビデオデッキ (DVD/VHS)	2	2003年度～	0	0	0	0	0	図書館4階A・B教室
カセットデッキ (教室設置)	2	1980年度～	0	0	0	0	0	図書館4階A・B教室
OHC (教室設置)	2	2018年度～					2	図書館4階A・B教室
設置型スクリーン	2	2018年度～					2	図書館4階A・B教室
BDプレーヤー	2	2018年度～					2	図書館4階A・B教室
A 館								
液晶プロジェクター(教室設置)	28	2002年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
設置型スクリーン	28	2002年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
DVD/CDプレーヤー	4	2002年度～	0	0	0	0	0	A305・403・503・603
ビデオデッキ (DVD/VHS)	28	2003年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
カセットデッキ	28	2002年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
OHC (教室設置)	5	2002年度～	0	0	0	0	0	大・中教室
B 館								
液晶プロジェクター(教室設置)	15	2009年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
テレビモニター	3	2009年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
ビデオデッキ (DVD/VHS)	19	2003年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
カセットデッキ	14	1996年度～	0	0	0	0	0	大・中・語学教室
OHC (教室設置)	5	1996年度～	0	1	0	0	0	大・中教室
C 館								
液晶プロジェクター(教室設置)	30	2015年度～		30	0	0	0	全教室 (C400・C500・C502・C700は2台)
設置型スクリーン	30	2015年度～		30	0	0	0	全教室 (C400・C500・C502・C700は2枚)
BDプレーヤー	26	2015年度～		26	0	0	0	全教室
OHC (教室設置)	12	2015年度～		12	0	0	0	大・中・語学教室
インタラクティブ機能	7	2015年度～		7	0	0	0	C503・505・601・603・605・607・609
ゼミ室 (A・B館)								
液晶テレビ	14	2016年度～			14	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)
BDプレーヤー	14	2016年度～			14	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)
ビデオデッキ (VHS)	14	1987年度～	0	0	0	0	0	全館演習室移動スタンド(HDMI・RGBケーブル付)

19 校庭等維持管理費の推移状況

[2014～2018]

(単位：千円)

(表Ⅲ-19)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	備 考
校 庭 関 係	10,561	8,274	11,448	10,962	10,298	
駐 車 場 関 係	5,566	5,753	9,710	11,988	12,400	
そ の 他	15	108	693	71	209	
合 計	16,142	14,135	21,851	23,021	22,907	

IV. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

1 専任教員の国内外研修者数及び研修費執行状況一覧

[2014～2018]

(表IV-1)

種別	学 部	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度			
		件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	件数	総額(円)	一人当たり 支給額(円)	
国外研修	半年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	1	1,766,928	1,766,928	1	1,876,130	1,876,130	0	-	-
		社会福祉学部	1	3,846,670	3,846,670	1	2,082,853	2,082,853	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	1	3,846,670	3,846,670	1	2,082,853	2,082,853	1	1,766,928	1,766,928	1	1,876,130	1,876,130	0	0	0
	一年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	1	3,505,460	3,505,460	1	3,699,659	3,699,659	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	1	3,310,627	3,310,627	0	-	-
		社会福祉学部	0	-	-	0	-	-	1	3,644,808	3,644,808	0	-	-	1	3,786,289	3,786,289
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	0	0	0	0	0	0	2	7,150,268	3,575,134	2	7,010,286	3,505,143	1	3,786,289	3,786,289
国内研修	半年	文 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		社会福祉学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一年	文 学 部	0	-	-	1	1,877,720	1,877,720	0	-	-	0	-	-	1	1,886,270	1,886,270
		経 済 学 部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-	0	-	-
		社会福祉学部	1	410,680	410,680	0	-	-	0	-	-	0	-	-	1	418,600	418,600
		短期大学部	0	-	-	0	-	-	0	-	-	1	194,200	194,200	1	1,928,390	1,928,390
		計	1	410,680	410,680	1	1,877,720	1,877,720	0	0	0	1	194,200	194,200	3	4,233,260	1,411,087

* 国外研修の「半年」の欄は、年度をまたぐ研修者も含まれる。

2 専任教員の国内外研修・研究専念者一覧

[2014～2018]

(表IV-2)

年度	学部	氏名・職名	種別	期間	研修先	研修機関	研究課題	備考
2014	社会福祉学部	栗山 隆 教授	国内研修	2014.4.1～ 2015.3.31	札幌市	北海道大学	①社会的用語問題のあり方に関する文献研究 ②施設養護におけるソーシャルワーク事例研究 ③児童養護施設退所者における当事者活動の意義と課題	
	社会福祉学部	嶋澤あかね 准教授	国外研修	2014.8.10～ 2015.8.9	米国・ペンシル ベニア州 Pennsylvania	Widener University	集団力動（グループ・ダイナミクス）に関する質的研究	
2015	文学部	江口 均 准教授	国内研修	2015.4.1～ 2016.3.31	国内	宮城学院女子大学	①教育英文法に関する研究 ②文法教授に関する論文著作	
2016	文学部	片岡 徹 准教授	国外研修	2016.4.5～ 2017.3.1	米国	マンチェスター大学	マンチェスター大学における平和学プログラムの開発史に関する調査研究	
	経済学部	浦野 真理子 教授	国外研修	2016.9.5～ 2017.3.11	インドネシア	環境自然保護熱帯研究 センター	インドネシアの油ヤシ農園の拡大が地域住民の食糧確保と食文化に及ぼす影響	
	社会福祉学部	中村 和彦 教授	国外研修	2016.4.8～ 2017.3.22	米国・カナダ	ダルハウジー大学	①ソーシャルワーク実践理論におけるレジエンス思考の具体的適用 ②カナダ・ノヴァスコシア州における精神障害者の地域生活支援体制・方法の把握・理解 ③カナダ・ノヴァスコシア州におけるソーシャルワーカー養成教育内容・方法の把握・理解	
2017	文学部	柳町 智治 教授	国外研修	2017.4.17～ 2018.3.15	フィンランド・ スイス	ヘルシンキ大学（フィン ランド）・バーゼル大学 （スイス）	(1) 第二言語を通して相互行為を組織する能力に関する研究 (2) 欧州における共通語としての英語の使用と評価に関する研究	
	経済学部	韓 文熙 教授	国外研修	2017.4.1～ 2017.9.12	スペイン	サン・パブロ大学	異文化理解と消費者行動、ブランド・マネジメント	
	経済学部	岡田 みさを 教授	国外研修	2017.4.17～ 2018.3.16	フィンランド・ スイス	ヘルシンキ大学（フィン ランド）・バーゼル大学 （スイス）	スポーツ練習会話における指示行動の形成一言語と身体動作による相互行為の観点から	
	短期大学部	ジャン・マウ ン 教授	国内研修	2017.4.1～ 2018.3.31	国内	札幌国際大学	シェイクスピアユニバーサルリズムについての生物学的視座を含めた見解の可能性を探索する	
2018	文学部	大島 寿美子 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.31	国内	東京大学大学院医学系 研究科	社会構造や相互行為現象の発露としての健康に関する研究	
	社会福祉学部	横山 穰 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.31	国内	北海道大学文学研究科	ソーシャルワーク実践におけるスピリチュアルケアの課題について	
	短期大学部	藤原 里佐 教授	国内研修	2018.4.1～ 2019.3.25	国内	同志社大学	知的障害者とその家族の高齢化ケアの担い手と生活の場の移行をめぐって	
	社会福祉学部	眞嶋 良全 准教授	国外研修	2018.4.8～ 2019.3.27	カナダ	トロント ウォーター ルー大学	日常的信念の形成と維持における二重過程思考と文化的マインドセットの関連性の研究	

3 専任教員のサバティカル一覧

[2014～2018]

(表IV-3)

年度	学部	氏名・職名	種別	期間	主な研修先等	取得目的	備考
2014	短期大学部	中村 浩 教授	サバティカル	2014.4.1～ 2014.9.15	イギリス、ベルギー	主たる研究領域のバイオロジカル・モーション及び錯視に関する研究	
2015	社会福祉学部	中川 純 教授	サバティカル	2015.9.16～ 2016.3.15	オーストラリア、米国、アイルランド、台湾	「障害者の一般就労移行の現状とそれを抑制する要因についてアメリカ、カナダ、オーストラリア、台湾の比較研究」	
	短期大学部	溝口 雅明 教授	サバティカル	2015.9.1～ 2016.2.29	道内外	「石炭産業、農工業を中心とした北海道産業遺産の調査研究」	
	短期大学部	竹村 雅史 教授	サバティカル	2015.4.1～ 2015.9.7	イギリス	「英国ロマン派詩人、ワーズワースに関する研究」	
2016	経済学部	浜 文章 教授	サバティカル	2016.9.1～ 2017.8.31	研究室、ニューヨーク、アイルランド、イギリス	「Saving Bank Recordsの分析およびIrish immigrant Society(New York)の設立趣意書の閲覧・入手・分析」	
	社会福祉学部	中田 知生 准教授	サバティカル	2016.9.1～ 2017.8.31	自宅	「高齢期の健康のソーシャルサポートに関する研究及び過疎地域における集落活動とソーシャルキャピタルに関する研究」	
	社会福祉学部	J.アリソン 教授	サバティカル	2016.9.11～ 2017.3.10	自宅	「北星学園創立130周年記念誌編集委員会での書物の研究と執筆」	
	社会福祉学部	トマス・ゲッツ 教授	サバティカル	2016.4.1～ 2016.9.10	アメリカ	「第二言語習得の研究方法及びオンラインの電子教材の開発並びに教材収集」	
2017	社会福祉学部	柴田 利男 教授	サバティカル	2017.4.1～ 2017.9.14	自宅	「これまでに蓄積されたデータの整理・統合と統計解析を進め論文化をはかる」	
2018	社会福祉学部	k. u. ネッシュテール 教授	サバティカル	2018.9.15～ 2019.3.14	欧州各国	「森林セラピーに関する国際比較研究。社会的インクルージョンを進める可能性や文化・社会の多様性を検討する」	

4 学部別専任教員の学会発表等の状況一覧

(1) 大学 [2014~2018]

(表IV-4-①)

学部・研究科	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		平均	
	学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外
文学部・文学研究科	34	16	29	10	16	8	15	9	24	10	23.6	10.6
経済学部・経済学研究科	34	8	27	2	24	17	19	16	28	23	26.4	13.2
社会福祉学部・社会福祉学研究科	60	17	55	18	51	21	46	12	49	18	52.2	17.2
計	128	41	111	30	91	46	80	37	101	51	102.2	41.0

(2) 短期大学部 [2014~2018]

(表IV-4-②)

短期大学部	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		平均	
	学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表		学会発表	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外	国内	国外
短期大学部	16	20	20	22	15	25	27	27	20	47	19.6	28.2

5 学部別非常勤講師出講状況一覧

(1) 大学 (2014～2018)

(表Ⅳ-5-①)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	平均
文学部	10名(9.2)	8名(6.5)	8名(6.1)	6名(5.8)	8名(6.2)	8名(6.75)
経済学部	13名(11.8)	15名(11.0)	16名(15.2)	15名(11.5)	11名(9.6)	14名(11.82)
社会福祉学部	18名(15.9)	16名(11.0)	15名(9.8)	19名(13.5)	18名(13.2)	17.2名(12.67)
全体	41名(36.9)	39名(28.5)	39名(31.1)	40名(30.8)	37名(29.0)	39.2名(31.24)

(2) 短期大学部 (2013～2017)

(表Ⅳ-5-②)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	平均
短期大学部	3名(1.2)	3名(1.2)	5名(3.9)	5名(4.7)	3名(3.2)	3.8名(2.85)

*括弧内は「講」の数

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

1 大学学部開講科目数等一覧〔2018年度〕

(1) 大学 2013～カリキュラム

(表V-1-①-i)

分野名	開設科目数	開設単位数	必要単位数			開講クラス数	総履修者数	1クラスあたりの履修者数	教員配置計				兼任依存率
			文	経	社				計	専任	兼任	兼任	
文学部	英文学科	115	239	80		263	6,334	24.1	73	31	3	39	53.4%
	共通英語科目	15	30	30		90	2,008	22.3	19	3	0	16	84.2%
	共通専門科目	22	46	14		35	1,647	47.1	17	12	1	4	23.5%
	言語文化コース	22	46	30		40	896	22.4	9	4	0	5	55.6%
	言語コミュニケーションコース	24	50	30		60	1,296	21.6	12	7	0	5	41.7%
	英語実技科目	24	48	0		30	402	13.4	11	5	0	6	54.5%
	言語教育科目	8	19	0		8	85	10.6	5	0	2	3	60.0%
	心理・応用コミュニケーション学科	79	186			117	3,391	29.0	43	25	4	14	32.6%
	心理コミュニケーション科目群	14	30	2		13	1,043	80.2	10	6	0	4	40.0%
	応用コミュニケーション科目群	20	42	2		18	947	52.6	16	9	2	5	31.3%
学科共通科目群	32	68	22		85	1,372	16.1	16	10	2	4	25.0%	
関連自由科目群	13	46	0		1	29	29.0	1	0	0	1	100.0%	
経済学部	経済学科(2013～2017)	76	248		64	103	4,206	40.8	74	58	2	14	18.9%
	入門科目	3	8		8	2	90	45.0	14	14	0	0	0.0%
	基礎科目	6	24		16	6	685	114.2	5	5	0	0	0.0%
	群科目	18	72		12	16	1,089	68.1	15	13	1	1	6.7%
	演習科目	3	10		10	45	498	11.1	15	15	0	0	0.0%
	選択科目	46	134		0	34	1,844	54.2	25	11	1	13	52.0%
	経済学科(2018)	102	256		68	11	894	81.3	16	14	0	2	12.5%
	入門科目	6	14		12	11	894	81.3	16	14	0	2	12.5%
	コース科目	46	118		24	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習科目	6	12		12	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	総合科目	40	104		4	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	認定科目	4	8		0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	経営情報学科	102	250		70	111	4,953	44.6	54	43	3	8	14.8%
	学科基礎科目	7	14		0	8	681	85.1	8	7	0	1	12.5%
	学科専門導入科目	7	14		0	9	824	91.6	9	8	0	1	11.1%
	学科実践能力科目	5	10		2	9	335	37.2	5	5	0	0	0.0%
	演習科目	4	12		6	34	430	12.6	13	11	2	0	0.0%
	論文科目	1	4		0	1	20	20.0	1	1	0	0	0.0%
	学科ユニット	48	100		0	48	2,648	55.2	16	11	0	5	31.3%
	学科関連ユニット	18	52		0	1	7	7.0	1	0	1	0	0.0%
	自由科目	12	44		0	1	8	8.0	1	0	0	1	100.0%
	経済法学科(2013～2017)	94	250		72	75	3,218	42.9	23	15	3	5	21.7%
	学科基礎科目	8	16		0	4	378	94.5	5	5	0	0	0.0%
	基礎力養成科目	10	20		0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習科目	3	12		0	32	324	10.1	18	10	3	5	27.8%
	学科ユニット科目	64	170		0	39	2,516	64.5	0	0	0	0	0.0%
	教職科目	9	32		0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
経済法学科(2018)	88	222		72	23	1,183	51.4	20	20	0	0	0.0%	
学科基礎科目	4	8		4	5	443	88.6	6	6	0	0	0.0%	
基礎力養成科目	2	4		0	13	139	10.7	10	10	0	0	0.0%	
演習科目	3	12		0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
コース科目	79	198		40	5	601	120.2	4	4	0	0	0.0%	

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラス 数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率	
			文	経	社				計	専 任	兼 担	兼 任		
社会福祉学部	福祉計画学科	92	232			68	84	3,923	46.7	30	22	1	7	23.3%
	福祉計画基盤科目	36	88			14	58	1,733	29.9	15	10	1	4	26.7%
	社会福祉士関係科目	37	80			10	21	2,011	95.8	14	11	0	3	21.4%
	社会福祉士基盤科目	20	44			0	10	203	20.3	5	4	0	1	20.0%
	社会福祉士・計画系科目	12	26			10	11	1,442	131.1	9	7	0	2	22.2%
	社会福祉士・臨床系科目	5	10			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	教職・社会教育主事関係科目	19	64			0	5	179	35.8	1	1	0	0	0.0%
	教職科目	13	46			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	社会教育主事科目	6	18			0	5	179	35.8	1	1	0	0	0.0%
	福祉臨床学科	117	273			74	131	5,176	39.5	77	37	1	39	50.6%
	福祉臨床基盤科目	14	27			16	20	1,122	56.1	13	8	1	4	30.8%
	福祉臨床展開科目	21	51			16	34	674	19.8	24	10	0	14	58.3%
	社会福祉士専門科目	33	73			0	50	2,983	59.7	27	12	0	15	55.6%
	精神保健福祉士専門科目	17	39			0	21	260	12.4	10	6	0	4	40.0%
	SSW専門科目	4	6			0	4	37	9.3	1	1	0	0	0.0%
	教育臨床専門科目	28	77			0	2	100	50.0	2	0	0	2	100.0%
	福祉心理学科(2013～2017)	61	137			66	83	3,182	38.3	43	30	1	12	27.9%
	基幹科目	12	30			32	45	629	14.0	12	9	0	3	25.0%
	基礎科目	7	14			4	4	300	75.0	4	2	0	2	50.0%
	臨床・健康科目	5	10			0	5	481	96.2	5	4	0	1	20.0%
	対人・社会科目	5	10			0	5	361	72.2	4	3	0	1	25.0%
	発達・教育科目	5	10			0	3	329	109.7	3	1	1	1	33.3%
	障害・援助科目	4	10			0	3	58	19.3	3	3	0	0	0.0%
	福祉心理教職関連科目	23	53			0	18	1,024	56.9	12	8	0	4	33.3%
	福祉心理学科(2018)	77	168			66	4	301	151	4	2	0	2	50.0%
	基幹科目	12	30			24	3	225	75.0	3	2	0	1	33.3%
	基礎心理科目	4	8			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	臨床心理学関連科目	9	18			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	社会的・臨床的スキル科目	4	9			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	対人・社会科目	9	18			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	発達・教育臨床科目	15	31			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉・医療科目	13	28			4	1	76	76.0	1	0	0	1	100.0%
	教育関連科目	11	26			0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
共通科目	人間科学	16	30	2	2	2	40	2,026	50.7	15	4	1	10	66.7%
	人文科学と人間	9	18	2	2	2	17	2,715	159.7	12	2	3	7	58.3%
	自然・科学技術・人間	10	20	2	2-4	2	22	1,702	77.4	6	1	1	4	66.7%
	社会と人間	13	26	2	2	2	15	1,871	124.7	13	2	6	5	38.5%
	地域と文化	16	34	2	2	2	26	2,975	114.4	15	4	3	8	53.3%
	宗教と文化	13	26	4	4	4	25	3,310	132.4	5	3	0	2	40.0%
	キリスト教文化	5	10	2	2	2	15	1,778	118.5	2	2	0	0	0.0%
	諸宗教文化	6	12	2	2	2	8	1,525	190.6	3	1	0	2	66.7%
	演習	2	4	0	0	0	2	7	3.5	1	1	0	0	0.0%
	演習科目	2	4	0	0	0	10	68	6.8	5	4	1	0	0.0%
	総合講義	4	8	0	0	0	4	783	195.8	4	0	3	1	25.0%
	キャリア関連科目	9	18	10	10	8-10	165	5,260	31.9	33	7	5	21	63.6%
	キャリア教育	2	4	2	2	0-2	6	1,013	168.8	4	0	2	2	50.0%
	日本語科目	2	4	4	4	4	100	2,092	20.9	14	5	0	9	64.3%
	情報科目	5	10	4	4	4	59	2,155	36.5	15	2	3	10	66.7%
	外国語	45	100	8	8-12	8	188	4,791	25.5	56	11	1	44	78.6%
教職	教職に関する科目	30	61				44	1,401	31.8	13	5	3	5	38.5%

(2) 短期大学部 英文2015～カリキュラム 生活創造2013～カリキュラム

(表V-1-②)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラ ス数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率
			英	生					計	専 任	兼 担	兼 任	
短期 大学 部	英文学科	82	140	57		206	5,616	27.3	51	21	1	29	56.9%
	必修科目	22	26	26		122	2,985	24.5	22	10	0	12	54.5%
	選択科目	38	72	14		44	1,070	24.3	18	5	1	12	66.7%
	選択必修科目	22	42	17		40	1,561	39.0	11	6	0	5	45.5%
	イングリッシュ・ハイヴルⅠ,Ⅱ	2	4	2		4	163	40.8	1	0	0	1	100.0%
	エクステンション・リーディングⅠ,Ⅱ	2	2	1		3	139	46.3	1	1	0	0	0.0%
	情報入門・情報活用	2	4	2		4	248	62.0	1	0	0	1	100.0%
	英語による講義	16	32	12		29	1,011	34.9	8	5	0	3	37.5%
	生活創造学科	66	134		42	88	2,470	28.1	39	13	0	26	66.7%
	共通必修科目	9	20		20	29	822	28.3	9	6	0	3	33.3%
選択科目	57	114		22	59	1,648	27.9	30	7	0	23	76.7%	
一 般 教 育 科 目	基礎教養科目	16	32	4	8	16	862	53.9	14	6	4	4	28.6%
	外国語科目	24	24	0	2	36	694	19.3	13	1	0	12	92.3%
	保健体育科目	2	2	0	0	4	122	30.5	1	0	1	0	0.0%
	キリスト教科目	2	4	0	4	2	193	96.5	1	0	1	0	0.0%

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

1 大学学部開講科目数等一覧〔2018年度〕

(1) 大学 ～2012カリキュラム

(表V-1-③-i)

分野名	開設科目数	開設単位数	必要単位数			開講クラス数	総履修者数	1クラスあたりの履修者数	教員配置計				兼任依存率	
			文	経	社				計	専任	兼任	兼任		
文学部	英文学科	117	243	80			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	共通英語科目	15	30	30			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	共通専門科目	22	46	14			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	言語文化コース	22	46	30			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	言語コミュニケーションコース	24	50	30			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	英語実技科目	26	52	0			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	言語教育科目	8	19	0			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	心理・応用コミュニケーション学科	79	186				0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	心理コミュニケーション科目群	14	30	2			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	応用コミュニケーション科目群	20	42	2			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科共通科目群	32	68	22			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
関連自由科目群	13	46	0			0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
経済学部	経済学科	102	300		66		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	入門科目	4	12		8		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	導入科目	4	8		4		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	基礎理論科目	9	36		16		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	コース科目	42	130		30		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	選択科目	27	68		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	自由科目	12	34		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習科目	4	12		8		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	経営情報学科	120	282		70		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科基礎科目	7	14		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科専門導入科目	7	14		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科実践能力科目	5	10		2		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習科目	4	14		6		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	論文科目	1	4		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科ユニット	52	104		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学科関連ユニット	32	78		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	自由科目	12	44		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	経済法学科	116	290		72		1	1	1.0	1	0	0	1	100.0%
	学科基礎科目	8	16		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習科目	5	16		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
学科ユニット科目	93	222		0		1	1	1.0	1	0	0	1	100.0%	
論文科目	1	4		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
教育科目	9	32		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
社会福祉学部	社会福祉学部共通科目						0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉計画学科	123	299		66		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学部共通科目	55	122		10		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉計画学科専門科目	35	92		16		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	関連自由科目	33	85		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉臨床学科	137	314		84		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学部共通科目	47	100		44		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉臨床学科専門科目	57	129		30		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	関連自由科目	33	85		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	福祉心理学科	120	281		74		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	学部共通科目	55	122		22		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
福祉心理学科専門科目	32	74		52		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
関連自由科目	33	85		0		0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	

(1) 大学 ～2012カリキュラム

(表V-1-③-ii)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラス 数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率	
			文	経	社				計	専 任	兼 担	兼 任		
共通科目	身体と心の科学	19	36	2	2	2	0	0	0.0	1	0	1	0	0.0%
	自然・科学技術・人間	12	24	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	社会と人間	12	24	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	歴史と地域	10	30	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	芸術と文化	13	26	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	宗教と文化	14	28	4	4	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	キリスト教文化	6	12	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	諸宗教文化	6	12	2	2	2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習	2	4	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	総合講義	5	10	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	講義	3	6	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	演習	2	4	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	キャリア教育	2	4	2	2	0-2	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	日本語科目	2	4	4	4	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	情報処理	5	10	4	4	4	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
外国語	44	96	8	8-12	8	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
教職	教職に関する科目	0	0	/	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%

(2) 短期大学部 英文～2012、2013～2014カリキュラム 生活創造～2012カリキュラム

(表V-1-④)

分野名	開設 科目 数	開設 単位 数	必要単位数			開講 クラス 数	総履修 者数	1クラス あたりの 履修者数	教員配置計				兼任依 存率	
			英	生					計	専 任	兼 担	兼 任		
短期大学部	英文学科 2013～2014	81	137	57	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	必修科目	21	25	25	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	選択科目	37	70	14	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	選択必修科目	23	42	18	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	英文学科 ～2012	82	135	55	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	必修科目	21	23	23	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	選択科目	39	72	14	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	選択必修科目	22	40	18	/	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	生活創造学科	67	134	/	40	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	共通必修科目	9	18	/	18	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
選択科目	58	116	/	22	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%	
一般科目教育	基礎教養科目	0	0	0	0	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	外国語科目	0	0	0	0	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	保健体育科目	0	0	0	0	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%
	キリスト教科目	0	0	0	0	/	0	0	0.0	0	0	0	0	0.0%

2 大学院開講数等一覧〔2018年度〕

社会福祉学研究科社会福祉学専攻（修士課程）

（表V-2-①）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存%
							専任	兼任	兼任	
基本科目	1	2	2	1	3	1	0	0	1	100.0
分野別研究	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.0
研究方法	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.0
関連領域	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.0
論文	3	12	8	9	12	9	9	0	0	0.0

社会福祉学研究科臨床心理学専攻（修士課程）

（表V-2-②）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存%
							専任	兼任	兼任	
研究	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0.0
特殊演習	1	4	4	4	5	4	4	0	0	0.0
演習	2	4	4	2	8	2	2	0	0	0.0
実習	4	9	4	4	17	15	15	0	0	0.0
特殊研究	13	26	8	13	67	13	9	0	4	30.8
研究方法	3	6	0	3	12	3	1	2	0	0.0
課題研究	3	10	6	10	13	10	10	0	0	0.0

社会福祉学研究科社会福祉学専攻（博士〔後期〕課程）

（表V-2-③）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存%
							専任	兼任	兼任	
研究	1	4	4	2	3	2	2	0	0	0.0
演習	1	4	8	1	1	1	1	0	0	0.0

文学研究科言語文化コミュニケーション専攻（修士課程）

（表V-2-④）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	総履修者数	計	教員配置計			兼任率 依存%
							専任	兼任	兼任	
言語文化研究	4	8	14	4	4	4	3	0	1	25.0
英語教育 コミュニケーション 研究	1	2		1	1	1	0	0	1	100.0
人間関係論 研究	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0.0
論文	2	6	8	2	2	2	2	0	0	0.0

経済学研究科経済学専攻（修士課程）

（表V-2-⑤）

科目群等	開講科目数	開講単位数	必要単位数	開講クラス数	履修者数 総	計	教員配置計			兼任率 依存%
							専任	兼任	兼任	
研究	21	42	20	21	29	21	21	0	0	0.0
特殊研究	0	0		0	0	0	0	0	0	0.0
演習	5	10	4	5	5	5	5	0	0	0.0
論文	3	6	6	7	7	7	7	0	0	0.0

※文学研究科は2018年度入学生がいないため、2015～2017年度入学生用カリキュラムで記載

※学部は開設科目で作成しているが大学院は開講しない科目も多いため、開講科目数一覧とする

3 教員免許状別取得者数一覧

[2014～2018]

(単位:人)

(表V-3)

種別	年度	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	平均	備考
中学社会	心コミ	3	5	3	3	4	3.6	
	経 済	6	3	3	14	5	6.2	
	(経営情報)	3	1	0	2	0	1.2	
	経済法	2	3	2	2	0	1.8	
	福祉計画	0	6	5	5	4	4.0	
	福祉臨床	9	9	9	7	8	8.4	
	(福祉心理)	5	3	1	3	1	2.6	
小 計		28	30	23	36	22	27.8	
中学英語	英 文	25	24	16	13	8	17.2	
小 計		25	24	16	13	8	17.2	
高校英語	英 文	32	32	19	20	9	22.4	
小 計		32	32	19	20	9	22.4	
高校地歴	経 済	4	3	2	11	6	5.2	
	(経営情報)	3	1	0	0	0	0.8	
	経済法			1	2	0	1.0	
小 計		7	4	3	13	6	6.6	
高校公民	心コミ	3	3	4	5	6	4.2	
	経 済	7	3	1	11	7	5.8	
	(経営情報)	1	2	0	2	0	1.0	
	経済法	6	2	4	4	0	3.2	
	福祉計画	2	6	5	6	6	5.0	
	福祉臨床	9	9	9	6	8	8.2	
	福祉心理	8	3	6	7	3	5.4	
小 計		36	28	29	41	30	32.8	
高校商業	経 済	0	0	0	0	0	0	
	経営情報	1	2	0	0	0	0.6	
小 計		1	2	0	0	0	0.6	
高校情報	経営情報	2	1	0	1	0	0.8	
小 計		2	1	0	1	0	0.8	
特別支援 学校	(福祉計画)	0	4	5	4	1	2.8	
	福祉臨床	9	8	9	7	8	8.2	
	福祉心理	6	4	6	4	2	4.4	
小 計		15	16	20	15	11	16.5	
合 計		146	136	110	139	86	132.8	

※ () 内学科学生は他学科カリキュラムを活用し、当該教科教員免許を取得している

4 定期試験受験率別授業科目数一覧〔2018年度〕

(表V-4)

大学共通

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	157	30.97%	
90	107	21.10%	
85	80	15.78%	
80	57	11.24%	
75	45	8.88%	
70	24	4.73%	
65	16	3.16%	
60	8	1.58%	
55	5	0.99%	
50	0	0.00%	
45	2	0.39%	
45%未満	6	1.18%	

文学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	196	52.97%	
90	73	19.73%	
85	49	13.24%	
80	21	5.68%	
75	13	3.51%	
70	7	1.89%	
65	6	1.62%	
60	2	0.54%	
55	1	0.27%	
50	1	0.27%	
45	0	0.00%	
45%未満	1	0.27%	

※大学共通科目には教職・国際科目は含まれない。

経済学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	133	42.22%	
90	53	16.83%	
85	43	13.65%	
80	27	8.57%	
75	23	7.30%	
70	12	3.81%	
65	7	2.22%	
60	6	1.90%	
55	2	0.63%	
50	2	0.63%	
45	2	0.63%	
45%未満	5	1.59%	

社会福祉学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	174	57.43%	
90	57	18.81%	
85	22	7.26%	
80	21	6.93%	
75	11	3.63%	
70	6	1.98%	
65	5	1.65%	
60	2	0.66%	
55	0	0.00%	
50	2	0.66%	
45	0	0.00%	
45%未満	3	0.99%	

短期大学部

受験率	科目数	対総数比	備考
95%以上	186	53.30%	
90	74	21.20%	
85	44	12.61%	
80	18	5.16%	
75	9	2.58%	
70	6	1.72%	
65	5	1.43%	
60	4	1.15%	
55	0	0.00%	
50	1	0.29%	
45	0	0.00%	
45%未満	2	0.57%	

5 履修登録者数別授業科目数一覧〔2018年度〕

(表V-5)

大学共通

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	1	0.17%	
301~350	6	1.02%	
251~300	5	0.85%	
201~250	15	2.54%	
151~200	15	2.54%	
101~150	17	2.88%	
51~100	57	9.64%	
41~50	36	6.09%	
31~40	84	14.21%	
21~30	185	31.30%	
11~20	78	13.20%	
1~10	92	15.57%	

391 1

文学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	1	0.27%	
151~200	2	0.54%	
101~150	12	3.24%	
51~100	20	5.41%	
41~50	15	4.05%	
31~40	30	8.11%	
21~30	71	19.19%	
11~20	157	42.43%	
1~10	62	16.76%	

370 1

経済学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	1	0.32%	
151~200	13	4.13%	
101~150	34	10.79%	
51~100	56	17.78%	
41~50	24	7.62%	
31~40	16	5.08%	
21~30	23	7.30%	
11~20	90	28.57%	
1~10	58	18.41%	

315 1

社会福祉学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	1	0.33%	
201~250	4	1.32%	
151~200	9	2.97%	
101~150	28	9.24%	
51~100	46	15.18%	
41~50	13	4.29%	
31~40	4	1.32%	
21~30	17	5.61%	
11~20	91	30.03%	
1~10	90	29.70%	

303 1

短期大学部

履修登録者数	科目数	対総数比	備考
401人以上	0	0.00%	
351~400	0	0.00%	
301~350	0	0.00%	
251~300	0	0.00%	
201~250	0	0.00%	
151~200	0	0.00%	
101~150	4	1.15%	
51~100	31	8.88%	
41~50	16	4.58%	
31~40	79	22.64%	
21~30	47	13.47%	
11~20	139	39.83%	
1~10	33	9.46%	

349 1

6 学籍異動状況〔2018年度〕

文学部 英文学科 学籍異動状況

(表V-6-①)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	126	0	-	0				2		2							0			1			1		
17	1年目	132	0	-	0	1		3			4				3			3						0		
	2年目	129	0	-	0	2		5	2		9			1		2		3						0		
16	1年目	141	0	-	0			2	1		3				2			2						0		
	2年目	139	0	-	0	1		1	2		4				2	1		3						0		
	3年目	149	0	13	0	1		1	1	10	1	14			1			1			1			1		
15	1年目	127	0	-	0	1					1				1			1						0		
	2年目	127	0	1	0	1			1	1	3				2			2						0		
	3年目	140	0	15	0	1		1	1	7	10				3			3			1			1		
	4年目	136	0	0	0	1				13	1	15			4			4						0		
	正規卒業者数(19.3)	91																								
	正規卒業率	66.9																								
14	1年目	143	0	-	0			1	1		1	3			1			1						0		
	2年目	142	0	0	0				2		1	3			3			3						0		
	3年目	155	0	16	0	2		1		7	1	11					1	1						0		
	4年目	154	0	0	0	3		1	1	17	1	23			1			1			1			1		
	正規卒業者数(18.3)	107																								
	正規卒業率	69.5																								
	5年目	45				6		3		1		10			3			3			1			1		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	34																									
13	4年目	133	0	0	0	1			1	21	23				1			1						0		
	正規卒業者数(17.3)	96																								
	正規卒業率	72.2																								
	6年目	2								1		1						0						0		
	18年9月卒業者数	1																								
19年3月卒業者数	0																									
12	4年目	133	0	0	0			1	1	10	12				2	1		3						0		
	正規卒業者数(16.3)	100																								
	正規卒業率	75.2																								
	7年目	1						1				1						0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	0																									
11	4年目	133	0	0	0					11	11							0						0		
	正規卒業者数(15.3)	94																								
	正規卒業率	70.7																								
	8年目	0										0						0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	0																									
合計			0	13	0	10	0	10	5	25	2	52	0	0	0	9	0	2	11	0	1	2	0	0	3	
18年度在籍者数	588	(5月1日現在)																								
卒業	18年9月卒業者数	1	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	125	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 学籍異動状況

(表V-6-②)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	112	0	-	0						0				1			1							0	
17	1年目	95	0	-	0					1	1				2		2	4			1			1		
	2年目	91	0	1	0	1			1		2				1		1	1	1	1				2		
16	1年目	107	0	-	0						0							0						0		
	2年目	108	0	1	0	1			2	1	4				1		1							0		
	3年目	111	0	4	0	1		3	2	1	8				2		2							0		
15	1年目	106	0	-	0						0				1		1					1		1		
	2年目	105	0	0	0						0						0							0		
	3年目	114	0	9	0				1		1				1		1							0		
	4年目	113	0	0	0			2	2	4	10					1		1						0		
	正規卒業者数(19.3)	93																								
	正規卒業率	82.3																								
14	1年目	103	0	-	0				2		2						0		1					1		
	2年目	102	0	0	0			2	1		3				2		2						1	1		
	3年目	106	0	7	0	2		1	2	1	6						0							0		
	4年目	106	0	0	0	2		3		4	9				1		1				1			1		
	正規卒業者数(18.3)	81																								
	正規卒業率	76.4																								
	5年目	23				9		2		1	12	1		1			2							0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	12																									
13	4年目	108	0	0	0	1		1		2	4	1					1					1		1		
	正規卒業者数(17.3)	95																								
	正規卒業率	88.0																								
	6年目	6				3				1	1	5			1		1							0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	3																								
12	4年目	122	0	0	0	1		1		3	1	6					0							0		
	正規卒業者数(16.3)	105																								
	正規卒業率	86.1																								
	7年目	4				2			2		4						0							0		
	18年9月卒業者数	1																								
	19年3月卒業者数	1																								
11	4年目	96	0	0	0			1	1	3	1	6			1		1				1			1		
	正規卒業者数(15.3)	74																								
	正規卒業率	77.1																								
	8年目	2									0						1	1						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	1																								
合計		0	5	0	16	0	7	7	7	4	41	1	0	1	4	2	1	9	0	1	1	0	0	2		
18年度在籍者数		462	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業者数	1	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	110	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

経済学部 経済学科 学籍異動状況

(表V-6-③)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	168	0	-	0				2		2				2	2		4						0		
17	1年目	176	0	-	0						0			1	1			2						0		
	2年目	174	0	0	0		1	1	1		3				2	2		4	1		1			1		
16	1年目	175	0	-	0				1		1				2	1		3						0		
	2年目	172	0	0	0	2		1	1		4				3			3				2		2		
	3年目	170	0	3	0	1		1		2	4				1			1	1		1			1		
15	1年目	165	0	-	0						0				1			1						0		
	2年目	165	1	0	0				2		2				1			1				1		1		
	3年目	169	0	6	0	1					1				1	1		2				1		1		
	4年目	166	0	0	0	2			1	2	5				1			1			1			1		
	正規卒業者数(19.3)	148																								
	正規卒業率	89.2																								
14	1年目	180	0	-	0	2			1		3				3			3						0		
	2年目	177	0	0	0				2		2	1			3	1		5	2		3			3		
	3年目	172	0	3	0						0				1			1				1		1		
	4年目	170	0	0	0					1	1				1			1						0		
	正規卒業者数(18.3)	156																								
	正規卒業率	91.8																								
	5年目	13				3			1		4			1				1						0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	7																									
13	4年目	172	0	0	0				2	1	3				1			1			1	1		2		
	正規卒業者数(17.3)	156																								
	正規卒業率	90.7																								
	6年目	3				1					1				1			1						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	0																								
12	4年目	156	0	0	0				4	3	7				2	1		3						0		
	正規卒業者数(16.3)	143																								
	正規卒業率	91.7																								
	7年目	0									0							0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	0																								
11	4年目	155	0	0	1	2				4	6				1			1						0		
	正規卒業者数(15.3)	138																								
	正規卒業率	89.0																								
	8年目	0									0							0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	0																								
合計		0	3	0	7	0	2	5	3	2	19	0	0	1	7	4	0	12	2	1	2	0	0	3		
18年度在籍者数	694	(5月1日現在)																								
卒業	18年9月卒業者数	0	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	155	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

経済学部 経営情報学科 学籍異動状況

(表V-6-④)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他		
18	1年目	120	0	-	0			2	1		3			1	1		1	3						0		
17	1年目	138	0	-	0						0				2			2			1			1		
	2年目	135	1	0	1			3			3			4	1			5	1		2			2		
16	1年目	121	0	-	0						0							0						0		
	2年目	123	1	0	1	1		1	1		3		1	5				6		1	3			4		
	3年目	115	0	2	0	3			2		5						1	1			1		1	2		
15	1年目	132	0	-	0						0				2			2			1			1		
	2年目	129	0	0	0				1		1			3		2		5						0		
	3年目	131	0	7	0						0			1				1			1			1		
	4年目	129	0	0	0	1				1	2							0						0		
	正規卒業生数(19.3)	122																								
	正規卒業率	94.6																								
14	1年目	110	0	-	0						0						1	1						0		
	2年目	109	0	0	0						0			3				3	2		2			3		
	3年目	108	0	5	0				1	1	2							0						0		
	4年目	108	0	0	0			1	1	2	4			2	1			3						0		
	正規卒業生数(18.3)	96																								
	正規卒業率	88.9																								
	5年目	9							1		1							0			1			1		
	18年9月卒業生数	3																								
19年3月卒業生数	2																									
13	4年目	105	0	0	0			1	1	2	4							0						0		
	正規卒業生数(17.3)	95																								
	正規卒業率	90.5																								
	6年目	4							1		1							0						0		
	18年9月卒業生数	1																								
	19年3月卒業生数	2																								
12	4年目	116	0	0	0				1	2	3			1				1			1			1		
	正規卒業生数(16.3)	102																								
	正規卒業率	87.9																								
	7年目	4				2				1	3			2				2			1			1		
	18年9月卒業生数	0																								
	19年3月卒業生数	0																								
11	4年目	116	1	0	0	1				1	1	3						0			1			1		
	正規卒業生数(15.3)	103																								
	正規卒業率	88.8																								
	8年目	0									0							0						0		
	18年9月卒業生数	0																								
	19年3月卒業生数	0																								
合計			1	2	1	6	0	5	4	2	1	18	0	0	1	7	1	2	11	1	0	5	0	1	6	
18年度在籍者数		516	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業生数	4	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業生数	126	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

経済学部 経済法学科 学籍異動状況

(表V-6-⑤)

入学年度		在籍								休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)				
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	130	0	-	0						0							0						0		
17	1年目	131	0	-	0						0				5			5						0		
	2年目	126	0	0	0						0				2			2						0		
16	1年目	134	0	-	0						0							0			1			1		
	2年目	133	0	0	0			1			1				2			2			1			1		
	3年目	134	0	4	0						0				1			1						0		
15	1年目	133	0	-	0	1					1							0						0		
	2年目	133	0	0	0	1		1	2		4				1	1		2						0		
	3年目	135	0	4	0				3	1	4				1		1	2			1			1		
	4年目	132	0	0	0	1		1	1	1	4	1				1		2						0		
	正規卒業者数(19.3)	105																								
	正規卒業率	79.5																								
14	1年目	130	0	-	0						0				1			1			1			1		
	2年目	128	0	0	0			1	1		2				2			2	1		1			2		
	3年目	125	0	1	0			3	1	2	6			1		1		2						0		
	4年目	123	0	0	0			5	4	2	1	12						1		1				1		
	正規卒業者数(18.3)	102																								
	正規卒業率	82.9																								
	5年目	19				1		1			1	3			1		1	2						0		
	18年9月卒業者数	3																								
19年3月卒業者数	8																									
13	4年目	114	0	0	0	1			1		2				1			1						0		
	正規卒業者数(17.3)	103																								
	正規卒業率	90.4																								
	6年目	1									0							0						0		
	18年9月卒業者数	1																								
	19年3月卒業者数	0																								
12	4年目	117	0	0	0				1		1							0						0		
	正規卒業者数(16.3)	109																								
	正規卒業率	93.2																								
	7年目	2				1				1	2							0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	1																								
11	4年目	106	0	0	0	2				1	3				1			1			1			1		
	正規卒業者数(15.3)	89																								
	正規卒業率	84.0																								
	8年目	1									0							0						0		
	18年9月卒業者数	1																								
	19年3月卒業者数	0																								
合計			0	4	0	3	0	2	1	1	2	9	1	0	1	3	2	0	7	0	0	0	0	0		
18年度在籍者数		545	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業者数	5	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	114	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

社会福祉学部 福祉計画学科 学籍異動状況

(表V-6-⑥)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死	その他	計	
18	1年目	98	0	-	0				2		2				1			1							0	
17	1年目	86	0	-	0						0				1			1							0	
	2年目	85	0	0	0	1		1			2					1		1							0	
16	1年目	103	0	-	0						0				1			1				1			1	
	2年目	101	0	0	0				1		1				1			1							0	
	3年目	105	0	5	0				1		1					1	1	2		1					1	
15	1年目	102	0	-	0						0							0							0	
	2年目	102	0	0	0			1			1			2		1	3									
	3年目	105	0	6	0	1					1					1	1								0	
	4年目	104	0	0	0				2		2							0							0	
	正規卒業生数(19.3)	91																								
正規卒業率	87.5																									
14	1年目	94	0	-	0						0				2			2				1			1	
	2年目	91	0	0	0				1		1				1			1				1			1	
	3年目	94	0	5	0				2		2							0					1		1	
	4年目	93	0	0	0				3		3						1	1				1			1	
	正規卒業生数(18.3)	79																								
	正規卒業率	84.9																								
	5年目	12				3				1	4							1								0
	18年9月卒業生数	3																								
19年3月卒業生数	5																									
13	4年目	103	0	0	0				1	3	4				2			2							0	
	正規卒業生数(17.3)	84																								
	正規卒業率	81.6																								
	6年目	2									0							0				1			1	
	18年9月卒業生数	0																								
19年3月卒業生数	1																									
12	4年目	92	1	0	0	1			1	1	3							0							0	
	正規卒業生数(16.3)	83																								
	正規卒業率	90.2																								
	7年目	0									0							0								0
	18年9月卒業生数	0																								
19年3月卒業生数	0																									
11	4年目	83	0	0	0					2	2							0							0	
	正規卒業生数(15.3)	76																								
	正規卒業率	91.6																								
	8年目	0									0							0								0
	18年9月卒業生数	0																								
19年3月卒業生数	0																									
合計			0	5	0	4	0	1	3	2	1	11	0	0	0	2	2	1	5	0	1	1	0	0	2	
18年度在籍者数		406	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業生数	3	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業生数	97	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

社会福祉学部 福祉臨床学科 学籍異動状況

(表V-6-⑦)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)									
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	88	0	-	1						0				1		1	2						0		
17	1年目	99	0	-	1			2			2							0						0		
	2年目	98	0	0	0			2	1		3			1	1			2	1		1			1		
16	1年目	88	0	-	0				1		1				1			1						0		
	2年目	87	0	0	0			1	1		2							0						0		
	3年目	90	0	3	0			2			2			1	1			2						0		
15	1年目	94	0	-	0						0							0			2			2		
	2年目	92	0	0	0						0			1				1	1		1			1		
	3年目	94	0	4	0			1	1		2							0			1			1		
	4年目	93	0	0	0			1	1	1	3				1			1						0		
	正規卒業者数(19.3)	85																								
	正規卒業率	91.4																								
14	1年目	91	0	-	0			1			1	1			2			3						0		
	2年目	88	0	0	0			1	1		2				3			3						0		
	3年目	87	0	2	0				1		1							0						0		
	4年目	87	0	0	0	1					1				2			2						0		
	正規卒業者数(18.3)	75																								
	正規卒業率	86.2																								
	5年目	10				2					2							0			1			1		
	18年9月卒業者数	3																								
19年3月卒業者数	5																									
13	4年目	94	0	0	0						0			1	1			2						0		
	正規卒業者数(17.3)	86																								
	正規卒業率	91.5																								
	6年目	1									0							0						0		
	18年9月卒業者数	1																								
	19年3月卒業者数	0																								
12	4年目	93	0	0	0				1		1				2			2						0		
	正規卒業者数(16.3)	88																								
	正規卒業率	94.6																								
	7年目	0									0							0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	0																								
11	4年目	89	1	0	0				1		1				2			2						0		
	正規卒業者数(15.3)	78																								
	正規卒業率	87.6																								
	8年目	0									0							0						0		
	18年9月卒業者数	0																								
	19年3月卒業者数	0																								
合計		0	3	1	2	0	5	2	1	0	10	0	0	2	3	1	1	7	1	0	2	0	0	2		
18年度在籍者数		380	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業者数	4	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	90	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

社会福祉学部 福祉心理学科 学籍異動状況

(表V-6-⑧)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)					除籍(外数)										
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	75	0	-	0				1		1				1			1							0	
17	1年目	70	0	-	0			1			1							0			2			2		
	2年目	69	0	0	0			2	1		3			1			1	2		1				1		
16	1年目	74	0	-	0			1		1	2							0						0		
	2年目	74	0	0	0			2		1	3			1	2		2	5			1			1		
	3年目	68	0	3	0			1			1						1	1						0		
15	1年目	62	0	-	0						0							0						0		
	2年目	62	0	0	0			2			2				1		1							0		
	3年目	64	0	3	0	1					1				1	1	2							0		
	4年目	61	0	0	0			2			2				1		1				1			1		
	正規卒業者数(19.3)	53																								
	正規卒業率	86.9																								
14	1年目	73	0	-	0						0				2		2				1			1		
	2年目	70	0	0	0	1				1	2				2		2						1	1		
	3年目	67	0	0	0	2					2				1		1							0		
	4年目	65	0	0	0	2		1	1		4	2					2							0		
	正規卒業者数(18.3)	58																								
	正規卒業率	89.2																								
	5年目	5						1		1	2						1	1						0		
	18年9月卒業者数	3																								
19年3月卒業者数	0																									
13	4年目	70	0	0	0			1	1	1	3			1			1							0		
	正規卒業者数(17.3)	62																								
	正規卒業率	88.6																								
	6年目	2						1			1						0							0		
	18年9月卒業者数	1																								
	19年3月卒業者数	0																								
12	4年目	75	0	0	0	1		1	1		3			2			2							0		
	正規卒業者数(16.3)	66																								
	正規卒業率	88.0																								
	7年目	1									0						0							0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	0																									
11	4年目	65	0	0	0			1			1			1			1							0		
	正規卒業者数(15.3)	62																								
	正規卒業率	95.4																								
	8年目	0									0						0							0		
	18年9月卒業者数	0																								
19年3月卒業者数	0																									
合計			0	3	0	0	0	5	4	0	1	10	0	0	0	3	0	3	6	0	1	1	0	0	2	
18年度在籍者数		281	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業者数	4	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	53	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学 全学部合計 学籍異動状況

(表V-6-⑨)

入学年度		在籍			休学(内数)							退学(外数)						除籍(外数)								
		計	再入学	転編入学	復学	経済的	家庭事	病	再考	留学	その他	計	経済的	家庭事	病	変更	意欲喪	その他	計	30未満	未登録	学費未納	死亡	その他	計	
18	1年目	917	0	0	1	0	0	2	8	0	0	10	0	0	1	7	2	2	12	0	0	1	0	0	1	
17	1年目	927	0	0	1	1	0	6	0	0	1	8	0	0	1	14	0	2	17	0	0	4	0	0	4	
	2年目	907	1	1	1	4	0	14	6	1	0	25	0	0	1	11	5	3	20	3	2	5	0	0	7	
16	1年目	943	0	0	0	0	0	3	3	0	1	7	0	0	0	6	1	0	7	0	0	2	0	0	2	
	2年目	937	1	1	1	5	0	7	8	0	2	22	0	0	2	16	1	2	21	0	1	7	0	0	8	
	3年目	942	0	37	0	6	0	8	6	11	4	35	0	0	1	5	2	3	11	1	1	3	0	1	5	
15	1年目	921	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	5	0	0	3	1	0	4	
	2年目	915	1	1	0	2	0	4	6	1	0	13	0	0	0	11	1	3	15	1	0	2	0	0	2	
	3年目	952	0	54	0	4	0	2	6	8	0	20	0	0	0	8	3	1	12	0	0	5	0	0	5	
	4年目	934	0	0	0	5	0	4	7	24	3	43	1	0	0	7	2	0	10	0	1	1	0	0	2	
	正規卒業者数(19.3)	788	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規卒業率	84.4																								
14	1年目	924	0	0	0	2	0	2	4	0	1	9	1	0	0	11	0	1	13	0	1	3	0	0	4	
	2年目	907	0	0	0	1	0	4	8	0	2	15	1	0	0	19	1	0	21	5	0	7	1	1	11	
	3年目	914	0	39	0	6	0	5	7	11	1	30	0	0	1	2	1	1	5	0	0	1	0	1	2	
	4年目	906	0	0	0	8	0	11	10	26	2	57	2	0	0	8	1	1	12	0	1	3	0	0	4	
	正規卒業者数(18.3)	754	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	正規卒業率	83.2																								
	5年目	136	0	0	0	24	0	7	1	3	3	38	1	0	3	4	1	1	10	0	1	2	0	0	3	
	18年9月卒業者数	15																								
19年3月卒業者数	73																									
13	4年目	899	0	0	0	3	0	3	6	27	4	43	1	0	1	6	1	0	9	0	1	1	1	0	3	
	正規卒業者数(17.3)	777																								
	正規卒業率	86.4																								
	6年目	21	0	0	0	4	0	1	1	2	1	9	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	
	18年9月卒業者数	5																								
	19年3月卒業者数	6																								
12	4年目	904	1	0	0	3	0	3	9	20	1	36	0	0	0	7	2	0	9	0	0	1	0	0	1	
	正規卒業者数(16.3)	796																								
	正規卒業率	88.1																								
	7年目	12	0	0	0	5	0	1	2	0	2	10	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	0	0	1	
	18年9月卒業者数	1																								
19年3月卒業者数	2																									
11	4年目	843	2	0	1	5	0	2	2	22	2	33	0	0	0	6	0	0	6	0	0	3	0	0	3	
	正規卒業者数(15.3)	714																								
	正規卒業率	84.7																								
	8年目	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	18年9月卒業者数	1																								
19年3月卒業者数	1																									
合計			1	38	2	48	0	37	31	41	13	170	2	0	6	38	12	10	68	4	5	14	0	1	20	
18年度在籍者数		3872	(5月1日現在)																							
卒業	18年9月卒業者数	22	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																							
	19年3月卒業者数	870	事由の内訳については延人数で表記																							

6 学籍異動状況〔2018年度〕

短期大学部 英文学科 学籍異動状況

(表V-6-⑩)

入学年度		在籍			休学(内数)						退学(外数)						除籍(外数)								
		計	再入 学	転編 入学	復 学	経 済 的	家 庭 事	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計
18	1年目	137	0	-	0			1	3	1	5	1			3	1	1	6		1				1	
17	1年目	134	0	-	0				2		2				1	1		2		1	2			3	
	2年目	129						3	5	8								0						0	
	正規卒業生数(19.3)	120																							
	正規卒業率	93.0																							
16	1年目	137	0	-	0			1	2	3				3				3			1			1	
	2年目	133				2		2	4	1	9			4		1		5						0	
	正規卒業生数(18.3)	120																							
	正規卒業率	90.2																							
	3年目	8				2	1	2	5	1							1	2						0	
	18年9月卒業生数	1																							
	19年3月卒業生数	3																							
15	2年目	142				3			12	15	1							1			1			1	
	正規卒業生数(17.3)	121																							
	正規卒業率	85.2																							
	4年目	3	0	0	0			1	1	2				1				1						0	
	18年9月卒業生数	0																							
	19年3月卒業生数	1																							
14	2年目	126	0	0	0	2			5	7				2				2						0	
	正規卒業生数(16.3)	116																							
	正規卒業率	92.1																							
	5年目	1								0								0						0	
	18年9月卒業生数	1																							
	19年3月卒業生数	0																							
13	2年目	138	0	0	0		1	3	3	7								0		1	2			3	
	正規卒業生数(15.3)	128																							
	正規卒業率	92.8																							
	6年目	0								0								0						0	
	18年9月卒業生数	0																							
19年3月卒業生数	0																								
12	2年目	127	0	0	0	1	2	1	2	6				4				4			1			1	
	正規卒業生数(14.3)	115																							
	正規卒業率	90.6																							
	7年目	0								0								0						0	
	18年9月卒業生数	0																							
	19年3月卒業生数	0																							
合計		0	0	0	2	0	2	6	9	1	20	2	0	0	4	1	2	9	0	1	0	0	0	1	
18年度在籍者数		278	(5月1日現在)																						
卒業	18年9月卒業生数	2	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																						
	19年3月卒業生数	124	事由の内訳については延人数で表記																						

6 学籍異動状況〔2018年度〕

短期大学部 合計 学籍異動状況

(表V-6-⑫)

入学年度		在籍										休学(内数)										退学(外数)										除籍(外数)				
		計	再入 学	転編 入学	復学	経済 的	家庭 的	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経済 的	家庭 的	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計											
																										計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
18	1年目	226	0	0	0	0	0	1	3	1	0	5	1	0	0	3	1	1	6	0	1	0	0	0	1											
17	1年目	228	0	0	0	0	0	2	3	0	0	5	0	0	0	1	1	0	2	0	1	3	0	0	4											
	2年目	222	0	0	0	2	0	2	3	5	1	13	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	0	0	2											
	正規卒業生数(19.3)	205																																		
	正規卒業率	92.3																																		
16	1年目	235	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3	0	0	0	3	0	0	3	0	0	1	0	0	1											
	2年目	231	0	0	0	2	0	0	2	5	1	10	0	0	0	4	0	1	5	0	0	0	0	0	0											
	正規卒業生数(18.3)	216																																		
	正規卒業率	93.5																																		
	3年目	10	0	0	0	2	0	1	0	2	0	5	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0											
	18年9月卒業生数	2																																		
19年3月卒業生数	4																																			
15	2年目	242	0	0	0	3	0	0	0	14	0	17	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1											
	正規卒業生数(17.3)	215																																		
	正規卒業率	88.8																																		
	4年目	5	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0											
	18年9月卒業生数	1																																		
19年3月卒業生数	1																																			
14	2年目	222	0	0	0	2	0	1	0	5	0	8	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0											
	正規卒業生数(16.3)	208																																		
	正規卒業率	93.7																																		
	5年目	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0											
	18年9月卒業生数	1																																		
19年3月卒業生数	0																																			
13	2年目	206	0	0	0	0	0	2	3	3	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3											
	正規卒業生数(15.3)	193																																		
	正規卒業率	93.7																																		
	6年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0											
	18年9月卒業生数	0																																		
19年3月卒業生数	0																																			
12	2年目	216	0	0	0	1	0	2	3	2	0	8	0	0	0	6	0	0	6	0	0	2	0	0	2											
	正規卒業生数(14.3)	197																																		
	正規卒業率	91.2																																		
	7年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0											
	18年9月卒業生数	0																																		
19年3月卒業生数	0																																			
合計			0	0	0	4	0	5	6	9	2	26	2	0	0	4	1	4	11	0	1	2	0	0	3											
18年度在籍者数		464	(5月1日現在)																																	
卒業	18年9月卒業生数	4	(注) 休学・退学・除籍の計は実人数																																	
	19年3月卒業生数	210	事由の内訳については延人数で表記																																	

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（社会福祉学専攻 社会福祉学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑬）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）										
		計	再入 学	転編入 学	復学	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 慮	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
18	1年目	0	0	-	0						0							0						0		
17	1年目	4	0	-	0						0							0						0		
	2年目	4									0							0						0		
	正規修了者数	3																								
	正規修了率	75.0																								
16	2年目	3	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	3年目	2								1	1							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	2																								
15	2年目	2									0							0						0		
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
	4年目	2								1	1							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	1																								
14	2年目	3	0	0	0						0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	33.3																								
	5年目	2								1	1						1	1						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
13	2年目	5	0	0	0					2	2							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	40.0																								
	6年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0		
18年度在籍者数		10	(5月1日現在)																							
修了	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	6																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（社会福祉学専攻 臨床心理学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-14）

入学年度		在籍			休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）									
		計	再入 学	転編入 学	復学	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 慮	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
18	1年目	4	0	-	0						0							0						0		
17	1年目	5	0	-	0						0							0						0		
	2年目	5									0							0						0		
	正規修了者数	5																								
	正規修了率	100.0																								
16	2年目	4	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	50.0																								
	3年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
15	2年目	5									0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	40.0																								
	4年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
14	2年目	2	0	0	0						0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	100.0																								
	5年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
13	2年目	3	0	0	0						0							0						0		
	正規修了者数	3																								
	正規修了率	100.0																								
	6年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
18年度在籍者数		9	(5月1日現在)																							
修了	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	5																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（文学研究科 言語文化コミュニケーション専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑮）

入学年度		在籍		休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）										
		計	再入 学	転編入 学	復学	経 済 的	家 庭 事	病 気	再 考	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
18	1年目	0	0	-	0						0				0			0						0		
17	1年目	1	0	-	0						0							0						0		
	2年目	1									0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	100.0																								
16	2年目	5	0	-	0						0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	20.0																								
	3年目	0								0	0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
15	2年目	2									0							0						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	50.0																								
	4年目	1								1	1						1	1						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
14	2年目	3	0	0	0						0	1						1						0		
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	33.3																								
	5年目	0									0							0								
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
13	2年目	2	0	0	0						0							0						0		
	正規修了者数	2																								
	正規修了率	100.0																								
	6年目	0									0							0						0		
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0		
18年度在籍者数		2	(5月1日現在)																							
修了	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	1																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（経済学研究科 経済学専攻 修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑯）

入学年度		在籍			休学（内数）						退学（外数）						除籍（外数）									
		計	再入 学	転編入 学	復学	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 慮	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
18	1年目	3	0	-	0						0					2			2						0	
17	1年目	1	0	-	0						0							0							0	
	2年目	1								0	0								0						0	
	正規修了者数	0																								
	正規修了率	0.0																								
16	2年目	1	0	-	0						0							0							0	
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	100.0																								
	3年目	1									0							0							0	
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	1																								
15	2年目	1									0							0							0	
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	100.0																								
	4年目	0									0							0							0	
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
14	2年目	1	0	0	0						0							0							0	
	正規修了者数	1																								
	正規修了率	100.0																								
	5年目	0									0							0							0	
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
13	2年目	4	0	0	0						0							0							0	
	正規修了者数	4																								
	正規修了率	100.0																								
	6年目	0									0							0							0	
	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	0																								
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
18年度在籍者数		5	(5月1日現在)																							
修了	18/9修了者数	0																								
	19/3修了者数	1																								

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（修士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑰）

入学年度		在籍		休学（内数）							退学（外数）						除籍（外数）						
		計	再入 学	転編入 学	復学	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	再 考 学	留 学 他	計	経 済 的	家 庭 事 務	病 気	変 更	意 欲 喪	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他
18	1年目	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
17	1年目	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2年目	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規修了者数	9																					
	正規修了率	81.8																					
16	2年目	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規修了者数	4																					
	正規修了率	30.8																					
	3年目	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18/9修了者数	0																					
	19/3修了者数	3																					
15	2年目	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規修了者数	4																					
	正規修了率	40.0																					
	4年目	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	18/9修了者数	0																					
	19/3修了者数	1																					
14	2年目	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	正規修了者数	5																					
	正規修了率	55.6																					
	5年目	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	18/9修了者数	0																					
	19/3修了者数	0																					
13	2年目	14	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正規修了者数	11																					
	正規修了率	78.6																					
	6年目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18/9修了者数	0																					
	19/3修了者数	0																					
合計			0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	2	0	2	4	0	0	0	0	0
18年度在籍者数		26	（5月1日現在）																				
修了	18/9修了者数	0	※00年度から社会福祉学研究科開設（2修士課程）、文学研究科（社会福祉学専攻）募集停止																				
	19/3修了者数	13	※01年度から文学研究科（言語文化）、経済学研究科開設																				

（注）休学・退学・除籍の計は実人数

事由の内訳については延人数で表記

6 学籍異動状況〔2018年度〕

大学院（社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士課程）学籍異動状況

（表V-6-⑱）

入学年度		在籍									休学（内数）					退学（外数）					除籍（外数）					
		計	再入 学	転編 入学	復学	経済 的	家庭 事	病 気	再考 学	留 学	そ の 他	計	経 済 的	家 庭 事	病 気	変 更	意 欲 喪 失	そ の 他	計	30 未 満	未 登 録	学 費 未 納	死 亡	そ の 他	計	
18	1年目	3	0	-	0						0							0						0		
17	1年目	0	0	-	0						0							0						0		
	2年目	0																								
16	1年目	1	0	-	0						0							0						0		
	2年目	1																								
	3年目	1																								
	正規修了者 (19/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (19/3)	1																								
	満期単位修得率	100.0%																								
15	3年目	2																								
	正規修了者 (18/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (17/3)	0																								
	満期単位修得率	0.0%																								
	4年目	0																								
	単位修得満期 退学者数 (19/3)	0																								
14	3年目	3																								
	正規修了者 (17/3)	0																								
	正規修了者率	0.0%																								
	単位修得満期 退学者数 (17/3)	0																								
	満期単位修得率	0.0%																								
	5年目	0																								
単位修得満期 退学者数 (19/3)	0																									
13	3年目	0	0	0	0						0							0						0		
	正規修了者 (16/3)	0																								
	正規修了者率	-																								
	単位修得満期 退学者数 (16/3)	0																								
	満期単位修得率	-																								
	6年目	0																								
単位修得満期 退学者数 (19/3)	0																									
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
18年度在籍者数		4	(5月1日現在)																							
	正規修了者	0																								
	単位修得満期 退学者数 (19/3)	1																								
	単位修得満期 退学者数 (18/3)	3																								
	単位修得満期 退学者数 (17/3)	1																								
	単位修得満期 退学者数 (16/3)	1																								
	単位修得満期 退学者数 (15/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (14/3)	0																								
	単位修得満期 退学者数 (13/3)	3																								
	単位修得満期 退学者数 (12/3)	3																								
	博士号授与 (14/3/14)	1																								
	博士号授与 (13/9/30)	1																								
	博士号授与 (12/3/15)	3																								
	博士号授与 (11/3/15)	2																								
	博士号授与 (07/3/15)	1																								
	博士号授与 (04/9/30)	1																								

(注) 休学・退学・除籍の計は実人数
事由の内訳については延人数で表記

7 修学指導対象者の対応状況

(1) 大学 [2014～2018]

(表V-7-①)

			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	平均
文学部	英文学科	対象者	68	96	83	77	81	81.0
		対応者	58	77	59	48	52	58.8
	心理・応用コミュニケーション学科	対象者	90	79	79	82	91	84.2
		対応者	50	44	47	35	46	44.4
経済学部	経済学科	対象者	170	116	137	147	188	151.6
		対応者	90	75	88	77	111	88.2
	経営情報学科	対象者	99	82	82	117	123	100.6
		対応者	59	49	42	70	79	59.8
	経済法学科	対象者	114	97	113	116	94	106.8
		対応者	63	59	60	48	60	58.0
社会福祉学部	福祉計画学科	対象者	100	80	96	81	59	83.2
		対応者	75	40	52	41	31	47.8
	福祉臨床学科	対象者	53	27	53	49	56	47.6
		対応者	41	19	28	30	38	31.2
	福祉心理学科	対象者	40	20	29	42	59	38.0
		対応者	19	12	20	26	42	23.8
合計	対象者	734	597	672	711	751	693.0	
	対応者	455	375	396	375	459	412.0	

(2) 短期大学部 [2014～2018]

(表V-7-②)

			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	平均
短期大学部	英文学科	対象者	17	36	33	34	35	31.0
		対応者	11	30	19	20	24	20.8
	生活創造学科	対象者	12	15	11	27	11	15.2
		対応者	7	7	3	13	4	6.8
合計	対象者	29	51	44	61	46	46.2	
	対応者	18	37	22	33	28	27.6	

8 入学前の既修得単位等の認定状況一覧〔2018年度〕

(1) 大学

(表V-8-①)

		1年次					2年次				3年次								
		10 単 位 以 下	11 ～ 15 単 位	16 ～ 20 単 位	21 ～ 25 単 位	26 ～ 30 単 位	合 計	30 単 位 以 下	31 ～ 35 単 位	36 ～ 40 単 位	合 計	40 単 位 以 下	41 ～ 45 単 位	46 ～ 50 単 位	51 ～ 55 単 位	56 ～ 60 単 位	61 ～ 65 単 位	66 ～ 70 単 位	71 ～ 72 単 位
文 学 部	英文学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.08	12 0.92	13 1.00
	心理・応用コミュニケーション学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.25	3 0.75	4 1.00
経 済 学 部	経済学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 1.00	3 1.00
	経営情報学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 1.00	2 1.00
	経済法学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.33	0	2 0.67	3 1.00	
社 会 福 祉 学 部	福祉計画学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 0.20	4 0.80	5 1.00	
	福祉臨床学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 1.00	3 1.00	
	福祉心理学科	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		0	0	0	0	0	0	0	1 1.00	1 1.00	0	0	0	0	0	1 0.03	3 0.09	29 0.88	33 1.00

* 「教職に関する科目」のうち、卒業要件に含めない認定単位は、表の数値に含まない。

* 認定単位数の上限は、1年次30単位、2年次編入40単位、3年次72単位である。なお、2009年度において本学卒業生が3年に編入学した際に、算入充当および履修免除により76単位を認定している。

(2) 短期大学部

(表V-8-②)

		1年次					合 計
		10 単 位 以 下	11 ～ 15 単 位	16 ～ 20 単 位	21 ～ 25 単 位	26 ～ 30 単 位	
短 期 大 学 部	英文学科	0	0	0	0	0	0
	生活創造学科	0	0	0	0	0	0
合 計		0	0	0	0	0	0

9 卒業時における学科別単位認定状況一覧〔2018年度〕

(1) 大学

(表V-9-①)

認定単位数	英文(大学)	心理・応用 コミュニケーション	経済	経営情報	経済法	福祉計画	福祉臨床	福祉心理	合計
124単位			66人 39.3%	43人 33.3%	37人 31.6%	17人 17.0%	5人 5.3%	19人 33.3%	187人 21.2%
125単位			0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	5人 5.3%	0人 0.0%	6人 0.7%
126単位			41人 24.4%	34人 26.4%	25人 21.4%	13人 13.0%	3人 3.2%	24人 42.1%	140人 15.8%
127単位			0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 3.2%	0人 0.0%	3人 0.3%
128単位			28人 16.7%	26人 20.2%	33人 28.2%	13人 13.0%	0人 0.0%	4人 7.0%	104人 11.8%
129単位			0人 0.0%	1人 0.8%	1人 0.9%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	4人 0.5%
130単位			13人 7.7%	12人 9.3%	8人 6.8%	14人 14.0%	2人 2.1%	3人 5.3%	52人 5.9%
131単位			0人 0.0%	0人 0.0%	2人 1.7%	0人 0.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	3人 0.3%
132単位	28人 22.2%	30人 32.3%	5人 3.0%	7人 5.4%	6人 5.1%	6人 6.0%	1人 1.1%	1人 1.8%	84人 9.5%
133単位	4人 3.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	6人 0.7%
134単位	23人 18.3%	19人 20.4%	5人 3.0%	3人 2.3%	0人 0.0%	3人 3.0%	1人 1.1%	1人 1.8%	55人 6.2%
135単位	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
136単位	15人 11.9%	12人 12.9%	1人 0.6%	3人 2.3%	4人 3.4%	5人 5.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	40人 4.5%
137単位	4人 3.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4人 0.5%
138単位	7人 5.6%	6人 6.5%	2人 1.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.0%	6人 6.4%	2人 3.5%	25人 2.8%
139単位	2人 1.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
140単位	3人 2.4%	8人 8.6%	3人 1.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 3.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	19人 2.1%
141単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	2人 0.2%
142単位	5人 4.0%	8人 8.6%	3人 1.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人 5.0%	6人 6.4%	0人 0.0%	27人 3.1%
143単位	2人 1.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
144単位	4人 3.2%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4人 4.0%	11人 11.7%	0人 0.0%	20人 2.3%
145単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	2人 0.2%
146単位	6人 4.8%	2人 2.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.9%	2人 2.0%	7人 7.4%	1人 1.8%	19人 2.1%
147単位	3人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 0.3%
148単位	1人 0.8%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	6人 6.4%	0人 0.0%	9人 1.0%
149単位	2人 1.6%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	5人 0.6%
150単位	3人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4人 0.5%
151単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
152単位	3人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	7人 7.4%	0人 0.0%	11人 1.2%
153単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.1%	1人 1.8%	2人 0.2%
154単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 3.2%	0人 0.0%	3人 0.3%
155単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	2人 0.2%
156単位	1人 0.8%	2人 2.2%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 0.3%
157単位	0人 0.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.8%	2人 0.2%
158単位	3人 2.4%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	4人 0.5%
159単位	0人 0.0%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 0.1%
160単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	4人 0.5%
161単位	1人 0.8%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.1%	0人 0.0%	4人 0.5%
162単位	2人 1.6%	1人 1.1%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 0.3%
163単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 2.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
164単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
165単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
166単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
167単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
168単位	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 1.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	2人 0.2%
169単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
170単位以上	1人 0.8%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	11人 11.7%	0人 0.0%	12人 1.4%
卒業生数	126人	93人	168人	129人	117人	100人	94人	57人	884人
取得単位平均	139.2	135.6	127.1	0.0	127.1	133.4	144.0	127.7	116.0

9 卒業時における学科別単位認定状況一覧〔2018年度〕

(2) 短期大学部 (表V-9-②)

認定単位数	英文(短大)	生活創造	合計
64単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
65単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
66単位	2人 1.6%	3人 3.4%	5人 2.3%
67単位	6人 4.8%	1人 1.1%	7人 3.3%
68単位	10人 7.9%	2人 2.3%	12人 5.6%
69単位	21人 16.7%	6人 6.8%	27人 12.6%
70単位	12人 9.5%	17人 19.3%	29人 13.6%
71単位	26人 20.6%	2人 2.3%	28人 13.1%
72単位	6人 4.8%	22人 25.0%	28人 13.1%
73単位	22人 17.5%	4人 4.5%	26人 12.1%
74単位	5人 4.0%	10人 11.4%	15人 7.0%
75単位	8人 6.3%	2人 2.3%	10人 4.7%
76単位	1人 0.8%	3人 3.4%	4人 1.9%
77単位	3人 2.4%	2人 2.3%	5人 2.3%
78単位	2人 1.6%	4人 4.5%	6人 2.8%
79単位	2人 1.6%	2人 2.3%	4人 1.9%
80単位	0人 0.0%	2人 2.3%	2人 0.9%
81単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
82単位	0人 0.0%	2人 2.3%	2人 0.9%
83単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
84単位	0人 0.0%	3人 3.4%	3人 1.4%
85単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
86単位	0人 0.0%	1人 1.1%	1人 0.5%
87単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
88単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
89単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
90単位	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
91単位以上	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
卒業生数	126人	88人	214人
取得単位平均	71.3	65.5	68.9

10 教員組織一覧

(1) 大学〔2018年5月1日現在〕

(表V-10-①)

学部・学科等		専任教員数										設置基準上必要専任教員数	非常勤講師数 (B)		全教員数における比率 (%)		専任教員1人当たりの在籍学生数
		教授		准教授		講師		助教		計 (A)							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
文学部	英文学科	5	1	1	2	1	1	0	0	7	4	7	18	6	31.4%	68.6%	50.0 人
	心理・応用コミュニケーション学科	6	1	2	1	0	0	0	0	8	2	6	15	4	34.5%	65.5%	
文学部 計		11	2	3	3	1	1	0	0	15	6	13	33	10	32.8%	67.2%	
経済学部	経済学科	8	1	3	0	3	0	0	0	14	1	11	7	2	62.5%	37.5%	48.8 人
	経営情報学科	8	0	0	1	1	1	0	0	9	2	10	5	2	61.1%	38.9%	
	経済法学科	6	1	0	1	2	0	0	0	8	2	10	6	2	55.6%	44.4%	
経済学部 計		22	2	3	2	6	1	0	0	31	5	31	18	6	60.0%	40.0%	
社会福祉学部	福祉計画学科	4	2	2	0	2	0	0	0	8	2	8	10	7	37.0%	63.0%	34.4 人
	福祉臨床学科	6	3	1	0	1	0	1	0	9	3	8	10	7	41.4%	58.6%	
	福祉心理学科	5	2	1	0	1	0	0	0	7	2	8	7	4	45.0%	55.0%	
社会福祉学部 計		15	7	4	0	4	0	1	0	24	7	24	27	18	40.8%	76.2%	
大学共通		19	6	3	4	1	1	1	0	24	11		69	43	25.5%	76.2%	
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数												32					
合計		67	17	13	9	12	3	2	0	94	29	100	147	77	35.4%	64.6%	31.5 人

※ 社会福祉学部各学科の設置基準上必要専任教員数欄は、2割の範囲内において兼任の教員に代えることができる。

※ 教員数合計には、学長、チャプレン各1名を含まない。

※ 大学共通に交流教員1名を含む。

※ 比率の計算式は右記による。 比率 (%) = 専任 (非常勤) / 計 (A) + 非常勤講師数 (B)

(2) 短期大学部〔2018年5月1日現在〕

(表V-10-②)

学 科		専任教員数										設置基準上必要専任教員数	非常勤講師数 (B)		全教員数における比率 (%)		専任教員1人当たりの在籍学生数
		教授		准教授		講師		助教		計 (A)							
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
短期大学部	英文学科	4	1	2	0	1	2	0	0	7	3	7	20	15	22.2%	77.8%	27.8 人
	生活創造学科	3	1	1	0	1	2	0	0	5	3	5	15	13	22.2%	77.8%	23.3 人
	大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数											4					
合計		7	2	3	0	2	4	0	0	12	6	16	35	28	22.2%	77.8%	25.8 人

※ 教員数合計には、学長、チャプレンを各1名含まない。

※ 比率の計算式は右記による。比率 (%) = 専任 (非常勤) / 計 (A) + 非常勤講師数 (B)

11 専任教員年齢構成一覧表

(1) 大学

(2018年5月1日現在)

(表V-11-①)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計	
文学部 英文学科 心理・応用コミュニケーション学科	教授	0	3	5	4	3	2	0	0	0	0	17	
		0.0%	17.6%	29.4%	23.5%	17.6%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	2	1	4	2	1	0	0	10	
		0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	40.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100%
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100%	
計		0	3	5	6	4	6	2	3	2	0	31	
		0.0%	9.7%	16.1%	19.4%	12.9%	19.4%	6.5%	9.7%	6.5%	0.0%	100%	
経済学部 経済学科 経営情報学科 経済法学科	教授	0	5	9	8	6	2	5	0	0	0	35	
		0.0%	14.3%	25.7%	22.9%	17.1%	5.7%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	0	2	2	1	2	0	0	7	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	0.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	1	0	0	0	0	1	4	1	0	7	
		0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	100%	
計		0	6	9	8	8	4	7	6	1	0	49	
		0.0%	12.2%	18.4%	16.3%	16.3%	8.2%	14.3%	12.2%	2.0%	0.0%	100%	
社会福祉学部 福祉計画学科 福祉臨床学科 福祉心理学科	教授	0	8	1	9	6	3	4	0	0	0	31	
		0.0%	25.8%	3.2%	29.0%	19.4%	9.7%	12.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100%	
	准教授	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	5	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100%	
	専任講師	0	0	1	0	0	0	1	2	0	1	5	
		0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%	100%	
助教	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100%	
計		0	8	2	9	7	4	6	4	1	1	42	
		0.0%	19.0%	4.8%	21.4%	16.7%	9.5%	14.3%	9.5%	2.4%	2.4%	100%	

※交流教員を含む（受け入れ期間中は専任教員としてカウントする）

※学長、副学長、チャプレン、各1名を含まない

11 専任教員年齢構成一覧表

(2) 短期大学部・全体

(2018年5月1日現在)

(表V-11-②)

学部・研究科	職位	71歳 以上	66歳～ 70歳	61歳～ 65歳	56歳～ 60歳	51歳～ 55歳	46歳～ 50歳	41歳～ 45歳	36歳～ 40歳	31歳～ 35歳	26歳～ 30歳	計
短期大学部 英文学科	教授	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	5
		0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
計		0	1	2	1	3	0	2	1	0	0	10
		0.0%	10.0%	20.0%	10.0%	30.0%	0.0%	20.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100%
短期大学部 生活創造学科	教授	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	4
		0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	100%
計		0	1	0	0	2	0	3	1	1	0	8
		0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	37.5%	12.5%	12.5%	0.0%	100%
大学・短期大学部 全 体	教授	0	18	17	22	18	7	10	0	0	0	92
		0.0%	19.6%	18.5%	23.9%	19.6%	7.6%	10.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	准教授	0	0	0	2	6	7	5	4	1	0	25
		0.0%	0.0%	0.0%	8.0%	24.0%	28.0%	20.0%	16.0%	4.0%	0.0%	100%
	専任講師	0	1	1	0	0	0	5	10	3	1	21
		0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	23.8%	47.6%	14.3%	4.8%	100%
	助教	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%
合計		0	19	18	24	24	14	20	15	5	1	140
		0.0%	13.6%	12.9%	17.1%	17.1%	10.0%	14.3%	10.7%	3.6%	0.7%	100%
定 年： 通常専任教育職員 65才、特別専任教育職員 70才												

※ 交流教員を含む（受け入れ期間中は専任教員としてカウントする）

※ 学長、副学長、チャプレン、各1人を含まない。

13 専任教員の担当授業時間一覧〔2018年度〕

大学

文学部 (30人)

2018年3月31日現在 (表V-13)

区分	教 授	准教授	講 師	備 考
最 高	8.33	7.16	7.03	教授の最低0.00は国内研修平均では外数とした。
最 低	0.00	3.24	5.00	
平 均	5.90	5.85	6.18	

経済学部 (49人)

区分	教 授	准教授	講 師	備 考
最 高	9.67	8.57	7.77	教授の最低2.20は年度途中から病気休暇。
最 低	2.20	4.56	4.03	
平 均	6.21	6.21	6.10	

社会福祉学部 (41人)

区分	教 授	准教授	講 師	備 考
最 高	12.5	7.75	11.0	教授の最低0.00は国内研修、准教授の0.00は国外研修平均では外数とした。
最 低	0.00	0.00	3.66	
平 均	6.17	5.96	6.91	

短期大学部 (18人)

区分	教 授	准教授	講 師	備 考
最 高	6.50	7.00	8.00	教授の最低0.00は国内研修平均では外数とした。
最 低	0.00	6.21	5.25	
平 均	5.23	6.57	6.13	

[注]

- 1 教員が当該大学において担当する1週間の最高、最低及び総平均授業時間を記載すること。
- 2 授業時間の計算は、1週間における1授業時間（授業の単位となる連続した授業時間—いわゆる「コマ」を指す）の担当回数を基礎として算出する。したがって、1授業時間（1コマ）90分の授業の場合は、90分を単位として計算すること。ただし、学部等の特色により、1授業時間を超え連続して授業を行っている場合にも、授業時間の計算は、1授業時間（コマ）の単位に換算し直した数値を記入すること。
- 3 卒業研究指導のための時間は、正規の時間のみを算入し、それ以外の時間に指導を行っていてもここには加えないこと。
- 4 担当授業時間が特に多い教員、または特に少ない教員がいる場合は、その理由を欄外に付記すること。
- 5 開設されているものの、履修者のいない科目については上表に含めない。
- 6 学長、チャプレンは除く。
- 7 助教 文学部1名(0.00コマ) 社会福祉学部1名(2.00コマ) は含まない。

14 各種実習室等人員配置一覧〔2018年度〕

人的補助体制について

(2018年5月1日現在) (表V-14)

実験・実習室等名	職員数				備考
	特任	臨時	非常勤助手	派遣	
福祉実習相談室	0	1	2	0	
社会調査実習室	0	0	0	0	
教職実習準備室	0	0	2	0	
心理応用コミュ実習実験準備室	0	0	2	0	
心理学実験準備室	0	0	1	0	
情報・CALLサポートデスク	0	2	0	1	
キリスト教センター	0	2	0	0	
学習サポートセンター	0	3	0	0	
アクセシビリティ支援室	2	0	0	0	
短大部生活創造学科建築資料室	0	1	0	0	
短大部英文学科資料室	0	1	0	0	
短大部英文学科教材開発室	0	1	0	0	
合計	2	11	7	1	

※ 2018年度 社会調査実習室は人員配置なし

15 ラーニング・commons利用状況〔2018年度〕

※ここでの来館者数とは、10:30、12:30、15:00、18:00、20:00に
 ラーニング・commonsを利用していた学生数の総計(延べ人数)である。

(表V-15-①)

4月	来館者数
1日	23
2日	141
3日	124
4日	197
5日	112
6日	44
7日	55
8日	29
9日	199
10日	110
11日	154
12日	104
13日	163
14日	23
15日	29
16日	195
17日	164
18日	163
19日	120
20日	161
21日	26
22日	42
23日	185
24日	142
25日	111
26日	144
27日	161
28日	21
29日	14
30日	28

小計 3,184

5月	来館者数
1日	112
2日	141
3日	閉館
4日	閉館
5日	閉館
6日	24
7日	155
8日	139
9日	138
10日	166
11日	133
12日	27
13日	19
14日	172
15日	162
16日	144
17日	143
18日	155
19日	26
20日	16
21日	190
22日	145
23日	123
24日	146
25日	157
26日	16
27日	22
28日	155
29日	142
30日	139
31日	133

小計 3,240

6月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	20
4日	162
5日	137
6日	153
7日	128
8日	136
9日	22
10日	16
11日	156
12日	150
13日	127
14日	174
15日	127
16日	35
17日	24
18日	151
19日	148
20日	117
21日	185
22日	119
23日	31
24日	17
25日	166
26日	131
27日	135
28日	146
29日	171
30日	21

小計 3,105

7月	来館者数
1日	1
2日	149
3日	154
4日	124
5日	143
6日	120
7日	73
8日	25
9日	147
10日	160
11日	144
12日	145
13日	137
14日	24
15日	24
16日	41
17日	183
18日	140
19日	146
20日	146
21日	28
22日	26
23日	182
24日	144
25日	198
26日	208
27日	160
28日	55
29日	56
30日	231
31日	207

小計 3,721

8月	来館者数
1日	223
2日	222
3日	149
4日	66
5日	35
6日	115
7日	69
8日	71
9日	52
10日	閉館
11日	閉館
12日	閉館
13日	閉館
14日	閉館
15日	閉館
16日	閉館
17日	閉館
18日	閉館
19日	閉館
20日	63
21日	75
22日	37
23日	63
24日	43
25日	17
26日	閉館
27日	50
28日	45
29日	44
30日	61
31日	64

小計 1,564

9月	来館者数
1日	31
2日	閉館
3日	87
4日	36
5日	38
6日	臨時閉館
7日	臨時閉館
8日	臨時閉館
9日	臨時閉館
10日	7
11日	12
12日	27
13日	8
14日	62
15日	13
16日	7
17日	10
18日	103
19日	132
20日	140
21日	119
22日	30
23日	31
24日	15
25日	146
26日	135
27日	123
28日	141
29日	22
30日	33

小計 1,508

通常開館	20日	144.7人/日
短縮開館	10日	29.0人/日

	21日	147.1人/日
	7月	21.4人/日

	20日	146.0人/日
	8日	23.3人/日

	22日	153.1人/日
	9日	39.2人/日

	17日	85.1人/日
	3日	39.3人/日

	11日	109.1人/日
	14日	22.0人/日

(表V-15-②)

10月	来館者数
1日	172
2日	177
3日	122
4日	146
5日	116
6日	44
7日	閉館
8日	閉館
9日	49
10日	145
11日	129
12日	149
13日	92
14日	9
15日	114
16日	150
17日	179
18日	198
19日	199
20日	79
21日	41
22日	170
23日	197
24日	197
25日	219
26日	171
27日	11
28日	14
29日	172
30日	193
31日	144

小計 3,798

22日	157.2人/日
7日	48.4人/日

11月	来館者数
1日	198
2日	159
3日	14
4日	9
5日	215
6日	171
7日	180
8日	168
9日	167
10日	24
11日	9
12日	193
13日	152
14日	155
15日	214
16日	172
17日	25
18日	33
19日	208
20日	173
21日	149
22日	189
23日	40
24日	8
25日	19
26日	212
27日	122
28日	208
29日	130
30日	139

小計 3,855

21日	175.0人/日
9日	20.1人/日

12月	来館者数
1日	15
2日	37
3日	187
4日	173
5日	183
6日	151
7日	115
8日	73
9日	17
10日	196
11日	181
12日	160
13日	173
14日	136
15日	42
16日	20
17日	156
18日	198
19日	198
20日	131
21日	114
22日	13
23日	12
24日	14
25日	閉館
26日	27
27日	閉館
28日	閉館
29日	閉館
30日	閉館
31日	閉館

小計 2,722

15日	163.5人/日
10日	27.0人/日

1月	来館者数
1日	閉館
2日	閉館
3日	閉館
4日	閉館
5日	20
6日	20
7日	194
8日	161
9日	177
10日	163
11日	146
12日	97
13日	28
14日	36
15日	176
16日	166
17日	164
18日	閉館
19日	閉館
20日	閉館
21日	219
22日	185
23日	225
24日	201
25日	144
26日	34
27日	61
28日	118
29日	133
30日	101
31日	84

小計 3,053

18日	153.2人/日
6日	49.3人/日

2月	来館者数
1日	96
2日	52
3日	21
4日	87
5日	閉館
6日	閉館
7日	閉館
8日	閉館
9日	9
10日	閉館
11日	閉館
12日	72
13日	63
14日	76
15日	60
16日	13
17日	閉館
18日	100
19日	53
20日	42
21日	62
22日	67
23日	20
24日	閉館
25日	71
26日	43
27日	35
28日	66

小計 1,108

4月1日～3月31日

15日	66.2人/日
5日	23.0人/日

3月	来館者数
1日	35
2日	25
3日	閉館
4日	82
5日	27
6日	59
7日	63
8日	67
9日	34
10日	閉館
11日	65
12日	62
13日	72
14日	66
15日	36
16日	48
17日	閉館
18日	84
19日	49
20日	69
21日	閉館
22日	63
23日	18
24日	閉館
25日	105
26日	74
27日	105
28日	112
29日	109
30日	20
31日	26

小計 1,575

合計 32,433

20日	70.2人/日
6日	28.5人/日

通常開館
222短縮開館
94閉館日数
49

VI. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

1 専任教員に配分される研究費〔2018年度〕

(1) 大学 ① 予算状況

(表VI-1-①-i)

学部	個人研究費						個人研究費総額(G)	専任教員数(H)	一人当たりの学会加算を除く額(I)(K-J)	一人当たりの学会加算額(J)(F/H)	一人当たりの個人研究費額(K)(G/H)	備考
	基礎額(A)	大学院加算額(B)	傾斜配分額(C)	繰越額(D)	新任教員加算額※	学会活動支援研究費加算額(F)						
文	15,300,000	100,000	3,160,000	580,000	0	2,932,364	22,072,364	34	562,941	86,246	649,187	通常専任 27人、特専5人、助教1人 内大学院科目担当1人
経済	22,500,000	850,000	5,813,000	503,000	0	4,914,507	34,580,507	51	581,686	96,363	678,049	通常専任 39人、特専9人、大連1人、 内大学院科目担当12人
社会福祉	18,800,000	1,375,000	6,082,000	483,000	0	5,828,736	32,568,736	42	636,667	138,779	775,446	通常専任 31人、特専10人、助教1人、 内大学院科目担当14人
合計	56,600,000	2,325,000	15,055,000	1,566,000	0	13,675,607	89,221,607	127	594,850	107,682	702,532	通常専任 97人、特専24人、大連1人、 助教2人、内大学院科目担当 27人

(1) 大学 ② 執行状況

(表VI-1-①-ii)

学部	個人研究費総額	個人研究費執行額	個人研究費残額	執行率(%)	支出項目						備考	
					消耗品費	印刷製本費	諸会費	雑誌資料費	備品費	旅費交通費		その他
文	22,072,364	18,859,161	3,213,203	85.44%	2,498,904	60,580	917,040	2,785,992	1,155,618	10,127,309	1,313,718	
経済	34,580,507	31,338,165	3,242,342	90.62%	4,245,203	112,928	1,445,762	7,274,558	2,068,062	14,851,087	1,340,565	
社会福祉	32,568,736	31,127,474	1,441,262	95.57%	4,607,758	265,777	1,783,075	5,177,112	1,435,946	15,781,822	2,075,984	
合計	89,221,607	81,324,800	7,896,807	91.15%	11,351,865	439,285	4,145,877	15,237,662	4,659,626	40,760,218	4,730,267	

- [注] 1 学長は、文学部に記入すること。
 2 大連外国語学院交流教員は、経済学部記入すること。
 3 大連以外の国際交流教員の研究費は、含めないこと。
 4 執行状況には超過執行分が含まれている場合がある。
 5 図書は経費扱いなので、図書の支出項目は雑誌資料費に含まれている。

※ 新任教員加算は2018年度に廃止された。

(2) 短期大学部 ① 予算状況

(表VI-1-②-i)

学部	個人研究費						個人研究費総額(G)	専任教員数(H)	一人当たりの学会加算を除く額(I)(K-J)	一人当たりの学会加算額(J)(F/H)	一人当たりの個人研究費額(K)(G/H)	備考
	基礎額(A)	大学院加算額(B)	傾斜配分額(C)	繰越額(D)	新任教員加算額※	学会活動支援研究費加算額(F)						
短大	8,400,000	0	2,983,000	359,000	0	6,060,617	17,802,617	18	652,333	336,701	989,034	通常専任 15人、特別専任3人

(2) 短期大学部 ② 執行状況

※ 新任教員加算は2018年度に廃止された。

(表VI-1-②-ii)

学部	個人研究費総額	個人研究費執行額	個人研究費残額	執行率(%)	支出項目						備考	
					消耗品費	印刷製本費	諸会費	雑誌資料費	備品費	旅費交通費		その他
短大	17,802,617	16,583,576	1,219,041	93.15%	1,883,021	146,042	411,590	665,082	271,728	11,619,240	1,586,873	

- [注] 1 執行状況には超過執行分が含まれている場合がある。
 2 図書は経費扱いなので、図書の支出項目は雑誌資料費に含まれている。

2 専任教員の研究旅費

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-2-①)

学部・研究科等	2016年度					2017年度					2018年度					
	国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		
	長期	短期		国外	国内	長期	短期	長期	短期	国外	国内	長期	短期	長期	短期	
文学部・ 文学部・ 研究科	総額	3,505,460	0	3,835,210	5,673,790	3,699,659				2,966,812	5,237,628			1,886,270	3,999,762	4,501,178
	支給件数	1	0	17	94	1				15	72			1	19	71
	一人当たり支給額	3,505,460	0	109,577	162,108	3,699,659	0	0	0	84,766	149,647	0	0	1,886,270	121,205	136,399
	専任教員数	35					35					33				
経済学部・ 経済学部・ 研究科	総額	0	1,766,928	0	4,516,334	8,580,088	3,310,627	1,876,130		5,834,891	9,585,182				5,452,943	7,959,116
	支給件数	0	1	0	23	123	1	1		27	142				26	122
	一人当たり支給額	0	1,766,928	0	94,090	178,752	3,310,627	1,876,130	0	121,560	199,691	0	0	0	111,285	162,431
	専任教員数	48					48					49				
社会学部・ 社会学部・ 研究科	総額	3,644,808		0	6,046,491	9,495,627				5,943,737	8,173,090	3,786,289		418,600	6,037,236	7,419,681
	支給件数	1		0	30	130				20	120	1		1	24	104
	一人当たり支給額	3,644,808	0	0	151,162	237,391	0	0	0	148,593	204,327	3,786,289	0	418,600	143,744	176,659
	専任教員数	40					40					42				
計	総額	7,150,268	1,766,928	0	14,398,035	23,749,505	7,010,286	1,876,130	0	14,745,440	22,995,900	3,786,289		2,304,870	15,489,941	19,879,975
	支給件数	2	1	0	70	347	2	1	0	62	334	1		2	69	297
	一人当たり支給額	3,575,134	1,766,928	0	117,057	193,085	3,505,143	1,876,130	0	119,882	186,959	3,786,289	0	1,152,435	124,919	160,322
	専任教員数	123					123					124				

(2) 短期大学部 [2016~2018]

(表VI-2-②)

学部・研究科等	2016年度					2017年度					2018年度					
	国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		国外研修		国内研修	学会等出張旅費		
	長期	短期		国外	国内	長期	短期	長期	短期	国外	国内	長期	短期	長期	短期	
短期 大学 部	総額	0	0	0	4,108,966	3,241,090			194,200	4,767,816	4,078,723			1,928,390	6,210,002	3,583,085
	支給件数	0	0	0	17	46			1	21	59			1	29	56
	一人当たり支給額	0	0	0	256,810	202,568	0	0	194,200	297,989	254,920	0	0	1,928,390	345,000	199,060
	専任教員数	16					16					18				

- [注] 1 国内外研修については、「北星学園大学教育職員国内外研修規程」による額である。
 2 学会等出張旅費の支給上限額は、個人研究費取扱要領で規定する配分総額である。共同研究費を含めない。
 3 学会等出張旅費は、個人研究費の学会・資料収集等の旅費を記入し、その他の旅費（参加費、アルバイト旅費、論文集、空港施設使用料、出入国税等）は含めない。
 4 学長は、文学部に記入する。
 5 大連外国語学院交流教員は、経済学部に記入する。
 6 大連以外の国際交流教員は含まない。
 7 国外研修短期の欄は、年度をまたぐ研究者も含む。
 8 研修の「長期」とは、1年以上のものをいい、1年未満を「短期」とする。

3 学内共同研究費

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-3-①)

大学・学部・大学院研究科等	2016年度		2017年度		2018年度		備考
	総額	利用件数	総額	利用件数	総額	利用件数	
文学部・文学研究科	994,338	2	586,587	1	1,251,361	3	
経済学部・経済学研究科	1,858,998	4	1,867,761	4	0	0	
社会福祉学部・社会福祉学研究科	946,823	2	1,475,332	3	1,977,534	4	
計	3,800,159	8	3,929,680	8	3,228,895	7	

(2) 短期大学部 [2016~2018]

(表VI-3-②)

短期大学部	2016年度		2017年度		2018年度		備考
	総額	利用件数	総額	利用件数	総額	利用件数	
短期大学部	1,096,000	2	459,751	1	0	0	

※「学内共同研究費」とは、特定研究費取扱要領に規定される共同研究費である。

4 教員研究費内訳

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-4-①)

学部・研究科等	研究費の内訳		2016年度		2017年度		2018年度	
			研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)
文学部・ 文学研究科	研究費総額		21,879,797	100%	16,241,280	100%	18,978,785	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	14,865,459	68%	12,454,693	77%	13,571,424	72%
		学内共同研究費	994,338	5%	586,587	4%	1,251,361	7%
	学	科学研究費助成事業	5,150,000	24%	3,200,000	20%	4,156,000	22%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	870,000	4%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	
経済学部・ 経済研究科	研究費総額		25,376,196	100%	28,982,140	100%	28,095,448	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	20,276,999	80%	18,464,379	64%	21,168,448	75%
		学内共同研究費	1,858,998	7%	1,867,761	6%	0	0%
	学	科学研究費助成事業	3,240,199	13%	8,650,000	30%	6,927,000	25%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	0	0%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	研究費総額		27,548,849	100%	28,885,395	100%	27,626,353	100%
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	17,896,026	65%	17,782,063	62%	19,111,819	69%
		学内共同研究費	946,823	3%	1,475,332	5%	1,977,534	7%
	学	科学研究費助成事業	8,706,000	32%	9,628,000	33%	6,537,000	24%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託・請負研究費	0	0%	0	0%	0	0%
その他		0	0%	0	0%	0	0%	

※1「経常研究費」＝表VI-1「専任教員に配分される研究費」の予算状況「研究費総額(G)」－表VI-2「専任教員の研究旅費」の「学会等出張旅費」。

※2「学内共同研究費」の欄は、表VI-3「学内共同研究費」の額である。

4 教員研究費内訳

(1) 大学 [2016～2018]

(表VI-4-②)

学部・研究科等	研究費の内訳	2016年度		2017年度		2018年度		
		研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	
大学学部・研究科計	研究費総額	74,804,842	100%	74,108,815	100%	74,700,586	100%	
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	53,038,484	71%	48,701,135	66%	53,851,691	72%
		学内共同研究費	3,800,159	5%	3,929,680	5%	3,228,895	4%
	学	科学研究費助成事業	17,096,199	23%	21,478,000	29%	17,620,000	24%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
	外	受託研究費	870,000	1%	0	0%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%	

(2) 短期大学部 [2016～2018]

(表VI-4-③)

短期大学部	研究費の内訳	2016年度		2017年度		2018年度		
		研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	研究費(円)	研究費総額に対する割合(%)	
短期大学部	研究費総額	9,221,899	100%	8,427,801	100%	9,809,530	100%	
	学内	経常研究費(教員当り積算校費総額)	6,945,899	75%	6,498,050	77%	8,009,530	82%
		学内共同研究費	1,096,000	12%	459,751	5%	0	0%
	学	科学研究費助成事業	1,180,000	13%	1,470,000	17%	800,000	8%
		政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	0	0%	0	0%	0	0%
		民間の研究助成財団等からの研究助成金	0	0%	0	0%	1,000,000	10%
	外	受託研究費	0	0%	0	0%	0	0%
	その他	0	0%	0	0%	0	0%	

※1「経常研究費」＝表VI-1「専任教員に配分される研究費」の予算状況「研究費総額(G)」－表VI-2「専任教員の研究旅費」の「学会等出張旅費」。

※2「学内共同研究費」の欄は、表VI-3「学内共同研究費」の額である。

5 学外からの研究費の総額と一人当たりの額

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-5-①)

学部・研究科等		2016年度	2017年度	2018年度	備考	
文学部・ 文学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	6,695,000	4,160,000	5,402,800	学長含む 総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	1,545,000	960,000	1,246,800	
		専任教員一人当たり科研費	196,912	126,061	163,721	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	1,000,000	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	130,000	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	29,412	0	0	
	合 計 (A+B)		7,695,000	4,160,000	5,402,800	
専任教員一人当たり合計額		226,324	126,061	163,721		
専任教員数		34	33	33		
経済学部・ 経済学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	4,110,199	11,245,000	9,005,100	大連交流教員含む 総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	870,000	2,595,000	2,078,100	
		専任教員一人当たり科研費	83,882	216,250	183,778	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		4,110,199	11,245,000	9,005,100	
専任教員一人当たり合計額		83,882	216,250	183,778		
専任教員数		49	52	49		
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	11,317,800	12,516,400	8,498,100	総額から分担金配 分額を除く 総額に分担金受入 額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	2,611,800	2,888,400	1,961,100	
		専任教員一人当たり科研費	282,945	298,010	202,336	
	その他の 学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		11,317,800	12,516,400	8,498,100	
専任教員一人当たり合計額		282,945	298,010	202,336		
専任教員数		40	42	42		

[注] 1 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、学外共同研究費などが該当する。

5 学外からの研究費の総額と一人当たりの額

(1) 大学 [2016～2018]

(表VI-5-②)

学部・研究科等		2016年度	2017年度	2018年度	備考	
計	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	22,122,999	27,921,400	22,906,000	総額から分担金配分額を除く 総額に分担金受入額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	5,026,800	6,443,400	5,286,000	
		専任教員一人当たり科研費	179,862	219,854	186,228	
	その他の学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	1,000,000	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	130,000	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	8,130	0	0	
	合 計 (A+B)		23,122,999	27,921,400	22,906,000	
	専任教員一人当たり合計額		187,992	219,854	186,228	
専任教員数		123	127	123		

(2) 短期大学部 [2016～2018]

(表VI-5-③)

短期大学部		2016年度	2017年度	2018年度	備考	
短期大学部	科学研究費助成事業	科学研究費助成事業総額(A)	1,534,000	1,911,000	1,040,000	総額に分担金配分額を除く 総額に分担金受入額を含める
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	354,000	441,000	240,000	
		専任教員一人当たり科研費	95,875	106,167	57,778	
	その他の学外研究費	その他の学外研究費総額(B)	0	0	0	
		うちオーバーヘッドの額(間接経費)	0	0	0	
		専任教員一人当たり学外研究費	0	0	0	
	合 計 (A+B)		1,534,000	1,911,000	1,040,000	
	専任教員一人当たり合計額		95,875	106,167	57,778	
専任教員数		16	18	18		

[注] 1 「その他の学外研究費」には、科研費以外の政府もしくは政府関連法人からの研究助成金、民間の研究助成財団等からの研究助成金、奨学寄付金、受託研究費、学外共同研究費などが該当する。

6 産学官連携による研究活動状況

(1) 大学〔2016～2018〕

(表VI-6-①)

学部・研究科等		2016年度				2017年度				2018年度			
		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究	
		件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額
文学部・ 文学研究科	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	1	870,000	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・ 経済学研究科	新規	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・ 社会福祉学研究科	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	新規	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	1	870,000	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 短期大学部〔2016～2018〕

(表VI-6-②)

短期大学部		2016年度				2017年度				2018年度			
		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究		共同研究		受託研究	
		件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額	件数	研究費の額
短期大学部	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

[注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。

2 本表における「共同研究」とは、民間企業等から研究者と研究経費を受け入れて、大学の教育研究職員と共通の課題について共同で行う研究をさす。学内共同研究は含めないこと。また、「受託研究」とは、民間企業、自治体等からの受託に基づき、専ら大学の教育研究職員が行う研究をさす。

3 複数の学部・学科が共同で産学官連携の研究活動を行っている場合は、重複して記載しないこと。

4 複数年にわたる研究については、初年度を「新規」欄に、次年度以降を「継続」欄に記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-7-①)

学部・研究科等	文 部 科 学 省 科 学 研 究 費 助 成 事 業														
	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	補助・助成金額
文学部・文学研究科	7	2	29	6	5,000,000 (分担金受入額) 550,000 (分担金配分額) -400,000	3	1	33	5	3,100,000 (分担金受入額) 900,000 (分担金配分額) -800,000	6	1	17	5	3,900,000 (分担金受入額) 256,000 (分担金配分額) -900,000
経済学部・経済学研究科	13	1	8	2	3,600,000 (分担金受入額) 2,140,199 (分担金配分額) -2,500,000	10	3	30	7	9,800,000 (分担金受入額) 1,630,000 (分担金配分額) -2,780,000	9	1	11	14	5,200,000 (分担金受入額) 1,727,000 (分担金配分額) -400,000
社会福祉学部・社会福祉学研究科	4	2	50	9	8,300,000 (分担金受入額) 956,000 (分担金配分額) -550,000	5	3	60	11	9,100,000 (分担金受入額) 1,328,000 (分担金配分額) -800,000	4	2	50	13	5,600,000 (分担金受入額) 937,000 (分担金配分額) -840,000
計	24	5	21	17	17,096,199	18	7	39	23	21,478,000	19	4	21	32	15,480,000
学部・研究科等	政 府 も し く は 政 府 関 連 法 人 か ら の 研 究 助 成 金														
	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
 3 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-7-②)

学部・研究科等	民間の研究助成財団等からの研究助成金														
	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
文学部・文学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部・研究科等	受託・請負研究費														
	2016年度		2017年度		2018年度										
	受託件数	研究費額	受託件数	研究費額	受託件数	研究費額									
文学部・文学研究科	1	870,000	0	0	0	0									
経済学部・経済学研究科	0	0	0	0	0	0									
社会福祉学部・社会福祉学研究科	0	0	0	0	0	0									
計	1	870,000	0	0	0	0									

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
 3 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

7 文部科学省科学研究費助成事業等の申請、採択及び受給状況

(2) 短期大学部 [2016~2018]

(表VI-7-③)

文 部 科 学 省 科 学 研 究 費 助 成 事 業															
短期大学部	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	5	2	40	3	1,800,000 (分担金受入額) 230,000 (分担金配分額) -850,000	3	0	0	2	1,700,000 (分担金受入額) 20,000 (分担金配分額) -250,000	3	0	0	2	700,000 (分担金受入額) 100,000 (分担金配分額) -200,000
政 府 も し く は 政 府 関 連 法 人 か ら の 研 究 助 成 金															
短期大学部	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民 間 の 研 究 助 成 財 団 等 か ら の 研 究 助 成 金															
短期大学部	2016年度					2017年度					2018年度				
	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額	申請件数(A)	採択件数(B)	採択率(%) B/A*100	受給件数	助成金額
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100	1	1,000,000
受 託 ・ 請 負 研 究 費															
短期大学部	2016年度					2017年度					2018年度				
	受託件数				研究費額	受託件数				研究費額	受託件数				研究費額
	0				0	0				0	0				0

- [注] 1 採択件数には、当該年度新規に採択された件数のみをあげ、前年度からの継続分は含めないこと。
 2 受給件数及び補助・助成金額には、新規採択及び継続分を記入すること。

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研 究 課 題 名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2016	経済	多田 和美 准教授	代表	基盤研究(B)	15H03388	新興国の海外子会社マネジメントー国境を越えた組織社会化のジレンマとその克服ー	3,000,000	—	2015-2017
	文	高野 照司 教授	代表	基盤研究(C)	26370496	グローバル化社会で変容するアイデンティティーと言語変異の因果関係の理論モデル構築	1,000,000	—	2014-2016
	文	後藤 靖宏 教授	代表	基盤研究(C)	15K00379	心地よい音楽環境の感性情報処理：潜在記憶/視聴覚相互作用の計算モデルと応用可能性	900,000	—	2015-2017
	文	田辺 毅彦 教授	代表	基盤研究(C)	16K04173	特別養護老人ホームにおける持続可能な介護システムの研究	1,300,000	—	2016-2018
	社会福祉	岡田 直人 教授	代表	基盤研究(C)	26380756	減災を求心力とした平常時の取組みに向けての町内会と福祉専門職・機関との連携の研究	700,000	—	2014-2017
	社会福祉	杉岡 直人 教授	代表	基盤研究(C)	26380757	生活支援サービスを担うNPO事業としての地域食堂の研究	900,000	—	2014-2016
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	代表	基盤研究(C)	15K04033	知覚的マインドセットと文化的マインドセットの相似性・相補性に関する研究	1,200,000	—	2015-2017
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	15K03941	レジリエンス思考による精神障害者生活支援モデルの開発的研究ー国際連携研究を基にー	600,000	—	2015-2017
	社会福祉	中川 純 教授	代表	基盤研究(C)	16K13583	障害者雇用における「統合雇用モデル」の研究：障害者の「できる」に対する理念・政策	1,100,000	—	2016-2018
社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	16K04172	過疎地域における住民自治組織の公共サービス提供プロセスに関する研究	1,900,000	—	2016-2018	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-②)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2016	文	豊内 豊 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K12650	心理学的アプローチによるスポーツスキル修正プログラムの開発	500,000	—	2015-2017
	経済	金子 大輔 教授	代表	挑戦的萌芽研究	16K13583	発達した指導者の暗黙的評価観点を取り入れた吹奏楽演奏支援教材の開発	600,000	—	2016-2018
	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13073	アティピカル・インタラクションのエスノメソドロジー障害と相互行為の研究	500,000	—	2015-2017
	社会福祉	横山 穰 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13091	盲導犬とユーザーを迷惑・犯罪行為から守るための社会的方策に関する研究	600,000	—	2015-2017
	文	松浦 年男 准教授	代表	若手研究(B)	25770155	日本語諸方言における有声阻害重子音の音響的、聴覚的実態に関する実証的研究	600,000	—	2013-2016
	文	田村 早苗 専任講師	代表	若手研究(B)	16K16027	「認識された事態」にもとづく知識・証拠性・認識の言語表現の分析	700,000	—	2016-2018
	社会福祉	佐藤 祐基 専任講師	代表	若手研究(B)	15K16506	大学生の抑うつ症状、躁症状、不安症状および自閉傾向に関する調査研究	800,000	—	2015-2017
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(A)	—	日本語諸方言のプロソディーとプロソディー体系の類型	(分担金) 250,000	人間文化研究機構 国立国語研究所 窪園 晴夫 教授	2014-2017
	経済	佐々木 隆生 教授	分担	基盤研究(A)	—	戦後日本における中等教育改革の総合的研究	(分担金) 250,000	名古屋大学 教育発達科学研究科 植田 健男 教授	2012-2016
経済	篠田 優 教授	分担	基盤研究(B)	—	ヨーロッパ旧社会主義の人権に対するヨーロッパ人権裁判所のインパクトに関する研究 (延長)	(分担金) 100,000	中央大学 法務研究科 伊藤 知義 教授	2012-2016	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-③)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2016	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	MOOCで得られる学習履歴データを活用した教材・教育改善手法の開発と評価	(分担金) 400,000	北海道大学 情報基盤センター 重田 勝介 准教授	2015-2018
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(B)	—	グローバル・オープン・イノベーションのマネジメントー新たな価値創造への影響分析ー	(分担金) 400,000	北海道大学 経済学研究科 岩田 智 教授	2015-2019
	経済	山邑 紘史 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	外部性の存在する経済におけるメカニズム・デザイン：理論と実験	(分担金) 200,000	東京工業大学 工学院 大和 毅彦 教授	2014-2018
	社会福祉	栗山 隆 教授	分担	基盤研究(B)	—	児童養護施設のグループを活用するソーシャルワークと建築計画学のクロスオーバー研究	(分担金) 300,000	明治学院大学 社会学部 北川 清一 教授)	2016-2018
	文	田村 早苗 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	「視点」とモダリティの言語現象ー「意識」、エンパシー、阻止効果ー	(分担金) 300,000	神戸松陰大学 文学部 西垣内泰介 教授	2014-2016
	経済	佐々木 隆生 教授	分担	基盤研究(C)	—	異質性を含む参入・撤退分析の新しいアプローチ	(分担金) 150,000	東北大学 経済学研究科 黒瀬 一弘 准教授	2014-2016
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(C)	—	先端ICTが国際ビジネスに与える影響の研究ークラウド、越境EC、そして企業組織	(分担金) 240,199	阪南大学 経営情報学部 伊田 昌弘 教授	2015-2019
	経済	鎌田 直矢 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	革新的協働マーチャライジングの探求ー小売企業の協働マネジメントー	(分担金) 400,000	北海道大学 経済学研究科 坂川 裕司 教授	2014-2017
	社会福祉	池田 雅子 教授	分担	基盤研究(C)	—	教育モデルと評価システムの構築による福祉専門職養成教育に関する総合的研究	(分担金) 150,000	仙台白百合女子大学 人間学部 嘉村 藍 助教	2014-2016
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究(C)	—	精神障害者の当事者研究場面の相互行為的構造：エスノメソドロジーによる解明	(分担金) 200,000	三重県立看護大学 看護学部 浦野 茂 教授	2014-2016
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究(C)	—	初等・中等教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析	(分担金) 186,000	青森大学 社会学部 中村 和生 准教授	2014-2016
	社会福祉	河野 和枝 教授	分担	基盤研究(C)	—	多様な学びを保障する包摂的な教育基盤における原理・条件に関する日韓比較研究	(分担金) 120,000	北海道大学 教育学研究院 宋 美蘭 専門研究員	2016-2018

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-④)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研 究 課 題 名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2017	経済	多田 和美 准教授	代表	基盤研究(B)	15H03388	新興国の海外子会社マネジメントー国境を越えた組織社会化のジレンマとその克服ー	2,900,000	—	2014-2016
	文	高野 照司 教授	代表	基盤研究(C)	26370496	グローバル化社会で変容するアイデンティティと言語変異の因果関係の理論モデル構築	0	—	期間延長
	文	後藤 靖宏 教授	代表	基盤研究(C)	15K00379	心地よい音楽環境の感性情報処理：潜在記憶/視聴覚相互作用の計算モデルと応用可能性	500,000	—	2014-2016
	文	田辺 毅彦 教授	代表	基盤研究(C)	16K04173	特別養護老人ホームにおける持続可能な介護システムの研究	900,000	—	2016-2018
	社会福祉	岡田 直人 教授	代表	基盤研究(C)	26380756	減災を求心力とした平常時の取組みに向けての町内会と福祉専門職・機関との連携の研究	700,000	—	2014-2017
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	代表	基盤研究(C)	15K04033	知覚的マインドセットと文化的マインドセットの相似性・相補性に関する研究	1,100,000	—	2015-2017
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	15K03941	リジリエンス思考による精神障害者生活支援モデルの開発的研究ー国際連携研究を基にー	600,000	—	2015-2017
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	16K04172	過疎地域における住民自治組織の公共サービス提供プロセスに関する研究	900,000	—	2016-2018
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	16K00179	自己修復機能による高速・低消費電力設計対応IPSプロセッサ開発と標的型攻撃の防御	1,500,000	—	2016-2020
	文	松浦 利男 准教授	代表	基盤研究(C)	17K02689	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究ー方言類型論の構築を目指して	600,000	—	2017-2020
経済	星野 宏司 教授	代表	基盤研究(C)	17K01678	身体運動能力と口腔機能の可塑性に関する研究	1,100,000	—	2017-2019	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑤)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2017	経済	浦野 真理子 教授	代表	基盤研究(C)	17K03554	インドネシアのアブラヤシ農園開発における自発的土地取引と貧困解決	800,000	—	2017-2019
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	代表	基盤研究(C)	17K04229	重度知的障害者に対する「ケアの分配」をめぐる規範的研究	1,000,000	—	2017-2021
	社会福祉	永井 順子 准教授	代表	基盤研究(C)	17K04230	北海道における精神保健ソーシャルワークの歴史記録と教育コンテンツの構築	1,400,000	—	2017-2019
	社会福祉	杉岡 直人 教授	代表	基盤研究(C)	17K04231	生活支援サービスにおける有償ボランティア活動の公民連携に関する研究	1,400,000	—	2017-2019
	文	蓑内 豊 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K12650	心理学的アプローチによるスポーツスキル修正プログラムの開発	600,000	—	2015-2017
	経済	金子 大輔 教授	代表	挑戦的萌芽研究	16K13583	発達した指導者の暗黙的評価観点を取り入れた吹奏楽演奏支援教材の開発	1,000,000	—	2016-2018
	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13073	アティピカル・インタラクションのエスノメソドロジー障害と相互行為の研究	500,000	—	2015-2017
	社会福祉	横山 穰 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13091	盲導犬とユーザーを迷惑・犯罪行為から守るための社会的方策に関する研究	700,000	—	2015-2017
	経済	竹田 恒規 講師	代表	挑戦的研究(萌芽)	17K18543	津波被災地における高台移転事業の実証的研究：行政法学および民法学の観点から	1,100,000	—	2017-2019
文	田村 早苗 専任講師	代表	若手研究(B)	16K16027	「認識された事態」にもとづく知識・証拠性・認識の言語表現の分析	500,000	—	2016-2018	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑥)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2017	社会福祉	佐藤 祐基 専任講師	代表	若手研究(B)	15K16506	大学生の抑うつ症状、躁症状、不安症状および自閉傾向に関する調査研究	800,000	—	2015-2017
	社会福祉	松岡 是伸 専任講師	代表	若手研究(B)	15K17218	生活困窮対策におけるスティグマの実態に関する研究	500,000	—	2015-2017
	経済	野原 克仁 准教授	代表	若手研究(B)	17K18038	旅行者の意思決定構造と混雑を考慮した観光便益の推計	1,400,000	—	2017-2019
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(A)	—	日本語諸方言のプロソディーとプロソディー体系の類型	(分担金) 500,000	人間文化研究機構 国立国語研究所 窪園 晴夫 教授	2017-2020
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(B)	—	比較言語学的方法による日本語・琉球諸語方言の祖語の再建および系統樹の構築	(分担金) 400,000	一橋大学 大学院社会学研究科 五十嵐 陽介 准教授	2014-2017
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	M00Cで得られる学習履歴データを活用した教材・教育改善手法の開発と評価	(分担金) 200,000	北海道大学 情報基盤センター 重田 勝介 准教授	2015-2018
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(B)	—	グローバル・オープン・イノベーションのマネジメント —新たな価値創造への影響分析—	(分担金) 100,000	北海道大学 経済学研究科 岩田 智 教授	2015-2019
	経済	山邑 紘史 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	外部性の存在する経済におけるメカニズム・デザイン：理論と実験	(分担金) 300,000	東京工業大学 工学院 大和 毅彦 教授	2014-2018
	経済	長屋 幸世 教授	分担	基盤研究(B)	—	民事紛争処理手続きにおける情報の利用と保護の両立	(分担金) 200,000	北海道大学 法学研究科 町村 泰貴教授	2017-2020
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	分担	基盤研究(B)	—	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	(分担金) 10,000	立命館大学 先端総合学術研究科 立岩 真也 教授	2017-2019

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑦)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2017	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	分担	基盤研究(B)	—	疑似科学に関する議論を媒介にした科学リテラシー教育のプラットフォーム構築の研究	(分担金) 578,000	明治大学 情報コミュニケーション学部 石川 幹人 専任講師	2017-2019
	社会福祉	栗山 隆 教授	分担	基盤研究(B)	—	児童養護施設のグループを活用するソーシャルワークと建築計画学のクロスオーバー研究	(分担金) 300,000	明治学院大学 社会学部 北川 清一 教授)	2016-2018
	社会福祉	大友 秀治 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築	(分担金) 100,000	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 山野 則子 教授	2017
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(C)	—	先端ICTが国際ビジネスに与える影響の研究 —クラウド、越境EC、そして企業組織	(分担金) 300,000	阪南大学 経営情報学部 伊田 昌弘 教授	2015-2019
	経済	鎌田 直矢 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	革新的協働マーチャンダイジングの探求—小売企業の協働マネジメント—	(分担金) 300,000	北海道大学 経済学研究科 坂川 裕司 教授	2014-2017
	経済	渡邊 稔 専任講師	分担	基盤研究(C)	—	少子高齢化社会における所得格差の是正政策のあり方と経済成長	(分担金) 230,000	志學館大学 法学部 三宅 裕介 講師	2017-2019
	社会福祉	田澤 安弘 教授	分担	基盤研究(C)	—	治療的アセスメント短縮版の開発と適用に関する実証的研究 —複数施設における効果検証	(分担金) 130,000	札幌学院大学 人文学部 宮崎 友香 准教授	2017-2020
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究(C)	—	初等・中等教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析	(分担金) 110,000	青森大学 社会学部 中村 和生 准教授	2016-2018
	社会福祉	河野 和枝 教授	分担	基盤研究(C)	—	多様な学びを保障する包摂的な教育基盤における原理・条件に関する日韓比較研究	(分担金) 100,000	北海道大学 教育学研究院 宋 美蘭 専門研究員	2016-2018

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑧)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	経済	多田 和美 准教授	代表	基盤研究(B)	15H03388	新興国の海外子会社マネジメントー国境を越えた組織社会のジレンマとその克服ー	0	—	繰越
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	代表	基盤研究(C)	15K04033	知覚的マインドセットと文化的マインドセットの相似性・相補性に関する研究	0	—	期間延長
	社会福祉	水川 喜文 教授	代表	挑戦的萌芽研究	15K13073	アティピカル・インタラクションのエスノメソドロジー障害と相互行為の研究	0	—	期間延長
	文	田辺 毅彦 教授	代表	基盤研究(C)	16K04173	特別養護老人ホームにおける持続可能な介護システムの研究	1,300,000	—	2016-2018
	社会福祉	中村 和彦 教授	代表	基盤研究(C)	15K03941	レジリエンス思考による精神障害者生活支援モデルの開発的研究ー国際連携研究を基にー	1,000,000	—	2015-2018
	社会福祉	中田 知生 准教授	代表	基盤研究(C)	16K04172	過疎地域における住民自治組織の公共サービス提供プロセスに関する研究	700,000	—	2016-2018
	経済	佐藤 友暁 教授	代表	基盤研究(C)	16K00179	自己修復機能による高速・低消費電力設計対応IPSプロセス開発と標的型攻撃の防御	700,000	—	2016-2020
	文	松浦 利男 准教授	代表	基盤研究(C)	17K02689	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究ー方言類型論の構築を目指して	1,000,000	—	2017-2020
	経済	星野 宏司 教授	代表	基盤研究(C)	17K01678	身体運動能力と口腔機能の可塑性に関する研究	900,000	—	2017-2019
経済	浦野 真理子 教授	代表	基盤研究(C)	17K03554	インドネシアのアブラヤシ農園開発における自発的土地取引と貧困解決	700,000	—	2017-2019	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑨)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	社会福祉	田中 耕一郎 教授	代表	基盤研究(C)	17K04229	重度知的障害者に対する「ケアの分配」をめぐる規範的研究	600,000	—	2017-2021
	社会福祉	永井 順子 教授	代表	基盤研究(C)	17K04230	北海道における精神保健ソーシャルワークの歴史記録と教育コンテンツの構築	1,100,000	—	2017-2019
	社会福祉	杉岡 直人 教授	代表	基盤研究(C)	17K04231	生活支援サービスにおける有償ボランティア活動の公民連携に関する研究	1,100,000	—	2017-2019
	社会福祉	宮崎 靖士 教授	代表	基盤研究(C)	18K00285	柳田国男の表現構造がもつ現代的意義の発掘—言語観・文章構成・同時代状況への関与—	500,000	—	2018-2020
	文	蓑内 豊 教授	代表	基盤研究(C)	18K10854	指導者と選手をつなぐ指導システムの構築：心理的アプローチに基づくスキル修正の活用	1,100,000	—	2018-2020
	経済	金子 大輔 教授	代表	挑戦的萌芽研究	16K13583	発達した指導者の暗黙的評価観点を取り入れた吹奏楽演奏支援教材の開発	800,000	—	2016-2018
	経済	竹田 恒規 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	17K18543	津波被災地における高台移転事業の実証的研究：行政法学および民法学の観点から	900,000	—	2017-2019
	文	田村 早苗 専任講師	代表	若手研究(B)	16K16027	「認識された事態」にもとづく知識・証拠性・認識の言語表現の分析	500,000	—	2016-2018
	経済	野原 克仁 准教授	代表	若手研究(B)	17K18038	旅行者の意思決定構造と混雑を考慮した観光便益の推計	500,000	—	2017-2019
経済	山邑 紘史 専任講師	代表	若手研究	18K12744	共有資源の配分問題におけるメカニズムデザイン：理論と実験	700,000	—	2018-2021	

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-⑩)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2018	社会福祉	松岡 是伸 専任講師	代表	若手研究	18K12971	現代日本における生活困窮対策のスティグマと抵抗の実態に関する調査研究	600,000	—	2018-2020
	文	松浦 年男 准教授	分担	基盤研究(B)	—	比較言語学的方法による日本語・琉球諸語方言の祖語の再建および系統樹の構築	(分担金) 256,000	一橋大学 大学院社会学研究科 五十嵐 陽介 准教授	2017-2020
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	MOOCで得られる学習履歴データを活用した教材・教育改善手法の開発と評価	(分担金) 200,000	北海道大学 情報基盤センター 重田 勝介 准教授	2015-2018
	経済	金子 大輔 教授	分担	基盤研究(B)	—	教育実践研究と教授・学習支援システム研究とのマッチングプラットフォームの開発	(分担金) 480,000	千葉工業大学 情報科学部 國宗 永佳 教授	2018-2021
	経済	多田 和美 准教授	分担	基盤研究(B)	—	グローバル・オープン・イノベーションのマネジメント —新たな価値創造への影響分析—	(分担金) 150,000	北海道大学 経済学研究科 岩田 智 教授	2015-2019
	経済	山邑 紘史 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	外部性の存在する経済におけるメカニズム・デザイン：理論と実験	(分担金) 300,000	東京工業大学 工学院 大和 毅彦 教授	2014-2018
	経済	長屋 幸世 教授	分担	基盤研究(B)	—	民事紛争処理手続きにおける情報の利用と保護の両立	(分担金) 300,000	北海道大学 法学研究科 町村 泰貴教授	2017-2020
	社会福祉	田中 耕一郎 教授	分担	基盤研究(B)	—	病者障害者運動史研究——生の現在までを辿り未来を構想する	(分担金) 10,000	立命館大学 先端総合学術研究科 立岩 真也 教授	2017-2019
	社会福祉	眞嶋 良全 准教授	分担	基盤研究(B)	—	疑似科学に関する議論を媒介にした科学リテラシー教育のプラットフォーム構築の研究	(分担金) 300,000	明治大学 情報コミュニケーション学部 石川 幹人 専任講師	2017-2019
	社会福祉	栗山 隆 教授	分担	基盤研究(B)	—	児童養護施設のグループを活用するソーシャルワークと建築計画学のクロスオーバー研究	(分担金) 250,000	明治学院大学 社会学部 北川 清一 教授)	2016-2018

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-8-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／ 分担	研究種目	研究課題 番号	研 究 課 題 名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2018	社会福祉	大友 秀治 専任講師	分担	基盤研究 (B)	—	効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築	(分担金) 180,000	大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 山野 則子 教授	2017- 2019
	経済	渡邊 稔 専任講師	分担	基盤研究 (C)	—	少子高齢化社会における所得格差の是正政策のあり方と経済成長	(分担金) 230,000	志學館大学 法学部 三宅 裕介 講師	2017- 2019
	経済	古谷 次郎 教授	分担	基盤研究 (C)	—	将来を見据えた小学校プログラミング教育のコンピテンシー構築に向けて	(分担金) 67,000	尚美学園大学 芸術情報学部 恩田 憲一 教授	2018- 2020
	社会福祉	水川 喜文 教授	分担	基盤研究 (C)	—	初等・中等教育における「自然（現象）の科学的理解」の相互行為分析	(分担金) 167,000	青森大学 社会学部 中村 和生 准教授	2016- 2018
	社会福祉	河野 和枝 教授	分担	基盤研究 (C)	—	多様な学びを保障する包摂的な教育基盤における原理・条件に関する日韓比較研究	(分担金) 30,000	北海道大学 教育学研究院 宋 美蘭 専門研究員	2016- 2018

8 文部科学省科学研究費助成事業の受給者一覧

(2) 短期大学部 [2016～2018]

(表VI-8-⑫)

交付年度	学部	氏名・職名	代表／分担	研究種目	研究課題番号	研究課題名	助成金額(円)	研究分担者の研究代表者	研究期間
2016	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	15K04014	障害児者家族の高齢化とその諸相－親役割の長期化と「限界」	1,000,000	—	2015-2018
	短期大学	田中 直子 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	15K12926	地域における通訳案内士教育のあり方の研究～地域のインバウンド人材育成を目指して	800,000	—	2015-2017
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	30,000	北海道大学 教育学研究科 松本 伊智朗 教授	2015-2019
	短期大学	風戸 真理 専任講師	分担	基盤研究(B)	—	中央アジアにおける大型家畜利用の再評価－ラクダ牧畜の変遷を中心に	200,000	名古屋学院大学 経済学部 今村 薫 教授	2014-2016
2017	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	15K04014	障害児者家族の高齢化とその諸相－親役割の長期化と「限界」	1,100,000	—	2015-2018
	短期大学	田中 直子 専任講師	代表	挑戦的萌芽研究	15K12926	地域における通訳案内士教育のあり方の研究～地域のインバウンド人材育成を目指して	600,000	—	2015-2017
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	20,000	北海道大学 教育学研究科 松本 伊智朗 教授	2015-2019
2018	短期大学	藤原 里佐 教授	代表	基盤研究(C)	15K04014	障害児者家族の高齢化とその諸相－親役割の長期化と「限界」	700,000	—	2015-2018
	短期大学	藤原 里佐 教授	分担	基盤研究(A)	—	子どもの貧困に関する総合的研究：貧困の世代的再生産の過程・構造の分析を通して	100,000	北海道大学 教育学研究科 松本 伊智朗 教授	2015-2019

9 政府もしくは政府関連法人からの研究助成金の受給者一覧

(1) 大学 [2016～2018]

(表VI-9-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表 ／ 分担	研究助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2016					該当なし			
2017					該当なし			
2018					該当なし			

(2) 短期大学部 [2016～2018]

(表VI-9-②)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表 ／ 分担	研究助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2016					該当なし			
2017					該当なし			
2018					該当なし			

10 民間の研究助成財団等からの研究助成金の受給者一覧

(1) 大学 [2016~2018]

(表VI-10-①)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究助成者・助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2016					該当なし			
2017					該当なし			
2018					該当なし			

(1) 短期大学部 [2016~2018]

(表VI-10-②)

交付年度	学 部	氏名・職名	代表／分担	研究助成者・助成金名	研究課題名	助成金額 (円)	研究分担者の 研究代表者	研究 期間
2016					該当なし			
2017	短期 大学部	白鳥 金吾 准教授	代表	Cambridge English Funded Research Award Round Eight Memorandum of Understanding	Supporting the English education reform in Japan : The role of Cambridge English:Preliminary	156,950		2017
2018	短期 大学部	風戸 真理 専任講師	代表	サントリー文化財団 人文科学、社会科学に関する学際 的グループ研究助成	文化と身体の間接点としての食：文化固有性・産業 化・異業種ネットワーク	1,000,000		2018- 2019

11 受託研究・請負研究の受給者一覧

(1) 大学 [2016～2018]

(表VI-11-①)

年度	学 部	研究担当者・ 職名	研究委託者	委託研究の題目	委託研究費 (円)	著作権・特許権等の 工業所有権の帰属	研究 期間
2016	文学部	佐々木 敏 教授 角田和彦 准教授 星野宏司 准教授 勝村 務 准教授	独立行政法人 新エネルギー・ 産業技術総合開発機構 (NEDO)	SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) / 革新的設計生産技術計測融合計算化学を活用し たスノースポーツ用品の最適化	870,000	北星学園大学	2016
2017				該当なし			
2018				該当なし			

(2) 短期大学部 [2016～2018]

(表VI-11-②)

年度	学 部	研究担当者・ 職名	研究委託者	委託研究の題目	委託研究費 (円)	著作権・特許権等の 工業所有権の帰属	研究 期間
2016				該当なし			
2017				該当なし			
2018				該当なし			

12 特定研究費支出対象項目別支出状況

[2014～2018]

(表VI-12)

支出対象項目		年度	2014	2015	2016	2017	2018	5年間平均
1	共同研究活動	件数	9	10	10	9	7	9.0
		総額	4,890,773	4,928,333	4,896,159	4,389,431	3,573,000	4,535,539.2
(1)	共同研究活動のうちプロジェクト研究を除く研究	件数	7	9	8	8	7	7.8
		総額	3,096,798	4,235,333	3,705,821	3,802,844	3,573,000	3,682,759.2
(2)	共同研究活動のうちプロジェクト研究	件数	2	1	2	1	0	1.2
		総額	1,793,975	693,000	1,190,338	586,587	0	852,780.0
2	学会活動 (国内学会)	件数	93	92	91	87	85	89.6
		総額	7,634,157	7,363,300	7,504,698	7,342,891	6,424,060	7,253,821.2
3	学会活動 (国際学会)	件数	41	35	42	46	54	43.6
		総額	10,052,768	8,211,740	9,577,281	10,514,652	13,312,164	10,333,721.0
4	日本私立学校振興・共済事業団による学術研究振興資金に採択された研究活動	件数	0	0	0	0	0	0.0
		総額	0	0	0	0	0	0.0
合 計		件数	143	137	143	142	146	142.2
		総額	22,577,698	20,503,373	21,978,138	22,246,974	23,309,224	22,123,081.4

14 学術賞の受賞状況

(1) 大学〔2016～2018〕

(表VI-14-①)

学部・研究科等	学術賞の受賞数					
	2016年度		2017年度		2018年度	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
文学部・文学研究科	0	0	1	0	0	0
経済学部・経済学研究科	0	0	1	0	0	0
社会福祉学部・社会福祉学研究科	1	0	2	0	0	0
計	1	0	4	0	0	0

(2) 短期大学部〔2016～2018〕

(表VI-14-②)

学部・研究科等	学術賞の受賞数					
	2016年度		2017年度		2018年度	
	国内	国外	国内	国外	国内	国外
短期大学部	1	0	2	1	0	0
計	1	0	2	1	0	0

- [注] 1 教員、助教が専任として配置されている学部、研究科等ごとに記入すること。
 2 学内の複数の教員の共同研究の成果が受賞した場合は、重複して記載しないこと。
 3 ここでいう学術賞は全国レベルの学会もしくは国際的レベルの学会等によるものに限ること。

15 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況

(1) 大学 [2014~2018]

(表VI-15-①)

年度	学部	号数	発行年月日	登 載 原 稿 の 種 類									掲 載 篇数計	総頁数	刊行部数 (本冊)
				論 説	研究ノト	資 料	判例研究	書 評	紹 介	翻 訳	評 論	その他			
2014	文 学 部	第52巻第1号 (通巻第60号)	2014.9.30	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4	45	420
	経 済 学 部	第54巻第1号 (通巻第66号)	2014.9.30	4	1	0	1	0	0	0	0	0	6	86	420
	文 学 部	第52巻第2号 (通巻第61号)	2015.3.15	5	2	0	0	0	0	0	0	0	7	77	380
	経 済 学 部	第54巻第2号 (通巻第67号)	2015.3.15	4	3	0	1	0	0	0	0	0	8	130	380
	社会福祉学部	第52号	2015.3.15	11	2	0	0	0	0	0	0	0	13	130	380
	計			26	10	0	2	0	0	0	0	0	38	468	1,980
2015	文 学 部	第53巻第1号 (通巻第62号)	2015.9.30	5	0	0	0	0	0	1	0	0	6	72	420
	経 済 学 部	第55巻第1号 (通巻第68号)	2015.9.30	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6	104	430
	文 学 部	第53巻第2号 (通巻第63号)	2016.3.15	6	1	0	0	0	0	0	0	0	7	74	180
	経 済 学 部	第55巻第2号 (通巻第69号)	2016.3.15	5	6	0	0	0	0	0	0	0	11	141	200
	社会福祉学部	第53号	2016.3.15	13	2	0	0	0	0	0	0	0	15	206	160
	計			32	11	0	1	0	0	1	0	0	45	597	1,390
2016	文 学 部	第56巻第1号 (通巻第70号)	2016.9.30	3	0	1	0	1	0	0	0	0	5	59	180
	経 済 学 部	第56巻第1号 (通巻第70号)	2016.9.30	1	5	0	0	0	0	0	0	0	6	81	200
	文 学 部	第54巻第2号 (通巻第65号)	2017.3.15	3	1	0	0	0	0	1	0	0	5	62	180
	経 済 学 部	第56巻第2号 (通巻第71号)	2017.3.15	8	4	0	1	0	2	0	0	0	15	189	200
	社会福祉学部	第54号	2017.3.15	13	1	0	0	0	0	0	0	0	14	189	170
	計			28	11	1	1	1	2	1	0	0	45	580	930
2017	文 学 部	第55巻第1号 (通巻第66号)	2017.9.15	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	47	180
	経 済 学 部	第57巻第1号 (通巻第72号)	2017.9.15	3	2	0	1	0	0	0	0	0	6	74	180
	文 学 部	第55巻第2号 (通巻第66号)	2018.3.15	7	2	0	0	0	0	1	0	0	10	140	170
	経 済 学 部	第57巻第2号 (通巻第73号)	2018.3.15	7	3	0	1	0	0	0	0	0	11	131	180
	社会福祉学部	第55号	2018.3.15	12	1	0	0	0	0	0	0	1	14	217	330
	計			32	9	0	2	0	0	1	0	1	45	609	1,040
2018	文 学 部	第56巻第1号 (通巻第68号)	2018.9.30	3	0	0	0	0	1	2	0	0	6	72	180
	経 済 学 部	第58巻第1号 (通巻第74号)	2018.9.30	6	4	0	0	0	0	0	0	0	10	178	180
	文 学 部	第56巻第2号 (通巻第69号)	2019.3.15	5	0	0	0	0	0	1	0	0	6	88	170
	経 済 学 部	第58巻第2号 (通巻第75号)	2019.3.15	4	3	0	2	0	1	0	0	0	10	147	180
	社会福祉学部	第56号	2019.3.15	11	1	1	0	0	0	0	0	0	13	187	190
	計			29	8	1	2	0	2	3	0	0	45	672	900

15 学部研究紀要「北星論集」の刊行状況

(2) 短期大学部〔2014～2018〕

(表VI-15②)

年度	短期大学部	号数	発行年月日	登 載 原 稿 の 種 類								掲 載 篇数計	総頁数	刊行部数 (本冊)
				論 説	研究ノト	資 料	判例研究	書 評	紹 介	翻 訳	評 論			
2014	短期大学部	第13号 (通巻第51号)	2015. 3. 15	6	1	0	0	0	0	0	0	7	86	320
2015	短期大学部	第14号 (通巻第52号)	2016. 3. 15	2	2	0	0	0	0	0	0	4	44	170
2016	短期大学部	第15号 (通巻第53号)	2017. 3. 15	3	2	0	0	0	0	0	0	5	63	170
2017	短期大学部	第16号 (通巻第54号)	2018. 3. 15	1	3	0	0	0	0	0	0	4	53	150
2018	短期大学部	第17号 (通巻第55号)	2019. 3. 15	2	2	0	0	0	0	0	0	4	48	150

16 専任教員の個人別研究業績一覧

(1) 大学

文学部〔2014～2018〕

(表VI-16-①)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	
野口 忠男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									2016退職
佐々木 敏	5	0	1	4	6	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
岡村 輝人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									2016退職
伊藤 章	0	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	3	2	1	0	1					2017退職
佐藤 修子	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2018退職
神谷 幹夫	0	0	0	0	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0					2017退職
鹿内 啓子	0	0	0	0	3	0	2	1	1	0	1	0									2016退職
濱 保久	5	0	0	5	5	0	0	5	3	0	0	3	3	0	1	2	2	0	0	2	
P. グレイ	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鈴木 剛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
蓑内 豊	15	0	3	12	17	2	3	12	13	2	1	10	4	0	1	3	7	0	1	6	
長谷川 典子	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	1	1	
J. ラケット	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
田辺 毅彦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
B. テビッドソ	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
高橋 克依	2	0	0	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
高野 照司	6	0	3	3	4	0	1	3	1	0	0	1	2	0	1	1	5	1	0	4	
河原 歳也	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									2016退職
柳町 智治	0	0	0	0	1	0	1	0	5	0	0	5	6	1	1	4	4	0	1	3	
阪井 宏	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
後藤 靖宏	23	0	4	19	33	0	4	29	33	0	4	29	27	0	7	20	22	0	4	18	
大島 寿美子	14	1	1	12	7	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	
中嶋 輝明	1	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0	1	3	0	0	3	0	0	0	0	
高杉 巴彦	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0					2017.12退職
古賀 清敬	3	0	0	3	5	1	0	4	2	0	0	2	2	0	0	2	4	0	0	4	
角田 和彦	16	0	2	14	5	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2018退職
江口 均	1	0	0	1	1	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	
石川 悟	2	0	0	2	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	3	3	0	0	3	
山本 範子	7	0	0	7	9	0	0	9	29	2	0	27	29	0	2	27	20	1	0	19	
片岡 徹	5	0	0	5	6	0	0	6	6	0	0	6	7	0	1	6	5	0	0	5	
松浦 年男	12	0	2	10	9	0	4	5	2	0	1	1	10	3	2	5	6	0	5	1	
中地 美枝													0	0	0	0	1	0	1	0	2017着任
柿原 久仁佳																	5	0	1	4	2018着任
島田 桂子					1	0	0	1	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2015着任
鳴海 昌江													3	0	3	0	2	0	2	0	2017着任
田村 早苗	3	0	0	3	6	0	1	5	2	0	0	2	5	0	1	4	4	0	2	2	2014着任
齋藤 彩世	2	0	0	2	2	0	2	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	2014着任
ロバート・トムソン													0	0	0	0	6	0	1	5	2017着任
永井 暁行																	3	0	1	2	2018着任

* 国際交流教員は含めない。

16 専任教員の個人別研究業績一覧

経済学部 [2014～2018]

(表VI-16-②)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考	
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他		
浅岡 顕彦	0	0	0	0	0	0	0	0													2015退職	
酒井 徹	0	0	0	0																		2014退職
澤田 裕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2018退職
小野 有五	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						2017退職
佐々木 隆生	5	0	1	4	2	0	0	2	2	1	1	0										2016退職
田村 信一	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0						2017退職
山口 博教	3	0	2	1	5	0	0	5	6	0	1	5	4	0	0	4	5	0	0	5		
吉田 知行					9	0	4	5	3	0	1	2	0	0	0	0						2017退職
片山 敏之	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0										2016退職
平井 廣一	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	3	0	3	0		
中村 一浩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
中路 貴彦	2	0	2	0																		2014退職
能登 宏	5	1	3	1																		2014退職
須川 和明	0	0	0	0																		2014退職
山我 哲雄	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
吉田 かよ子	0	0	0	0	3	1	1	1	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0		2018退職
竹野内 真樹													0	0	0	0	0	0	0	0		2017着任
松本 康一郎	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0		
宮澤 照恵	1	1	0	0	2	1	0	1	10	0	0	10	9	2	0	7	0	0	0	0		
中屋 晃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
高島 淑郎	0	0	0	0	0	0	0	0														2015退職
増田 辰良	2	0	1	1	3	0	0	3	4	0	2	2	3	0	3	0	3	0	2	1		
大原 昌明	4	0	1	3	4	0	2	2	6	1	3	2	3	0	2	1	8	1	2	5		
矢吹 哲夫																	7	0	1	6		2018着任
西脇 隆二	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
原島 正衛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
棚瀬 江里哉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0		
篠田 優	2	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	1	0		
田渕 直子	0	0	0	0																		2014退職
岩本 一郎	18	0	0	18	17	0	1	16	14	0	0	14	16	3	0	13	12	1	0	11		
濱 文章	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
鈴木 克典	16	0	1	15	5	0	0	5	4	0	1	3	10	0	0	10	13	0	0	13		
萱野 智篤	1	0	0	1	3	0	0	3	1	0	0	1	6	1	0	5	6	0	1	5		
修 震傑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
秋森 弘	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0		
齊藤 正彰	3	0	0	3	0	0	0	0														2015退職
浦野 真理子	7	0	1	6	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4		
岡田 みさを	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	0	2	2	2	0	0	2		
古谷 次郎	2	0	0	2	1	0	0	1	4	0	2	2	5	0	4	1	6	0	2	4		
*国際交流教	2	0	1	1																		2014退職
韓 文熙	5	0	1	4	3	0	1	2	4	1	1	2	1	0	0	1	2	0	0	2		
足立 清人	6	0	3	3	3	1	0	2	7	2	1	4	2	0	1	1	12	0	2	10		
長屋 幸世	1	0	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
星野 宏司	23	0	4	19	13	0	3	10	14	0	4	10	10	1	2	7	8	0	1	7		
金子 大輔	15	0	0	15	7	0	1	6	13	1	2	10	15	0	1	14	9	0	1	8		
林 秀彦					6	0	2	4	21	0	2	19	0	0	0	0	11	1	4	6		2015着任
萩原 浩太													2	0	0	2	4	0	1	3		2017着任

16 専任教員の個人別研究業績一覧

経済学部〔2014～2018〕

(表VI-16-③)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	
佐藤友暁													9	0	5	4	9	0	3	6	2017着任
野本啓介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鄭根珠									1	0	0	1	1	0	1	0	3	0	0	3	2016着任
勝村務	6	0	0	6	7	1	0	6	4	0	0	4	3	0	1	2	2	0	0	2	
皆木健男	0	0	0	0																	2014退職
多田和美									0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2018退職
野原克仁	6	0	3	3	4	0	1	3	2	0	1	1	0	0	0	0	4	0	1	3	
伊東尚美	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
山吉智久													4	2	2	0	2	1	1	0	2017着任
竹田恒規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
楠木敦	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0	1	1	2	0	0	2	1	0	0	1	2014着任
渡辺稔													2	0	1	1	1	0	0	1	2017着任
黄雅雯					0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	4	1	2	1	2015着任
鎌田直矢					0	0	0	0	1	0	0	1	6	0	1	5	0	0	0	0	2015着任
齊藤正廣									0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2016着任
山邑紘史									7	0	1	6	6	0	1	5	5	0	1	4	2018退職
上口晃									4	1	0	3	2	0	1	1					2017退職

* 大連外国語学院交流教員は、含めない。

16 専任教員の個人別研究業績一覧

社会福祉学部 [2014~2018]

(表VI-16-④)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	
武田秀勝	14	0	4	10	2	0	2	0													2015退職
今川民雄	2	0	0	2	3	1	0	2	0	0	0	0	5	0	0	5	2	0	0	2	2018退職
高橋孝三	12	0	5	7	11	1	5	5	16	0	12	4	3	0	1	2					2017退職
杉岡直人	26	1	1	24	13	3	6	4	21	1	6	14	24	0	1	23	21	0	5	16	
豊村和真	6	2	0	4	8	3	0	5	4	0	0	4	4	0	0	4	0	0	0	0	
福島順子									0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2018退職
村井泰廣	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
横山穰	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J. E. アリソン	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	
池田雅子	3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	2	
K.U. ネンシュティール	6	0	1	5	1	1	0	0	7	1	0	6	5	1	1	3	12	2	3	7	
柴田利男	3	0	0	3	3	0	0	3	3	0	0	3	2	0	0	2	2	0	0	2	2018退職
水川喜文	4	0	0	4	4	0	0	4	9	1	5	3	4	0	1	3	1	0	0	1	
T. ゲッツ	20	0	0	20	24	0	1	23	20	0	0	20	12	0	1	11	12	0	1	11	
田実潔	17	0	2	15	20	1	1	18	19	0	0	19	0	0	1	17	21	0	0	21	
田中耕一郎	16	0	2	14	17	0	2	15	10	1	0	9	13	0	0	13	14	0	1	13	
安部雅仁	2	0	1	1	3	1	0	2	0	0	0	0	3	0	0	3	4	0	1	3	
高橋百代	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	2018退職
栗山隆	2	0	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	4	1	0	3	0	0	0	0	
中村和彦	26	0	1	25	11	1	0	10	5	2	1	2	10	0	1	9	7	0	0	7	
西山薫	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
栗林克匡	3	0	1	2	4	1	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	
中川純	9	0	2	7	10	1	2	7	11	0	5	6								2016退職	
田澤安弘	5	0	1	4	7	0	2	5	8	1	7	0	6	0	4	2	6	1	2	3	
久能由弥	0	0	0	0	0	0	0	0													2015退職
岡田直人	33	0	0	33	35	3	0	32	50	2	0	48	57	1	0	56	50	2	0	48	
西田充潔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
木下武徳	20	1	2	17	9	1	0	8													2015退職
宮崎靖士	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	
河野和枝	18	0	1	17	14	0	0	14	16	0	1	15	17	1	1	15	0	0	0	0	2018退職
工藤憲									10	0	0	10	9	0	0	9	0	0	0	0	2016着任
佐橋克彦	6	0	1	5	0	0	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	2	1	0	1	
田辺等													30	3	0	27	17	0	2	15	2017着任
中田知生	16	0	2	14	15	2	6	7	9	2	0	7	10	0	0	10	5	0	0	5	
永井順子	7	0	0	7	10	0	0	10	16	0	1	15	13	1	1	11	13	0	1	12	2014着任
牧田浩一	11	0	0	11	10	0	0	10	13	0	2	11	13	0	1	12	10	1	2	7	
嶋澤あかね	3	0	1	2	7	1	1	5	11	0	2	9	4	0	1	3	10	0	1	9	
伊藤新一郎	2	0	0	2	6	0	1	5	3	0	0	3	7	2	1	4	5	0	1	4	
眞嶋良全	7	0	2	5	10	2	2	6	9	0	2	7	4	0	0	4	8	0	1	7	
西原明希	3	0	0	3	1	0	0	1	3	0	1	2	2	0	1	1	1	0	0	1	
畑亮輔	3	0	0	3	1	0	0	1	14	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	
松岡是伸													1	0	0	1	0	0	0	0	2017着任
佐藤祐基	2	0	1	1	4	0	0	4	8	0	0	8	6	0	0	6	7	0	1	6	2014着任
大友秀治									15	1	1	13	13	0	0	13	12	0	2	10	2016着任
林健太郎													3	0	2	1	0	0	0	0	2017着任
坂井圭介					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2017退職
播磨正一																	4	0	0	4	2018着任
吉田竜平																	0	0	0	0	2018着任

16 専任教員の個人別研究業績一覧

短期大学部 [2014~2018]

(表VI-16-⑤)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	
坂内 正	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中村 浩	1	0	0	1	4	0	0	4	6	1	0	5	7	0	0	7	5	0	0	5	
ロバート E. ゲティンクス	7	0	0	7	8	0	0	8	4	0	0	4	5	0	0	5	5	0	0	5	
青木 デボラ	0	0	0	0	0	0	0	0													2016退職
ジャン F. マウン	9	0	2	7	16	0	4	12	21	0	4	17	9	0	2	7	18	1	1	16	
溝口 雅明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					2017退職
竹村 雅史	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
内山 智	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
森越 京子	9	0	2	7	6	1	1	4	4	0	0	4	6	0	3	3	4	0	0	4	
藤原 里佐	6	0	2	4	4	0	0	4	2	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	
遠藤 太郎	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	0	1	
アッカーマン カート	14	0	1	13	14	1	2	11	0	0	0	0	8	0	0	8	25	0	0	25	
川部 大輔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	
白鳥 金吾	3	0	0	3	10	0	3	7	5	0	2	3	5	0	1	4	8	1	0	7	2014着任
風戸 真理	16	0	2	14	6	0	0	6	7	4	0	3	12	0	4	8	11	0	1	10	
マシュー コッター									16	2	0	14	21	2	0	19	19	1	0	18	2016着任
田中 直子	4	0	2	2	0	0	0	0	5	0	1	4	6	1	1	4	4	0	0	4	2014着任
藤木 晶子													0	0	0	0	3	0	1	2	2017着任
ヘイディ トムソン													6	1	4	1	7	0	1	6	2017着任
山本 慎平																	2	0	1	1	2018着任

学部に所属しない [2014~2018]

(表VI-16-⑤)

氏名	2014年度				2015年度				2016年度				2017年度				2018年度				備考
	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	計	著書	論文	その他	
大坊 郁夫																	15	1	6	8	2018着任
日高 嘉彦									0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
田澤 佳江	1	1	0	0	3	0	2	1	1	0	1	0	2	0	2	0	1	1	0	0	2018退職

17 学長・文学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
1	大坊郁夫	1	著書	学術書	アピランス<外見>問題と包括的ケア構築の試み:医療福祉連携と心理学領域とのコラボレーション	2018年 5月	共著(第一著者以外)	福村出版		()238-245	258
		2	論文	学術論文(査読有り)	中国人大学生社会的スキル尺度(ChUSS)の短縮版作成の試み	2018年 5月	共著(第一著者以外)	大阪大学大学院人間科学研究科社会心理学研究室	対人社会心理学研究	18()113-121	
		3	論文	学術論文(査読有り)	複数観衆状況における共通特性の自己呈示が個人内適応および対人適応に及ぼす影響	2018年 9月	共著(第一著者以外)	日本グループ・ダイナミクス学会	実験社会心理学研究	58(2)1-9	
		4	論文	学術論文(査読有り)	Affect as an antecedent of synchrony: A spectrum analysis with wavelet transform.	2019年 3月	共著(第一著者以外)		Quarterly Journal of Experimental Psychology.	(71)2520-2530	
		5	論文	学術論文(査読無し)	発信・受信の総合力がある人がよい印象・雰囲気を与える	2018年 4月	単著	秘書サービス接遇教育学会	ヒューマンスキル教育研究	(26)76-81	
		6	論文	学術論文(査読無し)	コミュニケーション力が好印象をつくる	2018年11月	単著	秘書サービス接遇教育学会	研究集録	(24)38-52	
		7	論文	学術論文(査読無し)	well-beingを目指す心理学と大学	2019年 3月	単著	東京未来大学モチベーション研究所	モチベーション研究	(8)61-69	
		8	その他	全国学会	非言語コミュニケーション研究の可能性	2018年 7月	単独	日本ブリーフ・サイコセラピー学会第28回大会			
		9	その他	全国学会	好印象のつくり方～非言語コミュニケーションの力～	2018年 8月	単独	秘書サービス接遇教育学会第24回大会			
		10	その他	全国学会	学習行動の促進・阻害要因の検討ー小中学生の学習意欲と学習行動、学業成績との関連性ー	2018年 8月	共同(代表以外)	日本応用心理学学会第85回大会			
		11	その他	全国学会	シンクロニーが関係継続の意思を高めないとときー二者間会話における初対面同士と友人同士の比較	2018年 8月	共同(代表以外)	日本社会心理学学会第59回大会			
		12	その他	全国学会	ポジティブ心理学は社会心理学にどのような示唆をもたらすか？ー強み研究に焦点を当ててー	2018年 8月	共同(代表以外)	日本社会心理学学会第59回大会			
		13	その他	全国学会	心理学検定と心理学教育	2018年 9月	単独	日本心理学会第82回大会			
		14	その他	研究会・シンポジウム等	化粧する人間のこころと行動～コミュニケーションと文化～	2018年10月	単独	日本心理学会 認定心理士の会「関東支部会」2018年度 第2回セミナー			
		15	その他	国内会議/特別講演・記念講演	コミュニケーション研究の未来予想を描こう	2019年 3月	単独	電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会			
2	田澤佳江	1	著書	学術書	ナラティブと心理アセスメント協働的/治療的につなぐポイント	2018年 8月	共著(第一著者以外)	創元社			171

17 文学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
1	濱保久	1	その他	全国学会	インテリアが対人コミュニケーションに及ぼす影響	2018年 9月	単独	日本心理学会第82回大会			
		2	その他	地方会議/講師	職場の対人コミュニケーションとリーダーシップ	2018年 7月	単独	日本私立大学協会北海道支部中堅指導者研修会			
2	養内豊	1	論文	学術論文(査読無し)	新旧対照法的应用 — 認知方法の修正を通じた動作修正の試み—	2019年 3月	共著(第一著者以外)	九州スポーツ心理学会	九州スポーツ心理学研究	31(1)18-19	
		2	その他	研究報告	心理学的アプローチによるスポーツスキル修正プログラムの開発	2018年 4月	単著				
		3	その他	地方学会	新旧対照法的应用 — 認知方法の修正を通じた動作修正の試み—	2019年 3月	共同(代表以外)	平成30年度九州スポーツ心理学会大会			
		4	その他	国内会議/講師	動きの自己分析	2018年 5月	単独	ナショナルトレーニングセンター(NTC)強化拠点事業(スキージャンプ)			
		5	その他	国内会議/講師	実力発揮のための自己理解	2018年 8月	単独	ナショナルトレーニングセンター(NTC)強化拠点事業(スキージャンプ)			
		6	その他	地方会議/講師	勝つための思考2 スポーツ心理学の基礎	43374	単独	北海道タレントアスリート発掘・育成事業 ハイパフォーマンススポーツサイエンスリテラシープロ			
		7	その他	地方会議/講師	メンタルトレーニングの現状と今後	2019年 1月	単独	平成30年度日本スポーツメンタルトレーニング指導士会 北海道・東北地区研修会			
3	長谷川 典子	1	論文	学術論文(査読有り)	日韓コミュニケーションの改善に向けた教材作成の試み—エンパシー効果に焦点を当てて—	2019年 3月	単著	異文化間教育学会	異文化間教育	49(394-109	
		2	その他	研究報告	高等教育機関における障害学生の情報保障支援の課題(2)	2019年 3月	共著(第一著者以外)	北星学園大学	北星論集(社)	56()125-151	
4	高野 照司	1	著書	学術書	方言とアイデンティティ ～自分らしさの拠り所としての方言～	2019年 3月	単著	愛知大学人文社会学研究所	みんなの知らない方言の世界	(125-50	25
		2	その他	研究報告	グローバル化社会で変容するアイデンティティと言語変異の因果関係の理論モデル構築	2018年 4月	単著		科学研究費補助金 基盤研究C(26370496)研究成果報告書		
		3	その他	研究会・シンポジウム等	【研究会発表(単著)】ことばのスタイル ～海外での近年の展開と議会議録への応用～	2018年 5月	単独	国立国語研究所領域指定型共同研究プロジェクト『議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究』			
		4	その他	国際学会	【学会発表(単著)】What happens to one's prosody over time?: Lifespan changes from above and language ideologies	2018年 6月	単独	Sociolinguistic Symposium 22			
		5	その他	研究会・シンポジウム等	【研究会発表(単著)】A Geo-pragmatic Study of Japanese Disagreement in the Minutes of Local Assemblies: Sapporo vs. Osaka	2019年 3月	単独	議会議録を活用した日本語のスタイル変異研究 研究発表会			
5	柳町 智治	1	論文	学術論文(査読有り)	北海道ニセコ地区のスキーリゾートにおける英語による接客 —従業員—顧客間の参与役割、知識技能、言語能力の非対称性をめぐって—	2019年 3月	単著	日本言語政策学会	言語政策	(15)83-104	
		2	その他	国際学会	Service encounters in English at a ski repair shop in Japan: How participants engage in interaction as experts and laypeople	2018年 5月	単独	2nd Symposium on L2 Interaction			
		3	その他	国際学会	A conversation-analytic investigation of service encounters in English as a lingua franca at a ski resort in Japan	2018年 9月	単独	Second International Conference on Sociolinguistics (ICS.2)			
		4	その他	全国学会	スキーショップにおける日本人従業員と外国人顧客の英語コミュニケーション —参与、知識、言語能力の非対称性をめぐって—	2018年10月	単独	日本英語コミュニケーション学会第27回年次大会			
6	後藤 靖宏	1	論文	学術論文(査読有り)	On Music Education in terms of Music of Psychology: A Comparison between Western Tonal Music and Traditional Japanese Music	2019年 2月	単著		Proceedings of 19th International Conference on Social Science, Arts, Business and Education	19(1)121-123	
		2	論文	学術論文(査読有り)	A Relation between Timbre and Impression of "Departure Music" of Railway Station in Japan	2018年 7月	単著		Proceedings of VII Latin American Congress of	7(1)88-89	
		3	論文	学術論文(査読無し)	BGMの言語ノイズのマスクング効果(2)-文章産出過程においてBGMは言語ノイズを抑制するの	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部 北星論集	56(2)in press	
		4	論文	学術論文(査読無し)	BGMによる言語ノイズのマスクング効果—文章読解的作業とチラシ折り単純作業との比較—	2018年 9月	単著	北星学園大学文学部 北星論集	北星学園大学文学部 北星論集	57(1)25-32	
		5	その他	その他	【論文査読】「認知心理学研究」論文査読	2019年 1月	その他				
		6	その他	その他	【論集】「認知科学研究」発行(第14巻第1、2合併号)	2018年11月	その他				
		7	その他	その他	【論文査読】「音楽知覚認知研究」論文査読	2018年 8月	その他				
		8	その他	全国学会	屋久島におけるネイチャーサウンド—札幌市のサウンドスケープとの比較—	2018年 5月	単独	日本サウンドスケープ協会2018年度春季研究発表会			
		9	その他	国際学会	A Relation between Timbre and Impression of "Departure Music" of Railway Station in Japan	2018年 7月	単独	VII Latin American Congress of Psychology			
		10	その他	全国学会	におい手がかりによって想起される自伝的記憶の特徴	2018年 9月	単独	日本認知科学会第35回大会			

17 文学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日 または発表年月日	執筆分類 または発表 形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
6	後藤 靖宏	11	その他	全国学会	インテリアにおける「癒し」と「和み」との関係性	2018年 9月	単独	第20回日本感性工学会大会				
		12	その他	全国学会	ヒューマンエラーに対する“個性別”指導のための基礎調査—内的特性とヒューマンエラー認知との関係—	2018年 9月	単独	日本教育心理学会第60回総会				
		13	その他	国際学会	On Music Education in terms of Music of Psychology: A Comparison between Western Tonal Music and Traditional Japanese Music	2019年 2月	単独	International Conference on Social Science, Arts, Business and Education				
		14	その他	全国学会	音響情報のテンポと聴取者の心的テンポの関係	2019年 3月	単独	日本音響学会2019年春季研究発表会				
		15	その他	その他/講師	キャンパス説明会 心理・応用コミュニケーション学科模擬講義(“コミュカ”を科学する—音楽心理学から見たコミュニケーションとは?—)	2018年 6月	単独	北星学園大学2018年度第1回キャンパス説明会				
		16	その他	その他/その他	中米の民族音楽に関する資料収集	2018年 7月	単独					
		17	その他	その他/その他	音楽の認知および知覚学会関連の学会開催準備	2018年 7月						
		18	その他	国内会議/その他	日本心理学会第82回大会参加	43374		日本心理学会				
		19	その他	その他/その他	音楽の認知および知覚学会関連の学会開催準備(その2)	43374						
		20	その他	その他/講師	出張出前講義(新川高校)	43405	単独					
		21	その他	その他/その他	国内研修に関する研究打ち合わせ	2019年 1月						
		22	その他	その他/その他	International Conference on Global Economy in Business, Management, Social Science and Humanity Perspectiveへの参加	2019年 2月						
7	大島 寿美子	1	その他	全国学会	【学会発表】日本人ががん患者グループへのMCP(Meaning Centered Psychotherapy)導入の課題	2018年 5月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第35回大会				
		2	その他	全国学会	【学会発表】がんのピアサポートにおけるグループアプローチの意義	2018年 5月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第35回大会				
		3	その他	全国学会	【学会発表】“機能的サブグループ”で対人コミュニケーションを学ぶ	2018年 5月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第35回大会				
8	古賀 清敬	1	その他	解説	現代に何を語るかダニエル書	2019年 1月	その他	日本キリスト教会出版局	福音時報	第793-795号		
		2	その他	解説	信教の自由、お金と天皇制	2018年 2月	その他	日本キリスト教会出版局	福音時報	第782号		
		3	その他	国内会議/講師	人権問題についての聖書研究	2018年 4月	単独	在日大韓基督教会人権セミナー				
		4	その他	国内会議/その他	靖国の人間学	43374	単独	日本キリスト教会靖国問題全国協議会				
9	江口 均	1	その他	国際学会	Looking for the Information Gap in an Integrative Language Class by Using a CALL OTH Classroom	2018年 8月	単独	大学英語教育学会				
10	石川 悟	1	その他	全国学会	タイトルが内容への期待および理解へもたらずもの	2018年 9月	単独	日本認知科学会第35回大会				
		2	その他	全国学会	ジャンガリアンハムスターの空間利用 ～空間サイズの拡張と離京可能性～	2018年 9月	単独	日本心理学会第82回大会				
		3	その他	書評	書評『モラルの期限—実験社会科学からの問』亀田達也(2017)』	2019年 3月	単著		認知科学	26(1)190-191		
11	山本 範子	1	著書	著書	「歌舞伎の世界を描く、生涯をかけた芸の道」	2018年 9月	単著	ブックリスタ(ネットサイト)	シミルボン			
		2	その他	研究ノート	「中華圏SFほんのさわり(3)」	2018年11月	単著	東方書店	東方	453号		
		3	その他	研究ノート	「中華圏SFほんのさわり(1)」	2018年 9月	単著	東方書店	東方	451号		
		4	その他	研究ノート	「中華圏SFほんのさわり(2)」	2018年 9月	単著	東方書店	東方	452号		
		5	その他	翻訳	「戦車の中」	2019年 2月	単著	早川書房	SFマガジン	2019年4月号		
		6	その他	翻訳	「生命の歌」	2019年 1月	単著	早川書房	ミステリマガジン	3月号		
		7	その他	書評	「実存と夢幻のあわいで」	2019年 2月	単著	武久出版	図書新聞	3388号		

17 文学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
11	山本 範子	8	その他	書評	「人類的未來會在火星上延續?——日本科幻文學第一人小松左京的《繼承者是誰?》」	2018年12月	単著	博客来	ネットサイト		
		9	その他	書評	「華文SFの源流となる古典名作5選」	2018年11月	単著	honto	honto ブックツリー		
		10	その他	書評	「中華圏小説の蠱惑的世界 地球を離れた、宇宙の物語」	2018年11月	単著	アトリエサード	TH	76号	
		11	その他	書評	「傑作華文SF&ファンタジー5冊」	2018年11月	単著	honto	hontoブックツリー		
		12	その他	書評	『元年春之祭』クロスレビュー	2018年 9月	単著	早川書房	ミステリマガジン	11月号	
		13	その他	解説	「躍進する中華圏SF作家」	2019年 2月	単著	早川書房	SFが読みたい	2019年度版	
		14	その他	その他	「孫悟空の異世界彷徨」	2019年 2月	単著	アトリエサード	TH	77号	
		15	その他	その他	「中華圏小説の蠱惑的世界 科普小説って?」	2019年 2月	単著	アトリエサード	TH	77号	
		16	その他	その他	『継承者』の帯(腰巻)に掲載する推薦文	2018年12月	単著	独歩文化(台湾)	『継承者』		
		17	その他	その他	「中華圏SFの蠱惑的世界 中華圏SF雑誌のいま」	2018年 7月	単著	アトリエサード	TH	75号	
		18	その他	その他	「中華圏SFの蠱惑的世界 中国SF四天王の一人、王晋康のミステリSF」	2018年 4月	単著	アトリエサード	TH	74号	
		19	その他	地方学会	中華圏SFの発展と近況報告	2018年12月	単独	大阪市立大学中国学会			
20	その他	その他/パネリスト	中華圏SFの部屋	2018年 7月	共同	日本SF大会					
12	片岡 徹	1	その他	翻訳	(翻訳)1948年から1970年までのマンチェスター大学平和学専攻の学生達のための教育ならびにキャリア開発について(マンチェスター大学 アレン・C・ディーター博士)(2)	2019年 3月	単著		北星学園大学文学部 北星論集	56(2)57-67	
		2	その他	翻訳	(翻訳)1948年から1970年までのマンチェスター大学平和学専攻の学生達のための教育ならびにキャリア開発について(マンチェスター大学 アレン・C・ディーター博士)(1)	2018年 9月	単著		北星学園大学文学部 北星論集	56(1)33-41	
		3	その他	翻訳	(翻訳)デビッド・シェリー著『黄金の輪 ロータリー物語』(荒又重雄・菅原秀二監訳)	2018年 8月	共著(第一著者以外)	私家版			
		4	その他	その他/講師	Community Resilience and Conflict Resolution in North Manchester	43374	単独	Kenapocomoco Peace Coalition			
		5	その他	その他/講師	International Education Program at Hokusei Gakuen University	43374	単独	Manchester University Office of Study Abroad and Off-Campus Academic Programs			
13	松浦 年男	1	論文	学術論文(査読有り)	山形県村山方言における声帯振動率の分布	2018年 8月	単著	日本音声学会	音声研究	22(2)141-150	
		2	論文	学術論文(査読無し)	小学校国語科における音読教育の目的と効果:文献レビューによる検討	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部 北星論集	56(2)	
		3	論文	学術論文(査読無し)	北星学園大学における日本語ライティング個別支援の試み	2018年 9月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学文学部 北星論集	56(1)1-13	
		4	論文	学術論文(査読無し)	有声性の研究はなぜ重要なのか	2018年 8月	共著(第一著者以外)	日本音声学会	音声研究	22(2)56-68	
		5	論文	学術論文(査読無し)	小学校国語科における語彙指導の手法と成果:実践報告の論文レビューによる検討	2018年12月	単著	大東文化大学	言語の研究(水門の会 特別刊行叢書)	()42-51	
		6	その他	国際学会	Phonology of voiced geminates in Amakusa Japanese	2018年10月	単独	NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology 2018			
14	中地 美枝	1	論文	学術論文(査読無し)	「Transграничное взаимодействие в Северо-Восточной Азии: развитие системы обществено здравоохранения в Инаса и Владивостоке в 1880-1890-е гг». Россия и страны АТР: миграционные процессы и проблемы межкультурной коммуникации. Азия в России	2019年 2月	単著	Новосибирск: Изд-во НГТУ		()63-78	
15	柿原 久仁佳	1	論文	学術論文(査読無し)	妊娠前からの子育て支援の必要性-短期大学生への質問紙調査を通して-	2018年 8月	単著	北海道子ども学会	子どもロジー	22()16-23	
		2	その他	地方学会	幼児期における特別支援の実践 一自己肯定感を高めることを意識した関わり-	2018年 8月	共同(代表以外)	北海道子ども学会			
		3	その他	地方会議/講師	若い世代への支援と市町村における子育て応援の取組推進について	2019年 1月	単独	乳幼児ふれあい体験セミナー ~若い世代と乳幼児親子、地域をつなげるノウハウを学ぶ~			
		4	その他	全国学会	発達障害をかかえる青年及び保護者のピアサポートの取り組み①-個別カウンセリングからピアサポートグループへ-	2018年 9月	単独	日本臨床教育学会			
		5	その他	研究会・シンポジウム等	発達障害児のきょうだいの発達に対する支援	2018年11月	単独	北海道乳幼児療育研究会			

17 文学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日 または発表年月 日	執筆分類 または発表 形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
16	鳴海 昌江	1	論文	学術論文(査読無し)	教員の資質向上に関する一考察～教職課程における今後の実践の方向性～	2019年 3月	単著	北海道教育大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻(教職大学院)	北海道教育大学大学院高度教職実践専攻 研究紀要第9号「教職大学院10年の歩み」創設10周年記念誌合併	(9)79-88		
		2	論文	学術論文(査読無し)	人権教育の現状と今後のあり方の検討—高等学校と教職課程「教育行政論」の実践を通して—	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星学園大学文学部 北星論集	56(2)43-56		
17	田村 早苗	1	論文	学術論文(査読無し)	北星学園大学における日本語ライティング個別支援の試み	2018年 9月	共著(第一著者以外)	北星学園大学	北星学園大学文学部 北星論集	56(1)		
		2	論文	学術論文(査読無し)	推論構文におけるコトノイコト節	2018年 9月	単著		北星学園大学文学部 北星論集	56(1)		
		3	その他	ワークショップでの報告	Between fact and thought: koto-clauses in inferential constructions	2018年 9月	単独	Semantics and Pragmatics Workshop in Tachikawa				
		4	その他	国内会議/講師	イベント意味論における「認識」の存在論—日本語の時制の分析から	2019年 2月	単独	立命館大学言語学講演会				
18	斎藤 彩世	1	著書	学術書	『境界を持たない愛—ヘンリー・ジェイムズ作品における同性愛をめぐって』	2019年 3月	単著	松籟社				
19	ロバート トムソン	1	論文	学術論文(査読有り)	Relational mobility predicts social behaviors in 39 countries and is tied to historical farming and threat	2018年 6月	共著(第一著者)		米国科学アカデミー紀要	115(29)7521-7526		
		2	その他	その他	Unofficial Hokkaido Police Search and Rescue Event Database (Translated)	2018年12月	単著		Open Science Framework			
		3	その他	国際学会	Examining Within-Country Variability in Relational Mobility: Lessons from Brazil	2018年 7月	共同(代表以外)	International Association for Cross-Cultural Psychology Congress				
		4	その他	国際学会	Relational Mobility Mediates Cross-Cultural Differences and the Behavior and Expected Outcomes of Facebook Self-promotion	2018年 7月	共同(代表)	International Association for Cross-Cultural Psychology Congress				
		5	その他	国際学会	Relational Mobility and the Internet: Social Ecologies in the Digital Realm	2019年 2月	単独	2019 SPSP Convention Advances in Cultural Psychology				
		6	その他	その他/講師	人生目標を最大に	2019年 1月	単独	アセンブリ II				
20	永井 暁行	1	論文	学術論文(査読有り)	ソーシャルスキルと態度による大学生の友人との付き合い方の分類—友人関係による居場所感の違い—	2018年	単著		教育心理学研究	66(1)54-66		
		2	その他	全国学会	友人関係において傷ついた出来事を他者に相談することについて—他者への相談の有無と相手の反応の違いによる比較—	2018年 9月	単独	日本教育心理学会第60回総会				
		3	その他	全国学会	ラーニング・コモンズの利用動機についての探索的検討	2018年 9月	共同(代表)	日本心理学会第82回大会				

18 経済学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
1	山口 博教	1	その他	その他	ナチス体制下のドレスナーバンク研究—Klaus-D.Henke(Hrsg.), Die Dresdner Bank im Dritten Reich[1]	2019年 3月	単著	北星学園大学経済学部	北星論集	57(2)15-31	
		2	その他	その他	私の第二次世界大戦追体験—司馬遼太郎以降の戦争・戦記文学についてのメモ	2018年 6月	単著	同人誌『ブレーメン館』編集委員会	同人誌『ブレーメン館』	16('98-107)	
		3	その他	地方学会	ナチス政権下のドイツ信用銀行の業務対応	2018年 9月	単独	証券経済学会、北海道部会			
		4	その他	その他/講師	私の第二次世界大戦追体験	2018年 9月	単独	同人誌『ブレーメン館』研究会			
		5	その他	国内会議/講師	仮想通貨について考える	43374	単独	北星学園大学経営情報学科公開講座			
2	平井 廣一	1	論文	学術論文(査読無し)	地租改正と地主的土地所有の歴史的性格(2)	2018年12月	共著(第一著者)		経済学研究 北大	68(1)103-113	
		2	論文	学術論文(査読無し)	「満洲事件費」はどのように使われたか(6)	2018年 9月	単著		北星論集	58(1)35-45	
		3	論文	学術論文(査読無し)	地租改正と地主的土地所有の歴史的性格(1)	2018年 6月	共著(第一著者)		経済学研究 北大	68(2)17-48	
3	増田 辰良	1	論文	学術論文(査読無し)	経済学の断 景気	2019年 3月	単著	北星学園大学経済学部	北星論集	58(2)59-77	
		2	論文	学術論文(査読無し)	日本における3つの起業家タイプ	2019年 3月	単著	北星学園大学経済学部	北星論集	58(2)51-57	
		3	その他	研究ノート	落語にみる“生きる知恵”	2018年 9月	単著	北星学園大学経済学部	北星論集	58(1)154-178	
4	大原 昌明	1	著書	訳書及び教科書	原価計算ガイダンス(第2版)	2018年 9月	共著(第一著者以外)	中央経済社			
		2	論文	学術論文(査読無し)	高等教育機関における障害学生の情報保障支援の課題(2)	2019年 3月	共著(第一著者)		北星学園大学社会福祉学部北星論集	56(1)25-151	
		3	論文	学術論文(査読無し)	NPO法人TIによる宅老所事業の経営分析	2018年 9月	共著(第一著者)		北星学園大学経済学部北星論集	58(1)47-63	
		4	その他	研究会・シンポジウム等	新しい時代の実用型授業の創設—簿記授業を例として—	2018年 5月	単独	第2回全国実用日本語教学改革と発展に関するフォーラム			
		5	その他	地方学会	中国における日式簿記教育の現状—広州フォーラムに参加して—	2018年 5月	単独	日本会計研究学会北海道部会第93回大会			
		6	その他	全国学会	宅老所と地域共生社会の共生概念の問題	2018年11月	共同(代表以外)	北海道地域福祉学会			
		7	その他	全国学会	宅老所の経営分析—NPO法人が運営する宅老所事業を例として—	2018年11月	共同(代表)	北海道地域福祉学会			
		8	その他	全国学会	宅老所の歴史的経緯と現在	2018年11月	共同(代表以外)	北海道地域福祉学会			
5	矢吹 哲夫	1	論文	学術論文(査読無し)	光合成系の励起エネルギー移動と「時間とエネルギーの不確定性関係」	2018年10月	共著(第一著者以外)	日本物理学会	素粒子論研究	27(3)1-9	
		2	その他	研究報告	物質場の中での光子の縦波と横波、オフシェルとオンシェルの一考察=ドレスト光子のメカニズムへの一探索として=	2019年 3月	単著	九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所	マス・フォア・インダストリ研究所研究報告集ドレスト光子に関する基礎的数理解	14('67-89)	
		3	その他	全国学会	光合成色素集団間の励起エネルギー伝達に対する新たな量子論的解析	2018年 5月	共同(代表)	第9回 日本光合成学会年会 および シンポジウム			
		4	その他	全国学会	マックスウェルの悪魔と環境熱エンジンのモデル解析 II	2018年 9月	単独	日本物理学会2018年秋季大会(物性)			
		5	その他	国際学会	A Model Analysis for the Regime Shift in Alpine Vegetation	2018年10月	共同(代表)	International Conference on Ecological			
		6	その他	研究会・シンポジウム等	物質場の中での光子の縦波と横波、オフシェルとオンシェルの一考察=ドレスト光子のメカニズムへの一探索として=	2019年 2月	単独	ドレスト光子の関連技術推進の為の基礎的数理解			
		7	その他	全国学会	光合成の光応答・光化学反応過程のエントロピー解析とそれに基づく吸収特性の理論解析	2019年 3月	単独	日本物理学会第74回年次大会			
6	棚瀬 江里哉	1	論文	学術論文(査読有り)	トルキーンと『指輪物語』の作品世界——「憐れみ」をキーワードとして	2018年 4月	単著	日本キリスト教文学会	キリスト教文学研究	(35)44-54	
7	篠田 優	1	論文	学術論文(査読無し)	ロシアの年金制度	2018年 7月	単著	公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構	年金と経済	37(2)161-165	
8	岩本 一郎	1	著書	著書	自民党改憲案にどう向きあうか (GENJINブックレット68)	2018年 5月	共著(第一著者)				
		2	その他	その他	【みんなで憲法】なぜ納税するの? 公共財と相互援助のために	2019年 3月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2019年3月17日	

18 経済学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁		
8	岩本 一郎	3	その他	その他	【みんなで憲法】 地方自治の本旨ってなに？ 自治体の決定と文化を尊重	2019年 2月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2019年2月17日朝刊			
		4	その他	その他	【新聞記事】 みんなで憲法 外国人に移民する自由は？ 富裕国として認める責任	2018年 9月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2018年9月16日朝刊			
		5	その他	その他	【新聞記事】 みんなで憲法 学問の自由って何？ 科学研究の保障と限界	2018年 7月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2018年7月22日朝刊			
		6	その他	その他	【新聞記事】 みんなで憲法 教育の機会均等って？ 高校の統廃合、慎重な判断を	2018年 6月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2018年6月24日朝刊			
		7	その他	その他	【新聞記事】 みんなで憲法 テレビの公平原則って何？ 国の強制、国民の知る権利損なう	2018年 5月	単著	毎日新聞社	毎日新聞	2018年5月27日朝刊			
		8	その他	研究会・シンポジウム等	ヘイトスピーチ論の現況と課題	2019年 1月	単独	北海道大学公法研究会					
		9	その他	地方会議/講師	【講演】 ヘイトスピーチとリベラリズム	2018年 9月	単独	札幌弁護士会憲法学習会					
		10	その他	地方会議/講師	【講演】 「愛国心」の強要がもたらすもの	43435	単独	平和憲法を守り、教育を創る全道集会					
		11	その他	地方会議/講師	【講演】 積極的非暴力平和主義と自衛隊の役割	2019年 1月	単独	2019年新春 日本国憲法講演会					
		12	その他	地方会議/講師	【講演】 憲法改悪と私たち	2019年 3月	単独	憲法講演会					
		9	鈴木 克典	1	その他	その他	【新聞取材】財政難 設備改修進まず 上川管内ロードヒーティング老朽化	2019年 2月	その他	北海道新聞	北海道新聞 2019年2月14日		
				2	その他	その他	【提言書】篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議提言書	2018年12月	その他	札幌市			
3	その他			その他	【報告書】栗山町総合計画審議会審議会	2018年11月	その他		栗山町総合計画審議会審議会報告書				
4	その他			その他	【報告書】町内会に関する条例検討委員会報告書	2018年 5月	その他	札幌市	町内会に関する条例検討委員会報告書				
5	その他			全国学会	コミュニティバスの利用実態と利用者意識ー北海道栗山町におけるバス交通(路線)を例としてー	2018年 8月	共同(代表以外)	第21回日本福祉のまちづくり学会全国大会(in 関西)					
6	その他			国内会議/その他	【コーディネーター】バリアフリー法と関連ガイドライン改定に関するセミナー	2018年 7月	共同	バリアフリー法と関連ガイドライン改定に関するセミナー					
7	その他			その他/講師	【コーディネーター・講師】北海道における生活交通実態ー栗山町における事例ー	2018年 7月	単独	北海道の交通を考える連続セミナー 第一回					
8	その他			その他/講師	地域コミュニティとしての町内会や地域活動	2018年 9月	単独	厚別区版大学連携CCRC事業 キャンパスタウン厚別					
9	その他			その他/基調講演	地域の強みを活かしたまちづくり	43374	単独	清田区民フォーラム					
10	その他			地方会議/基調講演	元気な地域コミュニティのあり方	43374	単独	札幌市・町内会に関する条例を考えるシンポジウム					
11	その他			国内会議/その他	【コーディネーター】北海道の交通を考える連続セミナー 第二回 鉄道と地域交通	43374	共同	北海道の交通を考える連続セミナー 第二回					
12	その他			その他/講師	気づきと工夫のデザインを考えるーユニバーサルデザインの視点から探る!!ー	43374	単独	ランチョンセミナー					
13	その他			国内会議/その他	【コメンテーター・報告】被災地活動報告会	2019年 2月	単独	被災地活動報告会					
10	萱野 智篤	1	論文	学術論文(査読無し)	フェアトレードと野生生物保全ーフェアトレードタウン札幌への覚書ー	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集(経済学部)	58(2)1-15			
		2	その他	研究報告	フェアトレードの可能性ー野生生物保全との関連で	2019年 2月	単著	JWCS 認定非営利活動法人 野生生物保全論研究会	JWCS通信	(86)2-6			
		3	その他	地方会議/講師	買ひ物の先にある種の絶滅と世界の潮流	2018年 8月	単独	JWCS市民セミナー					
		4	その他	地方会議/その他	フェアトレードタウンは誰のもの？	43435	単独	フェアトレードタウン札幌戦略会議FTTセミナー					
		5	その他	地方会議/パネリスト	フェアトレードタウン札幌を目指して	2019年 3月	単独						
		6	その他	地方会議/講師	フェアトレードタウン札幌(審査中)の若者たち	2019年 3月	単独	フェアトレードタウンなごやのすすめ vol.3 若者から広がるフェアトレードの輪					
11	秋森 弘	1	論文	学術論文(査読無し)	非伝統的金融緩和の下での国債イールドカーブの推移	43435	単著	東京経済大学経済学会	東京経済学会誌	299()33-57			

18 経済学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
12	浦野 真理子	1	その他	研究報告	オックスフォード大学東南アジアプログラム2018年シンポジウム(University of Oxford, SEA Symposium 2018)に参加して	2018年 5月	単著	東南アジア学会	東南アジア学会会報	(108)35	
		2	その他	国際学会	Why FPIC does not Help Local Farmers Facing Land Acquisition? A Case Study from Oil Palm Development in East Kalimantan, Indonesia	2018年 3月	単独	7th Southeast Asia Studies Symposium			
		3	その他	その他/講師	持続可能な森林認証・パーム油認証制度の問題点	43374	単独	自由学校遊 講座「企業と人権-SDGs時代のビジネスに求められるもの」			
		4	その他	その他/講師	持続可能な森林認証の問題点:インドネシア東カリマンタン州の事例から	2019年 1月	単独	第六回熱帯林ガバナンス研究会報告 2019年2月3日 九州大学東京オフィス			
13	岡田 みさを	1	その他	国際学会	【学会発表】"Straight-punch": how a coach and a boxer organize a "mitt-training activity" in boxing(ミット打ち練習における「インストラクション-compliance連鎖」の相互行為分析)	2018年 7月	単独	国際会話分析大会 (ICCA 2018, ラフバロー大学, 英国)			
		2	その他	国際学会	【学会パネル発表】Pivot-like assessments: One practice for occasioning self-initiated tellings within a single turn (ストーリーテリングにおける「Pivot-like assessments」の機能)	2018年 7月	共同(代表以外)	国際会話分析大会 (ICCA 2018, ラフバロー大学, 英国)			
14	古谷 次郎	1	論文	学術論文(査読有り)	学校現場体験学習の向上を目指す学習プログラムの教職科目への導入	2018年 9月	共著(第一著者以外)	中央学院大学	商経論叢	33(14)-16	
		2	論文	学術論文(査読無し)	高等学校商業科における「商業動態統計」を用いた教材開発	2019年 3月	単著	日本商業教育学会	商業教育論集	29()	
		3	その他	研究ノート	「統計」・「統計資料」等の活用に関する小学校「社会科」・中学校「社会科」の新・旧学習指導要領の比較	2019年 3月	単著	北星学園大学教職部門	教職課程年報	(2)	
		4	その他	全国学会	高等学校商業科における「商業動態統計」を用いた教材開発	2018年 8月	単独	日本商業教育学会第29回全国(三重)大会			
		5	その他	全国学会	中学校の総合的な学習の時間における公的統計データを用いた教材開発	2018年 9月	単独	日本教育学会第77回大会			
		6	その他	研究会・シンポジウム等	ビデオによる熟達教師の授業観察と模擬授業の省察を 取り入れた教職実践演習での実証実験	2019年 3月	共同(代表以外)	日本教育工学会研究会			
15	韓 文熙	1	その他	研究報告	身体化認知アプローチとSensory Marketing (Embodied Cognition Approach and Sensory Marketing)	2019年 3月	単著	商品開発・管理学会		()25-30	
		2	その他	全国学会	身体化認知アプローチとSensory Marketing	2019年 3月	単独	商品開発・管理学会			
16	足立 清人	1	論文	学術論文(査読無し)	抵当権の効力の及ぶ目的物の範囲について(3)	2018年 9月	単著	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	58(1)	
		2	論文	学術論文(査読無し)	地租改正と地主的土地所有の歴史的 성격—経済史と法制史・民法的観点から(1)	2018年 6月	共著(第一著者以外)	北海道大学	北海道大学経済学研究	68(1)	
		3	その他	受託研究	ドイツ、フランスの「地籍」制度の状況と、「地籍」制度と「不動産登記」制度の関係について	2019年 3月	単著	日本土地家屋調査士会連合会所蔵			
		4	その他	受託研究	「ドイツ、オーストリア、フランス、及びオーストラリア、ニュージーランドの地籍制度と不動産登記制度(仮題)」について(平成29~30年度研究所研究中間報告 諸外国の地籍制度等の実「アクティブ・ラーニング」としての()ゼミ活動	2018年 9月	単著	日本土地家屋調査士会連合会	土地家屋調査士	(740)	
		5	その他	研究ノート	「法教育」の現状—「『法教育』を考える」ための準備作業としての現状把握—	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集	第58巻2号	
		6	その他	研究ノート	「法教育」の現状—「『法教育』を考える」ための準備作業としての現状把握—	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星学園大学教職課程年報	(2)	
		7	その他	研究ノート	2017年度「外部講師による講演会」企画『法学講演会—痴漢冤罪から見る刑事手続の問題点』報告	2018年 9月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	58(1)	
		8	その他	研究ノート	2016年度 小学6年生を対象にした『『法教育』授業』企画の報告	2018年 9月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	58(1)	
		9	その他	研究ノート	2017年度「外部講師による講演会」企画『債権法講演会—学生から見た奨学金』報告	2018年 9月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	58(1)	
		10	その他	翻訳	翻訳『創世記(Liber Genesis)新ブルガータ版(Nova Vulgata Editio)』邦訳(1)	2018年 9月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学文学部北星論集	56(1)	
		11	その他	その他	預貯金債権の共同相続について—最大決平成28年12月19日金法2058号6頁の検討を通じて(2)—	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集	58巻2号	
		12	その他	その他	節税のための養子縁組の縁組意思の有無について—最判平成29年1月31日民集71巻1号48頁—	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集	58巻2号	
17	星野 宏司	1	論文	学術論文(査読有り)	Signal Processing of GNSS data for Winter Sports	2018年 9月	共著(第一著者以外)	18th International Symposium on Communications and Information Technologies	18th International Symposium on Communications and Information Technologies		
		2	その他	全国学会	アルペンスキー選手における運動時の咬合力と無酸素パワー発揮特性の関係	2018年 6月	単独	日本スポーツ歯科医学会第29回総会・学術集会			
		3	その他	国際学会	Comparison of alpine skier's lactate kinetics during recovery phase for wingate test and squat rebound jump test	2018年 7月	単独	23rd annual congress of the EUROPEAN COLLAGE OF SPORT SCIENCE			
		4	その他	国際学会	Signal Processing of GNSS data for Winter Sports	2018年 9月	共同(代表以外)	18th International Symposium on Communications and Information Technologies			

18 経済学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日 または発表年月日	執筆分類 または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
17	星野 宏司	5	その他	全国学会	運動時の咬合機能と最大無酸素パワーの発揮特性	2018年10月	単独	第31回日本トレーニング科学学会大会			
		6	その他	国際学会	The Relationship Between Occlusal Force And Power Profile During Exercise	2018年12月	単独	11th International Conference on Strength Training			
		7	その他	全国学会	アルペンスキー競技に求められる最大無酸素パワーの発揮特性を考慮した体力評価法	2019年 3月	単独	日本体育測定評価学会			
		8	その他	国際学会	The power profile of the maximum anaerobic power of alpine skiers	2019年 3月	単独	8th International Congress on Science and Skiing			
18	金子 大輔	1	論文	学術論文(査読有り)	Trends in Qualitative Research in the Japan Society for Educational Technology	2018年	共著(第一著者以外)		Educational technology research	40(1)-11	
		2	その他	国際学会	Visualizing Relationships among Contents Topics and Learning Activities of Online Courses	2018年 6月	共同(代表以外)	Proceedings of World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia 2018), pp.1355-			
		3	その他	全国学会	日本教育工学会における質的研究の特徴と課題	2018年 7月	共同(代表以外)	日本教育工学会研究報告集 18(3), 21-28			
		4	その他	全国学会	道徳科における情報モラル教育のための「感情的判断と合理的判断のマトリックス」と「道徳教育の資質・能力のマトリックス」の開発	2018年 9月	共同(代表以外)	日本教育工学会第34回全国大会講演論文集, 239-240			
		5	その他	全国学会	大学新入生を対象とするコンピュータ操作スキルの自己評価チェックリストの開発と複数大学での利用	2018年 9月	共同(代表)	日本教育工学会第34回全国大会講演論文集, 489-490			
		6	その他	国際学会	Development of a Self-Evaluation Checklist of Computer Operational Skills for First-year University Students	2018年10月	共同(代表)	Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education (E-Learn 2018), 530-534			
		7	その他	国際学会	Development of Training Application for Wind Instruments and a Leaflet as a Learning Tool	2019年 1月	共同(代表)	Proceedings of the 17th Annual Hawaii International Conference on Education			
		8	その他	全国学会	教授・学習支援システムを用いた教育実践に関する研究報告の計量テキスト分析	2019年 3月	共同(代表以外)	人工知能学会：先進的学習科学と工学研究会 (ALST)			
		9	その他	その他/講師	インターネット上の情報とSNSの利用：家庭・地域・学校にできること	43374	単独	札幌市立平岡中学校地区懇談会			
19	林 秀彦	1	著書	学術書	Consideration of Stress Coping Support System for Prevention of Mental Disease Using Smart Heart Rate Monitor	2019年 3月	共著(第一著者)	IGI Global	Computational Methods and Algorithms for Medicine and Optimized Clinical Practice	()31-45	
		2	論文	学術論文(査読有り)	札幌市の映画館活性化と地域振興に関する考察	2019年 3月	共著(第一著者)		日本産業技術学会北海道支部会研究論文誌	(32)36-41	
		3	論文	学術論文(査読有り)	Signal Processing of GNSS data for Winter Sports	2018年 9月	共著(第一著者)		ISCIT2018	()199-203	
		4	論文	学術論文(査読有り)	Entrepreneurship Education for Digital Economy Era	2018年10月	単著	IOP Publish		pages . 7	
		5	論文	学術論文(査読有り)	Ways of University Education towards a Sustainable Society in the Digital Generation: Practical Case of the Prototype-Implementation Methodology in Entrepreneurship Education	2018年 8月	単著	Aspropendo (経済教育学会(インドネシア))	The 3rd International Conference in Economic Education and Entrepreneurship [ICEE3]	()25-33	
		6	その他	地方学会	地方都市における映画館の活性化に関する考察	2018年11月	共同(代表以外)	日本産業技術教育学会北海道支部会第32回大会			
		7	その他	国際学会	Development of mobile application for disaster prevention	2019年 3月	共同(代表)	ICACE19			
		8	その他	全国学会	ラジオとコミュニケーションの未来：ラジオ業界の現状と若者のラジオ離れの解決策に関する考察	2019年 3月	共同(代表以外)	IEICE-HCS			
		9	その他	全国学会	学生主導のインターナルコミュニケーションを活用した大学ゼミナール教育の試行	2019年 3月	共同(代表以外)				
		10	その他	国際学会	Consideration of application service combining global navigation satellite and cashless technology	2019年 3月	単独	ICCMIT2019			
		11	その他	国際会議/基調講演	デジタルネイティブ世代の持続可能な社会のための大学教育の在り方について：アントレプレナーシップ教育におけるプロトタイプ開発の実践事例から	2018年 8月	単独	経済教育とアントレプレナーシップに関する第3回国際会議ICEE3			
20	萩原 浩太	1	論文	学術論文(査読有り)	不当な取引制限の行為要件とその立証	2019年 1月	単著	商事法務	「独禁法のフロンティア(我が国が加える実務上の課題)」上杉秋則・山田香織編著・所収	()92-121	
		2	その他	その他	携帯電話事業者との契約に係るアップル・インクに対する独占禁止法違反被疑事件	2019年 3月	単著	公益財団法人・公正取引協会	公正取引	No.821	
		3	その他	その他	経済法判例研究会No.271 自動車用ランプ受注調整事件	2019年 1月	単著	有斐閣	ジュリスト	(1527)116-119	
		4	その他	その他	農協による系統外出荷制限が不当な拘束条件とされた事例(平成29年度重要判例解説所収)	2018年 4月	単著	株式会社有斐閣	ジュリストNo.1518,4月臨時増刊		
21	佐藤 友暁	1	論文	学術論文(査読有り)	Designing a Fine-Tuning Tool for Machine Learning with High-Speed and Low-Power Processing	2018年 9月	共著(第一著者)	IEEE	Proc. of ISCIT 2018	()204-207	
		2	論文	学術論文(査読有り)	Automatic Fine-Tuning of Wave-Pipelined Circuits and Development of Route Analysis Tool for It	2018年 7月	共著(第一著者)		Proc. of ITC-CSCC 2018	()118-121	

18 経済学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁		
21	佐藤 友暁	3	論文	学術論文(査読有り)	Comparison of Frequency Reuse Schemes for LTE Micro-Macro Cells	2018年 7月	共著(第一著者以外)	IEEE	Proc. of ECTI-CON 2018	()214-217			
		4	その他	国際学会	Comparison of Frequency Reuse Schemes for LTE Micro-Macro Cells	2018年 7月	共同(代表以外)	ECTI-CON 2018					
		5	その他	国際学会	Automatic Fine-Tuning of Wave-Pipelined Circuits and Development of Route Analysis Tool for It	2018年 7月	共同(代表)	ITC-CSCC 2018					
		6	その他	国際学会	Device, Circuits and Systems session chair	2018年 7月	単独	ECTI-CON 2018					
		7	その他	国際学会	Special Session 4: "Social Sciences and IT 2" session chair & organizer	2018年 9月	単独	ISCIT 2018					
		8	その他	国際学会	Special Session 4: "Social Sciences and IT 1" session chair & organizer	2018年 9月	単独	ISCIT 2018					
		9	その他	国際学会	Designing a Fine-Tuning Tool for Machine Learning with High-Speed and Low-Power Processing	2018年 9月	共同(代表)	ISCIT 2018					
		22	鄭 根珠	1	その他	研究会・シンポジウム等	映像にみる 1970年代～80年代の日韓連帯運動と女性	2018年 8月	単独	関口グローバル研究会第4回アジア未来会議			
				2	その他	その他/講師	世代言説にみる韓国社会の表象	43405	単独				
3	その他			その他/講師	金大中事件と日韓関係	43405	単独						
23	勝村 務	1	その他	その他	カール・マルクスとキリスト教 —マルクス生誕200年によせて—	2019年 3月	単著	北星学園大学・北星学園大学短期大学部スミス・ミッションセンター	一粒の麦	(59)			
		2	その他	全国学会	宇野三段階論と河西勝『宇野理論と現代株式会社』	2018年 9月	単独	経済理論学会北海道部会					
24	野原 克仁	1	論文	学術論文(査読有り)	Zero-truncated panel Poisson mixture models: Estimating the impact on tourism benefits in Fukushima Prefecture	2018年 4月	共著(第一著者以外)	Elsevier	Journal of Environmental Management, Vol 211	211()238-246			
		2	その他	国際学会	The recreational value of coral reefs in Okinawa Prefecture: A site choice model	2018年 8月	共同(代表)	Korea Environmental Economics Association					
		3	その他	その他/講師	経済学で読み解く地球環境問題	2018年 5月	単独	オープンユニバーシティ					
		4	その他	その他/講師	Environmental Economics	2018年 9月	単独						
25	山吉 智久	1	著書	訳書及び教科書	【訳書】J・クリントン・マッカーン『現代聖書注解 士師記』	2018年	単著	日本基督教団出版局					
		2	論文	学術論文(査読無し)	「彼らはヤハウェの目に悪を行った」—士師記の「循環的」定式—	2018年	単著		『北星論集』	58(1)21-34			
26	楠木 敦	1	その他	全国学会	「シュンペーターとナイト—不確実性をめぐって」	2018年 6月	単独	経済学史学会					
27	渡邊 稔	1	その他	全国学会	Unemployment, Income Growth and Social Security	2018年	共同(代表以外)	日本応用経済学会					
28	黄 雅雯	1	著書	著書	グローバル化とイノベーションの経営学	2018年10月	共著(第一著者以外)			()179-193	15		
		2	論文	学術論文(査読有り)	An Analysis of Global Intellectual Property Strategy: An Organizational Learning Approach and its Practices for Education	2018年 6月	共著(第一著者)		International Journal of Service and Knowledge Management	2(1)31-46			
		3	論文	学術論文(査読無し)	ベンローズの企業成長論の成立と展開	2019年 3月	単著		北星学園大学経済学部北星論集	58(2)17-27			
		4	その他	地方学会	鴻海社の成長過程の研究□ベンローズ理論の拡張を通じて—	2018年 4月	単独	日本経営学会					
29	山邑 紘史	1	論文	学術論文(査読有り)	Implementation with Socially Responsible Agents	2018年 4月	共著(第一著者以外)		Economic Theory Bulletin	6(1)55-62			
		2	その他	国際学会	Binary mechanism for the allocation problem with single-dipped preferences	2018年 6月	共同(代表)	The 14th Meeting of the Society for Social Choice and Welfare					
		3	その他	全国学会	Binary Mechanism for the Allocation Problem with Single-dipped Preferences	2018年 9月	共同(代表)	日本経済学会					
		4	その他	国際学会	Measurability and Interpersonal Comparability of Assessment Data	2018年 9月	単独	2018 18th International Symposium on Communication and Information Technologies					
		5	その他	ワークショップでの報告	Binary Mechanism for the Allocation Problem with Single-dipped Preferences	2018年11月	共同(代表)	The 8th Meetings on Applied Economics and Data Analysis					

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
1	今川 民雄	1	その他	その他/講師	チャイルドラインが必要な理由(わけ)	2018年 7月	共同					
		2	その他	その他/講師	傾聴の姿勢を身につけるための研修ーいのちの電話と関わって	2018年 8月	単独	小樽市相談援助技術専門研修				
2	杉岡 直人	1	論文	学術論文(査読有り)	在宅所による利用者支援から地域共生拠点形成への軌跡	2018年 8月	共著(第一著者)	北海道地域社会福祉学会	北海道地域社会福祉研究	21()52-63		
		2	論文	学術論文(査読有り)	地域包括ケアシステム構築に関わる社会福祉法人の地域食堂戦略	2018年 8月	共著(第一著者以外)	北海道地域社会福祉学会	北海道地域社会福祉研究	21()38-51		
		3	論文	学術論文(査読無し)	高等教育機関における障害学生の情報保障支援の課題(2)	2019年 3月	共著(第一著者以外)	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部北星論集	56()125-151		
		4	論文	学術論文(査読無し)	終の棲家を求めて	2018年10月	単著	昭和堂	農業と経済	84(9)54-63		
		5	論文	学術論文(査読無し)	NPO法人Tによる在宅所事業の経営分析	2018年 9月	共著(第一著者以外)	北星学園大学	北星学園大学経済学部北星論集	58(1)47-63		
		6	その他	全国学会	在宅所の展開からみる地域共生社会概念の検討	2018年 6月	共同(代表)	福祉社会学会第16回大会				
		7	その他	地方学会	在宅所の歴史的経緯と今	2018年11月	共同(代表以外)	北海道地域社会福祉学会全道研究大会				
		8	その他	地方学会	在宅所と地域共生社会の共生概念の問題	2018年11月	共同(代表)	北海道地域社会福祉学会全道研究大会				
		9	その他	地方学会	在宅所の経営分析	2018年11月	共同(代表以外)	北海道地域社会福祉学会全道研究大会				
		10	その他	その他/講師	地域包括ケアとまちづくり	2018年 7月	単独	社会福祉学部地域社会貢献事業				
		11	その他	その他/講師	正しい町内会の付き合い方	2018年 8月	単独	社会福祉学部地域社会貢献事業				
		12	その他	その他/講師	ボランティア活動＝善意のコストについて	2018年 8月	単独	社会福祉学部地域社会貢献事業				
		13	その他	その他/基調講演	まちづくりは町内会から	2018年 9月	単独	歌志内市まちづくり講演会2018				
		14	その他	その他/基調講演	地域包括ケアと地域づくり～社会参加とこれからの上士幌町に必要なもの～	43374	単独	上士幌町地域包括セミナー				
		15	その他	地方会議/基調講演	地域包括ケアの構築を目指して～ともに暮らしともに支え合う地域づくり	43374	単独					
		16	その他	その他/その他	地域共生社会の実現に向けた多様な地域福祉実践	43405	単独	北海道地域社会福祉学会全道研究大会				
		17	その他	その他/講師	町内会活動にどう関わればいいのか～町内会活動のこれから～	43435	単独	社会福祉学部地域社会貢献事業				
		18	その他	地方会議/その他	地域の暮らしを地域で考える	2019年 1月	単独	第5回ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会				
		19	その他	地方会議/その他	分科会②生活支援	2019年 1月	単独	第5回ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会				
		20	その他	その他/講師	地域包括ケアと農福連携	2019年 2月	単独	大麻地域創造会議				
		21	その他	受託研究	上士幌町創生包括プロジェクト検討報告書	2018年12月	共著(第一著者)					
3	ジェームズ・アリソン	1	その他	研究ノート	Overview of Primary Source English Language Historical Documents Related to Hokusei Gakuen's Missionary Founders, Part I	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集(北星学園大学社会福祉学部)	(10)153-161		
4	池田 雅子	1	その他	全国学会	【シンポジスト】社会福祉教育の「過去」を語る	2018年 9月	単独	日本社会福祉教育学会 第14回大会				
		2	その他	地方会議/パネリスト	個と地域を一体化した支援に向けたソーシャルワーク専門職養成の課題	43405	単独	2018年度 日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック 社会福祉教育セミナー				
5	K.U.ネンシュティール	1	著書	学術書	日本 2018年。政治、経済、社会。	43374	共著(第一著者以外)	Vereinigung fuer sozialwissenschaftliche Japanforschung			296	
		2	著書	学術書	危機の中の日本	2018年 5月	共著(第一著者以外)	Springer/VSVerlag			297	
		3	論文	学術論文(査読無し)	労働搾取型人身取引の背景と現実。ウズベキスタンにおける調査を手がかりに	2019年 3月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部 北星論集	(56)		
		4	論文	学術論文(査読無し)	ウズベキスタンにおける人身取引と強制労働	2019年 3月	共著(第一著者)					

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
5	K.U.ネンシュティール	5	論文	学術論文(査読無し)	森林セラピーを社会教育によって社会的インクルージョンに生かす	2019年 3月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部 北星論集	(56)	
		6	その他	国際学会	ウェルネスとウェルビーイング: 日本における森林浴と森林セラピー	2018年 5月	単独	「ウェルビーイングとホスピタリティ」国際レサーチ学会			
		7	その他	国際学会	日本においてインターセックスの人及び性特徴の変形の人 ^が 日常的に直面する差別とその背景	2018年 6月	単独	「インターセックス」社会科学学会: アクティヴィズム、人権、シティズンシップ			
		8	その他	国際学会	日本における社会科学と人文科学の現状	2018年 8月	単独	第17回のドイツ語圏日本学会			
		9	その他	国際学会	現在における「森林」熱の社会的持続可能性について	2018年 9月	単独	ドイツ社会学会			
		10	その他	国際学会	森林を五感で味わう	2018年 9月	単独	ヨーロッパ社会学会			
		11	その他	国際学会	社会福祉と森林セラピー	2018年10月	単独	ヨーロッパ社会学会			
		12	その他	国際学会	森林浴における幸福、キャパビリティと機会の関連	2018年11月	単独				
6	柴田 利男	1	その他	全国学会	友人との関係性が感情表出の制御に与える影響	2018年 9月	単独	日本教育心理学会第60回総会			
		2	その他	全国学会	感情特性の個人差	2018年11月	単独	日本感情心理学会 第26回大会			
7	水川 喜文	1	その他	国際学会	Ad hoc practice in atypical interaction: Not following instruction in the eye-tracking P	2018年 7月	単独	International Conference on Conversation Analysis 2018			
8	トーマス・ゲッツ	1	論文	学術論文(査読無し)	Readiness quizzes as adjuncts for ensuring gateway class success.	2019年 3月	単著	56, March 2018	北星学園大学	(56)39-48	
		2	その他	その他	Nothing is Impossible with God	2019年 3月	単著		北星学園大学	()178-82	
		3	その他	その他	Moodle version of World Link 2, 3rd edition, Grammar exercises formatted for iPads and most tablet devices.	2019年 3月	単著		オンラインのeラーニング出版。		
		4	その他	その他	Moodle version of World Link 3, 3rd edition, Grammar exercises formatted for iPads and most tablet devices.	2019年 3月	単著		オンラインのeラーニング出版。		
		5	その他	その他	Moodle Version of World English 2 Workbook Units 1-6 formatted for iPad.	2019年 3月	単著		オンラインのeラーニング出版	Cengage Learning	
		6	その他	その他	Moodle Version of World English 2 Workbook Units 7-12 formatted for iPad.	2019年 3月	単著		Cengage Learning	オンラインのeラーニング出版。	
		7	その他	その他	Moodle version of World Link 1, 3rd edition, Grammar exercises formatted for iPads and most tablet devices.	2019年 3月	単著		Cengage Learning	オンラインのeラーニング出版。	
		8	その他	その他	Something Greater is Here	2019年 3月	単著		北星学園大学	北星学園大学	()13-16
		9	その他	国際学会	Readiness quizzes as adjuncts for ensuring gateway class success.	2018年 7月	単独		XIX International CALL Research Conference		
		10	その他	国際学会	Readiness quizzes as adjuncts for ensuring gateway class success.	2018年 7月	単独		IJAS - International Journal of Arts and Sciences		
		11	その他	国際学会	"HAL, are you there?" Data collection with conspicuously placed handheld devices and learner stress levels	2018年 8月	単独		EUROCALL 2018		
		12	その他	全国学会	Remedial Learner Needs and Inclusivity	2018年11月	単独		JALT 2018		
9	田実 潔	1	その他	研究報告	小学校における指導力不足が疑われる教諭に関する考察	2019年 3月	共著(第一著者)		北星学園大学社会福祉学部 北星論集	(56)49-59	
		2	その他	研究ノート	障害者差別解消法の取組について ~北星学園大学の取組~	2018年 9月	単著		北海道精神保健協会	心の健康	(141)40-42
		3	その他	全国学会	卒業後の就職支援を見据えた地域連携Ⅱ	2018年 9月	共同(代表)		日本特殊教育学会第56回大会		
		4	その他	全国学会	教職志望学生が経験したM教諭Ⅰ	2018年 9月	単独		第28回日本教師教育学会研究大会		
		5	その他	全国学会	発達障害のある学生の就労支援Ⅰ	2018年12月	単独		大学教育学会2018年度課題研究会		
		6	その他	全国学会	障害のある学生支援における合理的配慮の妥当性 -アクセシビリティ支援室2年間の取組から-	2018年 6月	単独		第40回大学教育学会		
		7	その他	全国学会	発達障害のある大学生に対するノートテイク支援の可能性についての考察	2018年 8月	共同(代表)		日本発達障害学会第53回研究大会		

19 社会福祉学部専任教員の研究業績【2018年度】

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
9	田実 深	8	その他	その他/基調講演	大学授業に求められる「具体的支援と合理的配慮とは？」	2018年 5月	単独	ものづくり大学での講演			
		9	その他	その他/講師	こどもの心に寄り添う保育	2018年 7月	単独	第43回 江別私立幼稚園連合会教諭研修会			
		10	その他	その他/講師	自閉症スペクトラムの「理解と対応 ～自閉症等の特性に基づく支援の実際～」	2018年 8月	単独	札幌市教育委員会教育課題研修			
		11	その他	その他/基調講演	学生の学修を支援する授業とは？	2018年 9月	単独	山形大学FD合宿セミナーⅣ			
		12	その他	その他/講師	発達障害(がいの)理解と支援	2018年 9月	単独	北海道空知総合振興局研修			
		13	その他	その他/基調講演	授業に求められる合理的配慮とは？ 障害者差別解消法と授業	2018年 9月	単独	山形大学FD合宿セミナーⅢ			
		14	その他	その他/講師	発達障害(がいの)理解と支援	43374	単独	札幌市西区家庭生活カウンセラー研修			
		15	その他	その他/講師	発達障害(がいの)理解と支援	43374	単独	滝川市まちづくりセンターみんくる講演会			
		16	その他	その他/基調講演	就職支援課と連携した障害学生就労の取組	43405	単独	平成30年度 私立大学協会就職部課長相当者研修会			
		17	その他	その他/講師	障害学生支援と履修指導について	43405	単独	平成30年度 大学間職員短期派遣研修			
		18	その他	その他/講師	こどもの心に寄り添う保育 -発達障害がある幼児と親への支援-	43435	単独	2018年 札幌キリスト教保育連盟研修会			
		19	その他	その他/基調講演	大学に求められている障害のある学生への合理的配慮とは？	43435	単独	会津短期大学FD研修会			
		20	その他	その他/講師	附属校における発達障害(がいの)のある高校生への支援	2019年 1月	単独	北星学園大学附属高校教員研修会			
21	その他	その他/講師	発達障害(がいの)のある高校生への支援	2019年 1月	単独	北海道高等学校教育相談研究会第47回研究大会 研修講座4					
10	田中 耕一郎	1	論文	学術論文(査読無し)	【特集論文】障害学は知的障害とどのように向き合えるのか：他者化への抗いのために	2018年11月	単著	明石書店	障害学研究	(14)105-119	
		2	その他	地方会議/講師	障害者運動は何を訴えてきたか①：日英米の障害者運動の現代史から	2018年 7月	単独	道立福祉村職員研修会①			
		3	その他	地方会議/講師	障がい児者支援の法制度の理念と相談支援の基本姿勢①	2018年 7月	単独	北海道平成30年度相談支援従事者研修①(サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者向け)			
		4	その他	地方会議/講師	障害者福祉の歴史と理念	2018年 8月	単独	障害者虐待防止・権利擁護指導者養成講座			
		5	その他	地方会議/講師	障害者運動は何を訴えてきたか②：日英米の障害者運動の現代史から	2018年 8月	単独	道立福祉村職員研修②			
		6	その他	地方会議/講師	参加型授業におけるファシリテーション	2018年 9月	単独	平成30年度相談支援従事者研修及びサービス管理責任者等養成研修(ファシリテーター養成研 みらいつくり大学			
		7	その他	地方会議/講師	障害の社会モデルから/「ケアの倫理」へ：「分断」に抗うための思考について	43374	単独				
		8	その他	地方会議/講師	障害者運動は何を訴えてきたか：日英米の障害者運動の現代史から	43374	単独	新ひだか町障がい者福祉ミーティング			
		9	その他	地方会議/講師	障害者福祉の基礎理念～障害者運動は何を訴えてきたか	43374	単独	オホーツク障がい福祉セミナー2018 in網走			
		10	その他	地方会議/講師	障がい児者支援の法制度の理念と相談支援の基本姿勢②	43374	単独	海道平成30年度相談支援従事者研修②(サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者向け)			
		11	その他	地方会議/講師	知的障害者の権利擁護について「分断」の克服に向かうための二つの思考	43405	単独	さっぽろ行動援護ネットワーク研修会			
		12	その他	地方会議/講師	社会モデルから/「ケアの倫理」	43435	単独	社会福祉法人あむ 職員研修会			
		13	その他	地方会議/基調講演	「共に生きるために」：「分けること」への抵抗とともに	2019年 2月	単独	知的障がいを発信するシンポジウム「この街に暮らす私たちの声」			
		14	その他	地方会議/講師	障がい児者支援の法制度の理念と相談支援の基本姿勢③	2019年 2月	単独	北海道平成30年度相談支援従事者研修③(サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者向け)			
11	安部 雅仁	1	論文	学術論文(査読有り)	カイザー・パーマネンテの「患者参加型の医療」ITプログラム—My health managerの目的、方法および成果	2018年 9月	単著	国立社会保障・人口問題研究所	『社会保障研究』	()299-313	
		2	その他	その他/その他	【新聞記事寄稿】北海道新聞:タイトル「介護人材確保へ助成次々」	2018年 4月	単独				

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
11	安部 雅仁	3	その他	その他/その他	【新聞記事寄稿】北海道新聞:タイトル「介護保険・重い負担、老後不安」	2018年 4月	単独					
		4	その他	国内会議/基調講演	【招請講演】高齢者雇用促進の意義と課題を考える	43374	単独					
12	高橋 百代	1	その他	その他	外国語を学ぶ意義「海外事情」からみるフランス語教育の実践	2019年 3月	単著	北星学園キリスト教センター	北星教育と現代	第7号		
13	中村 和彦	1	その他	書評	【書評】『こころの苦しみの理解—トータルメンタルヘルスガイドブック』シドニー・ブロック著/竹島正監訳、中央法規出版、2018年。	2019年 1月	その他	一般社団法人日本精神保健福祉学会	精神保健福祉学	()118-119		
		2	その他	地方学会	精神保健ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの効果的方法にむけた予備的考察	2018年 5月	共同(代表以外)	2018年度一般社団法人北海道精神保健福祉士協会全道大会				
		3	その他	地方学会	北海道精神保健福祉士養成校協会の果たした役割と引き継ぐべき課題	2018年 5月	共同(代表以外)	2018年度一般社団法人北海道精神保健福祉士協会全道大会				
		4	その他	その他	【リポート】アトランティック・カナダ、ハリファックスでの330日間	2018年 7月	単著	公益社団法人日本精神保健福祉士協会	精神保健福祉(メンタルヘルス見聞録第2回)	()286-287		
		5	その他	全国学会	ラーニング・コモンスの利用動機についての探索的検討	2018年 9月	共同(代表以外)	日本心理学会第82回大会				
		6	その他	国内会議/その他	コミュニティワーク—街づくりからみたグループ	2018年 5月	共同	日本集団精神療学会第35回大会(JAGP2018)				
		7	その他	地方会議/講師	【講演】利用者・家族からの支援に対する要求や苦情について	2019年 3月	単独	平成30年度稚内市地域ケア会議学習会				
14	栗林 克匡	1	論文	学術論文(査読無し)	シャイネスが援助要請とサポート受容に及ぼす影響	2019年 3月	単著		北星論集(北星学園大学社会福祉学部)	(56)1-6		
		2	その他	全国学会	公的自己意識とフォロワー数がTwitterの投稿内容に及ぼす影響	2018年 8月	単独	日本社会心理学会第59回大会				
		3	その他	全国学会	シャイネスが援助要請とサポート受容に及ぼす影響	2018年 9月	単独	日本グループ・ダイナミクス学会第65回大会				
15	田澤 安弘	1	著書	著書	ナラティブと心理アセスメント—協働的/治療的につなぐポイント	2018年 8月	その他	創元社			171	
		2	論文	学術論文(査読無し)	抑うつ発生の回復過程における情動過程と認知過程の因果性に関する事例基盤研究	2019年 3月	単著		北星論集	(56)19-24		
		3	論文	学術論文(査読無し)	セラピストクライアント間の倫理的関係を維持・改善する「切れ・つづき」の創出—セラピーの「枠」を補強する心理学的ツールとしてのダイナミック・アセスメント	2019年 3月	単著		北星論集	(56)7-18		
		4	その他	その他	【査読論文】三原彩絵著「心理面接における二者関係とセラピストの在り方」へのコメント—我と汝が出会うこと、他者の苦しみを共に苦しむこと	2019年 3月	単著		北星学園大学心理臨床センター—紀要	第14号		
		5	その他	全国学会	【シンポジウム】治療的アセスメントについて考える(その8)	2018年 9月	共同(代表)	日本心理臨床学会第37回大会				
		6	その他	全国学会	【学会発表】抑うつ発生の回復過程における抑うつ気分と否定的思考の因果関係に関する事例基盤研究	2018年 9月	単独	日本心理臨床学会第37回大会				
16	岡田 直人	1	著書	訳書及び教科書	【教材】よくわかる福祉行政と福祉計画	2018年 5月	20共著(第一著者)	ミネルヴァ書房			12	
		2	著書	訳書及び教科書	【教材】2019社会福祉士国家試験過去問解説集第28回—第30回全問完全解説	2018年 5月	20共著(第一著者)	中央法規出版株式会社			8	
		3	その他	コメンテーター	【TV放映】特集 札幌で急増 その理由は?	2018年 5月	その他	STV札幌テレビ放送	(日)どさんこワイド			
		4	その他	コメンテーター	【TV放映】特集 増える孤立した高齢者 孤立死防ぐ対策は	2018年 4月	その他	HTB北海道テレビ	イチオシ!			
		5	その他	書評	【書評】Book Review ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法	2018年 7月	単著	日本ケアマネジメント学会	日本ケアマネジメント学会ニューズレター	No.17/2018.7.p.65.		
		6	その他	その他	【本の紹介】『ストーリーで学ぶ 介護事業 共感マーケティング』	2019年 3月	単著	日本ケアマネジメント学会	日本ケアマネジメント学会ニューズレター	第35号		
		7	その他	その他	【新聞掲載】統一地方選 模索する現場③ 買い物弱者 生かすために	2019年 3月	その他	朝日新聞社	朝日新聞	47685号、31面		
		8	その他	その他	【本の紹介】『スーパービジョンへの招待「OGSV(奥川グループスーパービジョン)モデル」の考え方と実践』	2019年 3月	単著	日本ケアマネジメント学会	日本ケアマネジメント学会ニューズレター	第35号		
		9	その他	その他	【新聞掲載】地域活動で健康増進 北見でフォーラム 岡田教授が講演	2019年 1月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	第27367号、19面、地域の特種(オホーツク)		
		10	その他	その他	【新聞掲載】「参加して楽しいと思える」大切	2019年 1月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	第27366号、15面、くまもと		
		11	その他	その他	【新聞掲載】町内会活動の活性化を学ぶ 北星大教授が講演	2018年11月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	第27288号、14面、地域の特種(中・北空知)		

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
16	岡田 直人	12	その他	その他	【新聞掲載】厚真 福祉施設入所者 100人超町外避難 長期化 増す負担	2018年10月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	第27256号、1面		
		13	その他	その他	【新聞掲載】「災害弱者」を守るには 胆振東部地震1か月④ 高齢者・障害者施設失われた日常 地域との連携築く必要	2018年10月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	第27258号、16面、17面		
		14	その他	その他	【本の紹介】『健康で文化的な最低限度の生活』	2018年10月	単著	日本ケアマネジメント学会	日本ケアマネジメント学会ニューズレター	第34号		
		15	その他	その他	【新聞掲載】情報BOX 十勝管内民生委員児童委員専門研修	2018年 8月	その他	十勝毎日新聞社	十勝毎日新聞	第29686号、2面		
		16	その他	その他	【新聞掲載】農福連携を支援 法人設立 大学教授・農家・福祉の専門家ダググ 分業化やマッチングなど課題も	2018年 6月	その他	朝日新聞	朝日新聞社	第47440号、28面、29面		
		17	その他	その他	【新聞掲載】道町連アンケート 町内会会長10年超24% 「役員なり手不足」77%	2018年 6月	その他	北海道新聞社	北海道新聞	2018年6月8日(毎月)19面、社会		
		18	その他	その他	【計画書】第5次 さっぽろ市民福祉活動計画【2018年度～2023年度】	2018年 5月	その他	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会				
		19	その他	全国学会	【座長】特別講演「挑戦し続ける心の持ち方」	2018年 5月	単独	日本ケアマネジメント学会第17回研究大会in北海道				
		20	その他	全国学会	【座長】セッション;S11 調査研究①	2018年 5月	共同(代表)	日本ケアマネジメント学会第17回研究大会in北海道				
		21	その他	全国学会	【コメンテーター】口頭発表(午前の部):第2分科会:制度・政策、権利擁護①	2018年 6月	単独	日本地域福祉学会第32回大会				
		22	その他	国際学会	【学会発表】An Analysis of Community Support by the Numbers of Households in Schooldistricts in Noboribetsu City	2018年 7月	単独	Social Work,Education and Social Development 2018				
		23	その他	地方会議/講師	【講演】ボランティアの“現在”と“未来”	2018年 4月	単独	厚別区ボランティア連絡会 平成30年度 第1回研修会				
		24	その他	地方会議/講師	【講演】地域の支え合い活動へのアクティブシニアの参加に向けて～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	2018年 6月	単独	足寄町社会福祉協議会「平成30年度 第1回 ボランティアスキルアップ研修会」				
		25	その他	地方会議/講師	【模擬講義】高校生にもできる地域福祉活動の担い手！～何ができるだろうか！？～	2018年 6月	単独	北星福祉				
		26	その他	地方会議/講師	【講演】札幌で災害が発生した際、地元ボランティアに望むこと～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現が災害に強い地域社会をつくる～	2018年 7月	単独	札幌市ボランティア連絡協議会「平成30年度 ボランティアセミナー」				
		27	その他	地方会議/講師	【講演】旧くて新しいテーマと新たな地域の支え合い活動の振興に向けて 新たな担い手の発掘と地域共生社会	2018年 7月	単独	公益法人北海道民生委員児童委員連盟、北海道民生委員児童委員連盟帯広支部「平成30年度十勝管内 民生委員児童委員専門研修」				
		28	その他	その他/その他	【報告】余市をフィールドとした農福産学連携の試みについて～どうせやるならおもしろく、みんながWIN-WINをめざして～	2018年 7月	共同	北星学園「2018年度 北星学園研修会 教育職員部会 Ⅲ報告会」各校の魅力ある取り組み事例報告				
		29	その他	地方会議/講師	【講演】これから求められる地域共生社会のまちづくり～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	2018年 8月	単独	登別市社会福祉協議会「きずなシンポジウム」				
		30	その他	地方会議/講師	【講演】旧くて新しいテーマと新たな地域の支え合い活動の振興に向けて 新たな担い手の発掘と地域共生社会	2018年 8月	単独	公益法人北海道民生委員児童委員連盟、北海道民生委員児童委員連盟小樽支部「平成30年度後志管内 民生委員児童委員専門研修」				
		31	その他	地方会議/その他	【コメンテーター】共生のきずなを紡ぐシンポジウム」	2018年 8月	単独	登別市社会福祉協議会「きずなシンポジウム」				
		32	その他	地方会議/講師	【講演】第2回 高齢者の社会参加の意義と地域力について	2018年 9月	単独	平成30年度厚別区版大学連携CCRC事業				
		33	その他	その他/講師	【模擬授業】福祉実践を支える思想－ノーマライゼーションから今日まで－	2018年 9月	単独	北海道札幌厚別高等学校(見学会模擬授業)				
		34	その他	その他/講師	【模擬授業】福祉実践を支える思想－ノーマライゼーションから今日まで－	2018年 9月	単独	北海道札幌厚別高等学校(見学会模擬授業)				
		35	その他	地方会議/講師	【講演】旧くて新しいテーマと新たな地域の支え合い活動の振興に向けて 新たな担い手の発掘と地域共生社会	2018年10月	単独	公益法人北海道民生委員児童委員連盟、北海道民生委員児童委員連盟小樽支部「平成30年度後志管内 民生委員児童委員専門研修」				
		36	その他	地方会議/講師	【講演】「旧くて新しいテーマと新たな地域の支え合い活動の振興に向けて 新たな担い手の発掘と地域共生社会」	2018年10月	単独	公益法人北海道民生委員児童委員連盟、北海道民生委員児童委員連盟美幌支部「平成30年度空知管内 民生委員児童委員専門研修」				
		37	その他	地方会議/講師	【講演】地域の支え合い活動への地域住民の参加に向けて	2018年10月	単独	松前町社会福祉協議会「平成30年度 生活支援体制整備事業」				
		38	その他	地方会議/講師	【講演】地域の絆と支え合い活動	2018年10月	単独	奈井江町社会福祉協議会「平成30年度 奈井江町生活支援体制整備事業講演会」				
		39	その他	その他/講師	【出前講義】社会福祉から地域社会へのアプローチ～災害から命を救う地域社会をめざして～	2018年10月	単独	北海道釧路陵高等学校「平成30年度 1学年対象出張講義(北星学園大学)」				
		40	その他	地方会議/講師	【講演】旧くて新しいテーマと新たな地域の支え合い活動の振興に向けて 新たな担い手の発掘と地域共生社会	2018年10月	単独	公益法人北海道民生委員児童委員連盟、北海道民生委員児童委員連盟江別支部「平成30年度石狩管内 民生委員児童委員専門研修」				
		41	その他	地方会議/講師	【記念講演】人と人が結びつき盛り上がっているある連合町内会の仕掛け～一人ではできないから、協力者を増やす要諦とは～	2018年10月	単独	滝川市町内会連合会連絡協議会「創立30周年記念祝典・祝賀会」				

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
16	岡田 直人	42	その他	地方会議/講師	【講演】地域の支え合い活動への地域住民の参加に向けて～ふくしまちづくりで地域共生社会の実現に向けて～	2018年11月	単独	帯広市町内会連合会・帯広市社会福祉協議会「平成30年度 地域福祉活動研修会」			
		43	その他	地方会議/講師	【講演】「防災を求心力とした地域福祉の現実的なネットワーク化の提案 地域の支え合い活動への新たな住民ボランティア参加に向けて」	2018年12月	単独	京極町社会福祉協議会「職員研修」			
		44	その他	地方会議/講師	【講演】サロン活動の意義と効果について	2018年12月	単独	厚別区中央地区福祉のまち推進センター「厚別中央地区ふれあい・いきいきサロン活動者交流会」			
		45	その他	地方会議/その他	【助言者】北見市における支え合う地域づくりの歩み	2019年1月	単独	北見市地域福祉活動合同推進本部「平成30年度地域福祉活動研修会」			
		46	その他	地方会議/講師	【講演】「支え合う地域づくりを紐解く～道内外の実践を基に～」	2019年1月	単独	北見市地域福祉活動合同推進本部「平成30年度地域福祉活動研修会」			
		47	その他	地方会議/講師	【講話】わたし・対象者・地域の強みを見いだすアセスメント塾	2019年1月	単独	北見市社会福祉協議会、北見市福祉人材バンク「平成30年度 第1回福祉マンパワー活用講習会」			
		48	その他	地方会議/講師	【助言者】支え合いのある地域づくりについて～生活支援体制整備事業～	2019年3月	単独	公益社団法人北海道社会福祉士会オホーツク地区支部「社会福祉セミナーin紋別」			
		49	その他	地方会議/講師	【講演】地域の支え合い活動への新たな住民ボランティア参加に向けて～ふくしまちづくりで地域共生社会の実現を～	2019年3月	単独	公益社団法人北海道社会福祉士会オホーツク地区支部「社会福祉セミナーin紋別」			
		50	その他	地方会議/講師	【講演】地域共生社会のあり方～新たな地域の担い手を確保するヒント～	2019年3月	単独	札幌市厚別区社会福祉協議会「厚別区民生委員児童委員協議会全体研修会」			
17	宮崎 靖士	1	論文	学術論文(査読無し)	張文環の日本語文学作品における表象傾向の分有と深化 ——一九四〇～四三年を対象として——(採録)	2018年12月	単著		中国関係論説資料	59(2)151-160	
18	佐橋 克彦	1	著書	訳書及び教科書	『福祉ライブラリ 社会保障』	2018年8月	共著(第一著者以外)	建帛社			
		2	その他	その他/講師	報告・報告書から読むわが国社会保障・社会福祉の動向	43435	単独	平成30年度札幌市白石区保健福祉部職場研修			
19	田辺 等	1	論文	学術論文(査読有り)	ギャンブル障害—わが国の現状と課題	2018年12月	共著(第一著者)	科学評論社	精神科	33(6)489-494	
		2	論文	学術論文(査読有り)	行動嗜癖とその治療—ギャンブル障害を中心に	2018年11月	単著	日本社会精神医学会	日本社会精神医学会雑誌	27(4)285-292	
		3	その他	全国学会	最近の依存症問題とグループの治療的活用	2018年11月	単独	第23回日本心療内科学会総会・学術大会			
		4	その他	地方学会	北海道の自殺対策の取り組み(指定発言)	2018年12月	単独	日本精神神経学会精神科専門医制度生涯教育研修会			
		5	その他	全国学会	「不祥事」(あるいは「Dr.Y問題」と呼ばれる出来事と学会の「トラウマ」をめぐってPart II	2019年3月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第36回大会			
		6	その他	その他/基調講演	うつ・自殺・アルコール問題のトライアングル	2018年6月	単独	夕張市民健康講座			
		7	その他	その他/特別講演・記念講演	うつ病について	2018年7月	単独	平成30年度後志精神保健協会講演会			
		8	その他	地方会議/基調講演	アルコール依存症の基礎知識と回復支援	2018年8月	単独	平成30年度アルコール依存症研修会			
		9	その他	その他/基調講演	集団精神療法の基本	2018年8月	単独	岩手県平成30年度グループ・集団精神療法基礎研修会			
		10	その他	その他/パネリスト	地域にAAを	2018年9月	単独	AA北海道ラウンドアップAAパブリックミーティング			
		11	その他	その他/基調講演	ギャンブル依存症の理解と対応	2018年9月	単独	平成30年度釧路保健所ギャンブル依存症講演会			
		12	その他	その他/特別講演・記念講演	精神障がい者支援の展望	43374	単独	北見地方精神保健協会創立50周年記念講演会			
		13	その他	その他/講師	ギャンブル障害の地域における相談支援	43435	単独	ギャンブル依存症等指導者養成研修			
		14	その他	その他/基調講演	最近の依存症事情	2019年1月	単独	富良野地方精神保健協会講演会			
		15	その他	その他/講師	ギャンブル障害の地域における相談支援	2019年2月	単独	ギャンブル依存症等指導者養成研修			
		16	その他	その他/基調講演	ギャンブル依存症の理解 治療・相談・支援の基本	2019年3月	単独	長野県依存症関係機関講演会			
		17	その他	その他/基調講演	アディクションの理解と集団療法の基本	2019年3月	単独	2018年度第4回鳥取県アルコール健康障害・薬物依存症支援拠点病院機関事業			
20	永井 順子	1	論文	学術論文(査読無し)	北海道 室蘭・登別地区における精神保健ソーシャルワークの歴史と展開	2019年1月	共著(第一著者以外)	北翔大学	北翔大学教育文化学部研究紀要	(4)195-205	

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁	
20	永井 順子	2	その他	研究報告	名寄地区における精神保健医療福祉の源流に関する一考察:1980年代の社会復帰活動の創出を中心に	2018年 5月	共著(第一著者以外)		地域と住民:コミュニティケア教育研究センター年報	2(36)55-64		
		3	その他	書評	今月の2冊 「ことば」と社会保障法—規範的独自性を探る—	2018年12月	単著	健康保険組合連合会	健康保険	72(12)41		
		4	その他	書評	この一冊 「ことば」と社会保障法	2018年12月	単著	法研	週刊社会保障	72(3003)35		
		5	その他	書評	今月の2冊 ダルク 回復する依存者たち—その実践と多様な回復支援	2018年 8月	単著	健康保険組合連合会	健康保険	72(8)		
		6	その他	書評	今月の2冊 『こころの病に挑んだ知の巨人—森田正馬・土居健郎・河合隼雄・木村敏・中井久夫』	2018年 4月	単著	健康保険組合連合会	健康保険	72(4)		
		7	その他	全国学会	北海道精神保健ソーシャルワークの生成期の概観とPSWの位置の検討～第三次医療圏6区域の歴史記述の試みから～	2018年 9月	共同(代表)	第7回日本精神保健福祉学会				
		8	その他	全国学会	北海道帯広・十勝地区における精神保健ソーシャルワークの展開過程にみる 地域リハビリテーションのありよう	43450	共同(代表以外)	日本精神障害者リハビリテーション学会第26回東京大会				
		9	その他	国内会議/講師	高齢期の心の健康—自殺予防対策を参考に—	2018年 4月	単独	当別ライオンズクラブ定例会				
		10	その他	国内会議/講師	ソーシャルワークの理念と障がい者への相談支援	2018年 5月	単独	平成30年度札幌市障がい者相談支援事業所新任職員研修				
		11	その他	その他/講師	JICA研修「日本の社会福祉制度～高齢者と障害者の福祉制度に焦点をあてて～」	2018年 6月	単独					
		12	その他	その他/講師	生涯を通じた心の健康を考える—高齢期の自殺予防対策を参考に—	2018年 9月	単独	全久寺セミナー				
		13	その他	その他/講師	インクルージョンの理念と障がいのある方への支援	43435	単独	平成29年度札幌市自立支援協議会 障害者支援員養成研修				
		21	牧田 浩一	1	著書	著書	公認心理師養成大学・大学院ガイド(こころの科学増刊)	2018年 8月	共著(第一著者以外)	日本評論社		
2	論文			学術論文(査読無し)	臨床心理士と公認心理師の認知度—大学1年生を対象としたアンケート調査—	2019年 3月	単著		北星学園大学心理臨床センター紀要	印刷中(14)		
3	論文			学術論文(査読無し)	大学生のギャンブル経験と抑うつに関連—大学生のメンタルヘルスのために—	2019年 3月	単著		北星論集(北星学園大学社会福祉学部)	(56)163-170		
4	その他			コメンテーター	【コメント】「寄り添う姿勢で言葉を伝える」に対するコメント	2019年 3月	単著		北星学園大学心理臨床センター紀要	印刷中(14)		
5	その他			その他	【巻頭言】「北海道胆振東部地震への本学の心理臨床センターの対応について」	2019年 3月	単著		北星学園大学心理臨床センター紀要	印刷中(14)		
6	その他			全国学会	【学会発表】いじめ被害を受けた子どもの親面接	2018年 6月	単独	日本遊戯療法学会第24回大会				
7	その他			地方学会	【学会発表】臨床心理士のバーンアウト	43393	共同(代表以外)	北海道心理学会第65回大会				
8	その他			その他/講師	【講話】「思春期の心理とメンタルヘルス」	2018年 5月	単独	岩見沢高等学校進路指導部「自分を知る①」				
9	その他			その他/特別講演・記念講演	【講演】親子の愛着形成と思春期に大切なこと	43405	単独					
10	その他			その他/講師	【講演】思春期の心理を理解する	43770	単独					
22	鴨澤 あかね	1	論文	学術論文(査読有り)	機能的サブグループ形成を用いたグループのプロセス —実験的グループを用いた心理力動的なグループのプロセスとの比較検証	2018年 6月	単著	日本集団精神療法学会	集団精神療法	34(1)59-65		
		2	その他	その他	【報告】「機能的サブグループ」で対人コミュニケーションを学ぶ	2018年12月	共著(第一著者)	日本集団精神療法学会	集団精神療法	34(2)193-194		
		3	その他	全国学会	「機能的サブグループ」で対人コミュニケーションを学ぶ	2018年 5月	共同(代表)	日本集団精神療法学会第35回大会				
		4	その他	全国学会	日本人がん患者グループへのMCP(Meaning-Centered Psychotherapy)導入の課題	2018年 5月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第35回大会				
		5	その他	全国学会	がんのピアサポートにおけるグループアプローチの意義	2018年 5月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第35回大会				
		6	その他	全国学会	「機能的サブグループ」で対人コミュニケーションを学ぶ	2019年 3月	共同(代表)	日本集団精神療法学会第36回大会				
		7	その他	全国学会	不登校の子どもを持つ親への支援 —「親の会」の調査を通じて—	2019年 3月	共同(代表以外)	日本集団精神療法学会第36回大会				
		8	その他	全国学会	機能的サブグループと心理力動的グループにおける体験の違い —フォース・フィールドを用いた分析から—	2019年 3月	共同(代表)	日本集団精神療法学会第36回大会				

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
22	鴨澤 あかね	9	その他	地方会議/講師	「機能的サブグループ」で対人コミュニケーションを学ぶ	2018年 5月	単独	九州集団療法研究会			
		10	その他	国内会議/講師	教育研修セミナー グループを体験する	43405	共同	日本精神分析学会第64回大会			
23	中田 知生	1	その他	国際学会	日本における親のソーシャル・サポート・システムの子どもの認知	2018年 5月	共同(代表)	第4回北欧老年学会			
		2	その他	全国学会	Age-Period-Cohortモデルによる福祉意識の分析	2018年 6月	共同(代表)	第16回福祉社会学会大会			
		3	その他	国際学会	社会保障システムの意識に関するAPC分析	2018年 7月	共同(代表)	Society for Longitudinal and Life Course Studies Annual Conference 2018			
		4	その他	全国学会	ソーシャル・サポート・システムにおける重要な他者の移行:シークエンス分析を用いた分析から	2018年 8月	単独	第67回数理社会学会大会			
		5	その他	国際学会	実親と義理の親とのソーシャル・サポートの交換	2018年 9月	共同(代表)	The 9th Congress of European Society on Family Relations			
24	伊藤 新一郎	1	論文	学術論文(査読無し)	柄谷行人「世界史の構造」論の再検討	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集	(56)103-114	
		2	その他	解説	『社会福祉士国家試験 過去問解説集2019』	2018年 5月	その他	中央法規		()34-37	
		3	その他	国内会議/パネリスト	「No Active No Learning～アクティブなソーシャルワーク教育を展開・定着させるために～」	2018年 6月	単独	2018年度 日本SW教育学校連盟 全国研修大会「実践力のあるソーシャルワーカーを養成するための教授法」			
		4	その他	その他/講師	見守り活動における福祉推進委員会の必要性と地域のつながり	43435	単独	平成30年度清田区福祉のまち推進センター活動交換会			
		5	その他	その他/その他	シンポジウム「北海道発！ 軽げ落ちない社会を創る！」	2019年 3月	単独	第15回日本社会福祉学会フォーラム			
25	眞嶋 良全	1	論文	学術論文(査読有り)	Willingness to transmit and the spread of pseudoscientific beliefs	2018年 4月	共著(第一著者以外)		Applied Cognitive Psychology	32()499-505	
		2	その他	解説	クラウドソーシングを使った研究が気になっているあなたへ	2018年 7月	単著		心理学ワールド	82()21-22	
		3	その他	国際学会	Belief bias among believers of the paranormal and the pseudoscience	2018年 7月	単独	The 40th Annual Meeting of the Cognitive Science Society			
		4	その他	全国学会	実証的根拠を欠く信念に基づいた推論とその文化差	2018年 9月	単独	日本認知心理学会第16回大会			
		5	その他	全国学会	オンライン・クラウドソーシングを利用した調査・実験は、社会科学系研究者への福音となるか	2018年 9月	単独	日本心理学会第82回大会			
		6	その他	国際学会	Not All of Empirically Suspect Beliefs Can Be Intensified by Mind Perception	2018年 11月	共同(代表)	The 59th Annual Meeting of Psychonomic Society			
		7	その他	国際学会	Individual Differences in Anthropomorphism and Attitude Toward Nonhuman Agents in Japanese	2019年 3月	共同(代表以外)	International Conference on Psychological Science (ICPS) 2019			
		8	その他	国内会議/特別講演・記念講演	オンライン認知実験の可能性を探る	2018年 8月	単独	日本認知心理学会ベーシック&フロンティアセミナー			
26	西原 明希	1	その他	研究ノート	Student Growth in Intercultural Competence in Two Overseas Study Programs - Group Project Based Intensive & Independent Study -	2019年 3月	共著(第一著者以外)		北星学園大学短期大学部 北星論集	第17号	
27	佐藤 祐基	1	論文	学術論文(査読無し)	パーソナリティ特性がスマートフォンゲーム依存傾向に及ぼす影響-利用動機に着目して-	2019年 3月	共著(第一著者)	北星学園大学	北星学園大学社会福祉学部 北星論集	(56)25-38	
		2	その他	コメンテーター	ロールプレイにおいて展開されるコミュニケーションに対する考察-「伝え返し」および「受容・共感」の観点から-:渡邊論文へのコメント	2019年 3月	単著	北星学園大学心理臨床センター	北星学園大学心理臨床センター-紀要	(13)	
		3	その他	全国学会	【学会発表】自閉傾向と自己効力感が友人関係を介して大学生生活満足度に及ぼす影響	2018年 8月	共同(代表)	日本パーソナリティ心理学会第27回大会			
		4	その他	全国学会	【学会発表】大学生における抑うつ傾向、スチューデント・アパシー傾向、非定型うつ傾向の分類-学業場面に対する無気力に着目して-	2018年 8月	共同(代表以外)	日本パーソナリティ心理学会第27回大会			
		5	その他	全国学会	【学会発表】大学生の友人関係は変化したのか? -2004年と2017年の質問紙調査による比較-	2018年 8月	共同(代表以外)	日本社会心理学会第59回大会			
		6	その他	全国学会	【学会発表】自閉傾向・自己効力感と大学生生活満足度における性差の検討-友人関係に着目して-	2018年 9月	共同(代表以外)	日本心理学会第82回大会			
		7	その他	地方学会	【学会発表】胆振東部震災における子どもの心のケア	2019年 2月	共同(代表以外)	北海道児童青年精神保健学会第43回例会			
28	大友 秀治	1	論文	学術論文(査読無し)	保育実習における省察ツール作成の試み:保育ソーシャルワークにおけるエンパワメントに向けて	2019年 3月	単著	北星学園大学	北星論集	(56)115-124	
		2	論文	博士論文	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョン実践モデルの生成:参加型評価を活用したエンパワメントに着目して	2019年 3月	単著				

19 社会福祉学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁		
28	大友 秀治	3	その他	書評	鈴木庸裕編著『学校福祉とは何か(新・MINERVA福祉ライブラリー27)』	2018年10月	単著		学校ソーシャルワーク研究	第13号			
		4	その他	全国学会	アドラー心理学に基づく育児学習プログラムを援用した省察ツール開発の試みー医療従事者への適用可能性に関する一考察ー	2018年10月	共同(代表)	第22回日本統合医療学会学術大会					
		5	その他	研究会・シンポジウム等	(コーディネーター)スクールソーシャルワーカー・学校・地域の効果的な連携とは	2018年11月	共同(代表以外)	2018年度 日本学校ソーシャルワーク学会北海道ブロック研修会					
		6	その他	研究会・シンポジウム等	(ファシリテーター)評価ファシリテーター養成講座	2018年12月	共同(代表以外)	効果的なSSW事業プログラムあり方研究会					
		7	その他	研究会・シンポジウム等	スクールソーシャルワークにおけるスーパービジョン実践モデルの生成	2019年 3月	単独	EBP技術支援センターモデル構築研究 2018年度研究成果報告会					
		8	その他	地方会議/その他	平成30年度 第1回スクールソーシャルワーカー活用事業地域別研修会(全道会議)	2018年 7月	共同						
		9	その他	地方会議/講師	平成30年度 第1回SSW研修会	2018年 7月	単独						
		10	その他	地方会議/講師	学校との効果的な連携を図るためのアセスメント	2018年 8月	単独	平成30年度 第1回スクールソーシャルワーカー連絡協議会(胆振会場)					
		11	その他	地方会議/講師	校内チーム体制を支援するために	43435	単独	平成30年度 第2回スクールソーシャルワーカー活用事業地域別研修会					
		12	その他	地方会議/講師	北海道スクールソーシャルワーカー第3回研修会	2019年 1月	単独						
		29	播磨 正一	1	その他	その他	ウッドスタートが共生社会の架け橋に	2018年 7月	単著	地域活性化センター	地域づくり	(349)24-24	
				2	その他	全国学会	発達障害のある大学生に対するノートテイク支援の可能性についての考察	2018年 8月	共同(代表以外)	日本発達障害学会第53回研究大会			
3	その他			全国学会	卒業後の就職支援を見据えた地域連携II	2018年 9月	共同(代表以外)	日本特殊教育学会第56回大会					
4	その他			地方会議/講師	新学習指導要領とキャリア教育	2018年 7月	単独	北海道特別支援教育研究協議会					

20 短期大学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
1	中村 浩	1	その他	全国学会	走行アニメーション仮現運動ISIIにおける内的表象について	2018年 6月	単独	2018年度日本アニメーション学会第20回大会			
		2	その他	研究会・シンポジウム等	「林の影の運動による色の捕捉錯視」は仮現運動と言えるか? — そのバリエーションを基にした仮現運動の考察 —	2018年 7月	単独	日本人間工学会			
		3	その他	全国学会	「影の運動による色の捕捉錯視」における仮現運動の検討	2018年 9月	単独	2018年度日本心理学会第82回大会			
		4	その他	全国学会	中村錯視は網膜神経節parasol細胞の一過性反応に起因するのか	2018年12月	単独	2018年度日本基礎心理学会第37回大会			
		5	その他	全国学会	影の運動による色の捕捉現象—その3	2018年12月	単独	日本基礎心理学会第37回大会 第10回錯視・錯聴コンテスト・シンポジウム			
2	ロバート・ゲティンクス	1	その他	国際学会	Are Today's Students the Smartphone Generation?	2018年 5月	単独	IJAS			
		2	その他	全国学会	Japanese college students ICT skills and preferences	2018年 6月	単独	JALT CALL			
		3	その他	国際学会	Are email and Facebook for old people? Japanese junior college English majors' ICT & SNS preferences	2018年 8月	単独	Euro CALL			
		4	その他	ワークショップでの報告	Uploading quiz questions from text files using Aiken and Gift formats	2018年 9月	単独	Hokkaido Moodle Summer Workshops			
		5	その他	国際学会	Implications for ELT & CALL: Teachers' perspectives of Japanese University students' ICT skills	2018年11月	単独	Innovation in Language Learning, Florence, Italy			
3	ジャン・マウン	1	著書	著書	Godded Coriolanus: warrior savior	2018年 5月	単著	V&R Press	Sin's Multifaceted Aspects in Literary Texts	()53-69	140
		2	論文	学術論文(査読無し)	Mastery Goal Orientation via Role-Play with Children's Stories in an EFL Classroom	2019年 2月	単著		International Symposium on Language, Linguistics, Literature and Education Fukuoka 2019 Proceedings	()186-187	
		3	その他	研究報告	A Report on the ASA 2018 Conference	2018年12月	単著	JALT	The Journal of Literature in Language Teaching	7(2)56-57	
		4	その他	研究報告	A Report on the NeMLA 2018 Conference	2018年 7月	単著	JALT	The Journal of Literature in Language Teaching	7(1)78-79	
		5	その他	国際学会	Godded Marcius: How Shakespeare Raised Coriolanus	2018年 4月	単独	Annual Convention of the Northeast Modern Language Association Convention			
		6	その他	国際学会	Playing With Source Materials: Alterations and Shakespeare's Creative Fabric	2018年 4月	単独	Annual Convention of the Northeast Modern Language Association Convention 2018			
		7	その他	全国学会	Conversation Classes Enhanced By International Tutors	2018年 5月	単独	JALT PanSIG Conference			
		8	その他	国際学会	Bio Shake-scenes: Romeo and Juliet and Biology in an EFL Classroom	2018年 5月	単独	Asian Shakespeare Association Conference			
		9	その他	国際学会	Holding a Mirror Up to Nature in Romeo and Juliet	2018年 6月	単独	British Shakespeare Association Conference			
		10	その他	国際学会	Shakespeare Rising in the East: Romeo and Juliet in Japan	2018年 9月	単独	Armenian Shakespeare Association International Conference			
		11	その他	国際学会	Why teach Shakespeare, how to engage the new generation in Shakespearean studies	2018年 9月	単独	Armenian Shakespeare Association International Conference			
		12	その他	国際学会	Why teach Shakespeare?	2018年 9月	単独	Armenian Shakespeare Association International Conference			
		13	その他	国際学会	Brain-Friendly Teaching Hacks For The Classroom	2018年11月	単独	The Japan Association For Language Teaching Conference			
		14	その他	国際学会	A Mirror Reflecting Human Nature: Shakespeare's Romeo and Juliet	2019年 2月	単独	International Symposium on Language, Linguistics, Literature and Education			
		15	その他	国際学会	Mastery Goal Orientation via Role-Play with Children's Stories in an EFL Classroom	2019年 2月	単独	International Symposium on Language, Linguistics, Literature and Education			
		16	その他	国際学会	Stages of Knowing in Shakespeare	2019年 3月	単独	Annual Convention of the Northeast Modern Language Association Convention 2019			
		17	その他	国際学会	Marcius Unknown	2019年 3月	単独	Annual Convention of the Northeast Modern Language Association Convention			
		18	その他	国際学会	Graphic Shakespeare Not in Lambs' Clothing March 24, 2019	2019年 3月	単独	Annual Convention of the Northeast Modern Language Association Convention			
4	森越 京子	1	その他	研究報告	「通訳案内士の研修のあり方」についてのアンケート調査結果から見えるもの大学における実践的な通訳案内士教育のあり方を考え	2019年 3月	共著(第一著者以外)	日本観光ホスピタリティ教育学会	日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会研究発表論	第18号	
		2	その他	国際学会	CASE STUDY: THE INTRODUCTION OF PRACTICAL ENGLISH TOUR GUIDE TRAINING TO A JAPANESE COLLEGE	2018年 5月	共同(代表以外)	17th Asia Pacific Forum (APF) for Graduate Students Research in Tourism		()29-40	

20 短期大学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
4	森越 京子	3	その他	国際学会	Tour Guide Interpreter Education from the perspective of English for a Specific Purpose	2018年 8月	共同(代表以外)	大学英語教育学会(JACET)第57回国際大会			
		4	その他	全国学会	「通訳案内士の研修のあり方」についての アンケート調査結果から見えるもの: 大学における実践的な通訳案内士教育のあり方を考える	2019年 3月	共同(代表以外)	日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会			
5	藤原 里佐	1	その他	全国学会	知的障害者の成人期—家族の高齢化と「地域」生活—	2018年 9月	単独	日本社会福祉学会			
6	遠藤 太郎	1	その他	全国学会	ベルニーニによるエンタプレチュアのオーダー上部での処理	2018年 9月	単独	2018年度日本建築学会大会			
7	カート・アッカーマン	1	その他	国際学会	What's for breakfast? Thinking About Food Miles	2018年 4月	単独	The 3rd Asian Conference on Education for Sustainability (ACES 2018)			
		2	その他	国際学会	Analyzing Learner Motivation towards Reading Through Use of a Feature-rich Reading LMS	2018年 5月	単独	International Symposium on Education, Psychology and Society (ISEPST)			
		3	その他	国際学会	Incorporating Global Content into the Language Classroom (Forum): Where does my breakfast come from?	2018年 5月	単独	JALT PanSIG 2018 Conference			
		4	その他	国際学会	Searching Indirectly for Dyslexics in an L2 Reading Class	2018年 6月	単独	EdMedia 2018: World Conference on Educational Media and Technology			
		5	その他	国際学会	Extirpation to Ecotourism: Is There Room for Wolves to Return to Japan?	2018年 8月	単独	The 5th Conference on Sustainable Tourism in Asia (COSTA)			
		6	その他	国際学会	Identifying, Assisting and Observing Possible Dyslexic L2 Readers	2018年 9月	単独	XXIV BIENNIAL CONFERENCE ON HUMAN ETHOLOGY			
		7	その他	国際学会	Wolves and Ecotourism: Issues in the Japanese Context	2018年 9月	単独	The 6th International Symposium on Education, Psychology and Social Sciences (ISEPSS 2018)			
		8	その他	国際学会	The 3 Rs? Reintroduce, rewild, restore: wolves as a catalyst for rejuvenation	2018年10月	単独	Peace as a Global Language 2018 conference			
		9	その他	国際会議/その他	Welcome address for International Conference on Social Science and Management (ICSSAM); International Symposium on Education, Psychology and Society (ISEPST)	2018年 5月	単独	International Conference on Social Science and Management (ICSSAM); International Symposium on Education, Psychology and Society (ISEPST)			
		10	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Friday, June 29 10:45 AM–11:45 AM (De Wallen)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		11	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Thursday, June 28 3:30 PM–4:30 PM (Jordaan 1)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		12	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Thursday, June 28 4:45 PM–5:45 PM (Vondelpark)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		13	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Tuesday, June 26 10:45 AM–11:45 AM (Vondelpark)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		14	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Tuesday, June 26 12:00 PM–1:00 PM (Jordaan 1)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		15	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Tuesday, June 26 2:15 PM–3:15 PM (Oost)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		16	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Tuesday, June 26 3:30 PM–4:30 PM (Jordaan 2)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		17	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Wednesday, June 27 10:45 AM–11:45 AM (Koepelzaal)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		18	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Wednesday, June 27 2:15 PM–3:15 PM (Oost)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		19	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Wednesday, June 27 3:30 PM–4:30 PM (De Dam 1)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		20	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Wednesday, June 27 4:45 PM–5:45 PM (De Dam 2)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		21	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Thursday, June 28 10:45 AM–11:45 AM (Noord)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		22	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Thursday, June 28 12:00 PM–1:00 PM (De Dam 1)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		23	その他	国際会議/パネリスト	President: Concurrent Sessions – Thursday, June 28 2:15 PM–3:15 PM (Vondelpark)	2018年 6月	単独	EdMedia & INNOVATE LEARNING Amsterdam 2018			
		24	その他	国際会議/パネリスト	Chair for Education (1)/ Culture session and Social Sciences Keynote Address of International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM)	2019年 1月	単独	International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM)			
		25	その他	国際会議/その他	Welcome address for International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM)	2019年 1月	単独	International Symposium on Social Sciences and Management (ISSSM)			
8	白鳥 金吾	1	著書	著書	北星学園大学短期大学部一高い英語力と豊かな人間性を育む取り組み—	2018年11月	その他	IBCパブリッシング株式会社	グローバル人材育成教育の挑戦—大学・高校での実践ハンドブック	()142-146	

20 短期大学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
8	白鳥 金吾	2	その他	その他	短期大学部英文学科におけるグローバル教育の取組	2019年 2月	その他	北星学園キリスト教センター	北星教育と現代	(7)24-29	
		3	その他	国際学会	中小高大のシームレスな接続を通じた質保証の実現に向けて:CEFRが可能にするグローバルブランドの活用	2018年 8月	共同(代表以外)	大学英語教育学会(JACET)第57回(2018年度)国際大会			
		4	その他	国際学会	日本人英語学習者の技能別の英語力	2019年 1月	共同(代表)	第17回ハワイ教育国際学会			
		5	その他	国際学会	日本人英語学習者の英語カーケンブリッジ英検の役割	2019年 3月	共同(代表)	第54回RELC国際学会			
		6	その他	その他/講師	幼少期から異文化に触れることの意義について	43435	単独				
		7	その他	その他/講師	新学習指導要領に向けて-AL型と4技能テストを活用した授業改善-	2019年 1月	単独	平成30年度英語教育推進事業校内研修会			
		8	その他	その他/講師	北海道スーパーグローバルハイスクールのこれまでの歩み	2019年 3月	単独				
		9	風戸 真理	1	論文	学術論文(査読無し)	いつでも何を飲食するのか?—モンゴル国における日常的な食事行動とジェンダー—	2018年12月	単著		生態人類学会ニュースレター
2	その他			全国学会	移動する災害:モンゴル国東部の越境火災への行政対応より	2018年 5月	共同(代表)	日本モンゴル学会2018年夏季研究大会			
3	その他			全国学会	家族の記憶の分割・融合・再形成:モンゴル国の銀製アクセサリー	2018年 6月	単独	文化人類学会第52回研究大会			
4	その他			国際学会	Standardization of ethnic material culture with increasing foreign visitors to Mongolia	2018年 7月	単独	ASS-in-Asia (Association for Asian Studies)			
5	その他			国際学会	作为女性物质文化的畜養—都市化進程中的蒙古国为例(女性的な物質文化としての畜養—都市化の進むモンゴル国より)	2018年 8月	単独	国際学術研究大会・世界畜牧文化和其应用			
6	その他			国際学会	How we correspond to transboundary disasters?: Forest-steppe fires in Mongolia-Russia-China border	2018年 8月	共同(代表)	THE 10TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON EAST ASIAN STUDIES" A NEW STAGE OF EAST ASIA IN THE 21ST CENTURY"			
7	その他			ワークショップでの報告	格差か文化か?:モンゴル国放牧地域における日常の食事・食物贈与・響応にみる規格性と地域差	2018年10月	単独	サントリー文化財団2018年度「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」による研究「文化と身体の変遷点としての食:文化固有化・産業化・異業種ネットワーク」第1回研究会			
8	その他			全国学会	佐本英規氏報告「共に住まうことの困難と希望—現代ソロモン諸島アレアレにおける接待—」へのコメント	2018年12月	単独	「接待の人類学」第1回公開研究会			
9	その他			研究会・シンポジウム等	動物飼育の標準化と個性性:北海道のロボット酪農とモンゴル動物文化の多様化	2018年12月	単独	2018年度東北アジア研究センター共同研究シンポジウム「東北アジアを中心としたアジア地域における動物資源利用問題と『人間性』—生業、娯楽、着後の観点から—」			
10	その他			地方学会	井上岳彦氏報告「魚は羊の代わりになるのか:17~19世紀におけるカルムイク人の牧地問題について」へのコメント	2019年 3月	単独	北海道中央ユーラシア研究会第133回例会			
11	その他			全国学会	観光みやげものの地域性と脱地域性:モンゴル国のフェルト製品の事例より	2019年 3月	単独	生態人類学会第24回研究大会			
10	マシュー コッター	1	著書	訳書及び教科書	Oral Communication C Making Presentations in English	2018年 4月	共著(第一著者)	Self Published			
		2	その他	研究報告	Balancing Real-time vs. Post-Performance Feedback for EFL Presentation Classes	2018年 8月	共著(第一著者以外)	全国JALT学会	全国JALT学会2017プロシーディング		
		3	その他	研究報告	Teaching Maori Studies in Japan	2018年 7月	単著		JALT Global Issues in Language Education	(108)	
		4	その他	国際学会	Teaching Maori Studies to Japanese in Japanese	2018年 5月	単独	2018 JALT - PanSig			
		5	その他	国際学会	Balancing Feedback for English Presentations - Teaching, Timing & Tools	2018年 7月	単独	The Art of English National Conference 2018 Perth			
		6	その他	地方学会	Making a simple Moodle course in 30 minutes	2018年 9月	単独	2018 北海道サマームードルワークショップ			
		7	その他	国際学会	Implementing CALL based Activities in an Intercultural Communication Class	2018年 9月	単独	GloCALL 2018 Conference & 15th China CALL Conference			
		8	その他	国際学会	Participating in an International Online Language and Culture Exchange	2018年 9月	共同(代表以外)	GloCALL 2018 Conference & 15th China CALL Conference			
		9	その他	国際学会	Methods and Effects of Teaching Maori Studies in Japan.	2018年10月	単独	Peace as a Global Language 2018.			
		10	その他	国際学会	Global Issues : Timed Picture Topic Talk	2018年11月	単独	第44回全国語学教育学会年次国際大会(2018)			
		11	その他	国際学会	Online Flipped Quizzes as Homework Assignments	2018年11月	共同(代表)	第44回全国語学教育学会年次国際大会(2018)			
		12	その他	国際学会	Measuring Japanese Learners' English Ability and Four Language Skills: The Role of Cambridge English: B1 Preliminary	2019年 1月	共同(代表)	2019 Hawaii International Conference on Education			

20 短期大学部専任教員の研究業績[2018年度]

(2018.3.31現在)

(表VI-17)

掲載順	氏名	順番	形態分類	区分	標題	出版年月日または発表年月日	執筆分類または発表形態	出版社・発行元または発表学会等	掲載誌名	掲載巻・号	頁
10	マシュー コッター	13	その他	全国学会	Experiencing "Global" – The International Virtual Exchange Project	2019年 1月	共同(代表以外)	2019 JALT Hokkaido Winter Conference			
		14	その他	国際学会	Measuring Japanese Learners' English Ability: The Role of Cambridge English	2019年 3月	共同(代表)	54th RELC International Conference			
		15	その他	国際会議/パネリスト	Special Forum: Challenges of using technologies in the classroom: Personal experiences and reflections.	2018年 9月	共同	2018 GloCALL			
		16	その他	地方会議/特別講演・記念講演	New Zealandの基礎知識と先住民マオリについて学びましょう	2018年 9月	単独	先住民Exchange講義			
		17	その他	国内会議/パネリスト	Indigenous Peoples: Moving Forward in a Globalised World	43374	共同	Peace as a Global Language 2018.			
		18	その他	地方会議/特別講演・記念講演	The similarities and differences between Ainu and Maori	43374	単独	総務グループ国際交流			
		19	その他	国内会議/特別講演・記念講演	マオリを生きる	43374	単独	2018 アイヌ感謝祭			
11	田中 直子	1	その他	国際学会	CASE STUDY: THE INTRODUCTION OF PRACTICAL ENGLISH TOUR GUIDE TRAINING TO A JAPANESE COLLEGE	2018年 5月	共同(代表)	17th Asia Pacific Forum (APF) for Graduate Students Research in Tourism			
		2	その他	研究会・シンポジウム等	日本の大学における通訳案内士教育導入の試み	2018年 5月	単独	北海道通訳翻訳研究会 創設1周年大会			
		3	その他	国際学会	Tour Guide-Interpreter Education from the Perspective of English	2018年 8月	共同(代表)	大学英語教育学会 第57回(2018年度)国際大会			
		4	その他	全国学会	「通訳案内士の研修のあり方」についてのアンケート調査結果から見えるもの: 大学における実践的な通訳案内士教育のあり方を考える	2019年 3月	共同(代表)	日本観光ホスピタリティ教育学会 第18回全国大会			
12	藤木 晶子	1	論文	学術論文(査読無し)	グループワークにおける「断り表現」の実態—社会的自己制御との関係から	2019年 3月	共著(第一著者)	北星学園大学短期大学部北星論集		(17)1-9	
		2	その他	全国学会	グループワークにおける「断り表現」の実態—社会的自己制御との関係から	2018年10月	共同(代表)	北海道心理学会			
		3	その他	全国学会	立体折り紙イメージにおける心的操作の役割.	2018年11月	単独	日本イメージ心理学会			
13	ヘイディ トムソン	1	論文	学術論文(査読有り)	Building speaking fluency with multi-word expressions	2018年	単著	TESL Canada Journal	TESL Canada Journal, Formulaic Language in English Language Acquisition and Teaching		
		2	その他	研究会・シンポジウム等	英国政府公観光ガイドの資格取得・日本が学ぶべきこと	2018年 5月	単独	北海道通訳翻訳研究会学会			
		3	その他	国際学会	Developing productive knowledge & use of multi-word expressions in conversation	2018年 8月	単独	School of Linguistics and Applied Language Studies (LALS) Seminar			
		4	その他	国際学会	Increasing reproduction of multi-word expressions in learner dialogue	2018年 9月	単独	EUROPHRAS 2018			
		5	その他	全国学会	What would you like? I think I will increase learner use of multi-word expressions	2018年 9月	単独	Vocabulary Symposium			
		6	その他	国際学会	What would you like? I think I will increase learner use of multi-word expressions	2018年11月	単独	JALT International Conference			
		7	その他	国際学会	Classroom activities to improve speaking fluency using multi-word expressions	2019年 1月	単独	JALT Hokkaido Winter Conference			
14	山本 慎平	1	論文	学術論文(査読無し)	The Social Possibilities of Economic Bushido: Inazo Nitobe's Bushido: The Soul of Japan and its Application to Modern Society	2019年 3月	単著		北星学園大学短期大学部北星論集	(17)11-29	
		2	その他	ワークショップでの報告	Nitobe Inazo's Marginalia in Books in the Nitobe Collection	2019年 2月	単独	Political Economy Tokyo Seminar (PoETS)			

21 経済学部研究資料室の図書・雑誌等購入状況

[2014～2018]

(表VI-21)

年 度 図書並びにその他の資料	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
当該年度受入図書冊数(冊)	29	28	29	27	29	28
(外国書内数)	(4)	(3)	(5)	(3)	(4)	(4)
当該年度受入雑誌数(種類)	74	55	55	53	52	58
(外国誌内数)	(37)	(27)	(27)	(25)	(26)	(28)

22 教員研究室〔2018年度〕

(1) 大学

(2018年5月1日現在) (表VI-22-①)

学 部	室 数			総面積 (㎡) (B)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (C)	個室率(%) (A/C*100)	教員1人当たりの平均面積 (㎡) (B/C)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
文学部	31	0	31	773.24	25	0	32	97	24.94	助教1名については個室を有していないため、31名で平均面積を算出した。
経済学部	48	0	48	1,223.59	25	0	48	100	25.49	
社会福祉学部	41	0	41	1,019.80	25	0	42	98	24.87	助教1名については個室を有していないため、41名で平均面積を算出した。
計	120	0	120	3,016.63	25	0	122	98	25.14	助教2名については個室を有していないため、120名で平均面積を算出した。

(2) 短期大学部

(2018年5月1日現在) (表VI-22-②)

学 部	室 数			総面積 (㎡) (B)	1室当たりの平均面積 (㎡)		専任教員数 (C)	個室率(%) (A/C*100)	教員1人当たりの平均面積 (㎡) (B/C)	備 考
	個室(A)	共 同	計		個 室	共 同				
短期大学部	18	0	18	366.87	20	0	18	100	20.38	

- [注] 1 「室数」、「総面積」欄には、学部、大学院研究科等の保有する全ての教員研究室についてこれを記入すること。
 2 「1室当たりの平均面積」は全ての教員研究室について、「教員1人当たりの平均面積」は、学部、大学院研究科等の専任教員が実際に使用している教員研究室について算出すること。
 3 「個室率」の算出にあたっては、個室数が専任教員数を上回る場合は、原則として100%と記入すること。
 4 個室を持たない教員については、「備考」欄にその数を記入すること。
 5 学長及び国際交流教員は、含めないこと。

24 公的監査ガイドライン説明会実施状況

[2016～2018年度]

(表VI-24)

	説明会・研修会の名称	実施日時	実施場所	説明者等	各年度参加者数	実施内容
2016年度	2016年度 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく学内説明会	2016年6月15日 17:10～18:10	北星学園大学 C館 C400教室	監査法人 トーマツ 公認会計士 山田 達也 氏 研究支援課 五十嵐 課長	内訳 研究者 100名 事務職員 10名 合計 110名	講演：「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドラインについて（研究者向け） ～監査法人の観点から」 講師：監査法人トーマツ 公認会計士 山田 達也氏 配布資料： ①個人研究費の支出手続きに関するガイドブック ②北星学園大学公的研究費ハンドブック ③平成28年度公的研究費 確認書（誓約書） ④平成28年度公的研究費の使用及び取扱いに当たっての確認書（誓約書）
2017年度	2017年度 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく学内説明会	2017年6月21日 17:10～18:40	北星学園大学 A館 A305教室	ロバスト・ジャパン株式会社 代表取締役 中安 豪 氏 研究支援課 田中 課長	内訳 研究者 108名 事務職員 28名 合計 136名	講演：「適切な外部資金獲得と研究管理」 講師：ロバスト・ジャパン株式会社 代表取締役 中安 豪氏 説明：「研究費の支出手続きに係る主な注意点」 説明者：研究支援課 田中 課長 配布資料： ①講演資料「適切な外部資金獲得と研究管理」 ②研究費の支出手続きに係る主な注意点 ③個人研究費の支出手続き等に関するガイドライン ④北星学園大学公的研究費ハンドブック ⑤平成29年度公的研究費 確認書（誓約書） ⑥平成29年度公的研究費の使用及び取扱いにあたっての確認書（誓約書）
2018年度	2018年度 北星学園大学における公的研究費及び研究活動についての学内説明会	2018年6月20日 17:10～18:30	北星学園大学 A館 A403教室	学長 大坊 郁夫 研究支援課 田中 課長	内訳 研究者 116名 大学院生 20名 事務職員 30名 合計 166名	講演：「適切な外部資金獲得と研究倫理」 講師：大坊 郁夫 学長 説明：「研究費の支出手続き及び研究倫理に係る主な注意点」 説明者：研究支援課 田中 課長 配布資料： ①講演資料「適切な外部資金獲得と研究倫理」 ②研究費の支出手続き及び研究倫理に係る主な注意点 ③北星学園大学研究倫理ハンドブック ④個人研究費の支出手続き等に関するガイドライン ⑤北星学園大学公的研究費ハンドブック ⑥平成30年度公的研究費に関する確認（誓約）書（教職員用） ⑦平成30年度公的研究費等に関する確認（誓約）書（大学院生用） ⑧図書「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」（教員のみ）

25 本学の科学研究費助成事業に係る説明会・研修会実施状況〔2018年度〕

(表VI-25)

説明会・研修会の名称	実施日時	実施場所	説明者等	参加者数	実施内容
平成31年度科研費公募 学内説明会	①2018年9月19日 12:20～ ②2018年9月26日 12:30～	北星学園大学 C館 C700教室	①第1回説明会 北星学園大学・北星学園大学 短期大学部 大坊 郁夫 学長 北星学園大学 文学部 松浦年男 准教授 ②第2回説明会 北星学園大学 社会福祉学部 杉岡直人 教授 ロバストジャパン株式会社 代表取締役 中安豪 氏	参加者総数 (2回合計) 研究者 56名	内容： ①第1回説明会 「科学研究費補助金申請を工夫する」 北星学園大学・北星学園大学短期大学部 大坊 郁夫 学長 「科研費獲得のためのエトセトラ」 文学部 松浦年男 准教授 ②(第2回説明会) 「科研費申請書の作成ポイント」 社会福祉学部 杉岡直人 教授 「科研費制度改革新様式に対応した申請戦略」 ロバストジャパン株式会社 代表取締役 中安豪 配布資料： ①「科学研究費補助金申請を工夫する」 ②「科研費獲得のためのエトセトラ」 ③「科研費申請書の作成ポイント」 ④「科研費制度改革新様式に対応した申請戦略」

27 本学の研究倫理審査承認課題一覧
〔2018年度〕

(表VI-27)

	文書番号	研究実施許可日	研究課題名	申請者
1	18-研倫1号	2018年4月25日	希少がん患者の体験とピアサポートの意義	指導教員: 鴨澤あかね 研究代表者: 社会福祉学研究所: 山口(円山) 拓子
2	18-研倫2号	2018年5月16日	臨床心理士のバーンアウト	指導教員: 牧田浩一 研究代表者: 社会福祉学研究所: 新岡 美希
3	18-研倫3号	2018年5月16日	心の知覚と疑似科学・目的論的信念の関連性の検討	眞嶋 良全
4	18-研倫4号	2018年5月16日	感謝とレジリエンスの関連の検討	指導教員: 西山 薫 研究代表者: 社会福祉学研究所: 三原彩絵子
5	18-研倫5号	2018年6月6日	指導者と選手をつなぐ指導システムの開発: 心理的アプローチに基づくスキル修正活用	養内 豊
6	18-研倫6号	2018年6月6日	石狩市におけるスクールソーシャルワーク事業の成果と返還プロセス	大友 秀治
7	18-研倫7号	2018年6月6日	ピアサポート活動を通じた大学生の発達について —他者との関わり方と批判的思考態度からの検討—	永井 暁行
8	18-研倫8号	2018年6月6日	知的障害者の権利意識の醸成過程	指導教員: 田中耕一郎 研究代表者: 社会福祉学研究所: 神部雅子
9	18-研倫9号	2018年6月6日	遅延性意識障害をもつ高齢者の胃瘻増設をめぐる代理意思決定に関する研究 —代理意思決定における家族の『ストーリー』を通して—	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学研究所: 神部今日子
10	18-研倫10号	2018年6月6日	「ズレる支援」に関する視覚障害者の意味づけとその対処方法	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学研究所: 安達 朗子
11	18-研倫11号	2018年6月6日	大学生の性格特性が抑うつ傾向、スチューデント・アパシー傾向、非定型うつ傾向に与える影響について	指導教員: 佐藤 祐基 研究代表者: 社会福祉学研究所: 秋野さゆり
12	18-研倫12号	2018年6月6日	性格特性がスマートフォンでのゲームの利用動機とゲーム依存傾向に及ぼす影響	指導教員: 佐藤祐基 研究代表者: 社会福祉学部4年: 上倉 千穂
13	18-研倫13号	2018年6月6日	子どもの自己表現という個性を社会性との共存によって強みに変える支援のあり方 —療育施設における事例研究から—	指導教員: 西田充深 研究代表者: 社会福祉学部4年: 市川野々花
14	18-研倫14号	2018年6月6日	適応および不適応についての一般の人の捉え方に関する研究	指導教員: 今川 良雄 研究代表者: 社会福祉学研究所: 青陽 千果
15	18-研倫15号	2018年7月18日	発達障害をかかえる青年及び保護者のピアサポートの取り組み	柿原 久仁佳
16	18-研倫16号	2018年7月18日	社会的学習場面における他者の知識と意図の推測を重視した学習支援	石川 悟
17	18-研倫17号	2018年7月18日	インターネットにおける心理行動傾向の日米差の比較文化研究	ロバート J. トムソン
18	18-研倫18号	2018年7月18日	紛争解決研究の新機軸に関する学際的研究～コミュニティ・レジリエンスに着目して～	片岡 徹
19	18-研倫19号	2018年7月18日	表明選好法を用いた循環型農業によって生産された野菜の価値推計	野原 克仁
20	18-研倫20号	2018年7月18日	表明選好法を用いた循環型農業によって生産された野菜の価値推計	野原 克仁
21	18-研倫21号	2018年7月18日	VRエクスポージャーの研究	林 秀彦
22	18-研倫22号	2018年7月18日	平成30年度科学研究費助成事業「北海道における精神保健ソーシャルワークの歴史記録と教育コンテンツの構築」(課題番号: 17K04230)	永井 順子
23	18-研倫23号	2018年7月18日	包括的認知とパターン錯覚の関係性、およびその非合理的信念への影響の検討	眞嶋 良全
24	18-研倫24号	2018年7月18日	システム・センタード・アプローチおよびその中核的手法 “機能的サブグループ”を用いたグループの整容プロセスとその効果	鴨澤 あかね
25	18-研倫25号	2018年7月18日	私設心理相談室における短期療法の包括的研究	田澤 安弘
26	18-研倫26号	2018年7月18日	小学校通常学級における発達障害のある児童への支援の合理性に関する研究	田実 潔
27	18-研倫27号	2018年7月18日	インターセックスと人権問題	K.U. ノンシュティール
28	18-研倫28号	2018年7月18日	地域づくりと観光の関連における社会教育従事者の役割 — 日独比較を中心に	K.U. ノンシュティール
29	18-研倫29号	2018年7月18日	ピア・サポート研修プログラム参加によるピア・サポータースキル向上効果の検証	永井 暁行
30	18-研倫30号	2018年7月18日	大学における通訳案内士教育のあり方に関する研究	田中 直子
31	18-研倫31号	2018年7月18日	訪日スタディ・ツアー受け入れに関する研究	森越 京子
32	18-研倫32号	2018年7月18日	積雪寒冷地における高齢者の転倒危険性に対する地域での取り組みについて	指導教員: 中村 和彦 社会福祉学研究所: 棚橋 嘉美
33	18-研倫33号	2018年7月18日	医療ソーシャルワーカーのケース・アドボカシーにおける組織内交渉について—エキスパート・インタビュー調査を通して—	指導教員: 中村 和彦 社会福祉学研究所: 高泉 一生
34	18-研倫34号	2018年7月18日	ソーシャルワーク・スーパービジョンにおける「事例検討法」の再検討 ～精神保健ソーシャルワーカーへの具体的展開を基に～	指導教員: 中村 和彦 社会福祉学研究所: 下坂 佳苗
35	18-研倫35号	2018年7月18日	適応および不適応についての一般の人の捉え方に関する研究	指導教員: 今川 良雄 社会福祉学研究所: 青陽 千果
36	18-研倫36号	2018年7月18日	自閉症者の就労支援における現場での困難感について ～就労継続支援B型の現場から～	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 澤谷 知宏
37	18-研倫37号	2018年7月18日	障害児者を持つ母親にとって、親の会の活動はどのような意味を持つか	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 松見優花
38	18-研倫38号	2018年7月18日	介護職の専門性に関する研究 ～介護業務の類型化を通じて～	指導教員: 畑 亮輔 社会福祉学研究所: 藤田 2年: 越田 裕亮
39	18-研倫39号	2018年7月18日	育児未経験者の親性の芽生えの調査	指導教員: 松岡 是伸 研究代表者: 社会福祉学部: 松田 果央
40	18-研倫40号	2018年7月18日	貧困層・低所得層における安心・安全に暮らせる住環境のあり方に関する研究	指導教員: 松岡 是伸 研究代表者: 社会福祉学部: 坂田 史穂
41	18-研倫41号	2018年7月18日	サッカーを通じての子供の成長とそれを支える働きに関する研究	指導教員: 松岡 是伸 研究代表者: 社会福祉学部: 佐々木 智人
42	18-研倫42号	2018年7月18日	ひとり親家庭の実態とその支援の在り方に関する研究	指導教員: 松岡 是伸 研究代表者: 社会福祉学部: 近藤 憲人
43	18-研倫43号	2018年7月18日	生活介護事業所における高齢知的障害者の日中活動支援課題	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 遠太
44	18-研倫44号	2018年7月18日	聴覚障害学生に対する大学の就職支援	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 長尾 紗英
45	18-研倫45号	2018年7月18日	大学においてノートテイク支援を受ける聴覚障がい学生の満足感に関する研究	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 明 愛弓
46	18-研倫46号	2018年7月18日	発達障害児とかかわる前後の教師の意識の変化	指導教員: 田中 耕一郎 研究代表者: 社会福祉学部: 小笠原 安夏
47	18-研倫47号	2018年9月12日	ソーシャルメディアの利用実態と利用者の意識に関する基礎的調査研究	西山 薫
48	18-研倫48号	2018年9月12日	日本語版 一般的陰謀論信念尺度の開発	眞嶋 良全
49	18-研倫49号	2018年9月12日	現代日本における生活困窮対策のスティグマと抵抗の実態に関する調査研究	松岡 是伸
50	18-研倫50号	2018年9月12日	医療ソーシャルワーカーの「価値と倫理的理解」に関する調査研究	指導教員: 岡田 直人 社会福祉学研究所: 石田 潔

27 本学の研究倫理審査承認課題一覧
〔2018年度〕

(表VI-27)

51	18-研倫51号	2018年9月12日	SNS上のコミュニケーションにおける対人ストレスコーピング、およびコーピングによる精神的健康	指導教員:西山 薫 社会福祉学研究科修士課程 渡邊 啓
52	18-研倫52号	2018年9月12日	不登校の子どもを持つ親への支援-“親の会”の調査を通じて-	指導教員:鴨澤 あかね 社会福祉学研究科修士課程 小川 すみれ
53	18-研倫53号	2018年9月12日	交通路線におけるアクセシビリティ評価に関する研究-栗山町バス路線におけるバス勢圏と利用実態-	指導教員:鈴木 克典 経済学研究科修士課程 長谷川 賢
54	18-研倫54号	2018年10月17日	地震被災地における生活基盤再建に係る法的問題の検討	竹田 恒規
55	18-研倫55号	2018年10月17日	地域の防災、災害時の取り組みに関するアンケート調査	杉岡 直人
56	18-研倫56号	2018年10月17日	想像上の対象に対する恋愛感情に関する研究	栗林 克匡
57	18-研倫57号	2018年10月17日	大学生のグループ活動の行動特徴とソーシャルスキルとの関連	栗林 克匡
58	18-研倫58号	2018年10月17日	大学生のマスク着用に影響を与える要因に関する研究	栗林 克匡
59	18-研倫59号	2018年10月17日	身体像とシャイネスの関連に関する研究	栗林 克匡
60	18-研倫60号	2018年11月14日	ラーニング・commonsにおける正課外学習への参加プロセスの検討	永井 暁行
61	18-研倫61号	2018年11月14日	子どもと家庭における生活実態に関する調査研究(地方都市A)	松岡 是伸
62	18-研倫62号	2018年12月12日	天草諸方言の形態音韻現象に関する基礎的研究-方言類型論の構築を目指して	松浦 年男
63	18-研倫63号	2018年12月12日	日本語諸方言における有声阻害音の音声実現に関する調査研究	松浦 年男
64	18-研倫64号	2018年12月12日	認知的内省性テスト(Cognitive Reflection Test)の測定内容の文化間比較	眞嶋 良全
65	18-研倫65号	2018年12月12日	ソーシャルワーク・ケアワーク専門性の評価に関する研究	畑 亮輔
66	18-研倫66号	2018年12月12日	FEMAIL WORKFORCE IN A SMALL INTERNATIONAL SKI RESORT:A CASE STUDY OF NISEKO,JAPAN(国際スキーリゾートニセコにおける女性労働力に関する)	森越 京子
67	18-研倫67号	2019年1月23日	山形県最上町における集落ガバナンス形成の追跡的インタビュー研究	中田 知生
68	18-研倫68号	2019年2月13日	外国資本による土地取引の法律学的考察	足立 清人
69	18-研倫69号	2019年2月13日	教育実践:講義(民法Ⅱ(債権各論))を通じての、学生の「私的自治の原則」の習得	足立 清人
70	18-研倫70号	2019年2月13日	北海道胆振東部地震による土地・建物被害の調査と復旧・復興状況の確認	足立 清人
71	18-研倫71号	2019年2月13日	「特別養子制度」の考察	足立 清人
72	18-研倫72号	2019年3月6日	反すうと抑うつおよび認知的統制の関連の検討	指導教員:西山 薫 社会福祉学研究科修士課程 石川 いずみ
73	18-研倫73号	2019年3月6日	大学生のインターネット利用における心理的プロセス	指導教員:牧田 浩一 社会福祉学研究科修士課程 長内 明日香

Ⅶ. 本学の学生の受入れに関すること

1 学部・学科の特別入試による在籍学生数一覧〔2018年度〕

(1) 大学

2018. 5. 1現在

(表Ⅶ-1-①)

種別	学 科	在籍学生 総 数	在 籍 学 生 数				備 考
			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
社 会 人	文学部英文	1人	0人	0人	0人	1人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉心理	1人	0人	0人	0人	1人	
	合 計	2人	0人	0人	0人	2人	
帰 国 生 徒	文学部英文	0人	0人	0人	0人	0人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉心理	0人	0人	0人	0人	0人	
	合 計	0人	0人	0人	0人	0人	
外 国 人 留 学 生	文学部英文	0人	0人	0人	0人	0人	
	心理・応用 コミュニケーション	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 済	0人	0人	0人	0人	0人	
	経 営 情 報	1人	0人	1人	0人	0人	
	経 済 法	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉計画	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉臨床	0人	0人	0人	0人	0人	
	福祉心理	0人	0人	0人	0人	0人	
	合 計	1人	0人	1人	0人	0人	

(2) 短期大学部

2018. 5. 1現在

(表Ⅶ-1-②)

種別	学 科	在籍学生 総 数	在 籍 学 生 数				備 考
			第1年次	第2年次			
社 会 人	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	0人	0人	0人			
	合 計	0人	0人	0人			
帰 国 生 徒	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	0人	0人	0人			
	合 計	0人	0人	0人			
外 国 人 留 学 生	短期大学部英文	0人	0人	0人			
	生活創造	0人	0人	0人			
	合 計	0人	0人	0人			

2 学部・学科の学生定員及び在籍学生数一覧〔2018年度〕

(1) 大学

2018.5.1現在 (表VII-2-①)

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員(A)	在籍学生総数(B)	編入学生数(内数)	B/A	在籍学生数				
								第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	
								学生数	学生数	学生数	学生数	留年者数(内数)
文学部	英文学科	113	14	480	588	28	1.23	126	129	149	184	48
	心理・応用コミュニケーション学科	90	10	380	462	18	1.22	112	91	111	148	35
計		203	24	860	1,050	46	1.22	238	220	260	332	83
経済学部	経済学科	152	6	620	694	9	1.12	168	174	170	182	16
	経営情報学科	102	6	420	516	9	1.23	120	135	115	146	17
	経済法学科	110	10	460	545	6	1.18	130	126	134	155	23
計		364	22	1,500	1,755	24	1.17	418	435	419	483	56
社会福祉学部	福祉計画学科	85	10	360	406	11	1.13	98	85	105	118	14
	福祉臨床学科	85	10	360	380	8	1.06	88	98	90	104	11
	福祉心理学科	64	7	270	281	3	1.04	75	69	68	69	8
計		234	27	990	1,067	22	1.08	261	252	263	291	33
合計		801	73	3,350	3,872	92	1.16	917	907	942	1,106	172

(2) 短期大学部

2018.5.1現在 (表VII-2-②)

学科	入学定員	収容定員(A)	在籍学生総数(B)	B/A	在籍学生数			
					第1年次	第2年次		
					学生数	学生数	留年者数(内数)	
英文学科	120	240	278	1.16	137	141	12	
生活創造学科	80	160	186	1.16	89	97	4	
計		200	400	464	1.16	226	238	16

3 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数一覧表 [2018年度]

2018.5.1現在 (表Ⅶ-3)

研究科	専攻	入学定員		収容定員		在籍学生数											C/A	D/B
		修士課程	博士課程	修士課程(A)	博士課程(B)	修士課程						博士課程						
						一般	学内選考	姉妹校	リカント	外国人	その他	計(C)	一般	リカント	その他	計(D)		
文学研究科	言語文化 コミュニケーション専攻	8	—	16	—	1	1	—	0	0	0	2	—	—	—	—	0.13	—
計		8	—	16	—	1	1	—	0	0	0	2	—	—	—	—	0.13	—
経済学研究科	経済学専攻	10	—	20	—	3	1	0	1	0	0	5	—	—	—	—	0.25	—
計		10	—	20	—	3	1	0	1	0	0	5	—	—	—	—	0.25	—
社会福祉学 研究科	社会福祉学専攻	8	3	16	9	1	0	—	9	0	0	10	3	1	0	4	0.63	0.44
	臨床心理学専攻	4	—	8	—	8	1	—	0	0	0	9	—	—	—	—	1.13	—
計		12	3	24	9	9	1	—	9	0	0	19	3	1	0	4	0.79	0.44
合計		30	3	60	9	13	3	0	10	0	0	26	3	1	0	4	0.43	0.44

[注] 1 科目等履修生、聴講生、研究生は、在籍学生数には含めないこと。

2 「C/A」および「D/B」欄については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示すること。

4 大学院・研究科の入学者の構成一覧
(2016～2018)

(表VII-4-①)

研究科	専攻	定員	課程	期	種別	2016年度					2017年度					2018年度					
						志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	
社会福祉学	社会福祉学	8※	修士	第1期	一般	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
					リカレント	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					小計	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	
				第2期	一般	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					リカレント	2	2	1	1	1	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					小計	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	
				第1・2期計	一般	3	3	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
					リカレント	3	3	2	2	2	3	3	3	3	0	0	0	0	0		
	外国人	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	推薦	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	合計	6	6	3	3	3	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0					
	臨床心理学	4	修士	第1期	一般	7	7	3	3	3	10	10	5	5	5	9	9	3	3	3	
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					推薦	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1		
					小計	8	8	4	4	4	10	10	5	5	5	10	10	4	4		
				第2期	一般	2	2	0	0	0	1	1	0	0	0	3	2	0	0	0	
					リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
小計					2	2	0	0	0	1	1	0	0	0	3	2	0	0			
第1・2期計				一般	9	9	3	3	3	11	11	5	5	5	12	11	3	3			
				リカレント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
	外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
	推薦	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1							
合計	10	10	4	4	4	11	11	5	5	5	13	12	4	4							

* 2015年度より臨福祉臨床学（定員3）から社会福祉学専攻領域（定員8）に変更あり。

* 社会・発達心理学領域を廃止して計画と臨床を統合して社会福祉学専攻。定員は8名。研究目的により福祉臨床学に該当するため旧福祉臨床学欄に数字を記載する。

4 大学院・研究科の入学者の構成一覧
(2016～2018)

(表Ⅶ-4-②)

研究科	専攻	定員	課程	期	種別	2016年度					2017年度					2018年度					
						志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	志願	受験	合格	手続	入学	
文学	言語文化コミュニケーション	8	修士	第1期	一般	3	3	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					リカント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
					小計	6	6	5	5	5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
				第2期	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					リカント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				第1・2期 合計	一般	3	3	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					リカント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					推薦	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
合計	6	6	5	5	5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0					
経済学	経済学	10	修士	大連	姉妹校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
				第1期	リカント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
					一般	0	0	0	0	0	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	
				第2期	リカント	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
					推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1		
					小計	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	3	3	3	3		
					姉妹校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
				第1・2期 合計	一般	0	0	0	0	0	2	1	1	1	2	2	2	2	2		
					リカント	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0			
外国人	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
推薦	0	0	0		0	0	0	0	0	0	1	1	1	1							
合計	1	1	1		1	1	2	1	1	1	1	3	3	3	3						
		30	修士課程合計 (第1・2期)	姉妹校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
				一般	15	15	6	6	6	14	13	7	7	7	14	13	5	5			
				リカント	4	4	3	3	3	3	3	3	3	0	0	0	0				
				外国人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
				推薦	4	4	4	4	4	1	1	1	1	2	2	2	2				
				合計	23	23	13	13	13	18	17	11	11	11	16	15	7	7			
社会福祉学	社会福祉学	3	博士〔後期〕	一般	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	2	2	2	2			
				リカント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1				
				合計	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5	5	3	3			

Ⅷ 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

1 学生交流会館Kirari利用状況

[2014～2018]

(表Ⅷ-1)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年平均
宿泊を伴うもの(回数)	84	69	82	77	63	75 回
宿泊を伴わないもの(回数)	155	157	154	139	93	140 回
利用回数合計	239	226	236	216	156	215 回
管理・維持経費(単位:円)	19,000,000	17,947,000	18,297,000	21,755,000	18,607,000	19,121,200

注 平均利用回数及び、平均維持経費は小数点以下切り捨て

2 サークル団体状況

[2014～2018]

(表Ⅷ-2)

項目	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	
サークル団体数	団体数	70	69	66	62	60	65.4	
	顧問実人数	53	51	49	48	48	49.8	
	負担割合	1.3	1.4	1.3	1.3	1.3	1.3	
サークル加入者(人) 加入割合 (加入者/在学者)	全体	文	773 <i>15.4</i>	831 <i>17.2</i>	749 <i>18.5</i>	664 <i>19.4</i>	582 <i>13.7</i>	719.8
		経	1,162 <i>27.3</i>	1,212 <i>26.5</i>	1,199 <i>27.8</i>	1,104 <i>28.3</i>	1,034 <i>24.3</i>	1,142.2
		社	1,042 <i>31.0</i>	1,016 <i>22.7</i>	995 <i>25.0</i>	824 <i>23.7</i>	728 <i>17.1</i>	921.0
		短	231 <i>4.7</i>	259 <i>4.7</i>	203 <i>5.5</i>	185 <i>6.0</i>	152 <i>3.6</i>	206.0
		合	3,208	3,318	3,146	2,777	2,496	2,989.0
サークル援助金 (単位:千円)	計	6,709	7,016	6,713	6,687	6,487	6,722.4	
サークル援助金 (特別) (単位:千円)	計	680	780	670	880	510	704.0	
全国大会 出場援助金 (単位:千円)	計	1,805	1,538	1,998	1,759	2,689	1,957.8	
大学後援会 からの援助金 (単位:千円)	計	3,635	3,294	3,883	10,373	3,895	5,016.0	

※ 大学・短大それぞれ、5/1現在の学生数から算出

※ 大学・短大学生数別、サークル加入者割合(延べ人数)

3 学生の健康管理状況

定期健康診断受診者数・学生相談室利用者数

大学院・大学・短大 計 [2014～2018]

(単位：人)

(表Ⅷ-3)

項目	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
定期健康診断	学 部 生	3,960	4,107	4,084	4,179	4,110	4,088.0
	受 診 割 合	97.3	98.1	97.8	98.0	98.1	97.9
受診者	院 生 他	39	26	35	35	34	33.8
	上記内精密検査人数	28	70	68	42	45	50.6
学生相談室 利用者	学 部 生	757	767	797	709	712	748.4
		(97)	(104)	(123)	(116)	(126)	113.2
		<67>	<70>	<93>	<85>	<105>	84.0
() 実人数	院 生	40	35	8	1	12	19.2
		(3)	(2)	(2)	(1)	(3)	2.2
		(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	0.6
下段<> 女子	そ の 他	797	802	806	710	724	767.8
		(101)	(106)	(126)	(117)	(129)	115.8
		<68>	<70>	<94>	<86>	<107>	85.0
	計						

※ 「学部生」は大学・短期大学の学部生を含む。

※ 「院生他」「その他」は科目等履修生等を含む。

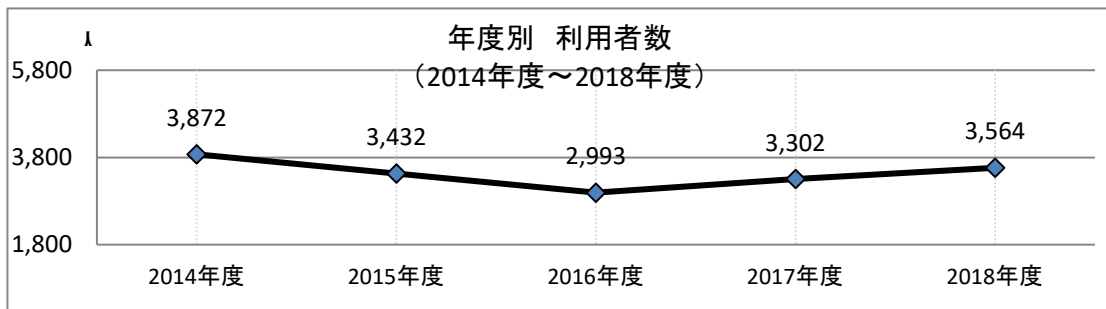
4 医務室の利用状況

(単位：人)

(表Ⅷ-4)

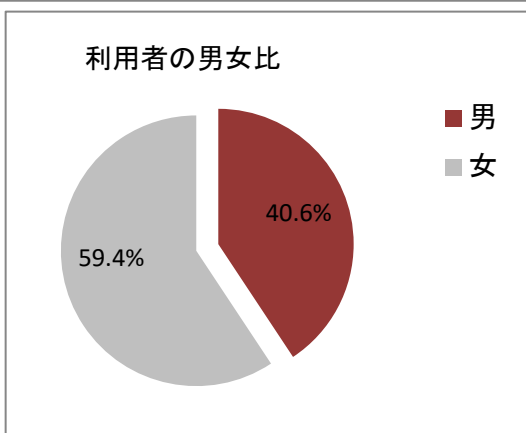
利用者数 年度別 [2014～2018]

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
3,872	3,432	2,993	3,302	3,564



2018年度	前期 (人)	後期 (人)	合計 (人)
男	709	484	1,193
女	1,136	603	1,739
合計	1,845	1,087	2,932

2017年度	男女比	合計 (人)
男	42.8%	1,114
女	57.2%	1,491
合計	100.0%	2,605



延べ人数	2018年度	全利用者に対する割合	2017年度	全利用者に対する割合
1年次	477	16.3%	402	15.2%
2年次	421	14.4%	384	14.5%
3年次	431	14.7%	386	14.6%
4年次	418	14.3%	329	12.5%
大学留年	118	4.0%	88	3.3%
短大1年次	185	6.3%	128	4.8%
短大2年次	120	4.1%	125	4.7%
短大留年	41	1.4%	8	0.3%
大学院	7	0.2%	5	0.2%
その他の学生 (科目等・留年・研究生)	27	0.9%	25	0.9%
学生 計	2,245	76.6%	1,880	71.2%
教職員	640	21.9%	705	26.7%
学外者・不明者	44	1.5%	56	2.1%
合計	2,929	100.0%	2,641	100.0%

5 障がいのある学生及び特別な支援を要する学生の状況

(1) 大学 [2017-2018]

(表Ⅷ-5-①)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	3年間平均
アクセシビリティ支援室への支援要請数 下段：面談数	文 学	4	27	14			15.0
		48	162	222			144.0
	経 済	5	22	4			10.3
		64	72	21			52.3
	社会福祉	14	40	16			23.3
		108	152	228			162.7
	院 生 他	0	7	1			3.5
		0	31	44			25.0
計	23	96	35			51.3	
	220	417	515			384.0	
配慮依頼文書 発行数 (実人数) 〈支援回数〉* 《学生による 支援回数》*	文 学	59	75	89			74.3
		(3)	(5)	(7)			5.0
		< 127 >	< 150 >	< 150 >			142.3
		《 》	《 360 》	《 240 》			200.0
	経 済	47	68	17			44.0
		(3)	(3)	(5)			3.7
		< 150 >	< 105 >	< 15 >			90.0
		《 87 》	《 225 》	《 105 》			139.0
	社会福祉	142	134	154			143.3
		(7)	(8)	(9)			8.0
		< 150 >	< 75 >	< 69 >			98.0
		《 3 》	《 495 》	《 1050 》			516.0
	院 生 他	0	14	1			5.0
		()	(1)	(1)			0.7
		< >	< 50 >	< 50 >			33.3
		《 》	《 》	《 》			0.0
	計	248	291	261			266.7
		(13)	(17)	(22)			17.3
		< 427 >	< 380 >	< 284 >			363.7
		《 90 》	《 1080 》	《 1395 》			855.0

- * 〈支援回数〉は、支援機器の配置や設営などのスタッフによる支援
- * 《学生による支援回数》は、ノートテイクなどの学生による情報保障支援
- * アクセシビリティ支援室は2016年度に開設された

5 障害のある学生及び特別な支援を要する学生の状況

(2) 短期大学部

[2017-2018]

(表Ⅷ-5-②)

項目	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	3年間平均
アクセシビリティ支援室への支援要請数	英 文	1	4	1			2.0
		5	8	6			6.3
	生 活 創 造	0	2	1			1.0
		0	3	5			2.7
	下段：面談数	計	1	6	2		
		5	11	11			9.0
配慮依頼文書発行数 (実人数) 〈支援回数〉* 《学生による支援回数》*	英 文	30	0	0			10.0
		(1)	()	()			0.3
		< >	< >	< >			0.0
		《 285 》	《 》	《 》			95.0
	生 活 創 造	0	0	19			6.3
		()	()	(1)			0.3
		< >	< >	< 15 >			5.0
		《 》	《 》	《 》			0.0
	計	30	0	19			16.3
		(1)	()	(1)			0.7
		< >	< >	< 15 >			5.0
		《 285 》	《 》	《 》			95.0

- * 〈支援回数〉は、支援機器の配置や設営などのスタッフによる支援
- * 《学生による支援回数》は、ノートテイクなどの学生による情報保障支援
- * アクセシビリティ支援室は2016年度に開設された

6 学生相談センター主催講演会参加状況

[2014～2018]

(表Ⅷ-6)

年度	演題	参加教員数	参加職員数
2014年度	講師：櫻井 義秀 氏（北海道大学大学院文学研究科） 演題：「大学のカルト対策：信教の自由とケアの諸問題」	8	18
2015年度	講師：萩原 拓 氏（北海道教育大学旭川校特別支援教育分野） 演題：「青年・成人期の発達障害の理解と支援」	20	19
2016年度	助言者：平野 直己 氏（北海道教育大学札幌校） 演題：「学生対応に関する事例検討会」	13	20
2017年度	助言者：平野 直己 氏（北海道教育大学札幌校） 演題：「学生対応に関する事例検討会」 事例報告者-浦野真理子 氏（北星学園大学経済学部）、 安達美幸 氏（北星学園大学保健師）	11	11
2018年度	演題：「今川先生、新学長・大坊先生と学生を語る」 対談者-大坊郁夫 氏（北星学園大学学長）、 今川民雄 氏（北星学園大学社会福祉学部）	7	3

7 学生医療互助会給付状況

大学院・大学・短期大学部 計 [2014～2018]

(表Ⅷ-7)

項目	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
給付件数 ()内 実人数	学部生	3,024	2,792	3,233	3,548	4,708	3,461
		(596)	(581)	(647)	(684)	(793)	(660)
	院生他	59	26	28	54	82	50
		(5)	(1)	(2)	(4)	(8)	(4)
	計	3,083	2,818	3,261	3,602	4,790	3,511
		(601)	(582)	(649)	(688)	(801)	(664)
給付総額 (千円)	学部生	15,349	14,481	15,382	17,149	23,073	17,087
	院生他	246	150	82	179	269	185
	計	15,595	14,631	15,464	17,328	23,342	17,272

* 「院生他」の他は科目等履修生等含む。

* 「学部生」は大学・短期大学部の学部生を含む。

8 学生の食生活改善プログラム開催状況

[2016～2018]

(表Ⅷ-8)

2016年度	朝食キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格 (円)	延べ利用人数	一日平均(人)
	第1回朝食キャンペーン	4/18～22	5日	50	209	41.8
	ランチキャンペーン	6/3	1日	50	318	318.0
	第2回朝食キャンペーン	5/16～20	5日	50	306	61.2
	第3回朝食キャンペーン	9/26～30	5日	50	308	61.6
	第4回朝食キャンペーン	10/17～21	5日	50	315	63.0
	第5回朝食キャンペーン	12/7～9	3日	50	149	49.6
	合計	—	24日	—	1,605	66.8
	その他のイベント	日	内 容			
	学生料理教室	11/9	料理講師を招き、20名を対象に行った。学生交流会館を利用した。栄養バランスの良い調理方法を学び、最後には各自調理した料理を食した。			
テーピング講習会	①5/25 ②10/26	両日とも30名前後の体育系サークルの学生を中心に、ケガの予防等を目的として、専門家の指導の下、実施した。				
2017年度	50円キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格 (円)	延べ利用人数	一日平均(人)
	第1回朝食キャンペーン	4/24～28	5日	50	517	103.4
	ランチキャンペーン	6/2	1日	50	439	439
	第2回朝食キャンペーン	5/22～26	5日	50	380	76
	第3回朝食キャンペーン	9/25～29	5日	50	417	83.4
	第4回朝食キャンペーン	10/16～20	5日	50	478	95.6
	夕食キャンペーン	12/6～8	3日	50	459	153
	合計	—	24日	—	2,690	112.1
	その他のイベント	日	内 容			
	学生料理教室	11/15～16	料理講師を招き、女子学生を中心に男女合わせて19名を対象に行った。学生交流会館を利用して、栄養バランスの良い調理方法を学び、最後には各自調理した料理を食した。			
テーピング講習会	①5/30 ②10/26	両日とも20名前後の体育系サークルを中心に、ケガの予防・応急措置を目的に、実践を交えた講習を専門家の指導の下実施した。				
フリードリンク	6/2	体育祭での熱中症対策を目的に、参加学生へペットボトル飲料約1300本を無料で配布した。				
2018年度	50円キャンペーン	開催期間	開催日数	一食価格 (円)	延べ利用人数	一日平均(人)
	第1回朝食キャンペーン	4/23～27	5日	50	805	161
	ランチキャンペーン	6/1	1日	50	549	549
	第2回朝食キャンペーン	5/21～25	5日	50	683	136.6
	第3回朝食キャンペーン	9/25～28	5日	50	429	85.8
	第4回朝食キャンペーン	10/22～26	5日	50	564	112.8
	夕食キャンペーン	12/5～7	3日	50	1,066	355
	合計	—	24日	—	4,096	170.6
	その他のイベント	日	内 容			
	学生料理教室	12/13	料理講師を招き、在学生や留学生の男女合わせて18名を対象に行った。学生交流会館を利用して、栄養バランスや効率の良い調理方法を学び、各自調理した料理を食した。			
テーピング講習会	①5/30 ②10/17	①は過去最高となる40名の体育系サークルの学生が参加した。ニチバン(株)講師の指導の下、ケガの予防・応急措置を目的に、実践を交えた講習を実施した。				
体育祭特別企画	6/1～6/2	体育祭での熱中症対策・栄養補充を目的に、参加学生へペットボトル飲料約1300本・健康食品約200個を無料で配布した。				

9 各種奨学金援助状況

[2016-2018]

単位(人)

(表Ⅷ-9-①)

種別	該当別	年・月額	学年別・月額または年額				2016年度	2017年度	2018年度	3年間平均		
			1年次	2年次	3年次	4年次						
奨学金	日本学生支援機構	大学院	第一種	5万・8.8万		8万円・12.2万円		5	4	5	4.7	
			第二種	5万・8万・10万・13万・15万円				2	1	1	1.3	
		大学	第一種	自宅	2万円・3万円・4万円・5.4万円			641	672	716	676.3	
				自宅外	2万円・3万円・4万円・5万円・6.4万円							
			第二種		2万円・3万円・4万円・5万円・6万円・7万円 8万円・9万円・10万円・11万円・12万円				1336	1221	1170	1242.3
			給付	自宅	3万円				-	1	28	14.5
		自宅外		4万円								
		短大部	第一種	自宅	2万円～5.3万円		/	97	111	128	112.0	
				自宅外	2万円～6万円							
			第二種		2万円～12万円 (1万刻み)			147	142	128	139.0	
			給付	自宅	3万円				-	1	8	4.5
		自宅外		4万円								
	大学院	入学時特別増額貸与奨学金		年額	10万円・20万円・30万円・40万円・50万円				0	0	0	0.0
									大学・短大部	59	46	50
	北星学園大学 一般奨学金	大学・短大部		年額	12万円				13	13	13	13.0
北星学園大学 松田奨学金	大学		6万円				1	1	1	1.0		
北星学園大学 融資奨学金 (有利子)	大学院・大学・短大部		10～50万円				0	0	0	0.0		

9 各種奨学金援助状況

[2016-2018]

単位 (人)

(表Ⅷ-9-②)

種別	該当別	年・月額	学年別・月額または年額				2016年度	2017年度	2018年度	3年間平均	
			1年次	2年次	3年次	4年次					
奨学金	有馬・安孫子・手島・時任・永澤奨学金	大学	男子学生	10万円				2	2	2	2.0
		短大部		10万円				0	0	0	0.0
	スミス・モンク・エバンス奨学金	大学	女子学生	10万円				1	1	1	1.0
		短大部		10万円				1	1	1	1.0
	成績優秀者学業奨励賞	大学	年額	1~5万円		126	126	126	126.0		
		短大部		1-5万円	11	11	11	11.0			
	自宅外通学支援奨学金	大学	36万円				29	59	91	59.7	
		短大部	36万円				16	35	29	26.7	
前頁より上記在学学生割合 (%)						56.5	56.0	58.5	57.0		
減免制度	入試特別奨学賞	大学	年額	授業料の1/2相当額免除				57	60	69	62.0
		短大部		授業料の1/2相当額免除				4	3	5	4.0
	私費外国人留学生修学奨励金	大学院・大学・短大部	授業料の1/3相当額免除				1	1	1	1.0	
	私費外国人奨学金	大学院・大学・短大部	授業料の1/3相当額免除				1	1	1	1.0	
	兄弟姉妹同時在学者減免	大学院・大学・短大部	教育充実費相当額免除				44	47	36	42.3	
	身体・精神障害修学者減免	大学院・大学・短大部	教育充実費の1/2相当額免除				14	16	16	15.3	
	社会人入試入学者減免	大学院・大学・短大部	授業料から15万円免除				3	2	1	2.0	
	修学困難者減免	大学院・大学・短大部	授業料の1/2相当額免除				14	13	8	11.7	
上記在学学生割合 (%)						3.1	3.3	3.2	3.2		

* 下線付きの月額、2018年度入学者から新たに選択可能。2017年度以前の入学者は下線付き月額の選択不可。

* 日本学生支援機構給付奨学金は2017年度より開始。 * 有馬・我孫子・手島・時任奨学金は2018年度から有馬・我孫子・手島・時任・永澤奨学金に名称変更。

* 在学学生割合は5/1現在の在学学生数を基に小数点第2位四捨五入した。* 自宅外通学支援奨学金は2016年度より開始。

10 大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（状況別）〔2016年度〕

(表Ⅷ-10-①)

学部	学科	卒業生数	状況別卒業生数													計 (a)	左記A～Eのうち就職している者(再掲)	大学院博士課程のうち満期退学就職している者(再掲)
			A	B	C	D	E	就職者	臨 床 研 修 医 (予 定 者 を 含 む)	入 学 専 修 学 校 ・ 外 国 の 学 校 等	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左 記 以 外 の 者	不 詳 ・ 死 亡 の 者					
			研 究 院	学 部	本 短 期 大 学	専 攻 科	別 科											
文学部	学英	男	28	0	0	0	0	0	22	0	0	0	6	0	28	0	0	
		女	96	1	0	0	0	0	80	0	0	0	15	0	96	0	0	
	計	124	1	0	0	0	0	102	0	0	0	21	0	124	0	0		
	用学	男	29	0	0	0	0	0	21	0	0	0	8	0	29	0	0	
		女	74	0	0	0	0	0	67	0	0	0	7	0	74	0	0	
	計	103	0	0	0	0	0	0	88	0	0	0	15	0	103	0	0	
計	男	57	0	0	0	0	0	43	0	0	0	14	0	57	0	0		
	女	170	1	0	0	0	0	147	0	0	0	22	0	170	0	0		
計	227	1	0	0	0	0	0	190	0	0	0	36	0	227	0	0		
経済学部	学経	男	123	0	0	0	0	0	103	0	0	0	20	0	123	0	0	
		女	44	0	0	0	0	0	42	0	0	0	2	0	44	0	0	
	計	167	0	0	0	0	0	145	0	0	0	22	0	167	0	0		
	報学	男	58	0	0	0	0	0	50	0	0	0	8	0	58	0	0	
		女	47	0	0	0	0	0	42	0	0	1	4	0	47	0	0	
	計	105	0	0	0	0	0	92	0	0	1	12	0	105	0	0		
	学経	男	67	0	0	0	0	0	63	0	0	0	4	0	67	0	0	
		女	39	0	0	0	0	0	37	0	0	0	2	0	39	0	0	
	計	106	0	0	0	0	0	100	0	0	0	6	0	106	0	0		
	計	男	248	0	0	0	0	0	216	0	0	0	32	0	248	0	0	
女		130	0	0	0	0	0	121	0	0	1	8	0	130	0	0		
計		378	0	0	0	0	0	337	0	0	1	40	0	378	0	0		
社会福祉学部	画福	男	42	0	0	0	0	0	41	0	0	0	1	0	42	0	0	
		女	45	0	0	0	0	0	41	0	0	0	4	0	45	0	0	
	計	87	0	0	0	0	0	82	0	0	0	5	0	87	0	0		
	床福	男	19	1	0	0	0	0	16	0	0	0	2	0	19	0	0	
		女	74	0	0	0	0	0	63	0	1	0	10	0	74	0	0	
	計	93	1	0	0	0	0	79	0	1	0	12	0	93	0	0		
	理福	男	22	1	0	0	0	0	16	0	0	0	5	0	22	0	0	
		女	44	3	0	0	0	0	38	0	0	1	2	0	44	0	0	
	計	66	4	0	0	0	0	54	0	0	1	7	0	66	0	0		
	計	男	83	2	0	0	0	0	73	0	0	0	8	0	83	0	0	
女		163	3	0	0	0	0	142	0	1	1	16	0	163	0	0		
計		246	5	0	0	0	0	215	0	1	1	24	0	246	0	0		
学部合計	男	388	2	0	0	0	0	332	0	0	0	54	0	388	0	0		
	女	463	4	0	0	0	0	410	0	1	2	46	0	463	0	0		
	計	851	6	0	0	0	0	742	0	1	2	100	0	851	0	0		

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した、卒業生の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

10 大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（産業別）〔2016年度〕

(表Ⅷ-10-②)

学部	学科	性別	A	B	C	D	E 製造業										F	G	H	I 卸売業、小売業		J 金融業、保険業		K 不動産業、物品賃貸業		L 学術研究、専門・技術サービス業			M	N	O 教育、学習支援業		P 医療、福祉		Q	R サービス業		S 公務		左記以外	就職者計 (a)	求職者 (b)	就職率 (%) (a/b)
			農林・林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	1 食品・飲料・たばこ・飼料製造業	2 繊維工業	3 印刷・同関連業	4 化学工業、石油・石炭製品製造業	5 鉄鋼業、金属製品製造業	6 機械器具製造業	7 はん用・生産用・業務用電子部品・デバイス・電子回路製造業	8 電機・情報通信機械器具製造業	9 輸送用機械器具製造業	10 その他の製造業	水道業	電気・ガス・熱供給・水道業	運輸業・郵便業	1 卸売業	2 小売業	1 金融業	2 保険業	1 不動産管理業	2 物品賃貸業	1 学術・開発研究機関	2 法務	3 その他の専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	1 学校教育	2 その他の教育、学習支援業	1 医療業、保健衛生	2 社会保険・社会福祉・介護事業	複合サービス事業	1 宗教	2 その他のサービス業	1 国家公務員	2 地方公務員				
			文学部	英文	男女計	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	4	2	0	0	0	0	1	1	0	3	2	0	0	0	0	0	1	0				
経済学部	経済学	男女計	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	14	4	8	5	6	1	0	0	2	5	5	7	1	0	1	0	0	5	2	2	0	80	83	96.4%			
		用心理応	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	1	9	14	6	12	7	6	1	0	0	3	6	5	10	3	0	1	0	0	6	2	3	0	102	106	96.2%			
	計	男女計	0	0	0	2	1	1	2	1	0	0	0	0	0	6	4	2	12	10	3	1	0	0	3	2	7	2	1	3	1	0	0	2	1	0	0	67	68	98.5%			
		男女計	0	0	0	2	1	1	2	1	0	0	0	0	2	0	9	5	6	15	11	3	3	0	0	3	2	7	2	2	3	1	0	0	5	1	1	0	88	91	96.7%		
	計	男女計	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	1	6	7	3	0	2	0	0	1	1	0	3	3	0	0	0	0	4	0	2	0	43	46	93.5%			
		男女計	0	0	0	6	2	1	2	1	0	0	0	0	1	12	18	6	20	15	9	2	0	0	5	7	12	9	2	3	2	0	0	7	3	2	0	147	151	97.4%			
		男女計	0	0	0	8	2	1	2	1	0	0	0	2	1	18	19	12	27	18	9	4	0	0	6	8	12	12	5	3	2	0	0	11	3	4	0	190	197	96.4%			
		男女計	0	0	0	1	3	0	0	2	0	0	0	2	0	6	4	17	18	3	0	2	1	0	1	2	2	0	0	2	1	5	0	9	5	17	0	103	106	97.2%			
		男女計	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	7	7	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	2	0	2	2	5	0	42	42	100.0%			
		男女計	0	0	0	4	4	1	0	2	0	0	0	0	3	0	9	6	18	25	10	0	2	1	0	3	2	3	0	1	3	1	7	0	11	7	22	0	145	148	98.0%		
男女計		0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	2	9	10	0	1	2	0	0	2	0	3	1	0	1	0	0	6	1	4	0	50	50	100.0%				
男女計		0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	6	9	1	2	1	2	0	2	2	2	2	0	0	0	0	5	1	0	0	42	43	97.7%				
社会福祉学部	福祉学	男女計	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	5	6	11	9	0	2	1	0	1	2	0	1	0	0	1	1	0	3	3	12	0	63	63	100.0%			
		男女計	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	2	4	4	0	0	1	0	0	1	0	4	4	0	0	0	0	0	2	5	0	37	37	100.0%			
	計	男女計	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	1	1	4	9	8	15	13	0	2	2	0	2	2	4	5	0	0	1	1	0	3	5	17	0	100	100	100.0%			
		男女計	0	0	0	3	4	0	0	3	0	0	0	3	0	14	11	32	39	12	0	5	4	0	4	4	5	2	0	3	2	6	0	18	9	33	0	216	219	98.6%			
	男女計	0	0	0	7	3	1	0	0	0	0	0	1	2	0	8	6	9	20	12	2	1	3	0	5	2	7	6	1	1	0	2	0	7	5	10	0	121	122	99.2%			
	男女計	0	0	0	10	7	1	0	3	0	0	0	1	5	0	22	17	41	59	24	2	6	7	0	9	6	12	8	1	4	2	8	0	25	14	43	0	337	341	98.8%			
	男女計	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	7	4	1	0	2	0	0	1	1	1	0	1	6	1	0	4	0	5	0	41	41	100.0%				
	男女計	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4	0	5	1	0	1	0	0	0	1	2	1	2	10	1	0	1	0	8	0	41	41	100.0%				
	男女計	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	4	4	2	12	5	1	1	2	0	0	1	2	3	1	3	16	2	0	5	0	13	0	82	82	100.0%				
	男女計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	6	0	0	2	0	2	0	16	16	100.0%				
男女計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	6	3	1	0	0	0	0	0	1	4	0	8	23	0	0	4	0	9	0	63	66	95.5%					
男女計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	7	3	1	0	0	0	0	0	1	5	0	12	29	0	0	6	0	11	0	79	82	96.3%					
男女計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3	0	16	16	100.0%					
男女計	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	1	7	1	1	0	2	0	0	2	2	1	0	5	0	0	3	0	1	0	38	41	92.7%					
男女計	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	7	5	3	10	1	1	0	2	0	0	2	2	1	0	0	6	0	0	4	1	4	0	54	57	94.7%					
男女計	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	5	0	4	11	4	1	0	2	0	0	1	1	2	0	5	13	1	0	7	1	10	0	73	73	100.0%					
男女計	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	6	11	3	18	5	2	1	2	0	0	0	2	4	7	1	10	38	1	0	8	0	18	0	142	148	95.9%				
男女計	0	1	0	3	3	0	0	2	0	0	0	1	0	11	11	7	29	9	3	1	4	0	0	0	3	5	9	1	15	51	2	0	15	1	28	0	215	221	97.3%				
学部合計	男女計	0	1	0	6	5	0	0	4	0	0	0	6	0	25	12	42	57	19	1	7	6	0	5	6	6	7	3	8	15	7	0	29	10	45	0	332	338	98.2%				
	男女計	0	0	0	15	7	2	2	2	0	0	1	2	1	26	35	18	58	32	13	4	5	0	10	11	23	22	4	14	40	3	0	22	8	30	0	410	421	97.4%				
学部合計	男女計	0	1	0	21	12	2	2	6	0	0	8	1	51	47	60	115	51	14	11	11	0	15	17	29	29	7	22	55	10	0	51	18	75	0	742	759	97.8%					

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した、卒業生の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

10 大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（状況別）〔2017年度〕

(表Ⅷ-10-③)

学部	学科	卒業生数	状況別卒業生数													計 (a)	左記A～Eのうち就職している者(再掲)	大学院博士課程のうち満期退学就職している者(再掲)
			A	B	C	D	E	就職者	む	臨床研修医(予定者を含む)	入学専修学校・外国の学校等	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者				
			大学院	学部	短期大学	専攻科	別科											
文学部	英文学	男	22	0	0	0	0	0	13	0	0	0	9	0	22	0	0	
		女	123	0	0	0	0	0	112	0	0	0	11	0	123	0	0	
		計	145	0	0	0	0	0	125	0	0	0	20	0	145	0	0	
	心理学応用	男	29	0	0	0	0	0	20	0	1	0	8	0	29	0	0	
		女	59	0	0	0	0	0	52	0	0	0	7	0	59	0	0	
		計	88	0	0	0	0	0	72	0	1	0	15	0	88	0	0	
		計	233	0	0	0	0	0	197	0	1	0	35	0	233	0	0	
経済学部	経済学	男	126	0	0	0	0	0	110	0	0	0	16	0	126	0	0	
		女	42	2	0	0	0	0	36	0	0	0	4	0	42	0	0	
		計	168	2	0	0	0	0	146	0	0	0	20	0	168	0	0	
	経営情報学	男	56	0	0	0	0	0	44	0	0	0	12	0	56	0	0	
		女	45	1	0	0	0	0	36	0	1	0	7	0	45	0	0	
	経済法	男	84	1	0	0	0	0	71	0	0	0	12	0	84	0	0	
		女	30	0	0	0	0	0	28	0	0	0	2	0	30	0	0	
計	男	266	1	0	0	0	0	225	0	0	0	40	0	266	0	0		
	女	117	3	0	0	0	0	100	0	1	0	13	0	117	0	0		
	計	383	4	0	0	0	0	325	0	1	0	53	0	383	0	0		
社会福祉学部	福祉学	男	56	0	0	0	0	0	45	0	0	0	11	0	56	0	0	
		女	37	0	0	0	0	0	34	0	0	0	3	0	37	0	0	
		計	93	0	0	0	0	0	79	0	0	0	14	0	93	0	0	
	福祉臨床心理学	男	16	1	0	0	0	0	14	0	0	0	1	0	16	0	0	
		女	63	0	0	0	0	0	59	0	0	0	4	0	63	0	0	
	計	男	20	0	0	0	0	0	16	0	0	0	4	0	20	0	0	
		女	45	1	0	0	0	0	36	0	0	0	8	0	45	0	0	
計		65	1	0	0	0	0	52	0	0	0	12	0	65	0	0		
学部合計	男	92	1	0	0	0	0	75	0	0	0	16	0	92	0	0		
	女	145	1	0	0	0	0	129	0	0	0	15	0	145	0	0		
	計	237	2	0	0	0	0	204	0	0	0	31	0	237	0	0		
学部合計	男	409	2	0	0	0	0	333	0	1	0	73	0	409	0	0		
	女	444	4	0	0	0	0	393	0	1	0	46	0	444	0	0		
	計	853	6	0	0	0	0	726	0	2	0	119	0	853	0	0		

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した、卒業生の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

10 大学 学部・学科別卒業生の卒業後の状況（状況別）〔2018年度〕

(表Ⅷ-10-⑤)

学部	学科	卒業生数	状況別卒業生数													計 (a)	左記A～Eのうち就職している者(再掲)	大学院博士課程のうち満期退学就職している者(再掲)
			A	B	C	D	E	就職者	臨 床 研 修 医 (予 定 者 を 含 む)	入 学 専 修 学 校 ・ 外 国 の 学 校 等	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左 記 以 外 の 者	不 詳 ・ 死 亡 の 者					
			研 究 院	学 部	本 短 期 大 学	専 攻 科	別 科											
文学部	英文学	男	23	0	0	0	0	0	17	0	0	0	6	0	23	0	0	
		女	103	1	0	0	0	0	89	0	0	0	13	0	103	0	0	
		計	126	1	0	0	0	0	106	0	0	0	19	0	126	0	0	
	心理学応用	男	34	1	0	0	0	0	25	0	0	0	8	0	34	0	0	
		女	77	0	0	0	0	0	68	0	2	0	7	0	77	0	0	
		計	111	1	0	0	0	0	93	0	2	0	15	0	111	0	0	
		計	237	2	0	0	0	0	199	0	2	0	34	0	237	0	0	
経済学部	経済学	男	105	1	0	0	0	0	95	0	2	0	7	0	105	0	0	
		女	50	1	0	0	0	0	44	0	0	0	5	0	50	0	0	
		計	155	2	0	0	0	0	139	0	2	0	12	0	155	0	0	
	経営情報学	男	87	0	0	0	0	0	82	0	0	0	5	0	87	0	0	
		女	43	0	0	0	0	0	40	0	0	0	3	0	43	0	0	
	経済法	男	80	0	0	0	0	0	67	0	1	0	12	0	80	0	0	
		女	39	0	0	0	0	0	34	0	0	0	5	0	39	0	0	
計	男	272	1	0	0	0	0	244	0	3	0	24	0	272	0	0		
	女	132	1	0	0	0	0	118	0	0	0	13	0	132	0	0		
	計	404	2	0	0	0	0	362	0	3	0	37	0	404	0	0		
社会福祉学部	福祉学	男	55	1	0	0	0	0	47	0	0	0	7	0	55	0	0	
		女	45	0	0	0	0	0	41	0	0	0	4	0	45	0	0	
		計	100	1	0	0	0	0	88	0	0	0	11	0	100	0	0	
	福祉臨床	男	30	0	0	0	0	0	23	0	0	0	7	0	30	0	0	
		女	64	0	0	0	0	0	58	0	0	0	6	0	64	0	0	
	福祉心理学	男	17	0	0	0	0	0	15	0	0	0	2	0	17	0	0	
		女	40	1	0	0	0	0	32	0	2	0	5	0	40	0	0	
計	男	102	1	0	0	0	0	85	0	0	0	16	0	102	0	0		
	女	149	1	0	0	0	0	131	0	2	0	15	0	149	0	0		
	計	251	2	0	0	0	0	216	0	2	0	31	0	251	0	0		
学部合計	男	431	3	0	0	0	0	371	0	3	0	54	0	431	0	0		
	女	461	3	0	0	0	0	406	0	4	0	48	0	461	0	0		
	計	892	6	0	0	0	0	777	0	7	0	102	0	892	0	0		

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した、卒業生の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

11 大学院 研究科・専攻別修了者の修了後の状況（状況別）〔2016年度〕

(表Ⅷ-11-①)

研究科	専攻	性別	修了者数	状況別卒業生数													計 (a)	左記A、Eのうち就職している者(再掲)	大学院博士課程のうち満期退学者(再掲)
				A	B	C	D	E	就職者	臨床研修医(予定者を含む)	入学専修学校・外国の学校等	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者					
				大学院	学部	本短期大学科	専攻科	別科											
文学	言語文化コミュニケーション(M)	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0		
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0		
		計	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0		
経済学	経済学(M)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0		
		計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0		
社会福祉学	社会福祉学(M)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	臨床心理学(M)	男	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0		
		女	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	4	0	0		
		計	5	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	5	0	0		
	修士計	男	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0		
		女	6	0	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	6	0	0		
		計	8	0	0	0	0	0	6	0	0	0	2	0	8	0	0		
社会福祉学(D)	男	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2			
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2			
大学院合計	男	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	4	0	2			
	女	6	0	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	6	0	0			
	計	10	0	0	0	0	0	8	0	0	0	2	0	10	0	2			

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に修了した、修了者の修了後の状況を5月1日現在で作成。

11 大学院 研究科・専攻別修了者の修了後の状況（状況別）〔2017年度〕

（表Ⅷ-11-③）

研究科	専攻	性別	修了者数	状況別卒業生数												計 (a)	左記A、B、Eのうち就職している者（再掲）	大学院博士課程のうち満期退学者（再掲）
				A	B	C	D	E	就職者	臨床研修医（予定者を含む）	入学修学校・外国の学校等	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者				
				大学院	学部	短期大学科	専攻科	別科										
文学	言語文化コミュニケーション(M)	男	4	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		計	5	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	5	0	0
経済学	経済学(M)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会福祉学	社会福祉学(M)	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	臨床心理学(M)	男	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		計	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	修士計	男	7	1	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	7	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		計	10	1	0	0	0	0	8	0	1	0	0	0	0	10	0	0
社会福祉学(D)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0	3	
	計	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0	3	
大学院合計	男	7	1	0	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	7	0	0	
	女	3	0	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	6	0	3	
	計	10	1	0	0	0	0	9	0	3	0	0	0	0	13	0	3	

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に修了した、修了者の修了後の状況を5月1日現在で作成。

11 大学院 研究科・専攻別修了者の修了後の状況（状況別）〔2018年度〕

（表Ⅷ-11-⑤）

研究科	専攻	性別	修了者数	状況別卒業生数												計 (a)	左記A、Eのうち就職している者（再掲）	大学院博士課程のうち満期退学者（再掲）	
				A	B	C	D	E	就職者	臨床研修医（予定者を含む）	入学専修学校・外国の学校等	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者	不詳・死亡の者					
				大学院	学部	本短期大学科	専攻科	別科											
文学	言語文化コミュニケーション(M)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
		計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
経済学	経済学(M)	男	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
社会福祉学	社会福祉学(M)	男	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	0		
		女	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0		
		計	6	1	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	6	0	0		
	臨床心理学(M)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	5	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	5	0	0		
		計	5	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	5	0	0		
	修士計	男	5	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	0		
		女	8	1	0	0	0	0	4	0	1	1	1	0	8	0	0		
		計	13	1	0	0	0	0	9	0	1	1	1	0	13	0	0		
社会福祉学(D)	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1			
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1			
大学院合計	男	5	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0	1			
	女	8	1	0	0	0	0	4	0	1	1	1	0	8	0	0			
	計	13	1	0	0	0	0	10	0	1	1	1	0	14	0	1			

※ 各年度間（4月1日から3月31日まで）に修了した、修了者の修了後の状況を5月1日現在で作成。

12 短期大学部 学科別卒業者の卒業後の状況（状況別）

[2016～2018年度]

(表Ⅷ-12-①)

年度	学科		卒業 者数	状況別卒業者数													計 (a)	左記A～Eのうち就職している者(再掲)	掲 大 学 院 博 士 課 程 の う ち 満 期 就 職 し て い る 者 (再掲)
				A	B	C	D	E	就 職 者	臨 床 研 修 医 (予 定 者 を 含 む)	学 校 等 入 学 者 専 修 学 校 ・ 外 国 の	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた者	左 記 以 外 の 者	不 詳 ・ 死 亡 の 者					
				研 究 院	学 部 学	本 短 期 大 学 科	専 攻 科	別 科											
2016	英文	男	11	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0		
		女	116	0	39	1	0	0	52	0	0	0	24	0	116	0	0		
		計	127	0	49	1	0	0	53	0	0	0	24	0	127	0	0		
	生活創造	男	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0		
		女	97	0	6	0	0	0	82	0	0	1	8	0	97	0	0		
		計	98	0	6	0	0	0	83	0	0	1	8	0	98	0	0		
	短期大学部計	男	12	0	10	0	0	0	2	0	0	0	0	0	12	0	0		
		女	213	0	45	1	0	0	134	0	0	1	32	0	213	0	0		
		計	225	0	55	1	0	0	136	0	0	1	32	0	225	0	0		
2017	英文	男	5	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	0		
		女	132	0	25	0	0	0	68	0	6	0	33	0	132	0	0		
		計	137	0	29	0	0	0	69	0	6	0	33	0	137	0	0		
	生活創造	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0		
		女	97	0	7	0	0	0	79	0	1	0	10	0	97	0	0		
		計	99	0	7	0	0	0	79	0	1	0	12	0	99	0	0		
	短期大学部計	男	7	0	4	0	0	0	1	0	0	0	2	0	7	0	0		
		女	229	0	32	0	0	0	147	0	7	0	43	0	229	0	0		
		計	236	0	36	0	0	0	148	0	7	0	45	0	236	0	0		
2018	英文	男	11	0	8	0	0	0	1	0	0	0	2	0	11	0	0		
		女	115	0	21	1	0	0	70	0	1	0	22	0	115	0	0		
		計	126	0	29	1	0	0	71	0	1	0	24	0	126	0	0		
	生活創造	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		女	88	0	9	0	0	0	73	0	0	0	6	0	88	0	0		
		計	88	0	9	0	0	0	73	0	0	0	6	0	88	0	0		
	短期大学部計	男	11	0	8	0	0	0	1	0	0	0	2	0	11	0	0		
		女	203	0	30	1	0	0	143	0	1	0	28	0	203	0	0		
		計	214	0	38	1	0	0	144	0	1	0	30	0	214	0	0		

* 各年度間（4月1日から3月31日まで）に卒業した卒業者の卒業後の状況を5月1日現在で作成。

12 短期大学部 学科別卒業者の卒業後の状況（産業別）

(2) 短期大学部 [2016～2018年度]

(表Ⅷ-12-②)

年度	学科	性別	A	B	C	D	E 製造業										F	G	H	I 卸売業、小売業		J 金融業、保険業		K 不動産業、物品賃貸業		L 学術研究、専門・技術サービス業			M	N	O 教育、学習支援業		P 医療、福祉		Q	R	S 公務		左記以外	就職者計 (a)	求職者 (b)	就職率 (%) (a/b)			
			農林・林業	漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	1 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	2 繊維工業	3 印刷・関連業	4 化学工業、石油・石炭製品製造業	5 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	6 機械器具製造業	7 はん用・生産用・業務用機器製造業	8 電子部品・デバイス・電子回路製造業	9 電機・情報通信機械器具製造業	10 その他の製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	1 卸売業	2 小売業	1 金融業	2 保険業	1 不動産取引・賃貸・管理業	2 物品賃貸業	1 学術・開発研究機関	2 法務	3 その他の専門・技術サービス業	M 宿泊業、飲食サービス業	N 生活関連サービス業、娯楽業	1 学校教育	2 その他の教育、学習支援業	1 医療業、保健衛生	2 社会保険・社会福祉・介護事業	複合サービス事業	R ビス業	1 宗教	2 その他のサービス業					1 国家公務員	2 地方公務員	
2016	英文	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100.0%	
		女	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10	1	11	0	0	1	0	0	0	0	11	5	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2	5	0	52	54	96.3%		
		計	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	10	1	11	0	0	1	0	0	0	11	5	1	1	2	0	0	0	0	0	2	5	0	53	55	96.4%				
	生活創造	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100.0%	
		女	0	0	0	4	0	0	2	5	0	0	0	0	1	0	2	4	8	23	8	0	0	1	0	0	2	9	0	0	4	2	5	0	2	0	0	0	0	0	82	86	95.3%		
	計	0	0	0	4	0	0	2	5	0	0	0	0	1	0	2	4	8	23	8	0	0	1	0	0	2	10	0	0	4	2	5	0	2	0	0	0	0	83	87	95.4%				
短期大学部計	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	100.0%				
	女	0	0	0	5	0	0	2	6	0	0	0	0	1	0	3	14	9	34	8	0	1	1	0	0	13	14	0	1	6	2	5	0	2	2	5	0	134	140	95.7%					
計	0	0	0	5	0	0	2	6	0	0	0	0	1	0	3	14	9	34	8	0	1	1	0	0	13	15	1	1	6	2	5	0	2	2	5	0	136	142	95.8%						
2017	英文	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100.0%		
		女	0	0	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	1	0	2	14	5	12	1	2	0	0	0	0	14	2	0	4	3	0	1	0	1	0	0	0	0	68	72	94.4%			
		計	0	0	0	0	2	1	0	2	1	1	0	0	1	0	2	14	5	12	1	2	0	0	0	14	2	0	4	3	0	1	0	1	0	0	0	69	73	94.5%					
	生活創造	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0%
		女	0	0	0	3	3	3	0	2	2	0	0	1	1	0	5	5	11	12	9	1	2	4	0	0	1	1	0	2	4	1	2	0	4	0	0	0	79	79	100.0%				
	計	0	0	0	3	3	3	0	2	2	0	0	1	1	0	5	5	11	12	9	1	2	4	0	0	1	1	0	2	4	1	2	0	4	0	0	0	79	81	97.5%					
短期大学部計	男	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	33.3%					
	女	0	0	0	3	5	3	0	4	3	1	0	0	1	2	7	19	16	24	10	3	2	4	0	0	15	3	0	6	7	1	3	0	5	0	0	147	151	97.4%						
計	0	0	0	3	5	4	0	4	3	1	0	0	1	2	7	19	16	24	10	3	2	4	0	0	15	3	0	6	7	1	3	0	5	0	0	148	154	96.1%							
2018	英文	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100.0%			
		女	0	0	0	1	3	0	0	1	2	0	0	0	0	3	18	2	8	0	1	1	2	0	0	2	7	6	0	6	1	2	2	0	2	0	0	0	70	72	97.2%				
		計	0	0	0	1	3	0	0	1	2	0	0	0	0	3	18	2	8	0	1	1	2	0	0	2	8	6	0	6	1	2	2	0	2	0	0	71	73	97.3%					
	生活創造	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
		女	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	9	5	16	10	1	0	1	0	0	2	1	5	0	0	3	0	5	0	3	0	1	0	73	75	97.3%			
	計	0	0	0	1	4	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3	9	5	16	10	1	0	1	0	0	2	1	5	0	0	3	0	5	0	3	0	1	0	73	75	97.3%				
短期大学部計	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100.0%					
	女	0	0	0	2	7	0	0	1	3	0	0	0	1	1	0	6	27	7	24	10	2	1	3	0	4	8	11	0	6	4	2	7	0	5	0	1	0	143	147	97.3%				
計	0	0	0	2	7	0	0	1	3	0	0	0	1	1	0	6	27	7	24	10	2	1	3	0	4	9	11	0	6	4	2	7	0	5	0	1	0	144	148	97.3%					

* 各年度間の状況を5月1日現在で作成。

13 学科の企業別就職者数の状況

(1) 大学〔就職者が多い企業〕 [2016～2018]

(表Ⅷ-13-①)

年度		文学部				経済学部						社会福祉学部					
		英文学科		心理・応用コミュニケーション学科		経済学科		経営情報学科		経済法学科		福祉計画学科		福祉臨床学科		福祉心理学科	
		企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数	企業名	就職者数
2016	1	ANA新千歳空港	4	北海道銀行	7	北海道職員	9	マイナビ	3	北海道職員	7	北海道職員	6	はるにれの里	6	北海道職員	2
	2	北海道銀行	4	ANA新千歳空港	3	札幌市職員	4	エネサンス北海道	3	北海道警察官	5	札幌市職員	3	札幌市職員	4	日本郵便	2
	3	全日本空輸	3	第一生命保険	2	十勝農業共済組合	3	ノヴェロ	3	日本郵便	5	北海道銀行	3	さっぽろ青少年女性活動協会	3	富士メガネ	2
	4	AIRDO	3	インテリジェンス	2	東日本フード	3	国家公務員(一般職)	2	国家公務員(一般職)	3	日本郵便	3	北海道銀行	3	アインファーマシーズ	2
	5	マイナビ	3	東武トップツアーズ	2	国税専門官	2	ツルハ	2	国立大学法人 北海道大学	2	アインファーマシーズ	3	今金町職員	2	公立学校教員	1
	6	ニトリ	2	さっぽろ青少年女性活動協会	2	北海道銀行	2	マックスバリュ北海道	2	札幌市職員	2	ツルハ	2	岩見沢市職員	2	さっぽろ青少年女性活動協会	1
	7	北海道セキスイハイム	2	北星学園	2	空知信用金庫	2	大和リース	2	野村証券	2	カナモト	2	中村記念病院	2	わらしべ会	1
	8	オルゴール堂	2	北海道放送	1	マイナビ	2	みずほ銀行	1	北陸銀行	2	さっぽろ青少年女性活動協会	2	札幌報恩会	2	ノテ福祉会	1
	9	明光ネットワークジャパン	2	リクルート北海道じゃらん	1	ツルハ	2	日本SE	1	ニトリ	2	生活協同組合コープさっぽろ	2	湖星会	2	きのとや	1
	10	日本航空	1	国家公務員(一般職)	1	日本郵便	2	リコージャパン	1	セコマ	2	マイナビ	1	公立学校教員	2	北海道エネルギー	1
2017	1	ANA新千歳空港	5	日本生命保険相互会社	3	生活協同組合コープさっぽろ	5	モロオ	4	札幌市職員	5	リコージャパン	2	公立学校教員	5	さっぽろ青少年女性活動協会	2
	2	札幌市職員	5	札幌市職員	3	日本郵便	5	北海道銀行	3	北海道銀行	4	マイナビ	2	札幌市職員	2	北海道警察官	2
	3	ミュゼプラチナム	3	日本ハウスホールディングス	2	国家公務員	4	北星学園	3	サッポロドラッグストア	3	さっぽろ青少年女性活動協会	2	札幌東徳洲会病院	2	公立学校教員	2
	4	公立学校教員	3	サンドラッグプラス	2	北海道職員	4	サッポロドラッグストア	2	北海道国民健康保険団体連合会	3	札幌市職員	2	江別すずらん病院	2	札幌ヤクルト販売	1
	5	ケイシイシイ	2	北海道職員	2	札幌市職員	4	北海道エネルギー	2	ラネット	2	公立学校教員	2	麦の子会	2	ツルハ	1
	6	サッポロドラッグストア	2	ロイズコンフェクト	1	練成会グループ	3	東京海上日動火災保険	2	エネサンス北海道	2	ノテ福祉会	2	愛敬園	2	日本赤十字社北海道支部	1
	7	北海道銀行	2	北海道建設新聞社	1	北見市職員	3	日本郵便	2	ホンダ四輪販売北海道	2	北海道信用金庫	1	北海道社会福祉事業団	2	北海道国民健康保険団体連合会	1
	8	東京海上日動火災保険	2	三菱電機住環境システムズ	1	江別市職員	3	北海道警察官	2	日本生命保険相互会社	2	北海道光生舎	1	アースサポート	2	緑陽会	1
	9	全日本空輸	2	ANA新千歳空港	1	セブン-イレブン・ジャパン	2	国家公務員	1	日本郵便	2	留萌市社会福祉協議会	1	奈井江町社会福祉協議会	1	住友生命保険相互会社	1
	10	日本航空	2	さっぽろ青少年女性活動協会	1	北海道銀行	2	日本SE	1	国家公務員	2	一条工務店	1	苫小牧ガス	1	よいち福祉会	1
2018	1	ANA新千歳空港株式会社	5	ハミューレ	4	国家公務員	5	ナシオ	5	日本郵便	6	北海道職員	3	公立学校教員	5	北海道光生舎	4
	2	JALスカイ札幌	3	KDDIエボルバ	4	ツルハ	3	モロオ	3	北海道職員	4	ツルハ	2	マルベリー	2	日本SE	2
	3	ロイズコンフェクト	2	北海道銀行	3	北星学園	3	マーキュリー	3	ゆうちょ銀行	3	伊藤忠エネクスホームライフ北海道	2	北海道職員	2	ふらの農業協同組合	1
	4	北海道銀行	2	一条工務店	2	北海道職員	3	サッポロウエシマコーヒー	2	北海道旅客鉄道	3	マルベリー	2	札幌市職員	2	札幌丸井三越	1
	5	日本航空	2	北一硝子	2	札幌市職員	3	石垣電材	2	日本ハム北海道販売	2	日本SE	2	勉仁会中垣病院	2	東京カネカフード	1
	6	AIRDO	2	札幌駅総合開発	2	岩田地崎建設	2	クワザワ	2	サッポロドラッグストア	2	新産健会	2	はるにれの里	2	東武トップツアーズ	1
	7	JALスカイ	2	JALスカイ札幌	2	国税専門官	2	日本郵便	2	富士メガネ	2	国家公務員	2	羊ヶ丘養護園	2	日本年金機構	1
	8	近畿日本ツーリスト北海道	2	ペイロール	2	北海道酒類	2	辰巳屋興業	2	三菱電機住環境システムズ	2	IMSグループ	2	北海道市町村職員共済組合	1	江別市職員	1
	9	国家公務員	2	翔嶺館	2	北海道信用金庫	2	札幌トヨタ自動車	2	北海道銀行	2	ノテ福祉会	2	ミサワホーム北海道	1	札幌太田病院	1
	10	北海道職員	2	札幌市職員	2	エネサンス北海道	2	北海道職員	2	国税専門官	2	北海道社会福祉事業団	1	国家公務員	1	麦の子会	1

13 学科の企業別就職者数の状況

(2) 短期大学部〔就職者が多い企業〕〔2016～2018〕

(表Ⅷ-13-②)

年度	英文学科			生活創造学科	
		企業名	就職者数	企業名	就職者数
2016	1	株式会社ANA新千歳空港	4	カネボウ化粧品販売株式会社	3
	2	株式会社JALスカイ札幌	2	ホクレン農業協同組合連合会	2
	3	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド	2	株式会社モロオ	2
	4	中央バスビジネスサービス株式会社	2	株式会社パル(パルホールディングス)	2
	5	株式会社JTB北海道	2	北央信用組合	2
	6	野口観光株式会社	2	中央バスビジネスサービス株式会社	2
	7	北海道警察官	2	ネットヨタ道都株式会社	2
	8	自衛隊一般自衛官(航空)	2	日本通運 株式会社	2
	9	全日本空輸株式会社	1	株式会社ムラタ	2
	10	株式会社エイチ・アイ・エス	1	株式会社ゆこゆこ	2
2017	1	株式会社ANA新千歳空港	4	株式会社レナウン	3
	2	北海道旅客鉄道株式会社	3	株式会社モロオ	2
	3	株式会社キャスト	3	ネットヨタ札幌株式会社	2
	4	株式会社もりもと	2	札幌信用金庫(現:北海道信用金庫)	2
	5	サッポロウエシマコーヒー株式会社	2	北海道リース株式会社	2
	6	株式会社ジーカンパニー	2	株式会社宮の森スポーツ	2
	7	株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド	2	北海道厚生農業協同組合連合会	2
	8	株式会社共立メンテナンス(ホテル事業部)	2	北海道漁業協同組合連合会	1
	9	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	2	ホクレン農業協同組合連合会	1
	10	JR北海道ホテルズ株式会社	2	株式会社北海道銀行	1
2018	1	株式会社ANA新千歳空港	5	株式会社アインホールディングス	4
	2	NOVAホールディングス株式会社	5	ホクレン農業協同組合連合会	2
	3	株式会社キャスト	4	北海道信用金庫	2
	4	青山商事株式会社	2	北門信用金庫	2
	5	ルートイングループ(ルートインホテルズ)	2	札幌トヨタ自動車株式会社	2
	6	HTM株式会社(北海道ツーリズムマネジメント)	2	北海運輸株式会社	2
	7	株式会社碧雲堂ホテル&リゾート	2	日本津運株式会社	2
	8	ホクレン農業協同組合連合会	1	株式会社JTB札幌ビジネスセンター	2
	9	日本航空株式会社	1	日本郵便株式会社	2
	10	株式会社AIRDO	1	ALSOKグループ	2

14 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2018年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-14-①)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学										短大部				
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
オリエンテーション (大学3年・短大1年対象)	4/11	水	13:00~ 14:30	769	3年生	108	74	87	73	83	62	42	54		583	1年生	98	88	186
						182		243		158							98	88	
北海道・札幌市教員採用候補者選考検査 願書記入説明会 (大学4年対象)	4/17	火	12:10~ 12:50	39	4年生	9	6	8	0	1	4	8	2	1	39				
						15		9			14								
インターンシップ説明会 (大学3年・短大1年対象)	4/18	水	13:00~ 14:30	572	3年生	79	59	73	65	73	34	21	41		445	1年生	65	62	127
						138		211			96						65	62	
短大生の就職活動の進め方～就活に苦労 する人の特徴とは?～ (短大2年対象)	4/18	水	13:00~ 14:30	89												2年生	41	48	89
																	41	48	
夏休みには企業訪問① (大学3年・短大1年対象)	4/25	水	13:00~ 14:30	442	3年生	65	44	56	48	50	38	10	28		339	1年生	50	53	103
						109		154			76						50	53	
E S・履歴書の書き方講座 (短大2年対象)	4/25	水	13:00~ 14:30	47												2年生	17	30	47
																	17	30	
第3回福祉ガイダンス (大学4年対象)	4/25	水	13:00~ 14:30	53	4年生						25	25	3		53				
											53								
企業はこんな学生をほしがっている～人 事トークセッション～ (大学3年・短大1年対象)	5/9	水	13:00~ 14:30	348	3年生	47	45	43	38	52	16	9	18		268	1年生	33	47	80
						92		133			43						33	47	
第1回公務員ガイダンス・学内公務員講 座説明会(前期) (大学1～3年・短大1年対象)	5/9	水	16:20~ 17:50	437	1年生	2	1	15	4	19	9	3	6		427	1年生	1	7	10
					2年生	9	7	45	9	23	27	15	9			2年生	2		
					3年生	15	16	51	15	43	42	22	20				3	7	
						50		224			153								
OB・OGゲストトーク① (大学3年・短大1年対象)	5/16	水	12:30~ 14:30	152	3年生	21	19	12	20	11	12	5	8		108	1年生	19	25	44
						40		43			25						19	25	
筆記試験対策講座 (短大2年対象)	5/16	水	13:00~ 14:30	42												2年生	9	33	42
																	9	33	
OB・OGゲストトーク② (大学3年・短大1年対象)	5/23	水	12:30~ 14:30	121	3年生	10	21	5	17	8	6	1	6		75	1年生	21	24	46
					4年生						1					2年生		1	
						31		30			14						21	25	
編入学ガイダンス (短大1・2年対象)	5/23	水	13:00~ 14:30	25												1年生	0	2	25
																2年生	14	9	
																	14	11	
第4回福祉ガイダンス (大学4年対象)	5/30	水	13:00~ 14:30	33	4年生						11	20	2		33				
											33								

14 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2018年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-14-②)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学							短大部							
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
特別支援学校教員講座 (大学1～4年)	6/6	水	13:00～ 14:30	20	1年生						1	1	2	20					
					2年生						4	1							
					3年生						1	1	3						
					4年生	2					1	3							
					2		0			18									
第1回福祉ガイダンス (大学3年・短大1年対象)	6/6	水	13:00～ 14:30	42	3年生						12	18	12	42	1年生			0	
											42				0	0	0		
面接試験対策講座 (短大2年対象)	6/6	水	13:00～ 14:30	23								0	2年生	5	18	23			
															5	18			
夏休みには企業訪問② (大学3年・短大1年対象)	6/13	水	13:00～ 14:30	293	3年生	45	34	52	41	38	15	1	19	245	1年生	23	25	48	
						79		131			35				23	25			
航空業界対策プログラム説明会 卒業生 による航空業界就活体験報告会 (大学1～3年・短大1年対象)	6/20	水	13:00～ 14:30	67	3年生	20	9	6	2	1	1	1	0	40	1年生	27	0	27	
						29		9			2				27	0			
マナー講習会① (大学3年・短大1年対象)	6/27	水	13:00～ 14:30	292	3年生	50	28	52	41	45	23	1	24	264	1年生	17	11	28	
						78		138			48				17	11			
学内企業説明会事前ガイダンス～夏以降 の動き方～ (大学4年・短大2年対象)	6/27	水	13:00～ 14:30	62	4年生	5	7	8	8	7	3	3	6	47	2年生	3	12	15	
						12		23			12				3	12			
マナー講習会② (大学3年・短大1年対象)	7/4	水	13:00～ 14:30	289	3年生	42	27	51	41	39	25	4	25	255	1年生	20	14	34	
					4年生							1							
						69		131			55				20	14			
夏休みには企業訪問③ (大学3年・短大1年対象)	7/11	水	13:00～ 14:30	222	3年生	38	29	42	27	34	15	1	12	198	1年生	17	7	24	
						67		103			28				17	7			
第2回社会福祉士国家試験ガイダンス (大学3・4年対象)	7/18	水	12:00～ 13:00	21	3年生							3	7	0	21				
				4年生	5							6	0						
											21								
航空業界特別講座Part.1 ※震災のため中止 (大学1～3年・短大1年対象)	9/6・ 7	木・金	9:00～ 16:00	0	3年生	0		0			0			0		0	0	0	
						0		0			0				0	0	0		
就活必勝法指南 (大学3年・短大1年対象)	9/19	水	13:00～ 14:30	665	3年生	102	73	84	76	57	50	37	40	519	1年生	79	67	146	
						175		217			127				79	67			
第2回公務員ガイダンス (大学3年・短大1年対象)	9/19	水	13:00～ 14:30	143	3年生	5	8	30	7	38	28	11	13	140	1年生	1	2	3	
						13		75			52				1	2			
第2回社会福祉士国家試験ガイダンス& 【福祉版】学内説明会事前ガイダンス (大学4年対象)	9/19 ・ 9/21	水・金	13:00～ 14:30	90	4年生							28	62	0	90				

14 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2018年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-14-③)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学										短大部				
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
学内公務員講座説明会（後期） （大学1～3年・短大1年対象）	9/19	水	16:20～ 17:50	28	3年生		2			1	1		1	27	1年生	1		1	
					2年生	1	2	4	3	4	2	4	1						
					1年生						1								
					5		12			10					1	0			
業界・企業研究① （大学3年・短大1年対象）	9/26	水	13:00～ 14:30	237	3年生	45	33	20	30	24	16	2	15	185	1年生	23	29	52	
						78		74		33									
キャリアサポーターの募集説明会 （大学4年・短大2年対象）	9/26	水	13:00～ 14:30	36	4年生	7	5	9	2	6	2	0	2	33	2年生	1	2	3	
						12		17		4									
今すべき就活方法を学ぶ （短大2年対象）	9/26	水	13:00～ 14:30	2											2年生	0	2	2	
						0		2								0	2		
SPIってどんな試験？ （大学3年・短大1年対象）	10/3	水	13:00～ 14:30	322	3年生	43	43	44	42	36	25	8	26	267	1年生	26	29	55	
						86		122		59									
SPI 解き方講座（非言語） （大学3年・短大1年対象）	10/10	水	13:00～ 14:30	324	3年生	55	35	47	34	37	32	3	20	263	1年生	34	27	61	
						90		118		55									
航空業界就活体験報告会 （大学1～3年・短大1年対象）	10/12	金	16:20～ 17:50	27	3年生	9	2	1		1				18	1年生	9		9	
					2年生	5													
						16		2		0					9	0			
SPI 解き方講座（言語） （大学3年・短大1年対象）	10/17	水	13:00～ 14:30	259	3年生	46	32	32	24	27	27	5	18	211	1年生	23	25	48	
						78		83		50									
短大生の就職活動について （短大1年対象）	10/24	水	13:00～ 14:30	136											1年生	55	81	136	
						55		81								55	81		
航空業界特別講座Part. 2 （大学1～3年・短大1年対象）	10/27	土	9:00～ 16:00	26	3年生	11	2	1	0	1	0	0	0	16	1年生	10	0	10	
					2年生	1	0	0	0	0	0	0	0						
						14		2		0					10	0			
航空業界特別講座Part. 2 （大学1～3年・短大1年対象）	10/28	日	9:00～ 16:00	21	3年生	9	2	1	0	1	0	0	0	14	1年生	7	0	7	
					2年生	1	0	0	0	0	0	0	0						
						12		2		0					7	0			
キャリアサポーター会議① （大学4年・短大2年対象）	10/31	水	13:00～ 14:30	33	4年生	9	4	8	1	4	1	2	1	30	2年生	2	1	3	
						13		13		4									
自己分析の方法 （大学3年・短大1年対象）	10/31	水	13:00～ 14:30	256	3年生	44	37	24	21	34	23	4	20	207	1年生	23	26	49	
						81		79		47									
第2回教員採用試験ガイダンス （大学3年対象）	10/31	水	13:00～ 14:30	18	4年生	1								18					
					3年生	6	1	3			1	5	1						
						8		3		7									

14 キャリアデザインプログラム等出席状況〔2018年度〕

(単位：人) (表Ⅷ-14-④)

プログラム名	実施日	曜	講時	全合計	大 学										短大部				
					学 年	文学部		経済学部			社会福祉学部			他	大学計	学 年	英文	生活	短合計
						英文	心コ	経済	経情	経法	計画	臨床	心理						
先輩たちはこうして内定をゲットした (大学3年・短大1年対象)	11/7	水	13:00~ 14:30	123	3年生	20	21	8	14	8	4	2	13		90	1年生	20	13	33
						41		30		19							20	13	
公務員合格体験談報告会 (大学1~3年・短大1年対象)	11/7	水	13:00~ 14:30	71	3年生	5	5	11	3	20	13	5	3		68	1年生	1	2	3
					2年生					3							1	2	
SPI模擬テスト (大学3年・短大1年対象)	11/14	水	13:00~ 14:30	274	3年生	43	35	31	34	43	31	10	22		249	1年生	19	6	25
						78		108		63							19	6	
エントリーシート「自己PR編」+「志 望動機編」 (大学3年・短大1年対象)	11/21	水	13:00~ 14:30	292	3年生	53	30	37	29	47	19	9	20		244	1年生	28	20	48
						83		113		48							28	20	
業界・企業研究② (大学3年・短大1年対象)	11/28	水	13:00~ 14:30	152	4年生			1							120	1年生	19	13	32
					3年生	38	19	11	18	10	9	4	10						
						57		40		23							19	13	
グループディスカッション・集団面接の ポイント (大学3年・短大1年対象)	12/5	水	13:00~ 14:30	174	3年生	48	26	8	13	23	13	4	12		147	1年生	17	10	27
						74		44		29							17	10	
チャレンジ!グループディスカッション (実践編) (大学3年・短大1年対象)	12/12	水	12:30~ 14:30	133	3年生	37	23	6	12	22	6	4	9		119	1年生	13	1	14
						60		40		19							13	1	
キャリアサポーター会議① (大学4年・短大2年対象)	12/12	水	13:00~ 14:30	26	4年生	4	3	7	1	4	1	2	1		23	2年生	2	1	3
						7		12		4							2	1	
チャレンジ!集団面接(実践編) (大学3年・短大1年対象)	12/19	水	12:30~ 14:30	104	3年生	28	17	8	8	10	6	1	9		87	1年生	16	1	17
						45		26		16							16	1	
第2回福祉ガイダンス (大学3年対象)	12/19	水	13:00~ 14:30	31	3年生						8	22			30	1年生		1	1
						0		0		30							0	1	
キャリアプロ最終回~就活本番直前講座! ~ (大学3年・短大1年対象)	1/9	水	13:00~ 14:30	484	3年生	68	48	68	55	60	49	28	25		401	1年生	36	47	83
						116		183		102							36	47	
学内企業説明会事前ガイダンス (大学3年・短大1年対象)	2/18	月	13:00~ 14:30	603	3年生	75	68	100	67	84	55	46	32		527	1年生	25	51	76
						143		251		133							25	51	
航空業界特別講座Part.3 (大学1~3年・短大1年対象)	2/21	木	9:00~ 16:00	12	3年生	8	2	0	0	1	0	0	0		11	1年生	1	0	1
						10		1		0							1	0	
航空業界特別講座Part.3 (大学1~3年・短大1年対象)	2/22	金	9:00~ 16:00	11	3年生	8	1	0	0	1	0	0	0		10	1年生	1	0	1
						9		1		0							1	0	
キャリアサポーター会議③ (大学4年・短大2年対象)	2/20	水	13:00~ 14:30	15	4年生	3	2	4	0	3	0	0	1		13	2年生	1	1	2
						5		7		1							1	1	

15 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(1) 大学

[2016～2018年度]

(表Ⅷ-15-①)

		2016年度 (H28)				2017年度 (H29)				2018年度 (H30)				3年間 平均
		文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	
国家公務員 (大卒程度) ※ 1	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	4	17	2	23	6	19	2	27	10	33	4	47	32.3
	(既卒者を含む合格者数)	(4)	(17)	(2)	(23)	(6)	(19)	(2)	(27)	(10)	(33)	(4)	(47)	(32.3)
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道職員 (A区分)	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	2	21	13	36	13	18	9	40	8	17	10	35	37.0
	(既卒者を含む合格者数)	(2)	(21)	(14)	(37)	(13)	(18)	(9)	(40)	(8)	(18)	(10)	(36)	(37.7)
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市町村職員	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	札幌市、市町村
	合格者数現役(b)	3	32	16	51	15	43	12	70	13	20	12	45	55.3
	(既卒者を含む合格者数)	(3)	(32)	(16)	(51)	(15)	(43)	(12)	(70)	(13)	(22)	(13)	(48)	(56.3)
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
各種公務員 (自衛官・警察・ 国立大学法人等職員)	受験者数現役(a)	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	不明	不明	不明	-	-
	合格者数現役(b)	2	19	7	28	4	13	1	18	3	12	9	24	23.3
	(既卒者を含む合格者数)	(3)	(21)	(7)	(31)	(4)	(13)	(1)	(18)	(3)	(12)	(9)	(24)	(24.3)
	合格率(b/a*100)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道・札幌市公立 学校教員(英語)	受験者数現役(a)	12	0	0	12	10	0	0	10	9	0	0	9	10.3
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	5	0	0	5	1	0	0	1	2.0
	(既卒者を含む合格者数)	(4)	(0)	(0)	(4)	(13)	(0)	(0)	(13)	(7)	(0)	(0)	(7)	(8.0)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	20.4%
北海道・札幌市公立 学校教員(社会地歴 等)	受験者数現役(a)	1	7	0	8	5	14	4	23	5	8	6	19	16.7
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0.3
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(3)	(2)	(5)	(0)	(1)	(0)	(1)	(2.3)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%

※1 国家公務員(総合職・一般職・専門職)、裁判所職員を含む

15 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(1) 大学

[2016～2018年度]

(表Ⅷ-15-②)

		2016年度 (H28)				2017年度 (H29)				2018年度 (H30)				3年間 平均
		文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	文学部	経済学部	社会福祉学部	計	
北海道・札幌市公立 学校教員(特別支援)	受験者数現役(a)	0	0	13	13	0	0	8	8	0	0	9	9	10.0
	合格者数現役(b)	0	0	3	3	0	0	9	9	0	0	6	6	6.0
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(2)	(16)	(18)	(0)	(1)	(18)	(19)	(1)	(0)	(12)	(13)	(16.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	23.1%	23.1%	0.0%	0.0%	112.5%	112.5%	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	67.4%
北海道・札幌市公立 学校教員(その他)	受験者数現役(a)	2	0	0	2	1	0	2	3	0	1	0	1	2.0
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0.7
	(既卒者を含む合格者数)	(1)	(3)	(3)	(7)	(2)	(1)	(1)	(4)	(2)	(1)	(0)	(3)	(4.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
北海道外 公立学校教員 (全校種・教科計)	受験者数現役(a)	0	0	2	2	1	0	2	3	0	0	0	0	1.7
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.3
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0.7)
	合格率(b/a*100)(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
社会福祉士	受験者数現役(a)	87				76				76				79.7
	合格者数現役(b)	48				47				47				47.3
	(既卒者を含む合格者数)	(66)				(71)				(71)				(69.3)
	合格率(b/a*100)(%)	55.2				61.8				61.8				59.6
精神保健福祉士	受験者数現役(a)	14				12				12				12.7
	合格者数現役(b)	13				12				12				12.3
	(既卒者を含む合格者数)	(13)				(12)				(12)				(12.3)
	合格率(b/a*100)(%)	92.9				100.0				100.0				97.6

15 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(2) 短期大学部 [2016～2018年度]

(表Ⅷ-15-③)

		2016年度 (H28)			2017年度 (H29)			2018年度 (H30)			3年間 平均	備考
		英文 学科	生活 創 造 学科	計	英文 学科	生活 創造 学科	計	英文 学科	生活 創造 学科	計		
国家公務員 (高卒程度) ※ 1	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(既卒者を含む合格者数)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北海道職員 (B区分)	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0.6667	
	(既卒者を含む合格者数)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
市町村職員	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	2	0	2	0	0	0	0	1	1	1.0	
	(既卒者を含む合格者数)	(3)	(0)	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1.7)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※ 1 国家公務員（一般職・専門職）、裁判所職員を含む

15 各種公務員及び公立学校教員の受験・合格状況

(2) 短期大学部 [2016～2018年度]

(表Ⅷ-15-④)

		2016年度 (H28)			2017年度 (H29)			2018年度 (H30)			3年間 平均	備考
		英文	生活 創	計	英文	生活	計	英文	生活	計		
各種公務員 (自衛官・警察・ 国立大学法人等職員)	受験者数現役(a)	不明	不明	-	不明	不明	-	不明	不明	-	-	
	合格者数現役(b)	6	0	6	0	0	0	0	0	0	2.0	
	(既卒者を含む合格者数)	(6)	(0)	(6)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2.7)	
	合格率(b/a*100) (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
北海道・札幌市公立 学校教員 ()	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
北海道・札幌市公立 学校教員 ()	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
北海道・札幌市公立 学校教員 (その他)	受験者数現役(a)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格者数現役(b)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	(既卒者を含む合格者数)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	合格率(b/a*100) (%)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

16 社会福祉士講座・精神保健福祉士講座受講者の合格率

[2016～2018年度] ※精神保健福祉士については、2017年度より講座取り止め。

(表Ⅷ-16)

		2016年度 (H28)			2017年度 (H29)			2018年度 (H30)			3年間 平均	備考
		現役	既卒	計	現役	既卒	計	現役	既卒	計		
社会福祉士	受講者数(a)	38	2	40	61	0	61	47	1	48	48.7	←現役の平均数
	受講者の合格者数(b)	23	1	24	40	0	40	27	不明	-	-	←現役の平均数
	合格率(b/a*100) (%)	60.5	50.0	60.0	65.6	0.0	65.6	57.4	-	-	-	←現役の平均数
	本学合格者数	48	18	66	47	24	71	45	19	64	67.0	
精神保健福祉士	受講者数(a)	9	0	9	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	受講者の合格者数(b)	8	0	8	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	合格率(b/a*100) (%)	88.9	0.0	88.9	/	/	/	/	/	/	/	←現役の平均数
	本学合格者数	13	0	13	/	/	/	/	/	/	/	

17 学生ボランティア団体の活動状況〔2018年度〕

(表Ⅷ-17-①)

障がい者福祉研究会		部員数104名(4月～3月活動数 合計16回)
活動名	日時・期間	活動場所
長井ボランティア	04.21	ハビタットのつぼろ長井学園
児童デイサービスボランティア	05.12	放課後等デイサービスセンターkaede
長井ボランティア	05.19	ハビタットのつぼろ長井学園
託児ボランティア	05.20	かでの2.7
児童デイサービスボランティア	06.09	放課後等デイサービスセンターkaede
託児ボランティア	06.17	札幌エルプラザ
託児ボランティア	07.15	札幌エルプラザ
長井ボランティア	09.15	ハビタットのつぼろ長井学園
託児ボランティア	09.16	札幌エルプラザ
児童デイサービスボランティア	10.20	放課後等デイサービスセンターkaede
児童デイサービスボランティア	11.03	放課後等デイサービスセンターkaede
託児ボランティア	11.18	札幌エルプラザ
児童デイサービスボランティア	12.01	放課後等デイサービスセンターkaede
託児ボランティア	12.16	札幌エルプラザ
託児ボランティア	01.20	札幌エルプラザ
託児ボランティア	03.17	札幌エルプラザ
おとしより研究会		部員数38名(4月～3月活動数 合計3回)
活動名	日時・期間	活動場所
YOSAKOIソーラン祭り	06.09～10	大通公園周辺
アンデルセングルメ祭り2018	09.01	アンデルセン福祉村
児童福祉研究会		部員数23名(4月～3月活動数 合計4回)
活動名	日時・期間	活動場所
ボランティア	08.25	北光社ふくじゅ園
ボランティア	09.30	北光社ふくじゅ園
ボランティア	10.28	北光社ふくじゅ園
ボランティア	11.25	北光社ふくじゅ園
ボランティア・コパン部		部員数165名(4月～3月活動数 合計41回)
活動名	日時・期間	活動場所
レバンガ北海道のシーズン最終戦でのボランティア	05.05	北海きたえーる
エコフェス	05.20	恵み野中央公園
トロワの畑 こども食堂	05.20	白石区本郷通り商店街6丁目「えこふりい」
すずらんオリンピック2018 ボランティア	06.03	つどーむ
第12回さっぽろトリム&ラン	06.10	真駒内オープンスタジアム
さっぽろ水道フェスタ2018	06.23～24	札幌市水道記念館
レインボー料理教室	06.24	札幌エルプラザ
第14回白石区子どもワンダーランド	06.30	札幌国際交流館
発寒小学校 土曜寺子屋	07.07	発寒小学校
白石区ふるさと祭り	7.14～15	川下公園
JCHO北海道病院付属介護老人保健施設夏祭り	07.21	JCHO北海道病院付属介護老人保健施設
月寒川にぎわい川まつり	07.21	白石区土木センター
みどりーむ夏祭り	07.21	平岡樹芸センター
えにわ花トリム&ラン	08.19	恵庭市恵み野中央公園
レインボー料理教室	08.25	札幌エルプラザ
北海道マラソン	08.26	大通公園8丁目
宮の沢若者活動センター祭	08.26	Youth+宮の沢若者活動センター
モエレ沼芸術花火大会2018	09.08	モエレ沼公園
世界一楽しいゴミ拾い	09.09	モエレ沼公園
レインボースマイル遊び教室	09.22	つどーむ
レインボー遊び教室	09.22	つどーむ
第36回ふれあい福祉友愛祭り	09.23	菊水のぎく公園
ミニさっぽろ	09.29～30	アクセスサッポロ
発寒小学校土曜寺子屋	11.03	発寒小学校
レインボースマイル遊び教室	11.11	札幌エルプラザ
トロワの畑子ども食堂	11.17	えこふりい
e-ふくしフェス2018in小樽	11.18	ウイングベイ小樽

17 学生ボランティア団体の活動状況〔2018年度〕

(表Ⅷ-17 -②)

ボランティア・コパン部			部員数165名(4月～3月活動数 合計41回)
活動名	日時・期間	活動場所	
まちなかのオーケストラ	12.02	RASORA札幌	
レインボー料理教室	12.16	札幌エルプラザ	
北海道大運動会	01.14	札幌ドーム	
冬休み時修館	01.18	手稲東小学校	
レインボースマイル遊び教室	01.20	まねきねこ	
発寒小学校 土曜寺子屋	01.26	発寒小学校	
発寒小学校 土曜寺子屋	02.09	発寒小学校	
まなみ学園分校高等部 スキー遠足	02.13	札幌伏見支援学校まなみ分校	
トロワの畑子ども食堂	02.17	えこふりい	
レインボー料理教室	02.24	札幌エルプラザ	
2019ワールドパラノルディックスキーW杯札幌大会	03.16	西岡バイアスロン競技場	
ボランティアサークルable			部員数169名(4月～3月活動数 合計23回)
活動名	日時・期間	活動場所	
アンビシャス三井アウトレットパーク	05.12	三井アウトレットパーク北広島	
九十郎ハイム懇親会	06.23	九十郎ハイム	
さっぽろ水道フェスタ2018	06.23～24	札幌市水道記念館	
清幌園お買い物ボランティア	06.27	特別養護老人ホーム清幌園、コープさっぽろLUCY店	
アンビシャス全体「BBQ&花火企画」	07.21	アンビシャス	
九十郎ハイム屋上ビアガーデン	08.04	九十郎ハイム	
どろんこジュニア	08.08～10	どろんこジュニア、手稲山	
アンビシャス 夏祭り補助	09.02	アンビシャス	
清幌園祭りボランティア	09.02	特別養護老人ホーム清幌園	
円山動物園 園内見学	10.06	円山動物園	
さっぽろ雪まつりつどーむ会場 ボランティア	02.02～11	つどーむ	

※活動団体は学生生活支援課の集計によるもの。

Ⅸ. 本学の図書及び学術情報に関すること

1 図書・資料等所蔵状況

[2015～2018]

(表Ⅸ-1)

図書館の名称	館数		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	備考	
図書館	1	蔵書冊数	和書	409,523	420,880	431,718	438,171	
			開架図書の冊数(内数)	279,410	282,420	292,071	295,596	
			外国書	150,816	154,786	157,462	160,149	
			開架図書の冊数(内数)	114,649	117,465	119,971	122,763	
			計	560,339	575,666	589,180	598,320	
			開架図書の冊数(内数)	394,059	399,885	412,042	418,359	
			年間受入冊数	18,197	15,583	17,219	13,926	
			寄贈図書冊数(内数)	3,788	2,696	2,606	2,326	
		所蔵雑誌数 (種類)	和雑誌	4,974	4,969	4,427	4,809	
			外国雑誌	1,134	1,155	1,049	1,156	
			計	6,108	6,124	5,476	5,965	
			年間受入誌数	1,424	1,480	1,991	1,919	
			寄贈雑誌数(内数)	573	769	1,179	1,214	
		電子情報資源	電子書籍(冊数)	400	685	1,021	1,090	※統合検索システムの導入により増加
			電子ジャーナル(利用可能種類)	128	16,356	62,954	69,087	
			情報データベース(種類)	26	37	34	32	
			視聴覚資料の所蔵数	12,474	12,776	13,196	11,028	

2 分野別図書・雑誌受け入れ状況

[図書]

(大学・短期大学部) [2014～2018]

(表IX-2-①)

分野別 (日本十進分類法)		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
日本十進分類法 (類目表)	000 総記 (知識・学問一般・情報科学) (外国書内数)	577 (83)	601 (119)	529 (103)	616 (97)	445 (25)	554 (85)
	100 哲学・宗教 (心理学・キリスト教) (外国書内数)	1,216 (443)	1,156 (222)	991 (190)	974 (189)	942 (159)	1,056 (241)
	200 歴史・地理 (外国書内数)	1,461 (680)	1,602 (412)	1,248 (261)	1,279 (164)	1,110 (248)	1,340 (353)
	300 社会科学 (法律・経済・社会学・教育) (外国書内数)	8,491 (1,913)	5,963 (1,378)	5,239 (1,134)	6,090 (766)	5,184 (1,095)	6,193 (1,257)
	400 自然科学 (数学・地学・医学) (外国書内数)	1,191 (250)	1,050 (153)	925 (121)	1,199 (120)	843 (78)	1,042 (144)
	500 技術・工学 (建築・環境・工業・家政学) (外国書内数)	674 (127)	584 (84)	461 (75)	458 (45)	426 (98)	521 (86)
	600 産業 (農・水産業・商業) (外国書内数)	578 (104)	580 (93)	614 (156)	605 (64)	516 (83)	579 (100)
	700 芸術・美術 (美術・音楽・スポーツ) (外国書内数)	926 (202)	1,455 (118)	1,210 (208)	1,316 (67)	967 (170)	1,175 (153)
	800 言語 (外国書内数)	1,318 (604)	1,974 (1,336)	1,667 (1,143)	1,241 (583)	755 (275)	1,391 (788)
	900 文学 (外国書内数)	1,751 (535)	2,211 (446)	1,660 (161)	2,090 (255)	1,574 (221)	1,857 (324)
		分野別合計 (外国書内数)	18,183 (4,941)	17,176 (4,361)	14,544 (3,552)	15,868 (2,350)	12,762 (2,452)
主要分野詳細	007 情報科学 (外国書内数)	234 (25)	213 (28)	205 (20)	231 (37)	172 (12)	211 (24)
	140 心理学 (外国書内数)	422 (187)	434 (122)	373 (119)	397 (146)	359 (66)	397 (128)
	190 キリスト教 (外国書内数)	233 (72)	183 (36)	150 (13)	191 (120)	189 (24)	189 (53)
	320 法律 (外国書内数)	737 (100)	770 (147)	563 (96)	640 (88)	616 (84)	665 (103)
	330 経済 (外国書内数)	1,521 (526)	1,179 (347)	1,230 (369)	1,340 (152)	1,274 (434)	1,309 (366)
	360 社会学(社会福祉) (外国書内数)	3,407 (675)	1,657 (453)	1,357 (335)	1,761 (228)	1,316 (310)	1,900 (400)
	370 教育 (外国書内数)	1,418 (239)	896 (175)	832 (139)	1,050 (140)	785 (51)	996 (149)
	490 医学 (外国書内数)	765 (177)	607 (106)	496 (93)	774 (102)	458 (36)	620 (103)
830 英語 (外国書内数)	479 (267)	1,420 (1,173)	1,198 (972)	673 (436)	287 (87)	811 (587)	

2 分野別図書・雑誌受け入れ状況

〔雑誌〕

(大学・短期大学部) [2014～2018]

(表IX-2-②)

分野別		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
主要分野別	総記及び共通 (外国書内数)	147 (24)	138 (19)	115 (13)	241 (64)	124 (23)	153 (29)
	心理 (外国書内数)	103 (46)	113 (48)	84 (27)	104 (26)	105 (27)	102 (35)
	社会福祉 (外国書内数)	153 (48)	150 (52)	134 (24)	144 (41)	144 (41)	145 (41)
	教育 (外国書内数)	35 (3)	36 (3)	30 (2)	31 (1)	31 (1)	33 (2)
	経済 (外国書内数)	255 (143)	209 (120)	126 (60)	173 (68)	185 (79)	190 (94)
	法律 (外国書内数)	64 (16)	64 (18)	70 (16)	88 (31)	85 (28)	74 (22)
	英語・言語 (外国書内数)	75 (48)	77 (48)	68 (42)	84 (49)	84 (49)	78 (47)
	主要分野別合計 (外国書内数)	832 (328)	787 (308)	627 (184)	865 (280)	758 (248)	774 (270)
	紀要 (外国書内数)	349 (3)	383 (2)	500 (22)	383 (2)	1,071 (6)	537 (7)
	新聞 (外国書内数)	43 (15)	30 (14)	30 (11)	30 (14)	29 (10)	32 (13)
	その他合計 (外国書内数)	392 (18)	413 (16)	530 (33)	413 (16)	1,100 (16)	570 (20)

3 図書館の利用状況

[2014～2018]

(表IX-3)

項目		年度					5年間平均	備 考	
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度			
年間開館日数	授業期間平日 (8:45～22:00)	176	175	171	165	167	171		
	休業期間平日 (8:45～20:00)	62	58	57	63	62	60		
	土曜日 (8:45～20:00)	41	42	47	44	40	43		
	日曜・祝日・特別開館 (12:00～17:00)	38	41	42	43	36	40		
	合計	317	316	317	315	305	314		
	総開館時間数 時間外開館時間数(内数)	3,681 1,527	3,649 1,522	3,646 1,555	3,605 1,509	3,540 1,459	3,624 1,514	※時間外は、平日17:00以降及び土日祝日の開館時間	
入館者数	学生(学部生・短大生)	144,673	139,379	127,915	130,289	123,924	133,236		
	大学院生	1,397	1,121	1,372	1,343	1,059	1,258		
	教職員	3,873	3,913	3,735	4,392	4,391	4,061		
	学外利用者	14,438	17,662	22,722	19,915	18,319	18,611		
	高校生の利用(内数)	859	3,367	6,987	5,273	5,263	4,350		
	合計	164,381	162,075	155,744	155,939	147,693	157,166		
	1日当たりの入館者数平均(通年)	518.60	512.90	491.30	495.00	484.20	500.40		
	授業期間平日の1日当たり入館者数平均 学生1人当たりの年間入館回数平均	817.70 34.70	788.90 32.60	759.00 29.80	840.50 29.90	749.90 28.60	791.20 31.12		
貸出統計(図書)	学部生	1年次	7,824	7,149	5,737	6,460	6,294	6,693	
		2年次	7,383	6,712	6,515	6,935	5,100	6,529	
		3年次	10,029	10,161	9,502	8,073	8,027	9,158	
		4年次以上	12,459	12,874	12,529	11,798	11,597	12,251	
	短大生	1年次	6,124	11,046	9,741	11,399	9,458	9,554	
		2年次以上	5,438	5,501	6,818	5,939	4,676	5,674	
	大学院生	2,161	1,648	1,679	1,422	1,332	1,648		
	その他学生(研究生・留学生・科目等履修生等)	507	417	468	651	245	458		
	学生合計	51,925	55,508	52,989	52,677	46,729	51,966		
	教職員	4,813	4,890	4,873	5,357	5,809	5,148		
	学外利用者	卒業生(内数)	9,714	8,858	7,737	7,435	8,926	8,534	
		貸出合計	2,733	2,094	1,817	1,395	2,810	2,170	
	学部学生1人当たりの年間貸出冊数平均	66,452	69,256	65,599	65,469	61,464	65,648		
	短大生1人当たりの年間貸出冊数平均	10.10	9.69	9.00	8.58	8.01	9.08		
大学院生1人当たりの年間貸出冊数平均	25.98	34.47	33.59	35.46	30.46	31.99			
大学院生1人当たりの年間貸出冊数平均	67.53	58.86	52.47	43.09	44.40	53.27			
情報検索支援	文献検索ガイダンス実施件数	245	226	254	258	181	245.75		
	文献検索ガイダンス受講数(延べ)	3,430	3,339	3,219	3,226	2,684	3,304		
図書館相互利用(ILL)	文献複写依頼	学生の依頼(内数)	1,210	895	1,268	997	914	1,057	※相互利用の「依頼」は本学から他大学へ申し込んだ件数。受付は、他大学図書館等から申し込まれた件数。
		学生の依頼(内数)	685	369	527	539	378	500	
	文献複写受付	1,077	854	732	697	808	834		
	文献貸借依頼	学生の依頼(内数)	234	212	243	315	365	274	
		学生の依頼(内数)	82	66	120	121	86	95	
文献貸借受付	654	717	691	581	531	635			

X. 本学の宗教活動に関すること

1 各種行事等の出席者状況

(2014～2018)

(単位：名) (表X-1)

項目	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
	日常礼拝	出席者総数	3,107	3,436	4,225	4,383	3,455
	出席者平均	25.7	28.2	33.3	34.8	29.0	30
宗教週間 (スミス・ミッションウイーク)	礼拝出席者総数	84	131	379	166	140	180
	講演会出席者数	245	215	369	251	289	274
宗教改革記念講演会	出席者数	118	64	77	90	60	82
スミス・ミッションセンター企画 (旧スミス・ミッションセンター講演会)	出席者数	93	122	68	38	89	82
チャペル懇談会	開催回数	—	—	—	—	—	—
	出席者総数	—	—	—	—	—	—
	出席者平均	—	—	—	—	—	—
チャペルコンサート	開催回数	7	6	6	6	7	6
	出席者総数	661	900	808	779	741	778
	出席者平均	94	150	135	130	106	123
ともに祈る会	開催回数	40	15	—	—	—	11
	出席者総数	80	261	—	—	—	68
	出席者平均	2.0	17.4	—	—	—	4
S M C 合宿旅行	出席者数	21	37	24	27	31	28
クリスマス礼拝	礼拝出席者総数	116	102	135	182	179	143
	祝会出席者数	114	65	72	64	65	76
卒業礼拝	礼拝出席者総数	104	96	113	117	119	110
	茶話会出席者数	60	49	43	62	42	51
上記年間行事延べ	出席者総数	4,803	5,478	6,313	6,159	5,210	5,593

2 スミス・ミッションセンター主催諸行事実施状況〔2018年度〕

(表X-2)

日	時	主 催 行 事 ・ 内 容	参 加 人 数	備 考
1	2018/5/14	スミス・ミッションセンター「新歓のタベ」	50	
2	2018/5/23	チャペルコンサート クアルテット・エクセルシオ（弦楽四重奏） 「ロマンティックな昼下がり」	117	
3	2018/5/25、 2018/5/28～31	スミス・ミッションウィーク テーマ「ヒロシマと平和 ― 平和を実現する人は幸いである ―」 スミス・ミッションウィーク特別講演会（5/31） 講演者：川野 徳幸、演題：「平和」とは何か ―「平和学」と「ヒロシマ」の視点から―	289	
4	2018/6/13	チャペルコンサート Crystal Tears 陣内 直（ピアノ）・小出 あつき （歌）・陣内 麻友美（歌） 「スターバト・マーテル～悲しみの聖母～」	70	
5	2018/6/18	スミス・ミッションセンター企画 和心ブラザーズ 新田 昌弘（津軽三味線）・しんた （和太鼓奏者） 「和楽器の調べ」	89	
6	2018/6/20	チャペルコンサート 大友 肇（チェロ） バッハ無伴奏チェロ組曲	92	
7	2018/7/19	チャペルコンサート 揚原 祥子（ピアノ） 「ショパンの調べ」	126	
8	2018/9/20	チャペルコンサート 鈴木 美郷（ソプラノ）・水野 均（オルガン） 「パイプオルガンとソプラノのひととき」	134	
9	2018/10/4	チャペルコンサート 吉村 美穂（クリスチャンシンガー）・野田 常喜（ピ アノ奏者）	46	
10	2018/11/7	チャペルコンサート 大森 潤子（ヴァイオリン） 「チャペルに響くバッハ」	156	
11	2018/10/3～5	チャイルド・ファンド週間（里親募金）	—	
12	2018/10/25	宗教改革記念講演会 講演者：高柳 富夫、演題：「現代を生きる宣教 （者）の課題 ―「神と土と人と」―	60	
13	2018/11/2～3	スミス・ミッションセンター合宿旅行	31	
14	2018/12/3	クリスマスツリー点灯式・チャペルでクリスマス	93/34	
15	2018/12/21	クリスマス礼拝・祝会 メッセンジャー：指方 愛子	179/65	
16	2019/3/14	卒業礼拝・修了礼拝 説教者：日高嘉彦、説教題：「すべてのことに時がある」	119名/42名	

※ / は行事が2部構成になっている場合を指す（例）クリスマス礼拝参加者/クリスマス祝会参加者

3 スミス・ミッションセンター 震災等ボランティア派遣状況

1. 東北地方被災地ボランティア派遣 [2011-2016]

(表X-3-①)

年度	派遣弾	派遣期	派遣期間	期毎派遣人数	弾毎派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2011	第1弾	第1期	2011/4/14-19	17	17	102	釜石市災害ボランティアセンター
		第2弾	第1期	2011/7/7-7/10	4		
	第3弾	第2期	2011/7/22-7/24	4	29		GINGA-NETプロジェクト（岩手県立大学学生ボランティアセンター）：岩手県大槌、陸前高田、大船渡、釜石の各仮設住宅
		第1期	2011/8/16-8/23	7			
		第2期	2011/8/24-8/30	6			
		第3期	2011/8/31-9/6	8			
	第4弾	第4期	2011/9/7-9/13	8	48		日本バプテテスト連盟北海道・東北地方連合プロジェクト：岩手県野田村仮設住宅訪問
		第1期a	2012/2/16-2/18	3			
		第2期a	2012/3/15-3/17	3			
		第1期b	2012/2/27-3/4	10			
		第2期	2012/2/27-3/4	9			
		第3期	2012/3/5-3/11	9			
		第4期	2012/3/12-3/18	6			
2012	第5弾	第5期	2012/3/19-3/25	8	29	GINGA-NETプロジェクト（岩手県立大学学生ボランティアセンター）：岩手県釜石市及び沿岸部	
		第1期	2012/8/21-8/27	7			
		第2期	2012/8/28-9/3	6			
		第3期	2012/9/4-9/10	8			
2013	第6弾	第4期	2012/9/11-17	8	5	日キ教団東北教区被災者支援センター	
		第1期	2013/2/11-2/18	5			
2013	第7弾	第1期	2013/8/12-8/17	8	34	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第2期	2013/8/19-8/24	6			
		第3期	2013/8/26-8/31	7			
		第4期	2013/9/2-9/7	8			
		第5期	2013/9/9-9/14	5			
	第8弾	第1期	2014/2/2-2/9	7	31	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第2期	2014/2/10-2/17	8			
		第3期	2014/2/17-2/24	7			
2014	第9弾	第4期	2014/2/24-3/3	9	35	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第1期	2014/8/11-8/16	7			
		第2期	2014/8/18-8/23	7			
		第3期	2014/8/25-8/30	7			
		第4期	2014/9/1-9/6	7			
	第10弾	第5期	2014/9/8-9/13	7	25	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第1期	2015/2/2-2/7	7			
		第2期	2015/2/9-2/14	5			
		第3期	2015/2/16-2/21	6			
2015	第11弾	第4期	2015/2/23-2/28	7	22	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第1期	2015/8/11-8/15	3			
		第2期	2015/8/18-8/22	3			
		第3期	2015/8/25-8/29	2			
		第4期	2015/9/1-9/5	8			
	第12弾	第5期	2015/9/8-9/12	6	12	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、釜石市仮設住宅	
		第1期	2016/2/2-2/7	3			
		第2期	2016/2/23-2/28	4			
		第3期	2016/3/15-3/20	3			
		第4期	2016/3/22-3/27	2			
2016	第13弾	第1期	2016/8/16-8/21	4	16	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、石巻市仮設住宅	
		第2期	2016/8/23-8/28	4			
		第3期	2016/9/1-9/4	4			
		第4期	2016/9/6-9/11	4			
	第14弾	第1期	2017/1/31-2/5	2	6	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター「エマオ」：宮城県仙台市仮設住宅、笹屋敷地区、石巻市仮設住宅	
		第2期	2017/2/7-2/12	2			
		第3期	2017/2/14-2/19	2			
総合計						317	

3 スミス・ミッションセンター 震災等ボランティア派遣状況

2. 熊本地震被災地支援ボランティア派遣 (2016-2018) (表X-3-②)

年度	派遣弾	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2016	第1弾	2016/9/7-9/12	4	10	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第2弾	2017/2/10-2/15	6		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
2017	第3弾	①2017/8/28-9/2 ②2017/9/4-9/9	5 5	19	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第4弾	①2018/2/5-2/10 ②2018/2/16-2/21	5 4		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
2018	第5弾	①2018/8/14-8/21 ②2018/8/19-8/26	5 5	13	阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
	第6弾	2019/2/21-2/26	3		阿蘇YMCA： 熊本県阿蘇市及びその周辺地域
総合計				42	

3. 南富良野災害支援ボランティア派遣 (2016) (表X-3-③)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2016	臨時	2016/11/5	20	20	南富良野町災害ボランティアセンター： 南富良野町及びその周辺地域

4. 国際ボランティア・ワークキャンプ派遣 (2015-2018) (表X-3-④)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2015	第1回	2016/3/4-3/11	3	3	タイ王国バタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2016	第2回	2016/8/29-9/5	5	5	タイ王国バタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2017	第3回	2017/8/27-9/3	6	6	タイ王国バタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
2018	第4回	2018/8/27-9/3	6	6	タイ王国バタヤ 社会福祉法人バーン・ジンジャイ
総合計				20	

5. 熊本学園大学被災地支援ボランティア派遣 (2017) (表X-3-⑤)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2017	第1弾	2017/8/17-8/21	2	2	熊本学園大学ボランティアセンター： 熊本県益城町及びその周辺地域

6. 大学間連携災害ボランティアシンポジウム派遣 (2017-2018) (表X-3-⑥)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動内容
2017		2017/12/16-12/17	2	2	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：北星ネット活動紹介、ポスター発表、ワークショップ参加等
2018		2018/12/15-12/16	3	3	東北学院大学災害ボランティアステーション事務局：北星ネット活動紹介、ポスター発表、ワークショップ参加等
総合計				5	

7. 東北学院大学との合同ボランティア企画派遣 (2018) (表X-3-⑦)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2018		2018/9/21-9/24	4	4	東北学院大学災害ボランティアステーション： 宮城県石巻市及びその周辺地域

8. 胆振東部地震被災地支援ボランティア派遣 (2018) (表X-3-⑧)

年度	派遣	派遣期間	派遣人数	年度派遣人数	主な派遣先団体、活動場所
2018		2018/11/10	9	9	安平町災害ボランティアセンター： 安平町及びその周辺地域

XI. 本学の国際交流に関すること

1 国際交流に関する財源状況

[2014-2018]

(表XI-1)

項目	年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均
大学会計〔当初予算額〕 ①国際交流費 ②国際交流教材費 ③(直接)一般事務管理費・業務委託費		18,292,000	22,362,000	17,330,000	19,003,000	19,905,000	19,378,400
大学後援会からの補助		6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000	7,000,000	6,200,000
外国人留学生授業料減免額		1,034,000	440,000	200,000	257,000	297,000	445,600
私費外国人留学生奨学金*1		633,000	440,000	200,000	257,000	297,000	365,400
公益社団法人北海道国際交流・協力総合センターからの補助 *2		180,000	0	0	0	0	36,000
日本学生支援機構からの補助 *3		780,000	0	0	0	0	156,000
大学同窓会からの補助		0	0	0	0	1,000,000	200,000
合 計		26,919,000	29,242,000	23,730,000	25,517,000	28,499,000	26,781,400

*1 私費留学生経済的理由による減免

*2 旧社団法人北方圏センター 北海道外国人留学生国際交流支援事業助成金

*3 私費外国人留学生学習奨励費

2 学生及び教員の派遣状況

(1) 大学 [2014～2018]

(表XI-2-①)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	累計	備考
学 生	交換留学提携先派遣者数	13	13	18	25	15	16.8	724	
	ルイス&クラーク大学	1	2	2	3	1	1.8	149	
	ブエナ・ビスタ大学	4	0	2	3	1	2.0	112	
	セント・オラフ大学	0	0	1	0	0	0.2	1	
	ジュニアータ大学※1	0	1	3	3	2	1.8	9	
	マンチェスター大学※2	0	0	0	0	1	0.2	1	
	BCA ※3	/	/	/	/	0	0.0	239	
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0.0	80	
	リバプール ジョン・モーズ大学 ※4	0	/	/	/	0	0.0	24	
	セントラルランカシャー大学	0	2	0	0	1	0.6	5	
	リージェンツ大学	0	0	0	2	0	0.4	2	
	セント・トーマス大学	3	2	5	3	3	3.2	37	
	アルゴマ大学	0	0	0	0	0	0.0	3	
	サンパブロ大学	1	0	0	2	2	1.0	5	
	ジュネーブビジネススクール	1	1	0	0	1	0.6	3	
	カトリック大学校	1	3	3	4	0	2.2	28	
	東海大学	2	2	2	1	2	1.8	21	
	マラナタクリスチャン大学	0	0	0	4	1	1.0	5	
私費留学	4	3	0	36	41	16.8	不明	休学して留学した学生	
計	17	16	18	61	56	33.6	/		
交 流 教 員 派 遣	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ブレズレン大学連盟(B. C. A)	0	0	0	0	0	0.0	0	
	大連外国語大学	1	0	0	0	1	0.4	17	
	計	1	0	0	0	0	0.2	17	

※1.2 BCA協定終了後、直接協定。

※3 2013年度をもって終了。累計の人数には協定終了までの※1, 2の大学分を含む。

※4 2013年度をもって終了。

2 学生及び教員の派遣状況

(2) 短期大学部 [2014~2018]

(表XI-2-②)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間 平均	累計	備 考
学 生	提携先派遣者数	32	20	29	9	19	21.8	386	
	アメリカ								
	イースタン・メソナイト大学	/	/	/	/	/	/	3	
	ワシタバプティスト大学	/	/	/	/	/	/	1	
	メアリービル大学	2	0	0	0	0	0.4	11	
	ネブラスカ大学リンカーン校	1	0	0	0	0	0.2	1	
	カナダ								
	マラスピナ大学	/	/	/	/	/	/	24	
	トリニティ・ウエスタン大学	/	/	/	/	/	/	2	
	オカナガン大学	7	3	2	1	3	3.2	60	
	バンクーバー・アイランド大学	4	6	6	2	5	4.6	36	
	イギリス								
	ランカスター大学	/	/	/	/	/	/	0	
	リーズ大学	/	/	/	/	/	/	6	
	ソリハル大学	/	/	/	/	/	/	10	
	コベントリー大学	/	/	/	/	/	/	18	
	新ノッティンガム大学	7	5	8	0	0	4.0	62	
	ワーウィックシャー大学	3	1	6	0	0	2.0	22	
	サウスシティ・バーミンガム大学	/	/	/	4	8	6.0	12	
	オーストラリア								
	モナシュ大学	/	/	/	/	/	/	9	
	ロイヤル・メルボルン工科大学	/	/	/	/	/	/	16	
	タスマニア大学	0	0	0	0	0	0.0	0	
	ニュージーランド								
	クライストチャーチ大学	5	1	3	2	3	2.8	63	
	マレーシア								
マレーシア・サインス大学	3	4	4	0	0	2.2	30		
私費留学	2	0	2	13	9	5.2	33	休学して留学した学生	
計	34	20	31	22	28	27.0	419		

3 学生及び教員の学科別派遣状況〔2018年度〕

(1) 大学

(表XI-3-①)

	学部	文学部				経済学部						社会福祉学部						合計		
		英文		心理・応用 コミュニケーション		経済		経営情報		経済法		福祉計画		福祉臨床		福祉心理				
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	
学 生	交換留学提携先派遣大学	2	11	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13
	ルイス&クラーク大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	セント・オラフ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュニアータ大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	マンチェスター大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セントラルランカシャー大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	リージェンツ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	セント・トーマス大学	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	アルゴマ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	サンパブロ大学	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	ジュネーブビジネススクール	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	カトリック大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東海大学	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
マラナタクリスチャン大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
私費留学	18	7	6	1	2	1	2	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	32	9	
計	20	18	6	1	2	3	2	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	34	22	
交 流 派 遣 教 員	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 交流教員は学科所属なし。秋の半年間在籍。

3 学生及び教員の学科別派遣状況〔2018年度〕

(2) 短期大学部

(表XI-3-②)

	学科 期	英 文		生活創造学科		合 計		備 考
		春	秋	春	秋	春	秋	
学 生	提携先派遣大学	0	19	0	0	0	19	
	アメリカ							
	イースタン・メノナイト大学	0	0	0	0	0	0	
	ワシタバプティスト大学	0	0	0	0	0	0	
	メアリービル大学	0	0	0	0	0	0	
	ネブラスカ大学リンカーン校	0	0	0	0	0	0	
	カナダ							
	マラスピナ大学	0	0	0	0	0	0	
	トリニティ・ウエスタン大学	0	0	0	0	0	0	
	オカナガン大学	0	3	0	0	0	3	
	バンクーバー・アイランド大学	0	5	0	0	0	5	
	イギリス							
	ランカスター大学	0	0	0	0	0	0	
	リーズ大学	0	0	0	0	0	0	
	ソリハル大学	0	0	0	0	0	0	
	コベントリー大学	0	0	0	0	0	0	
	新ノッティンガム大学	0	0	0	0	0	0	
	ワーウィックシャー大学	0	0	0	0	0	0	
	South and City College Birmingham	0	8	0	0	0	8	
	オーストラリア							
	モナシュ大学	0	0	0	0	0	0	
	ロイヤル・メルボルン工科大学	0	0	0	0	0	0	
	タスマニア大学	0	0	0	0	0	0	
	ニュージーランド							
	クライストチャーチ大学	0	3	0	0	0	3	
	マレーシア							
	マレーシア・サインス大学	0	0	0	0	0	0	
私費留学		8	1	0	0	8	1	休学して留学した学生
計		8	20	0	0	8	20	

4 学生及び教員の受入状況

(1) 大学 [2014-2018]

(表XI-4-①)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	累計	備考
学 生	交換留学提携先受入者数	50	50	59	53	59	54.2	1,611	
	ルイス&クラーク大学	2	2	4	1	2	2.2	415	注1
	ブエナ・ビスタ大学	1	0	1	2	0	0.8	74	
	ジュニアータ大学	0	0	2	1	2	1.0	40	
	マンチェスター大学	0	0	0	1	4	1.0	27	
	その他	0	0	0	0	0	0.0	179	
	大連外国語大学	6	6	7	7	7	6.6	147	注2
	リージェンツ大学	1	3	1	0	1	1.2	8	
	セント・トーマス大学	2	0	1	1	0	0.8	23	
	カトリック大学校	16	23	23	20	20	20.4	317	注3
	セントラル・ランカシャー大学	2	0	3	4	4	2.6	25	
	マラナタ・クリスチャン大学	4	4	4	4	5	4.2	23	
	ジュネーブビジネスオブスクール	3	2	2	2	5	2.8	15	
	サンパブロ大学	5	2	0	0	0	1.4	10	
	東海大学	8	8	9	9	7	8.2	122	注4
	セントオラフ大学	0	0	2	1	2	1.0	5	
外国人留学生数 (私費留学生)	0	0	0	1	1	0.4	45	特別入試による入学者数	
計		50	50	59	54	60	54.6	1,656	
交 流 教 員 受 入	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0.0	4	
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0.0	1	
	ブレズレン大学連盟(B. C. A)	0	0	0	0	0	0.0	14	
	大連外国語大学	1	1	1	1	1	1.0	30	
	計	1	1	1	1	1	1.0	50	

数字は単年度毎の受入数：前年度からまたがる継続生は両方の年度でカウントした。

春～秋の1年間在籍者は1名でカウントした。

注1 協定に基づく受入れ実績をすべて計上。

注2 覚書による短期招聘学生数毎年5名含む。

注3 覚書による短期招聘学生数毎年5名及び覚書による短期留学生数を含む。

注4 覚書による短期招聘学生数毎年5名含む。

(2) 短期大学部 [2014-2018]

(表XI-4-②)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	累計	備考
学 生	外国人留学生数 (私費留学生)	1	1	0	0	0	0.4	2	特別入試による入学者数

(3) 大学院 [2014-2018]

(表XI-4-③)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	累計	備考
学 生	大連外国語大学	0	1	1	0	0	0.4	7	注1
	外国人留学生数 (私費留学生)	0	0	0	0	0	0.0	57	入学者数

注1 覚書による研究生としての受入制度は2006年度をもって廃止した。

5 学生及び教員の学科別受け入れ状況〔2018年度〕

(1) 大学

(表XI-5)

	学部 学科 期	文学部				経済学部						社会福祉学部						合計	
		英文		心理・応用 コミュニケーション		経済		経営情報		経済法		福祉計画		福祉臨床		福祉心理			
		春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
学 生	交換留学提携先受入大学	6	7	0	1	17	11	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	26	20
	ルイス&クラーク大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジュニアータ大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
	マンチェスター大学	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	2
	大連外国語学院 *1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	リージェンツ大学	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	セント・トーマス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カトリック大学校 *1	0	0	0	0	11	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	6
	セントラル・ランカシャー大学	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	マラナタ・クリスチャン大学	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
	ジュネーブビジネスオブスクール	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2
	サンパブロ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東海大学 *2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
セントオラフ大学	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
計	6	7	0	1	17	11	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	26	20	
交 流 受 入 教 員	ルイス&クラーク大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブエナ・ビスタ大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大連外国語学院 *2	0	0	0	0	1						0	0	0	0	0	0	1	
	カトリック大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0				1						0						1		

*1 春-秋の1年間在籍者は便宜上、「春」でカウント。

*2 交流教員は学科所属なし。春-秋の1年間在籍。

6 受入交換留学生のためのホームステイ状況

[2014-2018]

(表XI-6)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	備考
登録件数 (a)	50	49	40	46	52	47.4	
※利用件数 (b)	5	17	19	14	30	17.0	15年度からショートホームステイ開始
充足率 (b)/(a)	10.0%	34.7%	47.5%	30.4%	57.7%	35.9%	

※ 利用件数は、同じホストファミリーが前期と後期に同じ学生を引き受けた場合は1件、違う学生を引き受けた場合は2件として計上する。

※ 2012年度は学期途中で別のホストファミリー宅へ移動した学生1名有り、その場合は2件として計上する。

※ ショートホームステイについて、ホストファミリー1家庭が同一日に2名以上の学生を引き受けた場合も1件として計上する。

7 外国人留学生の奨学金受給率

[2014-2018]

(表XI-7)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	備考
外国人留学生数 (a)	5	2	1	1	1	2.0	
内奨学金受給者 (b)	2	2	1	1	1	1.4	
受給率 (b)/(a)	40.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	70.0%	

※ 外国人留学生数は、特別入試によって学部及び大学院に在籍する正規学生の合計数である。

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2018年度〕

印は国際ラウンジ以外で実施された国際教育センターイベント

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名(項目別)	国際ラウンジ 利用人数
			授業関係	
1	センター	04月04日(水)	国際交流関係科目説明会	50
2	萱野教授	04月17日(火)	経済演習Ⅰ/Ⅱ	20
3	センター	06月29日(金)	留学生日本語スピーチ練習	0
4	センター	07月02日(月)	留学生日本語スピーチ練習	0
5	センター	07月03日(火)	留学生日本語スピーチ練習	12
6	センター	07月05日(木)	留学生日本語スピーチ発表会	46
7	センター	09月12日(水)	国際交流関係科目説明会	17
8	センター	12月07日(金)	留学生日本語スピーチ練習	0
9	センター	12月10日(月)	留学生日本語スピーチ練習	0
10	センター	12月11日(火)	留学生日本語スピーチ練習	13
11	センター	12月13日(木)	留学生日本語スピーチ発表会	36
			海外渡航・派遣留学関係	
1	学園生協	04月23日(月)	ワーキングホリデーセミナー	10
2	センター	06月14日(木)	派遣留学報告会 韓国 カリック大学校	6
3	センター	06月18日(月)	派遣留学報告会 アメリカ ジュニア大学	9
4	センター	06月25日(月)	派遣留学報告会 インドネシア マラタ クリスチャン大学	14
5	センター	06月28日(木)	派遣留学報告会 台湾 東海大学	9
6	センター	06月29日(金)	派遣留学報告会 アメリカ ブエナ・ビスタ大学	16
7	センター	10月12日(金)	マラタクリスチャン大学講演会(Anton先生)	18
8	原島教授	10月18日(木)	QQ English ミニ講演会	5
9	学園生協	10月27日(土)	保護者のための留学セミナー	30
10	センター	11月09日(金)	派遣留学報告会 カタ セント・トマス大学	23
11	センター	11月12日(月)	派遣留学報告会 アメリカ ジュニア大学	22
12	センター	11月13日(火)	派遣留学報告会 アメリカ ルイス&クラーク大学	25
13	センター	11月15日(木)	派遣留学報告会 インドネシア マラタクリスチャン大学	22
14	センター	11月21日(水)	派遣留学報告会 イギリス リージェンツ大学(語学)	25
15	センター	11月22日(木)	インドネシア・インターシップ 報告会	7
16	センター	11月26日(月)	派遣留学報告会 スペイン サンパブロ大学	23
17	センター	11月28日(水)	派遣留学報告会 アメリカ ブエナ・ビスタ大学	22
18	センター	11月29日(木)	派遣留学報告会 イギリス リージェンツ大学(語学)	22
19	センター	12月03日(月)	派遣留学報告会 アメリカ ブエナ・ビスタ大学	22
20	学園生協	12月06日(木)	留学セミナー	20
21	センター	01月09日(水)	卒業生によるワーキングホリデーセミナー	20
22	センター	03月06日(水)	内閣府青年国際交流事業説明会	3
			留学生交流関係等	
1	センター	04月20日(金)	外国語遊び場 北星 Egg Hunt	40
2	センター	05月01日(火)	国際ラウンジプログラム説明会	20
3	センター	05月22日(火)	着物体験	※18
4	センター	05月23日(水)	茶道体験	※22
5	センター	05月24日(木)	アンバサダー ルイス&クラーク大学	22
6	センター	05月25日(金)	アンバサダー マンチェスター大学	21
7	センター	05月25日(金)	HUIT 柏餅パーティー	※42

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2018年度〕

印は国際ラウンジ以外で実施された国際教育センターイベント

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名(項目別)	国際ラウンジ 利用人数
8	センター	05月28日(月)	アンバサダー 大連外国語大学	7
9	センター	05月30日(水)	アンバサダー ジュネーブビジネススクール	15
10	センター	05月31日(木)	アンバサダー マナタクリスチャン大学	17
11	センター	06月04日(月)	アンバサダー セントラルランカシャー大学	21
12	センター	06月05日(火)	アンバサダー カリック大学校	13
13	センター	06月06日(水)	アンバサダー ジュニアタ大学	11
14	センター	06月13日(水)	小学校訪問	※24
15	センター	06月20日(水)	書道体験	※20
16	センター	06月21日(木)	華道体験	※24
17	センター	06月22日(金)	HUIT Multi-Cultural Festival	54
18	センター	07月05日(木)	EASCOM 留学生送別会	30
19	センター	07月06日(金)	HUIT Farewell Party 縁日	42
20	センター	09月28日(金)	外国語遊び場 フォトスパハンジャーハント	23
21	センター	10月02日(火)	着物体験	※14
22	センター	10月03日(水)	国際ラウンジプログラム説明会	17
23	センター	10月06~08日	茶道体験(学祭期間中)	不明
24	センター	10月19日(金)	アンバサダー マナタクリスチャン大学	12
25	センター	10月22日(月)	アンバサダー カリック大学校	10
26	センター	10月22日(月)	HUIT Halloween Party	34
27	センター	10月23日(火)	アンバサダー 東海大学	22
28	センター	10月24日(水)	書道体験	※14
29	センター	10月25日(水)	アンバサダー セントラルランカシャー大学	6
30	センター	10月26日(金)	アンバサダー ジュニアタ大学	12
31	センター	10月26日(金)	小学校訪問	※16
32	センター	10月29日(月)	アンバサダー セント・オラフ大学	7
33	センター	10月29日(月)	EASCOM サミット	30
34	センター	10月30日(火)	アンバサダー ルイス&クラーク大学	6
35	センター	10月30日(火)	EASCOM 舞台・立食	30
36	センター	10月31日(水)	アンバサダー ジュネーブビジネススクール	9
37	センター	11月02日(金)	アンバサダー マンチェスター大学	6
38	センター	12月14日(金)	HUIT Farewell Party 「お正月」	31
			語学関係	
1	アリソン教授	04月10日(火)	English Lunch Time	0
2	S M C	04月11日(水)	English Daberiba	5
3	アリソン教授	04月17日(火)	English Lunch Time	2
4	S M C	04月18日(水)	English Daberiba	2
5	アリソン教授	04月24日(火)	English Lunch Time	1
6	S M C	04月25日(水)	English Daberiba	2
7	センター	04月27日(金)	TOEFL勉強法講座	23
8	S M C	05月02日(水)	English Daberiba	1
9	アリソン教授	05月08日(火)	English Lunch Time	1
10	S M C	05月09日(水)	English Daberiba	5
11	アリソン教授	05月15日(火)	English Lunch Time	2
12	S M C	05月16日(水)	English Daberiba	5
13	アリソン教授	05月22日(火)	English Lunch Time	3

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2018年度〕

印は国際ラウンジ以外で実施された国際教育センターイベント

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名 (項目別)	国際ラウンジ 利用人数
14	S M C	05月23日(水)	English Daberiba	5
15	アリソン教授	05月29日(火)	English Lunch Time	2
16	S M C	05月30日(水)	English Daberiba	5
17	S M C	06月06日(水)	English Daberiba	5
18	アリソン教授	06月12日(火)	English Lunch Time	2
19	センター	06月13日(水)	フランス語チャットテーブル	1
20	S M C	06月13日(水)	English Daberiba	5
21	アリソン教授	06月19日(火)	English Lunch Time	3
22	センター	06月20日(水)	フランス語チャットテーブル	14
23	S M C	06月20日(水)	English Daberiba	5
24	アリソン教授	06月26日(火)	English Lunch Time	3
25	センター	06月27日(水)	フランス語チャットテーブル	11
26	S M C	06月27日(水)	English Daberiba	4
27	アリソン教授	07月03日(火)	English Lunch Time	2
28	S M C	07月04日(水)	English Daberiba	3
29	アリソン教授	07月17日(火)	English Lunch Time	2
30	アリソン教授	09月18日(火)	English Lunch Time	2
31	S M C	09月19日(水)	English Daberiba	3
32	アリソン教授	09月25日(火)	English Lunch Time	2
33	S M C	09月26日(水)	English Daberiba	5
34	アリソン教授	10月02日(火)	English Lunch Time	3
35	S M C	10月03日(水)	English Daberiba	5
36	S M C	10月10日(水)	English Daberiba	5
37	S M C	10月17日(水)	English Daberiba	2
38	S M C	10月24日(水)	English Daberiba	3
39	S M C	10月31日(水)	English Daberiba	3
40	S M C	11月07日(水)	English Daberiba	3
41	S M C	11月14日(水)	English Daberiba	3
42	S M C	11月21日(水)	English Daberiba	3
43	S M C	12月05日(水)	English Daberiba	3
44	S M C	12月12日(水)	English Daberiba	3
45	S M C	01月10日(木)	English Daberiba	3
			その他	
1	センター	04月06日(金)	HUIT 募集説明会	16
2	センター	04月13日(金)	HUIT 募集説明会	34
3	江口准教授	04月23日(月)	Movie Night	5
4	センター	04月26日(木)	EASCOM 募集説明会	5
5	有志学生	06月26日(火)	国際協力イベント	10
6	センター	06月29日(金)	キャッシュパースポート 即日受付会場	17
7	森越教授	07月09日(月)	Murdoch Welcome Reception	50
8	センター	07月10日(火)	卒業生による講演会	23
9	有志学生	07月18日(水)	国際協力イベント	10

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2018年度〕

印は国際ラウンジ以外で実施された国際教育センターイベント

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名(項目別)	国際ラウンジ 利用人数
10	森越教授	07月20日(金)	Murdoch Farewell Party	50
11	センター	11月28日(水)	外国語朗読会	39
12	センター	11月30日(金)	キャッシュハ ^o スポーツ 即日受付会場	10
13	センター	12月13日(木)	フォトコンテスト表彰式	12
14	有志学生	12月18日(火)	北星フェアトレード ^o イベント	25
15	センター	12月20日(木)	ケンブリッジ英検説明会	16
16	センター	01月21日(月)	DACAプログラム発表(派遣生卒業発表)	7
17	森越教授	01月28日(月)	短大 卒業生と在学生の交流会	50
18	センター	01月31日(木)	北京小記者団訪問	25
			地域交流	
1	センター	07月04日(水)	後志総合振興局 説明会	11
2	森越教授	10月15日(月)	ニセコ留学説明会	19
3	センター	11月10日(土)	English Camp in 北星 2018	30
4	センター	11月11日(日)	English Camp in 北星 2018	35
5	センター	01月11日(金)	JICA キャリア開拓セミナー	26
-	センター		ホームステイ(年間合計 11家庭)	※11
-	センター		ショートホームステイ(年間合計 16家庭)	※16
			ミーティング^o 関連	
1	センター	04月09日(月)	HUITミーティング ^o	6
2	センター	04月16日(月)	EASCOM ミーティング ^o	5
3	センター	04月19日(木)	HUIT ミーティング ^o	8
4	センター	05月10日(木)	HUIT ミーティング ^o	8
5	センター	05月17日(木)	HUIT ミーティング ^o	13
6	センター	05月18日(金)	EASCOM ミーティング ^o	6
7	センター	06月07日(木)	HUITミーティング ^o	13
8	センター	06月08日(金)	EASCOM ミーティング ^o	4
9	センター	06月19日(火)	EASCOM ミーティング ^o	5
11	センター	06月21日(木)	HUIT イベントリハーサル	14
12	センター	06月26日(火)	EASCOM ミーティング ^o	6
13	センター	06月27日(水)	HUIT イベントリハーサル	6
14	センター	07月12日(木)	HUIT ミーティング ^o	15
15	センター	07月19日(木)	HUIT ミーティング ^o	10
16	センター	07月20日(金)	EASCOM ミーティング ^o	6
17	センター	07月26日(木)	HUIT ミーティング ^o	16
18	センター	08月07日(火)	HUIT ミーティング ^o	15
19	センター	09月20日(木)	HUIT ミーティング ^o	12
20	センター	09月25日(火)	EASCOM事務局会議	5
21	センター	09月27日(木)	HUIT ミーティング ^o	12
22	センター	10月04日(木)	HUIT ミーティング ^o	10
23	センター	10月10日(水)	EASCOM サミット・広報セクション	3

8 国際教育センターイベント及び国際ラウンジ利用状況〔2018年度〕

印は国際ラウンジ以外で実施された国際教育センターイベント

(表XI-8)

回	主催	日程	イベント名(項目別)	国際ラウンジ 利用人数
24	センター	10月11日(木)	HUIT ミーティング*	9
25	センター	10月19日(金)	HUIT イベントリハーサル	10
26	センター	10月24日(水)	HUIT ミーティング*	8
27	センター	10月29日(月)	EASCOM 舞台リハーサル	20
28	センター	11月05日(月)	HUIT ミーティング*	7
29	センター	11月06日(火)	English Camp ミーティング*	5
30	センター	11月08日(木)	HUIT ミーティング*	12
31	センター	11月27日(火)	EASCOM事務局会議	5
32	センター	12月03日(月)	HUIT イベントリハーサル	9
33	センター	12月10日(月)	HUIT イベントリハーサル	9
34	センター	12月11日(火)	EASCOM事務局会議	8
35	センター	01月10日(木)	HUIT ミーティング*	6
36	センター	01月15日(火)	EASCOM ミーティング*	6
37	センター	01月17日(木)	HUIT ミーティング*	5

◎ SMCはスミス・ミッション・センターの略称である。

※印がついた人数は、国際ラウンジ以外で実施した国際教育センター主催イベント参加者

※221

2018年度

国際教育センター イベント件数(ミーティングは除く):	85 件
利用者 合計(延べ):	1599 人
国際ラウンジ利用イベント等件数:	176 件
利用者 合計(延べ):	2381 人

ⅩⅡ. 本学の社会との連携交流に関すること

1 大学公開講座の開催状況

[2014年度～2018年度]

(表ⅩⅡ-1)

年度	通算	メインテーマ及び講座名(担当者)	開催期間等	担当学科等	受講費及び受講者数等
2014年度	39	テマ『人口減少社会における生活の危機～「福祉」の役割と課題～』 ①「人口減少社会」が問いかけるもの 砂子田 篤 ②人口減少社会における社会的「介護」の意義と 田中 耕一郎 介護人材の確保をめぐる ③人口減少社会と健康 永井 順子 ④子育てと教育の側面から見た生活と福祉 久能 由弥 ⑤人口減少社会に向けた多様な「仕事」の模索 畑 亮輔 ⑥【ミニ・シンポジウム】人口減少社会における生活の危機 西田 充潔 ～「福祉」の役割と課題～ 大久保 薫 芦崎 祐公 菊池 洋子	9月26日(金) 10月3日(金) 10月10日(金) 10月17日(金) 10月24日(金) 10月31日(金)	福祉臨床	一般 ¥2,000 × 73人 学生 ¥1,000 × 0人 収入額 ¥146,000 支出額 ¥1,407,715 収支 ¥-1,261,715
2015年度	40	テマ『現代社会を生きる心理学～健康と病気・障害の観点から』 ①ポジティブ心理学 佐藤 祐基 ②より快適な人間関係のコツ 西山 薫 ③日常の悩み苦しみのなかで感情が揺らぐとき 田澤 安弘 ～グラフで見る感情の変動 ④心と身体は別ものか 眞嶋 良全 ⑤健康と病気の心理学 柴田 利男 ⑥共生(共に生きる)の心理学 豊村 和真	9月25日(金) 10月2日(金) 10月9日(金) 10月16日(金) 10月23日(金) 10月30日(金)	福祉心理	一般 ¥2,000 × 211人 学生 ¥1,000 × 6人 収入額 ¥428,000 支出額 ¥1,389,002 収支 ¥-961,002
2016年度	41	テマ『現代教育の必須アイテムを探る ～子どもの明日に必要なことは?』 ①「障害者差別解消法施行にみる 田実 潔 共生社会をめざした教育とは」 ②「オープンデータ化と情報教育」 古谷 次郎 ③「子どもが学ぶ英語教育ワークショップ」 江口 均 ④「今、スポーツ教育に必要なことー 掛屋 忠義 自主、自立を促す指導とは」 ⑤「危機の時代の教育思想ー 鈴木 剛 ルソーの教育哲学から学ぶ」 ⑥「18歳選挙権時代の『主権者教育』」 高杉 巴彦	9月23日(金) 9月30日(金) 10月7日(金) 10月14日(金) 10月21日(金) 10月28日(金)	教職部門	一般 ¥2,000 × 70人 学生 ¥1,000 × 1人 収入額 ¥141,000 支出額 ¥1,469,737 収支 ¥-1,328,737
2017年度	42	テマ『グローバル資本主義と経済学』 ①経済の中に倫理を見いだす 岩井 克人 ー資本主義の新しい形と伝統芸能 ②越境する社会空間 竹野内 真樹 ③経済学と環境問題 野原 克仁 ④ファストファッションから考える 萱野 智篤 グローバル資本主義の闇とフェアトレード ⑤「資本主義はなぜ続いてしまうのか」という問い 勝村 務 ーマルクス生誕200年と宇野弘蔵 ⑥資本主義の終末論 田村 信一	9月21日(木) 9月29日(金) 10月6日(金) 10月13日(金) 10月20日(金) 10月27日(金)	経済	一般 ¥2,000 × 135人 学生 ¥1,000 × 21人 収入額 ¥291,000 支出額 ¥1,168,388 収支 ¥-877,388
2018年度	43	テマ『デジタル社会とビジネス・経営 ～デジタルとヒューマンの融合～』 ①デジタル時代の経営、生き方、そして生きる意味 小川 長 ②仮想通貨について考える 山口 博教 ③マーケティング4.0を読み解く 西脇 隆二 ～デジタル時代のマーケティングとは?～ ④ヒューマンセンシング技術の研究開発 林 秀彦 ⑤ICT(情報通信技術)の進展と国際ビジネス 多田 和美 ⑥経営者のための情報セキュリティ 佐藤 友暁	9月28日(金) 10月5日(金) 10月12日(金) 10月19日(金) 10月26日(金) 11月2日(金)	経営情報	一般 ¥2,000 × 72人 学生 ¥1,000 × 1人 収入額 ¥145,000 支出額 ¥1,640,658 収支 ¥-1,495,658
		総収支額	¥-5,924,500	総受講者数	584

2 学科・部門等公開講座の開催状況

[2014年度～2018年度]

(表Ⅻ-2)

年度	メインテーマ及び講座名(担当者)	開催期間等	担当学科等	受講者数	
2014年度	創造的過疎を語る(大南 信也)	4.15(火)Ⅲ	福祉計画	130	
	ベトナムでの支援活動を通して考えた「ボランティアの現実と課題」(小山 道夫)	6.23(月)Ⅲ	心理・応用コ	111	
	Prospects for Hospitality and Tourism Industry in Light of Changes in International Tourism 観光ホスピタリティ産業の将来—かわりゆく国際観光—(ケイ・チョン)	7.8(火)Ⅱ	短大英文	130	
	いま目の前にある貧困の課題と向き合い続けて(川口 加奈)	9.25(木)Ⅴ	心理・応用コ	170	
	170戦争から11年 友と歩み考えたこと～東日本大震災とアラブ騒乱を超えて～(相澤恭行)	11.11(火)Ⅱ	短大英文	110	
	「家族」の中の人権を考える—紡ぎ合う新しい関係を求めて—(安積 遊歩)	12.8(月)Ⅳ	福祉臨床	84	
	NHKドラマ「サイレント・プア」から見える地域福祉課題とコミュニティソーシャルワーク(勝部 麗子)	1.10(土)Ⅳ	福祉計画	215	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 725,274円)		収支	-725,274	
2015年度	ルワンダにおける癒しと和解のために(佐々木 和之)	6.26(金)Ⅰ	共通部門	95	
	台湾における女性と労働:母性保護、パートタイム労働、ワークバランスそして性別職業分離(劉 梅君)	7.2(木)Ⅳ	福祉計画	85	
	アジアにおける観光ホスピタリティ産業の展望と課題(ブイ タン フォン)	7.7(火)Ⅱ	短大・英文	171	
	「茜色クラリネット」の上映会(早川 渉)	7.24(金)Ⅱ	心理・応用コ	50	
	イノベーションデザインの方法:創造思考・デザイン思考・プロトタイプングの方法(國藤 進)	9.28(月)Ⅲ	経営情報	14	
	英国ブルーバッジガイドの仕事とは～スコットランドとロンドンの魅力を伝えるために(オルストン 伊津子)	10.31(土)Ⅱ	短大・英文	210	
	実践的創作小説講座～世界的ベストセラー作家に学ぼう～(荒巻 義雄)	11.6(金)Ⅲ Ⅳ	言語部門	60	
	子ども文化としてのメディア～子どもとメディアの好ましい関係を考える～(小平 さち子)【NHK大学セミナーと共催】	11.13(金)Ⅳ	教職部門	52	
モルモン教(末日聖徒イエス・キリスト教会)とは何か—「隣人」を正しく理解するために—(高橋 弘)	12.8(火)Ⅴ	共通部門	240		
所要経費等(収入額 0円、支出額 738,484円)		収支	-738,484		
2016年度	メディアは何を伝えるのか～真実とは何か、虚偽とは何か、多様な視点をもとう～(森 達也)	6.10(金)Ⅱ	心理・応用コ	85	
	「担保権法」講演会(佐藤 聡彦)	7.4(月)Ⅳ	経済法	35	
	ブルーバッジガイドから見た英国の魅力～次世代につながるホスピタリティの心(スーザン・キング)	7.12(火)Ⅱ	短大英文	201	
	現代イスラームにおける「聖戦(ジハード)」の観念とテロリズム(池内 恵)	7.12(火)Ⅴ	共通部門	225	
	伝統 現代 未来を共にある大地から(結城 幸司)	11.8(火)Ⅱ	共通部門	124	
	母子家庭と貧困(流石 智子)	11.12(土)Ⅱ	計画	33	
	国際協力とコミュニティ開発—女性への支援という視点から(今里 いさ)	12.22(木)Ⅳ	短大生活	85	
	宗教の未来—近代から現代へのベクトルの延長線を見て(宇都宮 輝夫)	1.17(火)Ⅴ	共通部門	282	
所要経費等(収入額 0円、支出額 777,268円、収支)		収支	-777,268		
2017年度	"Fight to the Bitter End? Katsu Kaishu and Fukuzawa Yukichi"(ダグラス・スティフラー)	5.30(火)Ⅱ	国際教育	190	
	A Poetry Reading by Neal Hall(ニール・ホール)	9.28(木)Ⅳ	言語教育	187	
	北海道米はこうして売れた～ゆめびりかの広告事例から～(碓井 雅博)	10.27(金)Ⅳ	経営情報	97	
	子どもの学ぶ力と可能性を信じる教育—カナダ・ノヴァスコシア州、特別支援学校の実践から学ぶ—(ビーター・コール)	10.30(月)Ⅵ	福祉臨床	47	
	メディアの進化と表現の深化(澤本 嘉光)	11.10(金)Ⅳ	経営情報	105	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 387,681円)		収支	-387,681	
2018年度	ソーシャルワーカーに必要なスキルを学ぶ(前田 ケイ)	6.8(金)ⅣⅤ	福祉臨床	153	
	証券論(後藤 英仁)	7.6(金)Ⅳ	経済法	4	
	Introduction to Sustainable Tourism(岡本 洋平)	7.11(水)Ⅵ	短大英文	140	
	Going Global!:国際社会で活躍するための心得とは(西村 由賀里)	10.2(火)Ⅳ	大学英文	161	
	国際広告賞に見る流れと最近国内の流れ～海外CMの傾向からこれからの広告を考える～(澤本 嘉光)	10.5(金)Ⅳ	経営情報	54	
	バイク便からセブ大手語学学校経営者へ(藤岡 頼光)	10.19(金)Ⅲ	経済	179	
	レジリエンスを育む—逆境下における前向きな成長を促す社会的・物的環境のインパクト(ウンガー・マイケル)	10.26(金)Ⅱ	福祉臨床	142	
	社会保障制度と持続可能性—これからの社会保障制度に求められる視点～(菊地 馨実)	11.12(月)Ⅴ	福祉計画	283	
	私がラジオを通して伝えたいこと(吉川 典雄)	11.29(水)Ⅴ	心理応用コミュニケーション	252	
	History and Citizenship Education from Comparative Perspectives - Singapore, Australia, Japan and Beyond - (ヤオトン・チア)	1.9(水)Ⅴ	言語教育部門	62	
	LGBTQ Young People : Inequalities and Futures (ビクトリア・ローリングス)	1.10(木)Ⅴ	言語教育部門	82	
	所要経費等(収入額 0円、支出額 863,412円)		収支	-863,412	
		総収支額	-3,492,119	総受講者数	5,135

3 社会福祉学部地域連携事業の開催状況

[2014年度～2018年度]

(表Ⅱ-3-①)

年度	講義名	派遣講師名	開催日	派遣先	受講者数	
2014年度	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	5/22 (木)	札幌市内	15	
	障害者の虐待防止と差別解消に向けて	田中 耕一郎	6/14 (土)	札幌市内	30	
	発達障害の理解と支援	田実 潔	6/24 (火)	岩見沢市	18	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	6/24 (火)	北広島市	30	
	国連障害者権利条約とわが国の障害者差別禁止法	中川 純	7/ 9 (水)	札幌市内	50	
	老化速度を遅らせるには・・・?	武田 秀勝	7/16 (水)	札幌市内	85	
	防災を求心力とした地域社会の現実的なネットワーク化の提案	岡田 直人	7/23 (水)	上士幌町	30	
	地域におけるまちづくり実践	中田 知生	8/ 8 (金)	西興部村	25	
	社会福祉における自立支援の現状と課題、事例検討：利用者・家族からの支援に対する要求や苦情	伊藤 新一郎	8/ 8 (金)	北見市	30	
	障害者の虐待防止と差別解消に向けて	田中 耕一郎	8/29 (金)	小樽市	60	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	10/12 (日)	北見市	150	
	老化速度を遅らせるには・・・?	武田 秀勝	10/14 (火)	長沼町	50	
	防災を求心力とした地域社会の現実的なネットワーク化の提案	岡田 直人	10/29 (水)	和寒町	200	
	事例検討：利用者・家族からの支援に対する要求や苦情	中村 和彦	11/20 (木)	札幌市内	60	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	1/15 (木)	厚真町	18	
	「障害者問題」とは何か	田中 耕一郎	1/28 (水)	札幌市内	40	
	生活保護の現状と課題	木下 武徳	2/26 (木)	札幌市内	50	
所要経費等 (18件分) 支出額 725,880 円 (予算額：923,000 円) / 18件分)						
2015年度	カンファレンス「子ども虐待をめぐって」	栗山 隆	5/28 (木)	旭川市	30	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	6/27 (土)	函館市	30	
	発達障害(がい)の理解と支援	田実 潔	7/ 6 (金)	帯広市	80	
	社会福祉士実習における学生へのスーパービジョン	伊藤 新一郎	7/16 (木)	北広島市	40	
	今後の地域福祉のあり方	岡田 直人	8/18 (火)	大空町	35	
	障害者施設におけるリスクマネジメント	田中 耕一郎	8/19 (水)	札幌市内	30	
	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	9/ 3 (木)	足寄町	15	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	9/ 4 (金)	安平町	20	
	乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	9/ 6 (日)	遠軽町	30	
	運動と脳の機能は関係あるの?	武田 秀勝	9/ 8 (火)	登別市	50	
	障害者の虐待防止と差別解消に向けて	田中 耕一郎	10/21 (水)	江別市	50	
	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	11/ 5 (木)	札幌市内	15	
	利用者・家族からの支援に対する要求や苦情	中村 和彦	11/14 (土)	釧路市	25	
	老化はゆっくりが良い	武田 秀勝	11/15 (日)	佐呂間町	50	
	被虐待児の心理-子どもの心の治療-	牧田 浩一	11/16 (月)	岩見沢市	150	
	障害者運動は何を訴えてきたのか	田中 耕一郎	12/ 2 (水)	帯広市	80	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	12/ 8 (火)	積丹町	50	
ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	2/15 (月)	旭川市	50		
所要経費等 (18件分) 支出額 846,642 円 (予算額：858,000 円) / 18件分)						
2016年度	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	5/28 (土)	岩内町	30	
	人と人が結びつき盛り上がりつつあるある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	7/ 3 (日)	標津町	30	
	障害者の虐待防止と差別	田中 耕一郎	8/ 2 (火)	遠軽町	100	
	人と人が結びつき盛り上がりつつあるある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	8/ 3 (水)	音更町	120	
	地域の支援計画に基づいた地域福祉活動(小地域ネットワーク活動)等の仕掛けの作り方	岡田 直人	8/10 (水)	幕別町	30	
	地産地消文化を推進するためのコミュニティレストラン	杉岡 直人	8/18 (木)	稚内市	15	
	人と人が結びつき盛り上がりつつあるある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	8/30 (火)	黒松内町	30	
	地域の支援計画に基づいた地域福祉活動(小地域ネットワーク活動)等の仕掛けの作り方	岡田 直人	9/ 2 (金)	岩内町	15	
	演習：基本的なコミュニケーションと傾聴	栗山 隆	10/ 6 (木)	遠別町	30	
	乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する	牧田 浩一	10/19 (水)	砂川市	15	
	カンファレンス-子ども虐待をめぐって-	栗山 隆	10/27 (木)	函館市	20	
	発達障害(がい)の理解と支援	田実 潔	10/29 (土)	稚内市	100	
	人と人が結びつき盛り上がりつつあるある連合町内会の仕掛け	岡田 直人	11/20 (日)	興部町	50	
	障害者の虐待防止と差別解消に向けて	田中 耕一郎	2/13 (月)	札幌市	25	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	3/ 9 (木)	新篠津村	30	
	所要経費等 (15件分) 支出額 790,446 円 (予算額：908,000 円) / 15件分)					
	2017年度	今後の地域福祉のあり方 -全国の先進地域から学ぶ-	岡田 直人	6/26 (月)	滝上町	43
乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する		牧田 浩一	7/1 (土)	鹿追町	30	
乳幼児期(0歳～3歳)の子どもを理解する		牧田 浩一	7/19 (水)	真狩村	30	
「幸福」とは何か		ネンジュティール	7/21 (金)	由仁町	35	
町内会の加入促進と担い手育成		岡田 直人	8/3 (木)	札幌市	169	
地域包括ケアとまちづくり		杉岡 直人	8/7 (月)	音更町	126	
今後の地域福祉のあり方 -全国の先進地域から学ぶ-		岡田 直人	8/12 (土)	むかわ町	43	
利用者・家族からの支援に対する要求や苦情		中村 和彦	8/22 (火)	福島町	40	
ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修		今川 民雄	9/6 (水)	恵庭市	10	
ふれあいサロン活動の進め方 ～継続と活性化に向けた～		岡田 直人	9/27 (水)	八雲町	42	
事例検討 ソーシャルワーク実践のポイントを振り返る		中村 和彦	10/7 (土)	稚内市	30	
演習：対人援助の基礎・自他の価値観		栗山 隆	11/9 (木)	札幌市	20	
発達障害の理解と支援		田実 潔	11/15 (水)	紋別市	50	
演習：対人援助の基礎・自他の価値観		栗山 隆	11/28 (火)	札幌市	20	
「利用者の自己決定」からソーシャルワークを考える		中村 和彦	12/5 (火)	芦別市	35	
地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて		岡田 直人	12/9 (土)	標茶町	92	
障害者運動は何を訴えてきたのか-日本とイギリスの障害者運動史から-		田中 耕一郎	12/16 (土)	札幌市	40	
社会福祉実習におけるスーパービジョン	伊藤 新一郎	1/24 (水)	札幌市	20		
所要経費等 (18件分) 支出額 852,126 円 (予算額：858,000 円) / 18件分)						

3 社会福祉学部地域連携事業の開催状況

[2014年度～2018年度]

(表Ⅺ-3-②)

2018年度	地域への支え合い活動へのアクティブシニアの参加に向けて	岡田 直人	6/25(金)	足寄町	30	
	障害者運動は何を訴えてきたのか	田中 耕一郎	7/17(火)	岩見沢市	80	
	被虐待児の心理～子どもの心の治療～	牧田 浩一	7/19(木)	長沼町	45	
	地域包括ケアとまちづくり	杉岡 直人	7/6(金)	池田町	120	
	町内会活動にどう関わればいいのか	杉岡 直人	8/29(水)	音更町	150	
	お金をもらうボランティア活動の捉え方	杉岡 直人	8/30(木)	釧路市	50	
	発達障害の理解と支援	田実 潔	10/11(木)	札幌市内	21	
	人と人が結びつき盛り上がっている連合町内会の仕掛け	岡田 直人	10/12(金)	滝川市	100	
	障害者運動は何を訴えてきたのか	田中 耕一郎	10/14(日)	新ひだか町	68	
	ワークショップ：傾聴の姿勢を身につけるための研修	今川 民雄	10/24(水)	帯広市	40	
	地域の支え合い活動への地域住民の参加に向けて	岡田 直人	10/28(日)	松前町	80	
	発達障害(がい)の理解と支援	田実 潔	10/30(火)	岩見沢市	22	
	思春期の心理を理解する	牧田 浩一	11/23(金)	登別市	21	
	親子の愛着形成と思春期に大切なこと	牧田 浩一	11/5(月)	紋別市	56	
	英国障害者運動と社会モデルの考え方	田中 耕一郎	12/1(土)	札幌市	40	
	わが国における社会福祉理論の歴史と展望	佐橋 克彦	12/21(金)	札幌市内	30	
	町内会活動にどう関わればいいのか	杉岡 直人	12/5(木)	札幌市内	30	
	地域の支え合い活動への新たな住民ボランティアの参加に向けて ～ふくしでまちづくりで地域共生社会の実現を～	岡田 直人	3/2(土)	紋別市	60	
	所要経費等(18件分) 支出額 848,728 円(予算額: 840,000 円/18件分)					

4 障害児教育夏季セミナーの開催状況

[2014年度～2018年度]

(表ⅩⅠ-4)

年度	通算	メインテーマ及び講座名 (担当者)	開催期間等	担当学科等	受講費及び受講者数等
2014年度	10	メインテーマ「発達障害児の理解と支援の在り方」 基調講演 『発達障害児の理解と支援の在り方 一気になる・困った行動から読み解く包括的支援～』 藤原 義博 対談・事例研究 『主体性をはぐくむための教育的支援とは』 藤原 義博、田実 潔 司会(質疑・応答)：藤原 里佐	8/6(水) 【大学】 8/7(木) 【帯広】	教職部門	一般 ¥1,000 × 314人 学生 ¥0 × 12人 職員 ¥0 × 3人 更新講習 60人 収入額 ¥314,000 支出額 ¥799,330 収支 ¥-485,330
2015年度	11	メインテーマ「障害のある人への生涯発達支援とは」 基調講演 『知的障害のある人への生涯発達支援 -キャリア教育と職業教育において、「態度」を育てる-』 菅野 敦 対談・事例研究 『生涯を見据えた教育的支援とは』 菅野 敦、田実 潔 司会(質疑・応答)：藤原 里佐	8/7(金)	教職部門	一般 ¥1,000 × 116人 学生 ¥0 × 9人 職員 ¥0 × 0人 更新講習 26人 収入額 ¥116,000 支出額 ¥385,265 収支 ¥-269,265
2016年度	12	メインテーマ「障害のある人への認知行動療法とは」 基調講演 『発達障害のある人への認知行動療法の基礎』 嶋田 洋徳 対談・事例研究 『教育現場でできる認知行動療法(仮)』 嶋田 洋徳、田実 潔 司会(質疑・応答)：藤原 里佐	8/9(火)	教職部門	一般 ¥1,000 × 189人 学生 ¥0 × 13人 職員 ¥0 × 0人 収入額 ¥189,000 支出額 ¥384,132 収支 ¥-195,132
2017年度	13	メインテーマ「気になる・困った行動への教育的支援の在り方」 基調講演Ⅰ 『気になる・困った行動への教育的支援の在り方Ⅰ』 藤原 義博 基調講演Ⅱ 『気になる・困った行動への教育的支援の在り方Ⅱ』 司会(質疑・応答)：田実 潔	8/7(月)	教職部門	一般 ¥1,000 × 262人 学生 ¥0 × 3人 職員 ¥0 × 0人 収入額 ¥262,000 支出額 ¥355,399 収支 ¥-93,399
2018年度	14	メインテーマ「発達障害のある児童生徒の具体的支援 ～将来の就労を見据えて今できること」 基調講演 『発達障害のある児童生徒の具体的支援』 梅永 雄二 対談・事例研究 『将来の進路や就労に向けて、今できる支援は何か』 梅永 雄二、田実 潔 司会：播磨 正一	8/8(水)	教職部門	一般 ¥1,000 × 191人 学生 ¥0 × 7人 職員 ¥0 × 4人 収入額 ¥191,000 支出額 ¥395,074 収支 ¥-204,074

5 学部別研究生の受入状況

[2014～2018]

単位 (人)

(表ⅩⅢ-5)

受入学部		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	備考
研究生	文学部	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0.4 (0.2)	()内は本学卒業生以外の内数
	経済学部	2 (0)	2 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	1.4 (0.2)	
	社会福祉学部	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0.6 (0.0)	
	短期大学部	2 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	1.4 (0.0)	
	計	6 (0)	3 (0)	5 (1)	2 (0)	3 (0)	3.8 (0.2)	

6 学部別科目等履修生の受入状況

[2014～2018]

単位 (人)

(表ⅩⅣ-6)

受入学部		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	5年間平均	備考	
科目等履修生	文学	特別	15	20	27	17	23	20.4	*後期出願者を含む
		特定	1	0	0	0	0	0.2	
		一般	*4	*4	3	3	0	2.8	
		学内	0	0	0	0	0	0.0	
	経済	特別	6	17	14	27	24	17.6	
		特定	0	0	1	0	2	0.6	
		一般	8	4	4	2	6	4.8	
		学内	0	0	0	0	0	0.0	
	社会福祉	特別	*10	5	3	13	27	11.6	*後期出願者を含む
		特定	0	0	0	1	0	0.2	*後期出願者を含む
		一般	3	2	*3	5	3	3.2	
		学内	0	1	3	3	13	4.0	
	短期大	特別	0	0	0	0	0	0.0	
		特定	/	/	/	/	/	/	
		一般	0	1	0	0	0	0.2	
		学内	/	/	/	/	/	/	
計	特別	31	42	44	57	74	49.6		
	特定	1	0	1	1	2	1.0		
	一般	15	11	10	0	0	7.2		
	学内	0	1	3	3	13	4.0		

※短期大学部科目等履修生(下線部)は、2016年度より“一般科目等履修生”となった。

※年度途中にて、履修の取消、停止、退学した数は除く

7 科目群別科目等履修生の受入状況

〔2014～2018〕

単位（人）

（表Ⅲ-7）

授業科目群		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	計	5年間平均	備考
大学共通科目	特別	22	27	31	50	69	199	39.8	
	特定	1	0	1	1	2	5	1.0	
	一般	4	1	2	0	3	10	2.0	
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
英文学科 専門教育科目	特別	2	3	1	0	2	8	1.6	
	特定	1	0	0	0	0	1	0.2	
	一般	2	3	1	1	0	7	1.4	
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
心理・応用 コミュニケーション学科 専門教育科目	特別	*2	6	2	2	1	13	2.6	*後期出願の科目を含む
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0	
	一般	0	0	0	1	0	1	0.2	
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
経済学科 専門教育科目	特別	0	2	3	1	0	6	1.2	
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0	
	一般	4	1	3	3	1	12	2.4	
	学内	0	0	2	0	0	2	0.4	
経営情報学科 専門教育科目	特別	0	0	0	1	1	2	0.4	
	特定	0	0	1	0	1	2	0.4	
	一般	1	1	2	0	2	6	1.2	
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
経済法学科 専門教育科目	特別	0	0	2	0	0	2	0.4	
	特定	0	0	1	0	1	2	0.4	
	一般	0	0	0	0	2	2	0.4	
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
福祉計画学科 専門教育科目	特別	2	1	3	2	0	8	1.6	
	特定	0	0	0	1	0	1	0.2	
	一般	1	1	0	1	1	4	0.8	
	学内	0	0	0	0	6	6	1.2	
福祉臨床学科 専門教育科目	特別	*4	1	1	6	3	15	3.0	*後期出願の科目を含む
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0	
	一般	3	3	1	2	0	9	1.8	
	学内	0	1	1	0	0	2	0.4	
福祉心理学科 専門教育科目	特別	*3	1	1	5	0	10	2.0	*後期出願の科目を含む
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0	
	一般	1	1	1	1	0	4	0.8	
	学内	0	0	0	0	8	8	1.6	
教職課程科目	特別	8	11	8	9	12	48	9.6	
	特定	0	0	0	0	0	0	0.0	
	一般	8	4	5	6	4	29	5.8	*後期出願の科目を含む
	学内	0	0	0	0	0	0	0.0	
国際交流科目	特別								
	特定								
	一般	*1	1	0	0	0	2	0.4	*後期出願の科目を含む
	学内								
短期大学部科目	特別	0	0	0	0	0	3	0.6	*札幌圏単位互換協定による履修である
	特定								
	一般								
	学内								

8 各自治体との連携協定締結・協議状況〔2018年度〕

〈締結〉

(2019年3月31日現在) (表XII-8)

自治体名	対象	内容	締結年月日
栗山町	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部と栗山町との連携協定書	2007年12月21日
歌志内市	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部と歌志内市との連携協定書	2013年10月29日
札幌市厚別区 株式会社札幌 副都心開発公社	北星学園大学 北星学園大学短期大学部	北星学園大学及び北星学園短期大学部、株式会社副都心開発公社及び札幌市厚別区における三者の連携協力に関する協定	2008年12月21日
北海道教育委員会	北星学園大学	北海道教育委員会と北星学園大学との調査研究に関する協定	2014年3月28日
札幌市	北星学園大学	札幌市営住宅の北星学園大学・北星学園大学短期大学部の学生への提供についての協定書	2017年11月27日
後志振興局	北星学園大学短期大学部	北海道後志総合振興局・北星学園大学短期大学部によるグローバル人材育成に係る連携・協力に関する協定書	2018年7月23日

〈協議中〉

自治体名	対象	内容	締結年月日
新ひだか町	北星学園大学 文学部英文学科	新ひだか町姉妹都市、米国レキシントン市親善訪問団の新ひだか町訪問に際し、本学英文学科から学生1名を通訳ボランティアとして、札幌視察時のサポートとして学生3名を派遣した。(7/15～7/20) また、新ひだか町からの米国友好親善訪問団とともに、語学サポートボランティアとして学生1名を派遣した。(3/22～4/1)	-

9 各自治体との連携事業実施状況〔2018年度〕

(表XII-9-①)

自治体名	日 程	内 容	備考・場所	参加者数
歌志内市	10月18日	歌志内市高齢者大学「チロル学園」講演会 本学中村浩教授	歌志内市	20名
	10月27日	歌志内市コミュニティセンター「吹奏楽コンサート」 本学吹奏楽部演奏	歌志内市	吹奏楽部学生参加 32名
	9月27日	「まちづくりシンポジウム2018」基調講演会 本学 杉岡直人教授参加	歌志内市	80名
厚別区及び 札幌副都心開 発公社	9月12日	CCRC事業 キャンパスタウン厚別 1講 ワークショップ おせっかいやきになろう	本学	46名
	9月14日	2講 高齢者の社会参加の意義 本学 岡田直人教授	本学	41名
	9月19日	3講 地域福祉において必要とされている活動について	本学	42名
	9月21日	4講 地域コミュニティとしての町内会や地域活動	本学	42名
	9月26日	5講 高齢者に必要な法知識 ～終活サポート	本学	39名
	9月28日	6講 厚別区の町内会やその住民団体を知ろう	本学	39名
	10月3日	7講 様々な活動を知る ～元気で過ごすために	本学	42名
	4月25日	「第9回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」実施打合せ	新札幌アーケシテイ	—
	11月10日	「第9回みんなの！新さっぽろフォトコンテスト」表彰式・展示会	新札幌アーケシテイ	—
	4月25日	キャンパスタウン厚別同窓会 第1回	本学	12名
	5月19日	キャンパスタウン厚別同窓会 第2回	本学	11名
	6月27日	キャンパスタウン厚別同窓会 第3回	本学	12名
	7月25日	キャンパスタウン厚別同窓会 第4回	本学	11名
	8月22日	キャンパスタウン厚別同窓会 第5回	本学	8名
	9月29日	キャンパスタウン厚別同窓会 第6回	本学	7名
	10月24日	キャンパスタウン厚別同窓会 第7回	本学	25名
	11月21日	キャンパスタウン厚別同窓会 第8回	本学	20名
	12月2日	キャンパスタウン厚別同窓会 第9回	本学	16名
1月29日	キャンパスタウン厚別同窓会 第10回	本学	22名	
2月27日	キャンパスタウン厚別同窓会 第11回	本学	20名	
3月27日	キャンパスタウン厚別同窓会 第12回	本学	15名	
新ひだか町	6月4日	新ひだか町国際交流事業に対する、本学学生ボランティア 派遣依頼	—	—
	7月14日～23日	レキシントン市からの友好親善訪問団による新ひだか町滞在及び 札幌視察に同行し、通訳ボランティア等を行う	新ひだか町 及び札幌	10名 訪問団 6名 本学学生
	3月22日～4月1日	新ひだか町からのレキシントン市友好親善訪問団派遣事業に係る 語学サポート(学生)の紹介について	レキシントン ロサンゼルス	1名
札幌市	10月12日	札幌市における「大学生・短期大学生への市営住宅提供事業」に ついて打ち合わせ	札幌市役所	—
	12月10日	もみじ台団地入居説明会	本学	—
	1月9日	もみじ台団地物件内覧・説明	もみじ台団地	—
	1月29日	入居面接及び新入生向けの募集対応等について打合せ	本学	—
	3月12日	もみじ台団地物件内覧・説明	もみじ台団地	—
	3月18日	入居面接及び次年度に向けての打合せ	本学	—
	3月26日	入居者説明会(札幌市・本学・町内会)	もみじ台団地	札幌市2名 本学1名・学生3名 町内会3名

その他連携事業実施状況〔2018年度〕

(表XII-9-②)

自治体名	日 程	内 容	備考・場所	参加者数
大谷地東 小学校	9月12日	大谷地東小3年生「町はかせになろう」	本学	地震の影響で中止
北野中学校	11月15日	北野中学校「総合的な学習の時間」における職場体験 学習の受入れ	本学	6名

10 後援会総会・地区別父母懇談会 開催状況[2018年度]

(表XII-10-①)

日程	後援会総会・懇親会		地区別父母懇談会									
	5月26日(土)		6月30日(土)		8月25日(土)	8月26日(日)						
地区	札幌		札幌		北見	旭川						
会場	北星学園大学		北星学園大学		ホテル黒部	星野リゾートOM07旭川						
父母出席人数 (出席組数)	122		166 (124)		33 (23)	56 (39)						
派遣教職員人数 (後援会役員含まない)	34		66		17	21						
学長 副学長	大坊 郁夫 鈴木 剛		大坊 郁夫		鈴木 剛	鈴木 剛						
学部長	藁内 豊 原島 正衛 田中 耕一郎 竹村 雅史		原島 正衛		田中 耕一郎	原島 正衛						
局次部長	桑原 大幸 山本 一博		桑原 大幸 笠松 英雄		笠松 英雄	笠松 英雄						
教員	日高 嘉彦 阪井 宏 高橋 克依 田辺 毅彦 勝村 務 林 秀彦 長屋 幸世 佐橋 克彦 田澤 安弘 白鳥 金吾 遠藤 太郎		ピーターグレイ 長谷川 典子 J.ラケット 柳町 智治 江口 均 中地 美枝 島田 桂子 斎藤 彩世 濱 保久 阪井 宏 石川 悟 片岡 徹 柿原 久仁佳 濱 文章 萱野 智篤 修 震傑 浦野 真理子 野原 克仁 山口 博教 大原 昌明 韓 文熙 増田 辰良 足立 清人 萩原 浩太 竹田 恒規 ネンシュティール		安部 雅仁 佐橋 克彦 中田 知生 伊藤 新一郎 林 健太郎 中村 和彦 永井 順子 大友 秀治 西山 薫 鴨澤 あかね 佐藤 祐基 グティングス マッシューJ.コッター 内山 智 遠藤 太郎 川部 大輔 風戸 真理 藤木 晶子		高橋 克依 柳町 智治 濱 文章 修 震傑 林 秀彦 山邑 紘史 中田 知生 鴨澤 あかね カートアッカーマン 藤木 晶子		高橋 克依 斎藤 彩世 片岡 徹 濱 文章 萱野 智篤 修 震傑 佐藤 友暁 篠田 優 栗山 隆 鴨澤 あかね 牧田 浩一 カートアッカーマン			
後援会役員	深澤 秀則 佐藤 順子		中村 千津子		深澤 秀則		深澤 秀則		中村 千津子			
職員	越江 真理 藤巻 大祐 久保田 貴仁 横山 学 清野 水香 遠藤 潤 高橋 麻里子 竹島 浩一 宮川 淳子 鈴木 克知		川原 靖彦 岐土 達朗 西藤 陽子 鈴木 峰子 山下 美咲		川原 靖彦 岐土 達朗 西藤 陽子 鈴木 峰子 山下 美咲 鹿熊 裕志 幸松 紘史 北村 修一 國仙 雅子 村上 浩俊		黒田 康平 佐野 和眞 長澤 史栄 加藤 優子 小塚 賢 木澤 賢人 太田 広 長谷川 万里子		川原 靖彦 西藤 陽子 佐野 和眞 高橋 麻里子		川原 靖彦 西藤 陽子 山下 友一 佐野 和眞 長澤 史栄 高橋 麻里子	
備考												

10 後援会総会・地区別父母懇談会 開催状況[2018年度]

(表XII-10-②)

地区別父母懇談会						
日程	9月1日(土)	9月2日(日)	9月8日(土)	9月9日(日)	10月27日(土)	
地区	釧路	帯広	函館	苫小牧	札幌	
会場	釧路プリンスホテル	ホテルグランテラス帯広			北星学園大学	
父母出席人数 (出席組数)	10 (8)	30 (23)	0	0	270 (195)	
派遣教職員人数 (後援会役員含まない)	11	15	0	0	78	
学長 副学長	大坊 郁夫	大坊 郁夫			鈴木 剛	
学部長	蓑内 豊	蓑内 豊			田中 耕一郎	
局次部長		桑原 大幸			山本 一博 笠松 英雄	
教員	濱 保久 渡邊 稔 韓 文熙 篠田 優 岡田 直人	中地 美枝 濱 保久 渡邊 稔 韓 文熙 岩本 一郎 岡田 直人 大友 秀治 ジャンF.マウン			長谷川 典子 J.ラケット 高橋 克依 高野 照司 柳町 智治 江口 均 中地 美枝 島田 桂子 斎藤 彩世 濱 保久 田辺 毅彦 阪井 宏 石川 悟 萱野 智篤 修 震傑 浦野 真理子 野本 啓介 勝村 務 野原 克仁 楠木 敦 西脇 隆二 鈴木 克典 佐藤 友暁 多田 和美 鎌田 直矢 黄 雅雯 増田 辰良 篠田 優 岩本 一郎	伊東 尚美 竹田 恒規 山邑 紘史 安部 雅仁 岡田 直人 中田 知生 伊藤 新一郎 松岡 是伸 池田 雅子 畑 亮輔 栗林 克匡 田澤 安弘 牧田 浩一 坂内 正 森越 京子 ジャンF.マウン 白鳥 金吾 カートアッカーマン マシューJ.コッター トムソン・ヘイディ 内山 智 遠藤 太郎 川部 大輔 藤木 晶子 山本 慎平
後援会役員		深澤 秀則			深澤 秀則	
職員	川原 靖彦 岐土 達朗 鈴木 克知 小塚 賢	川原 靖彦 岐土 達朗 鈴木 克知 小塚 賢			川原 靖彦 岐土 達朗 西藤 陽子 鈴木 峰子 瀬野 綾佳 今 康昭 葛西 順平 伊藤 修 森吉 佑太 蔭川 亮太	富野 千咲 鈴木 克知 和真 長澤 史栄 加藤 優子 小塚 賢 木澤 賢人 太田 広 長谷川 万里子
備考			北海道胆振東部 地震の影響により中止	北海道胆振東部 地震の影響により中止		

11 同窓会各支部懇親会開催状況〔2018年度〕

(表XII-11)

日程	8月25日(土)	9月1日(土)	9月2日(日)	9月8日(土)	9月22日(土)	10月20日(土)	11月10日(土)	12月1日(土)
地区	北見	釧路	帯広	函館	旭川	札幌	東京	千歳
会場	北味グルメランド 治助	釧路市生涯学習セ ンターまなぼっと	夜光杯 帯広駅前店		アートホテルズ 旭川	ANAクラウンプラ ザ札幌	アルカディア市ケ 谷	海老天
全参加人数	44名	56名	41名	0名	20名	140名	32名	22名
同窓生 参加人数 (現教職員・同窓 会役員除く)	27名	41名	27名	0名	14名	88名	26名	16名
学園役員						大山 綱夫 樋田 繁治郎		
学長 副学長	鈴木 剛	大坊 郁夫	大坊 郁夫		大坊 郁夫	大坊 郁夫	大坊 郁夫	
学部長	田中 耕一郎	蓑内 豊			田中 耕一郎	蓑内 豊 竹村 雅史	竹村 雅史	竹村 雅史
局次部長	笠松 英雄	桑原 大幸	桑原 大幸		笠松 英雄	桑原 大幸 山本 一博 笠松 英雄	山本 一博	桑原 大幸
教員	濱 文章 林 秀彦 山邑 紘史 鴨澤 あかね カートアッカーマン 藤木 晶子	濱 保久 韓 文熙 篠田 優 岡田 直人	濱 保久 韓 文熙 岩本 一郎 岡田 直人 大友 秀治			日高 嘉彦 阪井 宏 西脇 隆二 山我 哲雄 岡田 直人 □ 雅□ 池田 雅子 鈴木 克典 牧田 浩一		
後援会役員	深澤 秀則会長		深澤 秀則会長					
同窓会役員	松倉 千春会長 北本 佳子幹事 駒ヶ嶺 剛史幹事	佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長 小村 知江子幹事	佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長 山鹿 貴子幹事		佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長 小村 知江子幹事	松倉 千春会長 佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長	佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長	松倉 千春会長 佐藤 桂子副会長 森谷 恭一副会長 小村 知江子幹事
職員	佐野 和真 高橋 麻里子 川原 靖彦 西藤 陽子	鈴木 克知 小塚 賢 川原 靖彦 岐土 達朗	小塚 賢 川原 靖彦 岐土 達朗			加藤 優子 鈴木 峰子 西藤 陽子 高橋 麻里子 畠山 美保 奥井 裕紀 山下 美咲 久保田 貴仁 山下 友一 小野 咲花 横山 学 川原 靖彦 岐土 達朗 伊藤 修 鈴木 克知 小塚 賢 木村 哲晃 藤巻 大祐 木澤 賢人 桐山 城太郎 川田 麻里奈 小原 由樹 林上 由希菜	鈴木 克知	
備考			来賓：釧路市長 蝦名大也氏	北海道胆振東部 地震により中止				

[2016～2018]

(表XII-12)

	日 程	コ ン サ ー ト ・ 講 演 会 名	場 所	内 容	来 場 者 数
2016年度	6/27(日)	HBC少年少女合唱団 チャペルコンサート	チャペル	音楽コンサート	229
	10/2(日)	保田 紀子 パイプオルガンコンサート	チャペル	パイプオルガン コンサート	177
	10/29(土)	西村 淳 講演会 知らない世界の話をしよう	A教室	講演会	122
	12/11(日)	同窓会プロジェクト設立20周年 工藤 重典 フルートコンサート	チャペル	音楽コンサート	224
2017年度	6/17(土)	オペラ・OPERA・オペラ in 北星 No.11 ～こんにちは！オペラ！～	チャペル	オペラコンサート	151
	9/16(土)	TENGO 情熱ライブ 後藤ミホコ 天野紀子	チャペル	音楽コンサート	164
	11/4(土)	絵本作家 長谷川 義史 講演会 絵本で子どもたちに伝えたいこと	A教室	講演会	189
	12/9(土)	ムジカ・アンティカ・サッポロコンサート 哀しみの聖母	チャペル	音楽コンサート	222
2018年度	5/19(土)	パイプオルガンコンサート ヨーロッパ大陸のオルガン音楽の 300年	チャペル	パイプオルガン コンサート	312
	9/29(土)	ホンヤミカコ 秋のおカリナコンサート	チャペル	音楽コンサート	236
	12/2(日)	石川祐支&大平由美子デュオ・コンサ ート ～Advent (待降節) によせて～	チャペル	音楽コンサート	312
平均参加者数					212.5

ⅩⅢ その他必要な事項に関すること

1 各種講座受講者状況[2018年度]

(表ⅩⅢ-1)

	講座名	前期			後期			計		
		クラス数	受講者数	学生(内数)	クラス数	受講者数	学生(内数)	クラス数	受講者数	学生(内数)
1	ゼロから始めるやさしい英会話	1	8		1	10		2	18	
2	はじめての英会話	2	22		2	21		4	43	
3	英会話入門(キフ先生)	1	16		1	12		2	28	
4	英会話入門(カートニー先生)	1	10		1	13		2	23	
5	英会話初級(ボゼア先生)	1	15		1	15		2	30	
6	英会話初級(ホイット先生)	1	12		1	6	1	2	18	1
7	英会話初級(ハリー先生)	1	14		1	13		2	27	
8	英会話中級Ⅰ(ハリー先生)	1	14	2	1	15		2	29	2
9	英会話中級Ⅰ(バーズ先生)	1	15	1	1	15		2	30	1
10	英会話中級Ⅱ(マロック先生)	1	13	5	1	6		2	19	5
11	英会話中級Ⅱ(カートニー先生)	1	10		1	7		2	17	
12	英会話上級(ホイット先生)	1	10	1	1	10	1	2	20	2
13	英会話上級(カートニー先生)	1	13		1	12		2	25	
14	ドイツ語初級	1	9		1	10		2	19	
15	ドイツ語中級	1	14		1	11		2	25	
16	フランス語初級	1	8		1	5		2	13	
17	中国語入門	1	8	1	1	7		2	15	1
18	中国語初級	1	6					1	6	
19	実用中国語	1	10	1	1	9	1	2	19	2
20	ハンガール入門	1	5	4				1	5	4
21	ハンガール初級	1	9	1	1	9	1	2	18	2
22	ハンガール中級Ⅱ	1	8		1	3		2	11	
23	ハンガール上級	1	5	2				1	5	2
24	ハンガール上級・応用編	1	7		1	7	1	2	14	1
25	ラテン語初中級	1	9		1	8		2	17	
26	スペイン語入門Ⅰ	1	5	2	1	3	2	2	8	4
27	スペイン語入門Ⅱ	1	2	2	1	1	1	2	3	3
28	Travel English Plus	1	16		1	15		2	31	
29	Study and Test Skills(英検準1級/高レベルTOEFLなど)	1	30	8	1	17	1	2	47	9
30	シニアのための再チャレンジ英会話	1	14		1	12		2	26	
31	フレーズで覚えるやさしい英会話	1	11		1	9		2	20	
32	Word2016スペシャリスト	2	19	19	1	13	13	3	32	32
33	Excel2016スペシャリスト	2	30	26	1	15	15	3	45	41
34	PowerPoint2016(集中)	1	8	8	1	2	2	2	10	10
35	社会福祉士国家試験受験 スタートアップ講座	1	65	65				1	65	65
36	社会福祉士国家試験対策講座	1	48	47				1	48	47
37	サービス接客検定2級	1	25	25				1	25	25
38	ビジネス実務マナー検定2級(集中)				1	5	5	1	5	5
39	総合旅行業務取扱管理者	1	6	6				1	6	6
40	総合[国内有資格者]旅行業務取扱管理者	1	3	3				1	3	3
41	国内旅行業務取扱管理者	1	11	11				1	11	11
42	秘書検定2級	1	38	38	1	5	5	2	43	43
43	3級FP技能士資格対策	1	7	6				1	7	6
44	教員採用試験対策講座				1	20	20	1	20	20
45	英語で味読する「ナルニア国物語—カスピアン王子の角笛」				1	6		1	6	
46	ワインづくりの一年を学ぶ	1	5					1	5	
47	経済指標でみる経済動向(中級編-1,2)				2	7		2	7	
48	経済学で読み解く地球環境問題	1	7					1	7	
49	東方キリスト教の珠玉-ニュッサのグレゴリオス「雅歌講話」-を味読する				1	5		1	5	
50	聖書を読む7	1	14					1	14	
		48	634	284	39	359	69	87	993	353

「自己点検評価資料」点検評価項目

I. 本学の在り方及び目標に関すること

【点検評価項目】

1 本学の基本的又は一般的目的について

- (1) 教育基本法、学校教育法、大学設置基準、短期大学設置基準、大学院設置基準との適合性がはかられているか。
- (2) 各年度の運営計画、運営総括は適切に設定、総括されているか。
- (3) 建学の理念に鑑みて、ミッションステートメント、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーは適切に定められ運用されているか。

2 教育研究活動における目的について

- (1) 大学、学部、大学院研究科設置の目的との関係において、実態はどうか。

3 教育活動（目的）に沿った人材育成について

- (1) 人間性・社会性・国際性豊かな人材育成のためにどのような教育・研究活動がなされるべきであり、またなされているか。
- (2) 具現化するための教育内容はどのように編成されているか。

4 キリスト教による人格教育について

- (1) キリスト教による人格教育を建学の精神とする目的との関係において、実態はどうか。
- (2) キリスト教による人格教育を具体化するための教育内容はどのように編成されているか。
- (3) キリスト教による人格教育を具体化するためのキリスト教職員の採用は、適切になされているか。

5 地域社会への寄与・貢献について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔社会連携事業・公開講座・出前講義・セミナー、生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
 - ④ 施設設備等の側面〔図書館、ホール、講堂・教室（学会等）、体育館（大会）等〕
- (2) 社会的要請に対応できているか。その妥当性、適切性はどうか。
 - ① 教育活動の側面から
 - ② 研究活動の側面から
 - ③ 社会活動の側面から

6 国際社会への寄与・貢献について

- (1) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔教員の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕
 - ② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入等〕

7 本学の目的等の社会的評価について

- (1) 社会的評価はどうか。
 - ① 自己評価
 - ② 認証評価機関による評価
 - ③ 他者（第三者）評価

II. 本学の管理運営の在り方及び組織並びに機構に関すること

【点検評価項目】

1 大学における意思決定の組織・機構について

- 各組織は、適切に組織され、機能を果たしているか。

2 大学の管理運営機構における意思決定について

各組織において審議決定事項が明確にされ、議案の審議、議案の採択・不採択等運営は適切になされているか。

3 大学における執行の組織について

各組織において機能、適性、選出方法、任期、補助組織等が明確にされ、適切に機能しているか。

4 事務職員について

- (1) 事務職員の機能・役割が明確にされ、有効にその役割が果たされているか。
- (2) 事務組織・運営体制は適切に組織化されているか。
- (3) 職員のSD研修は適切に開催され、また参加状況はどうか。

Ⅲ. 本学の財務、施設設備及び環境に関すること

[I 財務]

【点検評価項目】

1 学園（法人）財務と大学財務の関係について

- (1) 学園財務における大学財務の位置づけ（予算編成、決算処理方針）はどうか。
- (2) 会計単位としての大学財務の実態はどうであるか。
- (3) 学園機能と大学財務の関係はどうであるか。
- (4) 法人費操出金における、①各校分担比率、②各校予算内占有比率、③学園決算に対する自己監査等は適切であるのか。
- (5) 大学における資金造成のうち、①資金運用の妥当性、②寄付金等の収入、③収益事業の可能性等の実態はどうであるのか。
- (6) 大学における土地取得・利用・管理は適切であるか。

2 大学財務の構造について

[収入]

- (1) 学費に関して、①全収入に占める学費比率、②他大学との学費比較③支出の増加に対応する学費額の増加（学生たちの受益と負担の均衡との関係）、④全収入に占める人件費比率、及び研究費比率は妥当なものか。
- (2) 寄付金に関して、①募集の目的と活用方法、②募集組織・機構の整備、③活用による教育研究の成果、④冠（寄付）講座・研究助成の推進等の実態はどうなっており、それは適切であるか。
- (3) 国・公費助成・補助金に関して、①文部科学省科学研究費、②研究設備整備費、③私大等経常費補助費の実態はどうであるのか。
- (4) 施設設備使用料収入、特に施設設備の多角的活用と使用料徴収の実態はどうであるか。

[支出]

- (1) 人件費に関して、教育職員・事務職員人件費の実態はどうであり、それは適切であるか。
- (2) 教育研究経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (3) 管理経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (4) 施設関係経費の総額、その構成比は適切であるか。
- (5) その他

3 大学財務の管理について

- (1) 財務分析に関し、下記分析はどのように行っているか。
 - ① 単年度財務分析
 - ② 中・長期財務分析
 - ③ 財務構成比率分析
 - ④ 勘定構成分析

(2) 財務計画に関し、下記計画はどのように行っているか。

- ① 単年度財務計画
- ② 中・長期財務計画

4 大学財務の運営について

- (1) 予算編成に関し、①予算編成の原理、②予算編成の方法、③予算の決定手続、④補正予算の決定手続はどのように定められ、どのように行っているか。
- (2) 予算の執行に関し、①予算の執行体制、②予算統制、③執行責任、④予備費等の経費の効率的運用はどのように行っているか。
- (3) 決算に関し、①決算承認の手続、②決算の内部監査はどのように定められ、どのように行っているか。

5 大学財務の運営組織について

- (1) 予算編成の組織はどのように定められているか。
- (2) 予算執行の組織はどのように定められているか。
- (3) 監査の組織はどのように定められているか。

[Ⅱ 施設設備及び環境]

【点検評価項目】

1 校地とその整備状況について

- (1) キャンパスプラン、総合的将来構想はどのようになっているか。特に、①キャンパスレイアウト（美観、機能性）は適切であるか。②バリアフリーへの対応状況は適切であるか。

2 施設とその整備状況について（図書館を除く）

- (1) 建築物の美観、機能性、安全性はどうか。
- (2) 施設の利用状況に関し、①教室（講義室、演習室、実験室、情報処理実習室等）の種類・総面積、室数、②学生一人当たりの面積、使用頻度等の実情はどうか、それは適切であるか。
- (3) 施設の維持・保守・管理は適切に行っているか。

3 設備とその整備状況について

- (1) 設備の機能、安全性はどのように果たされているか。
- (2) 設備の維持・保守・管理はどのように行っているか。
- (3) 情報・通信教育機器の接続環境はどう図られているか。

4 環境について

- (1) 教育環境、研究環境、学習環境は適切であるか。
- (2) 職場環境、学生生活環境は適切であるか。
- (3) 庭園、芝生、樹木、キャンパス内通路整備・通行規制、駐車場の整備・規制、騒音規制、清掃、禁煙指導等は適切であるか。

IV. 本学の教育研究活動等の在り方及び目標に関すること

【点検評価項目】

1 教育研究活動における目的について

- (1) 学部（学科）、大学院研究科の設置目的、教育・研究目標、水準はどのようなものであるか。
- (2) 教育職員の研修費執行は適切になされているか。
- (3) 教育職員の国内外研修及びサバティカルは適切に取得されているか。
- (4) 教育職員のFD研修は適切に開催され、また参加状況はどうか。

2 教育活動に沿った人材育成について

- (1) 学部（学科）、大学院研究科ではどのような人材育成を目指しているか。
- (2) 具現化するための教育内容水準はどのような実態であるか。

3 学部（学科）、大学院研究科が果たす社会的役割について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔公開講座・セミナー・生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
- (2) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔教育の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕
 - ② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入等〕

4 本学の目的等の社会的評価について

- (1) 社会的要請に対応できているか。その適切性はどうか。
 - ① 教育活動の側面から
 - ② 研究活動の側面から
 - ③ 社会活動の側面から

V. 本学の教育課程、教育組織及び教育活動に関すること

[I 教育課程、教育活動]

【点検評価項目】

〔学部（学科）〕

1 専門教育科目の教育課程の構成について

- (1) 「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法との適合性は図られているか。
- (2) 学部（学科）の目的に従い、適切・効果的に編成されているか。
- (3) 授業科目数並びに卒業所要総単位に占める専門教育授業科目の割合は適切であるか。
- (4) 授業科目はシラバスに則った展開がなされているか。
- (5) 授業科目は、カリキュラム・ポリシーに則って設定されているか。

2 大学共通科目部門の教育課程について

〔大学〕

- (1) 「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮は適切になされているか。
- (2) 「人間科学」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (3) 「人間科学と人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (4) 「自然・科学技術・人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (5) 「社会と人間」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (6) 「地域と文化」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (7) 「宗教と文化」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (8) 「演習科目」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (9) 「総合講義」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (10) 「キャリア教育」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (11) 「日本語」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

- (12) 「情報科目」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (13) 「外国語」の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

〔短期大学部〕

- (1) 「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮は適切になされているか。
- (2) 基礎教養科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (3) 外国語科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (4) 保健体育科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。
- (5) キリスト教科目の目的及び編成原理は明確にされ、それに基づいて教育課程が編成されているか。

3 教職課程科目の教育課程について

- (1) 教育職員免許法、教育職員免許法施行令等の教員免許関係法令との適合性ははかられているか。
 - ① 授業科目の開設・展開は適切であるか。
 - ② 担当教育職員の配置は適切であるか。
- (2) 教職部門会議の組織・体制は適切であるか。
- (3) ①教職部門長、②教職部門会議、③教育支援課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (4) 教育実習は適切に展開され、その体制は適切に組織されているか。
 - ① 実習先は十分確保されているか。
 - ② 実習ガイダンス（事前、事後指導）は適切であるか。

4 外国語教育と言語部門会議の関係について

- (1) ①言語教育部門長、②言語教育部門会議、③教育支援課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (2) 言語教育部門会議と共通科目部門会議との連携は適切であるか。
- (3) 「国際化等の進展に適切に対応するための外国語能力の育成」のための教育課程が適切に展開されているか。

5 情報処理教育と総合情報センターの関係について

- (1) 総合情報センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (2) ①総合情報センター長、②総合情報センター運営委員会、③情報システム課はそれぞれの役割を十分果たしているか。
- (3) 総合情報センター運営委員会と共通科目部門会議との連携は適切になされているか。
- (4) 「情報化等の進展に適切に対応するための情報処理能力の育成」のための教育課程が適切に展開されているか。

6 国際教育と国際教育センターの関係について

- (1) 国際教育センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (2) 国際交流関係科目は、本学の国際交流の基本理念を踏まえ、体系的に開設されているか。
- (3) 国際交流関係科目の展開（授業担当者・授業内容・授業規模、登録・履修・単位の取得状況など）は、適切になされているか。

7 学習支援委員会とラーニング・コモンズの関係について

- (1) ラーニング・コモンズは設置目的に従い、機能しているか。

8 授業科目の展開方法について（専門及び大学共通）

- (1) 授業科目の種類（必修か選択）と開設比率は適切であるか。
- (2) 授業科目の関連性は適切であるか。（概論・総論から各論へ、または積上げ等）
- (3) 授業科目の年次配当、展開期（前・後・通年）は開設の目的との関係において適切であるか。

9 授業科目の展開形態について（専門及び大学共通）

- (1) 授業形態と授業時間数（単位数）の関係は適切であるか。
 - ① 講義、総合講義、演習、実習、実験の授業時間数と単位数は適切であるか。
- (2) 授業規模は授業形態との関連において適切であるか。
 - ① 講義、総合講義、演習、実習、実験の授業規模は適切であるか。
- (3) ティーチング・アシスタント制度の活用は有効になされているか。

10 授業方法について

- (1) 各授業科目の教授内容及び範囲は適切であるか。（全授業科目）
- (2) 授業の展開は適切であるか。
 - ① シラバスは有効活用がなされているか。
 - ② 授業方法の工夫（ICT 機材の活用等）はどのようになされているか。

11 教育水準及び評価について

- (1) 各授業科目の教育水準をどのように定めているのか（学生に求める到達期待値はどの程度か）。
- (2) 成績評価基準をどのように設定しているか。
 - ① 評価の客観性はどのように担保されているか。
 - ② 単位認定は適切であるか。
 - ③ GPA 制度による成績評価は適切であるか。

12 修学指導について

- (1) 授業科目の教授内容、履修方法、授業計画を示したシラバスは、学生の理解を深めるために適切に編集・公開されているか。
- (2) 卒業論文指導、卒業課題研究指導等の教科指導は適切な方法によって行われているか。
- (3) 修学指導体制は適切であるか。担任制、アドバイザーシステム等の導入は必要か。
- (4) 成績不良者への対応は適切であるか。
- (5) 保護者との連携をどう図っていくか。
- (6) 社会人学生に対しての教育上の配慮は適切であるか。
- (7) 編入学生に対しての教育上の配慮は適切であるか。
- (8) 外国人留学生に対しての教育上の配慮（日本語教育等）は適切であるか。
- (9) 障害をもった学生に対して教育上の合理的配慮がなされているか。

13 既修得単位取得者の対応について

- (1) 既修得単位の認定の基準方法は適切であるか。
- (2) 編入学生に対しての既修得単位認定は適切であるか。

〔大学院〕

1 教育課程の構成について

- (1) 修士課程において「広い視野に立って精深な学識を授け、専攻における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養う」という目的との適合性がはかられているか。
- (2) 博士課程において「専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の専門的な業務に従事する必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う」という目的との適合性がはかられているか。
- (3) 研究科の目的に従い適切に編成されているか。
- (4) 授業科目は、修了要件・カリキュラム・ポリシーとの関係で適切であるか。

2 教育指導等について

- (1) 教育指導並びに学位論文の作成等を通じた研究指導は適切に行われているか。

3 社会人学生（リカレント入学生）に対する教育課程編成、教育研究指導への配慮について

- (1) 社会人学生への教育研究指導は適切に行われているか。

4 学位について

- (1) 修士の学位の授与状況と学位の授与方針・基準は適切に行われているか。
- (2) 博士の学位の授与状況と学位の授与方針・基準は適切に行われているか。

[Ⅱ 教育組織]

【点検評価項目】

1 教員の適性配置について

- (1) 基準教員数に比して、教員の配置は適切であるか。
- (2) ①一人当たり授業科目数、②一人当たり学生数、③年齢構成は適切であるか。
- (3) 教員数は、学部（学科）等の目的を実現し、有効な教育研究活動を展開する上で、必要かつ十分な数であるかどうか。
- (4) 学部（学科）の再編成構想と人事構想との関連は適切であるか。

2 人的補助体制について

- (1) 実験・実習、外国語・情報処理教育を効果的に実施するための授業援助体制は適切に機能しているか。
- (2) ティーチング・アシスタント（TA）の採用基準は適切であり、授業援助機能は有効に働いているか。

3 教員人事について

- (1) 採用の基準及び手続は適切であるか。
- (2) 任免の基準及び手続は適切であるか。
- (3) 昇格の基準及び手続は適切であるか。
- (4) 定年の基準及び手続は適切であるか。
- (5) 人事は学部（学科）の教育活動目標に合致し適切に行われているか。

4 教育研究活動の評価について

- (1) 学部（学科）の目的を達成するための、内容・レベルに相応しい教育活動上の能力評価が適切になされているか。
- (2) 上記(1)が学生の学修の活性化及び教育研究上の能力向上にどのように貢献しているか。
- (3) モデルティーチング顕彰制度は適切に運用されているか。

Ⅵ. 本学の研究組織及び研究活動に関すること

【点検評価項目】

1 研究組織・研究体制について

- (1) 研究水準向上のための研究体制・条件は適切に構築されているか。

2 研究活動の検証システムについて

- (1) 教員の研究活動の活性度・質・水準を測定・評価をするシステムは有効に編成され、機能しているか。

3 研究活動状況について

- (1) 教員の研究活動として、研究成果の発表等は適切に行われているか。
- (2) 教員の研究活動として、学会発表等は適切に行われているか。

4 研究財政・施設面について

- (1) 教員の研究活動を支えるための財政・施設面での条件整備は適切になされているか。
 - ① 個人研究費は適切に利用されているか。
 - ② 学外研究費の獲得は適切であるか。
 - ③ 科学研究費助成事業等の応募、採択は適切であるか。
 - ④ 研究旅費は適切に利用されているか。
 - ⑤ 共同研究費は適切であるか。
 - ⑥ 研究室（広さ等）、研究用施設は適切であるか。

VII. 本学の学生の受入れに関すること

【点検評価項目】

1 入学者選抜の方針・方法について

- (1) 入学者選抜方針は、学部（各学科）の掲げる理念・目的、アドミッション・ポリシーが適切に反映したものと設定されているか。
- (2) 入学者選抜方針は、多様化する社会の要求に適切に応え、それに合致した入学者選抜がなされているか。
- (3) 入学希望者の区分に対応した選抜方法は適切になされているか。
- (4) 入学希望者の大学理解と入学希望につながる多面的な取り組みがなされているか。

2 入学者募集について

- (1) 学部（学科）の特色が、募集活動に適切に反映されているか。
- (2) 学部（学科）の特色を捉えた広報活動は適切であるか。
- (3) 入学者募集広報の方法は適切であるか。その効果は有効なものであるか。
- (4) 学園内高校との連携及び学園内進学者の状況は適切であるか。

3 入学定員・収容定員について

- (1) 学生の入学定員及び収容定員との関係において入学者数は適切であるか。

VIII. 本学の学生の課外活動、厚生及び就職に関すること

【点検評価項目】

1 学生生活一般について

- (1) 学生生活指導（ガイダンス）体制は適切に組織され行われているか。
- (2) 生活指導体制に関し、①学生支援委員長、②学生支援委員会、③学生生活支援課はその役割を有効に発揮しているか。
- (3) 学生生活上の要望聴取等の体制・運用は適切であるか。

2 生活環境について

- (1) 学生会館（食堂、ホール等）の維持・保全是適切であるか。
- (2) サークル棟、学生交流会館 Kirari の維持・保全是適切であるか。
- (3) 違反駐車、構内禁煙指導は適切であるか。

3 課外活動について

- (1) 学生自治会・体育会の諸活動の把握と指導は適切であるか。
- (2) 各サークルの諸活動の把握と指導は適切であるか。
- (3) 各サークルへの支援及び責任体制は有効に機能しているか。

4 学生相談・医務室について

- (1) 学生相談、医務室の体制は適切であるか。
- (2) 学生相談室は有効に機能しているか。
- (3) 学生の健康状況は適切に管理把握されているか。
- (4) 学生の健康保持・増進のための配慮は適切に行なわれているか。

5 アクセシビリティ支援室について

- (1) 支援対象者の相談体制は適切であるか。
- (2) アクセシビリティ支援室は有効に機能しているか。
- (3) 学生の授業支援は合理的配慮に基づいて行われているか。

5 奨学金について

- (1) 各種奨学金制度は適切であるか。
- (2) 奨学生の採用選考手続は、適切なものとして設定されているか。
- (3) 奨学生指導は適切に行われているか。

6 就職について

- (1) 就職指導（キャリアデザインプログラム）体制は適切に編成されているか。
 - ① 民間企業
 - ② 公務員

- ③ 教員
 - ④ 社会福祉施設等
 - ⑤ インターン
- (2) 就職指導体制に関し、①キャリアデザインセンター長、②キャリアデザイン支援委員会、③就職支援課はその役割を有効に発揮しているか。
 - (3) 求人情報の収集及び提供、求人開拓等は適切であるか。
 - ① 学生のニーズとの関連において求人開拓は適切であるか。
 - ② 就職後のフォローを十分行っているか。特に企業管理職、公務員管理職の状況は把握できているか。
 - ③ 卒業生との組織的連携は適切に行われているか。
 - ④ 各種国家試験対策のフォローは十分行っているか。
 - (4) 卒業延期者の対応は適切に行われているか。

IX. 本学の図書及び学術情報に関すること

【点検評価項目】

1 図書館の機能について

- (1) 大学設置基準第 38 条第 1 項、短期大学設置基準第 29 条第 1 項、大学院設置基準第 21 条との適合性がはかられているか。
- (2) 学術情報収集・保存・利用の提供機能は適切であるか。
- (3) 教育（教育課程の展開）への寄与機能は適切であるか。

2 図書館の運営組織について

- (1) 運営体制に関し、①図書館長、②司書課はその役割を有効に発揮しているか。

3 図書等の収集・保存について

- (1) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集方法は適切であるか。
 - ① 収集は、大学の理念・目的に沿って適切になされているか。
 - ② 収集は、学部（学科）の理念・目的、教育課程に沿って適切になされているか。
- (2) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集・選定方法は適切であるか。
- (3) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集・選定手続は適切であるか。
- (4) 図書・電子図書・資料・学術情報の収集は適切になされているか。
- (5) 利用提供に関し、他の大学図書館との協力は適切になされているか。

4 図書等の利用の提供について

- (1) 利用提供（レファレンス・サービス）は適切になされているか。
- (2) 利用提供指導体制（ガイダンス）は適切になされているか。
- (3) 研究活動への貢献は適切になされているか。
- (4) 教育活動への貢献は適切になされているか。

5 施設・設備等について

- (1) 閲覧座席数は教育・研究及び学生の学習のために充分であるか。
- (2) 開館時間は利用者に対して適切な配慮であるか。

6 図書館の社会的貢献について

- (1) 地域社会の開放ニーズへの対応は適切であるか。
- (2) 他大学・公共図書館との連携は適切になされているか。

X. 本学の宗教活動に関すること

【点検評価項目】

1 宗教活動について

- (1) 大学における宗教活動の意義・目的は明確化され、共通に意識化されているか。

2 建学の精神との関係について

- (1) キリスト教による人格教育を具体化するための「キリスト教（宗教）活動内容」は、適切であるか。〔礼拝及び宗教部主催各種行事の位置づけ等はどうか〕
- (2) キリスト教による人格教育を行う教職員の役割は何か。〔学長、チャプレン、一般教職員はどう関わっていくべきなのか。〕

3 スミス・ミッションセンターについて

- (1) スミス・ミッションセンター体制に関し、①スミス・ミッションセンター部長、②スミス・ミッションセンター運営委員会、③チャプレンはその役割を有効に発揮しているか。

4 スミス・ミッションセンター活動について

- (1) 各種行事（大学礼拝、記念講演会等）は、適切に行われているか。
- (2) 各種行事が宗教活動として「建学の精神」にどのように反映されているか。
- (3) 学生が主体的に活動するボランティア活動を適切に支援しているか。

5 チャペルについて

- (1) 大学のチャペルは、スミス・ミッションセンター活動の展開の場として有効に機能を果たしているか。

6 規程について

- (1) スミス・ミッションセンターの諸活動に関する規程が適切に整備されているか。

XI. 本学の国際交流に関すること

【点検評価項目】

1 国際交流の基本理念について

- (1) 国際交流の基本的方針はどうか。
- (2) 国際交流協定は適切であるか。
- (3) 国際交流に関する財源等はどうなっており、適切であるか。

2 国際交流の組織について

- (1) 国際教育センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (2) 運営に関し、①国際教育センター長、②国際教育推進委員会、③国際教育課はそれぞれの役割を十分果たしているか。

3 国際交流プログラム（派遣）について

- (1) 国際交流協定校との関係において適切であるか。
- (2) 派遣前・後の指導（ガイダンス）は適切であるか。
- (3) 認定単位読替・振替の基準・方法は適切であるか。

4 国際交流プログラム（受入）について

- (1) 国際交流協定校との関係において適切であるか。
- (2) 日本語教育体制はどうなっており、適切であるか。

5 留学生の支援について

- (1) 短期（提携校）受入留学生については適切であるか。
- (2) 外国人留学生（学部生）については適切であるか。

6 国際社会への寄与及び貢献について

- (1) 国際社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔教員の国際交流、外国大学との提携、外国人教員・留学生受入〕
 - ② 研究的側面〔研究業績の交換、外国人研究者の受入〕

XII. 本学の社会との連携交流に関すること

[社会連携事業について]

【点検評価項目】

1 公開講座について

- (1) 公開講座の種類等は適切であるか。
- (2) 各講座の受講者数は適切であるか。
- (3) 社会的ニーズへの対応は適切であるか。

2 研究生・科目等履修生について

- (1) 受入の基準、方法は適切であるか。

3 民間企業等の共同研究について

- (1) 民間企業・団体・組織との共同研究はどうなっており、適切であるか。
- (2) 共同研究の組織、運営は適切であるか。また、支援はどのようになされているか。

4 地域社会への寄与及び貢献について

- (1) 地域社会への寄与及び貢献はどのようになされているか。
 - ① 教育的側面〔公開講座・セミナー、出張講義、生涯学習、社会人特別入試等〕
 - ② 研究的側面〔研究業績書刊行等〕
 - ③ 行政的側面〔各種審議会・委員会の審議員・委員、委託研究等〕
 - ④ 施設設備等の側面〔図書館、ホール、講義・教室（学会等）、体育館（大会）等〕

[同窓会・後援会について]

【点検評価項目】

1 同窓会について

- (1) 教職員の同窓会への派遣はどうなっているか。
- (2) 同窓会主催のイベントの開催状況はどうなっているか。

2 後援会について

- (1) 教職員の後援会総会・懇親会及び地区別父母懇談会への派遣状況はどうなっているか。

XIII. その他必要な事項に関すること

[オープンユニバーシティについて]

【点検評価項目】

1 社会連携センターの組織について

- (1) オープンユニバーシティの位置づけはどうなっているのか。
- (2) 社会連携センターは、設置目的に従い機能しているか。
- (3) ①社会連携センター長、②社会連携センター運営委員会、③社会連携課は、それぞれの役割を十分果たしているか。

2 既存のオープンユニバーシティプログラムについて

- (1) 正課教育課程との関連は適切であるか。
- (2) 国際交流等の機関との関連は適切であるか。
- (3) 各種講座の現状は、適切であるか。
- (4) 各種講座の受講者数は、適切であるか。
- (5) 地域社会との関係はどうなっているのか。

3 新規講座について

- (1) 社会状況の変化に合わせた新規講座の設置はどうなっているか。

2018年度 自己点検評価報告書・自己点検評価資料

2019（令和元）年10月発行

編集 自己点検評価・内部質保証委員会
発行 北星学園大学・北星学園大学短期大学部
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731
FAX 011-892-6097
URL <http://www.hokusei.ac.jp>